

尼崎市障害者計画等の改定に係る アンケート調査結果報告書



平成 30 年

尼 崎 市

目次

I 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査設計	1
3. 回収結果	2
4. 調査内容	3
5. 報告書の見方	5
II 調査結果の総括	6
1. 分野別の総括・考察	6
2. 属性別の特徴	15
III 調査結果	17
1. 回答者について	17
2. 現在の生活について	33
3. 保健・医療について	51
4. 福祉サービス、相談支援について	56
5. 療育・教育について	75
6. 雇用・就労について	81
7. 生活環境、移動・交通について	92
8. スポーツ・文化、社会参加活動について	108
9. 安全・安心について	113
10. 情報、啓発・差別の解消について	119
11. 権利擁護、行政サービス等における配慮について	124
12. 介助者について	126
13. 自由回答について	136

I 調査の概要

1. 調査目的

この調査は、本市における障害のある人の生活状況や福祉サービスの利用状況、利用意向、ご意見等をおうかがいして、尼崎市障害者計画の進捗状況等を把握するとともに、尼崎市障害福祉計画の改定等のための基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 調査設計

調査対象者：平成 29 年 4 月 1 日現在において本市の、身体障害者手帳所持者・難病患者・療育手帳所持者・精神障害者保健福祉手帳所持者のうち、手帳所持者については、全対象者からの無作為抽出を行いました。また、難病患者については関係団体にご協力をいただきました。

身体障害のある人	18 歳以上の身体障害者手帳所持者 3,000 人
難病の人	18 歳以上の難病患者 80 人
知的障害のある人	18 歳以上の療育手帳所持者 1,500 人
精神障害のある人	18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者 1,800 人
障害のある児童	18 歳未満の障害者手帳所持者 1,120 人

※なお、身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の総称を「障害者手帳」と表記しています。

調査期間：平成 29 年 7 月 14 日～平成 29 年 7 月 31 日

調査方法：調査票は、「18 歳以上の身体障害者手帳・療育手帳所持者用・難病患者用」、「18 歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者用」、「18 歳未満の障害者手帳所持者用」の 3 種類とし、郵送による配付・回収を行いました。なお、回答は本人記入方式（本人が記入できない場合はご家族等）としました。

※難病患者用調査については、関係団体を通じて配付し、郵送により回収しました。

3. 回収結果

◇回収数、回収率

調査対象者	調査数(配付数)	調査票回収数	回収率
身体障害のある人	3,000	1,245	41.5%
難病の人	80	36	45.0%
知的障害のある人	1,500	586	39.1%
精神障害のある人	1,800	621	34.5%
障害のある児童	1,120	356	31.8%
合計	7,500	2,844	37.9%

◇抽出数

抽出区分	18歳未満	18歳以上	合計
身体障害	74	1,322	1,396
難病	29	258	287
高次脳機能障害	9	76	85
知的障害	321	601	922
発達障害	228	254	482
精神障害	9	646	655
合計	670	3,157	3,827

※抽出数とは、各調査票の回答を合算し、抽出区分別に集計をかけ合わせて得た数値です。

なお、身体障害のある人は「身体障害」、難病の人は「難病」、高次脳機能障害に該当する人は「高次脳機能障害」、知的障害のある人は「知的障害」、発達障害と診断された人は「発達障害」、精神障害のある人は「精神障害」、障害のある児童は「障害児」と表記しています。

◇妥当性

障害者手帳所持者において、信頼度 95%とした場合のそれぞれの回答率における標本誤差（つまり、100 回調査して 95 回は誤差±X%に収まる）は以下の通りとなります。

各設問の回答率 (%)	標本誤差					有効回答者数	母集団
	10.0%	20.0%	30.0%	40.0%	50.0%		
	90.0%	80.0%	70.0%	60.0%	50.0%		
身体障害	1.3%	1.7%	1.9%	2.1%	2.1%	1,245	3,000
知的障害	1.9%	2.5%	2.9%	3.1%	3.2%	586	1,500
精神障害	1.9%	2.5%	2.9%	3.1%	3.2%	621	1,800
障害児	2.6%	3.4%	3.9%	4.2%	4.3%	356	1,120

この調査では、いずれの設問においても、標本誤差は 4.5%未満となりました。

国や地方自治体を実施する多くの調査は、標本誤差 5%以内で実施されていることから、この調査の信頼性は一定確保できているといえます。

4. 調査内容

分類	設問	設問形式	身体障害・知的障害・難病	精神障害	障害児	頁番号
①回答者について	調査回答者	単数回答	問0	問0	問0	17
	所持手帳	複数回答	問1	問1	問1	18
	補問：手帳の等級・判定	単数回答	問1補問	問1補問	問1補問	19-22
	補問：障害の種類・原因	複数回答	問1補問	問1補問	問1補問	23
	難病(358疾患)の対象の有無	単数回答	問2	問2	問2	24
	補問：疾患名	自由記述	問2補問	問2補問	問2補問	24
	発達障害の診断の有無	単数回答	問3	問3	問3	25
	補問：発達障害の種類	複数回答	問3補問	問3補問	問3補問	25
	高次脳機能障害の対象の有無	単数回答	問4	問4	問4	26
	性別	単数回答	問5	問5	問5	27
	年齢	数量回答	問6	問6	問6	28-29
	要介護認定の申請の有無	単数回答	問7	問7		30
	補問：要介護認定の区分	単数回答	問7補問	問7補問		31
	介護保険サービスの利用の有無	単数回答	問8	問8		32
②現在の生活について	通園・通学	複数回答			問7	33
	世帯構成	単数回答	問9	問9	問8	34-35
	ご家族数・補問：ご家族の種類	数量・複数回答	問9補問	問9補問	問8補問	36-37
	居住形態	単数回答	問10	問10	問9	38-39
	主な収入	複数・数量回答	問11	問11		40-42
	主な介助者	複数回答	問12	問12	問10	43-45
	日常生活動作等	単数回答	問13	問13	問11	46-50
③保健・医療について	通院の回数	単数回答	問14	問14	問12	51
	通院に関する問題点	複数回答	問15	問15	問13	52
	退院のための必要な支援	複数回答		問16		53
	医療的ケア等の有無	複数回答	問16	問17	問14	54-55
④福祉サービス、 相談支援について	障害福祉サービスの利用の有無	単数回答	問17	問18	問15	56
	サービスを利用していない理由	自由記述	問17(1)	問18(1)	問15(1)	57
	利用しているサービス	複数回答	問17(2)	問18(2)	問15(2)	58-60
	サービスを利用できない状況の有無	単数回答	問18	問19	問16	61
	サービスを利用できなかった理由	自由記述	問18(1)	問19(1)	問16(1)	62
	今後も利用したいサービスの種類	複数回答	問19	問20	問17	63-66
	情報の入手方法	複数回答	問20	問21	問18	67-68
	相談相手	複数回答	問21	問22	問19	69-72
	サービス利用等に関する相談先	複数回答	問22	問23	問20	73-74
⑤療育・教育について	療育・保育の経験の有無	複数回答			問21	75
	療育や保育で求める支援	複数回答			問22	76-77
	必要な保育・教育	複数回答			問23	78-79
	望ましい就学環境	単数回答			問24	80

分類	設問	設問形式	身体障害・知的障害・難病	精神障害	障害児	頁番号
⑥雇用・就労について	日中の生活状況(就労状況を含む)	複数回答	問23	問24		81-83
	仕事の内容	複数回答	問24	問25		84
	仕事を見つけるまでの経緯	複数回答	問25	問26		85-86
	一般就労志望の有無	単数回答	問26	問27		87
	働いていない理由	複数回答	問27	問28		88
	必要な就労支援	複数回答	問28	問29		89
	将来の生活(仕事志望の有無)	単数回答			問25	90
	仕事への不安	複数回答			問26	91
⑦生活環境、移動・交通について	希望する暮らし方	単数回答	問29	問30	問27	92-97
	在宅生活を送るための必要な支援	複数回答	問29(1)	問30(1)	問27(1)	98
	よりよい暮らしに必要な支援	複数回答	問30	問31	問28	99-100
	外出回数	単数回答	問31	問32	問29	101-102
	単独外出	単数回答	問32	問33	問30	103
	外出時の同伴者・支援者	複数回答	問32(1)	問33(1)	問30(1)	104-105
	外出時の問題点	複数回答	問33	問34	問31	106-107
⑧スポーツ・文化、社会参加活動について	平日夜間、休日の過ごし方	複数回答	問34	問35	問32	108
	休暇、長期休暇の過ごし方	複数回答	問35	問36	問33	109-110
	放課後の過ごし方	複数回答			問34	111-112
⑨安全・安心について	地震・災害時の問題点	複数回答	問36	問37	問35	113-114
	災害時の単独避難	単数回答	問37	問38	問36	115
	近所の救助者の有無	単数回答	問38	問39	問37	116
	消費者トラブル経験の有無	単数回答	問39	問40	問38	117
	補問：消費者トラブルの内容	自由記述	問39 補問	問40 補問	問38 補問	118
⑩情報、啓発・差別の解消について	差別・偏見を感じるかの有無	単数回答	問40	問41	問39	119
	差別を感じる時	複数回答	問40(1)	問41(1)	問39(1)	120-121
	障害者差別解消法の認知度	単数回答	問41	問42	問40	122
	障害・難病に対する理解の浸透度	単数回答	問42	問43	問41	123
⑪権利擁護、行政等サービス等における配慮について	障害者虐待防止法の認知度	単数回答	問43	問44	問42	124
	成年後見制度の認知度	単数回答	問44	問45	問43	125
⑫介助者について	介助者の年齢	数量回答	問45	問46	問44	126-130
	介助者の抱える問題	単数回答	問46	問47	問45	131-133
	介助者の具体的な問題	自由記述	問46(1)	問47(1)	問45(1)	134
	将来に対する不安	自由記述	問46(2)	問47(2)	問45(2)	135
⑬自由回答	ご意見・ご要望など	自由記述	記述欄	記述欄	記述欄	136-140

5. 報告書の見方

- この報告書は、それぞれ配付した調査票の設問に沿う形で構成しています。
- 「18歳以上の身体障害者手帳・療育手帳所持者・難病患者用」、「18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者用」の調査においては、回答を合算し、それぞれの手帳所持者別等に集計を掛け合わせることで「身体障害」「難病」「高次脳機能障害」「知的障害」「発達障害」「精神障害」を別々に集計しています。したがって、障害者手帳を複数所持している人（以下「重複手帳所持者」という。）等がそれぞれ別で数えられているため、回収数と有効回答者数が異なっています。
- 「18歳未満の障害者手帳所持者用」の調査においても、上記と同様に集計しています。したがって、重複手帳所持者等がそれぞれ別で数えられているため、回収数と有効回答者数が異なっています。なお、「精神障害（9件）」、「難病（29件）」、「高次脳機能障害（9件）」については、抽出数が少ないため、集計結果として、この報告書には掲載していません。
- 回答結果は、有効回答者数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、この報告書内の分析文、グラフ、表においても同様となります。複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答者数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- この報告書では、18歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害、知的障害、発達障害、精神障害の総称を「18歳以上」、18歳未満の身体障害、知的障害、発達障害の総称を「18歳未満」と表記しています。
- 図表中において、「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- グラフ及び表のN数（number of case）は、有効回答者数を表しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- クロス集計表では、回答割合の高い上位3位まで網掛けをしています。色が薄くなるにつれて回答割合が低くなります（順位が下がります）。同率が複数ある場合では、下位を網掛けにしないことがあります。例えば、第1位が2つある場合、網掛けは第2位までとし、第3位は網掛けしません。なお、この順位のルールは、「その他」、及び「不明・無回答」を除いています。

Ⅱ 調査結果の総括

1. 分野別の総括・考察

(1) 回答者について

【総括】

- 所持している障害者手帳については、18歳以上をみると、「身体+療育」が1.9%、「身体+精神」が2.3%、「療育+精神」が2.1%、「身体+療育+精神」が0.4%となっています。18歳未満をみると、「身体+療育」が13.2%、「身体+精神」が0.3%、「療育+精神」が1.4%、「身体+療育+精神」が0.3%となっています。
- 回答者の年齢については、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70歳代」が2割台後半～3割台前半で最も多く、知的障害、精神障害では「40歳代」が2割台後半で最も多く、発達障害では「20歳代」が2割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「10～14歳」が3割台前半～3割台後半で最も多くなっています。
- 前回調査では、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70歳代」が2割台半ば～3割台半ばで最も多く、知的障害、精神障害では「40歳代」が2割台半ば～2割台後半で最も多く、発達障害では「30歳代」が2割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「5～9歳」が3割台前半～3割台後半で最も多くなっています。今回調査では、前回調査と比べて18歳以上の身体障害では「80歳代」、精神障害では「50歳代」が5.5ポイント増加し、発達障害では「30歳代」が8.2ポイント減少、18歳未満の発達障害では「10～14歳」が8.4ポイント増加し、「5～9歳」が8.0ポイント減少しています。
- 介護保険サービスの要介護認定申請については、40歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「したことがある」が4割台前半～5割台後半で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「したことがない」が6割台半ば～7割台半ばで最も多くなっています。

【考察】

- 回答者の年齢については、高齢化が進んできており、各年代における割合には動きがあるものの、全体的な年齢層の分布については、前回調査とほぼ同様の傾向がみられます。
- この調査では、障害者手帳所持者（重複手帳所持者を含む）だけでなく、難病や発達障害、高次脳機能障害も含めた傾向と多様なご意見を得られています。

(2) 現在の生活について

◇居住環境

【総括】

- 普段いっしょに暮らしている方については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族などと暮らしている」が6割台前半～7割台半ばで最も多くなっています。次いで、知的障害を除くいずれの障害においても「おひとりで暮らしている」が1割台前半～2割台後半、知的障害では「施設で暮らしている」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族などと暮らしている」が9割台半ば～9割台後半で最も多くなっています。
- 前回調査では、18歳以上をみると、いずれの障害においても「家族などと暮らしている」が5割台半ば～7割台半ばで最も多くなっています。次いで、知的障害を除くいずれの障害においても「ひとりで暮らしている」が1割台前半～2割台後半、知的障害では「施設やケアホームなどで暮らしている」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「家族などと暮らしている」が9割台半ば～9割台後半で最も多くなっています。今回調査については、前回調査と比べて18歳以上の高次脳機能障害では「家族などと暮らしている」が9.8ポイント増加し、「ひとりで暮らしている」が7.6ポイント減少、

18歳未満の発達障害では「施設やケアホームなどで暮らしている」が2.4ポイント増加し、「家族などと暮らしている」が1.7ポイント減少しています。

○居住形態については、18歳以上をみると、精神障害を除くいずれの障害においても「持ち家」が4割台前半～5割台後半で最も多く、精神障害では「賃貸住宅」が3割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「持ち家」が6割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。

○前回調査では、18歳以上をみると、精神障害を除くいずれの障害においても「持ち家」が4割台半ば～5割台半ばで最も多く、精神障害では「賃貸住宅」が3割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「持ち家」が5割台後半～6割台後半で最も多くなっています。今回調査では、前回調査と比べて18歳以上の難病では「持ち家」が4.5ポイント増加し、「賃貸住宅」が5.4ポイント減少、18歳未満の発達障害では「持ち家」が7.8ポイント増加し、「公営住宅」が4.8ポイント減少しています。

【考察】

○普段いっしょに暮らしている方については、前回調査と比べると、高次脳機能障害を除いて、大きな変化はみられません。また、居住形態についても、18歳以上の難病、18歳未満の発達障害の「持ち家」は多くなっているものの、その他で大きな変化はみられません。引き続き、障害のある人やご家族等のニーズにあわせた、居住環境の整備や地域生活の支援について取り組むことが必要です。

◇生計

【総括】

○主な収入については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「年金」が5割台前半～7割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害、知的障害、発達障害では「給料など働いて得たお金」が1割台前半～2割台後半、難病、高次脳機能障害、精神障害では「生活保護」が1割台前半～2割台後半となっています。

○月収の総額については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「5～10万円未満」が2割台前半～4割台半ばで最も多くなっています。次いで、「10～15万円未満」が1割台後半～2割台後半となっています。

【考察】

○年金などにより生活している人が多く、月収の総額は「5～10万円未満」が多く、精神障害では生活保護が他の障害と比べて多くなっています。

◇介助・支援について

【総括】

○主な介助者については、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「配偶者」が3割台前半～3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が2割台後半～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害、難病、高次脳機能障害では「子ども」が2割台半ば、知的障害、発達障害、精神障害では「ヘルパーや施設職員」が2割台前半～4割台前半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「母親」が8割台前半～8割台半ばで最も多くなっています。次いで、「父親」が4割台後半～5割台半ばとなっています。

○前回調査では、18歳以上をみると、身体障害、難病では「配偶者」が3割台後半で最も多く、高次脳機能障害では「ヘルパーや施設職員」が3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が2割台半ば～5割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「母親」が8割台前半～8割台半ばで最も多くなっています。今回調査では、前回調査と比べて18歳以上の高次脳機能障害では「子ども」が6.9ポイント増加し、「ヘルパーや施設職員」が17.7ポイント減少、18歳未満の発達障害では「必要としない」が5.7ポイント増加し、「父親」が6.9ポイント減少しています。

○日常生活動作等については、18歳以上をみると、いずれの障害においてもADL※（日常生活動作）の項目で「介助なしでも一人でできる」もしくは「介助なしでも時間をかければ一人でできる」という人が4割台後半～8割台半ばとなっています。高次脳機能障害では『食

事の支度や後片付けをする』『衣服を着たり脱いだりする』『排せつをする（トイレを使えるなど）』『入浴をする』『家の中を移動する』『身の回りの掃除、整理整頓をする』『洗濯をする』『買い物をする』で「自分ではできない」が1割台半ば～3割台後半となっています。高次脳機能障害、知的障害、発達障害では『お金の管理をする』『薬の管理をする』で「自分ではできない」が2割台後半～4割台前半となっています。18歳未満をみると、身体障害では、いずれの日常生活動作においては「自分ではできない」が3割台後半～5割台後半となっています。知的障害、発達障害ではADL（日常生活動作）以外の項目で、「自分ではできない」が1割台後半～3割台半ばとなっています。

【考察】

- 主な介助者については、主にご家族等が担っており、次いでヘルパーや施設職員となっているなど、前回調査とほぼ同様の傾向がみられます。
- 日常生活動作等については、特に18歳以上の高次脳機能障害、知的障害、発達障害では、日常生活における複雑な動作への支援、18歳未満の身体障害については、日常生活のあらゆる場面において介助を必要とする割合が多くなっています。引き続き、在宅での生活実態や障害特性に応じた適切なサービス提供等に努めていくことが必要です。

(3) 保健・医療について

【総括】

- 通院については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「月1回程度通院している」が2割台半ば～3割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「月2回程度通院している」が3割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「通院していない」が3割台半ば～3割台後半で最も多くなっています。
- 退院して地域で暮らすために必要なことについては、18歳以上の精神障害では「自分の病気や障害を理解してくれる人がいること」と「ご家族や友人などの受け入れがあること」が同率の3割台前半で最も多くなっています。次いで、「入院中から退院に向けての生活を支援してくれる人がいること」が2割台後半となっています。
- 医療的ケアについては、18歳以上をみると、高次脳機能障害を除くいずれの障害においても「受けていない」が3割台半ば～6割台前半で最も多く、高次脳機能障害では「受けていない」と「その他」が同率の2割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「服薬管理」が1割台半ば～2割台半ば、難病では「透析」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、身体障害では「服薬管理」が3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「受けていない」が7割台前半～7割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「受けていない」が3割台前半、知的障害、発達障害では「服薬管理」が1割未満～1割台半ばとなっています。
- 18歳未満の身体障害の医療的ケアをみると、「服薬管理」が3割台半ば、「吸引」が2割台前半、「胃ろう・腸ろう」が1割台後半、「気管切開」が1割台半ば、「吸入」が1割台半ば、「人工呼吸器(レスピレーター)」と「鼻腔経管栄養」が同率の1割未満で多くなっています。

【考察】

- 通院については、いずれの障害においても定期的な通院が必要な人が多く、医療と密接であることがうかがえます。
- 精神障害のある人は、退院後の生活に様々な不安を感じているため、引き続き、地域生活への移行や定着に向けた支援が必要です。
- 医療的ケアを受けている人については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「服薬管理」が多く、難病では「透析」が多くなっています。18歳未満をみると、「服薬管理」が多いものの、身体障害では「吸引」「胃ろう・腸ろう」「気管切開」を必要とする人もいるため、個々のニーズに応じた支援が必要です。

(4) 福祉サービス、相談支援について

◇福祉サービスについて

【総括】

- 障害福祉サービスの利用の有無については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「利用している」が3割台半ば～6割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「利用している」が6割台後半～7割台半ばで最も多くなっています。
- 利用している障害福祉サービスについては、18歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が3割台半ばで最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「移動支援（外出のときの支援）」が3割台前半～5割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「放課後等デイサービス（就学後の通園（療育）施設での放課後等の生活能力向上のための必要な支援）」が4割台半ば～4割台後半で最も多くなっています。
- 障害福祉サービスを利用したいのにできない状況については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「ない」が4割台前半～5割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ない」が4割台前半～5割台半ばで最も多くなっています。
- 障害福祉サービスを利用したいのにできない理由については、18歳以上をみると、身体障害・知的障害・難病では「利用できるサービスが制限されているため」が19件で最も多く、精神障害では「サービスを利用するのが不安なため」が6件で最も多くなっています。18歳未満をみると、「施設等の利用人数が限られているため」が18件で最も多くなっています。
- 今後も利用したいサービスについては、18歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が2割台前半～2割台半ばで最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「移動支援（外出のときの支援）」が2割台前半～3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「短期入所（数日間泊まれる施設など）」と「放課後等デイサービス（就学後の通園（療育）施設での放課後等の生活能力向上のための必要な支援）」が同率の3割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「放課後等デイサービス（就学後の通園（療育）施設での放課後等の生活能力向上のための必要な支援）」が4割台後半～5割台前半で最も多くなっています。
- 今後も利用したいサービスについては、18歳以上をみると、知的障害、発達障害、精神障害では「通所施設・事業所などで行う就労や就労のための訓練（就労支援）」が1割台前半～1割台後半で他の障害より高くなっています。また、発達障害、精神障害では「一般就労を継続するための支援（就労定着支援）」が1割台半ばで他の障害より高くなっています。なお、就労定着支援は新しいサービスであるものの、就労支援と同程度のニーズがあります。
- 今後も利用したいサービスについては、18歳以上をみると、知的障害、発達障害では「グループホームでの共同生活」が1割台半ば～1割台後半で他の障害より高くなっています。
- 今後も利用したいサービスについては、18歳以上をみると、いずれの障害においても「退所後に地域生活での相談・助言等の支援（自立生活援助）」が1割未満で、「退院・退所に関する支援や地域で住み続けるための支援（地域移行・地域定着支援）」も1割未満となっています。なお、自立生活援助は新しいサービスであるものの、地域移行・地域定着支援と同程度のニーズがあります。
- 今後も利用したいサービスについては、18歳未満をみると、身体障害では「訪問型児童発達支援（自宅での指導・訓練を通じた発達に即した適切な支援）」が1割台前半で他の障害より高くなっています。
- 将来のことや福祉サービス等に関する情報を得る手段等については、18歳以上をみると、身体障害では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が2割台後半で最も多く、難病では「行政機関の広報誌」が2割台半ばで最も多く、高次脳機能障害では「かかりつけの医師や看護師」と「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が同率の2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「サービス事業所の人や施設職員」が2割台後半～3割台後半で最も多く、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」が3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害は「通園施設や保育所（園）、幼稚園、学校の先生」が3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害は「ご家族やご親せき、友人・知人」が4割台前半で最も多くなっています。

【考察】

- 障害福祉サービスの利用については、18歳以上、18歳未満ともに、いずれの障害においても「利用している」が最も多く、また、障害福祉サービスを利用したいのにできない人の割合が低いことや、その理由の多くが利用制限であることから、市内や隣接する市にある事業所等で一定のサービス供給量が確保されていることがうかがえます。今後も安定的かつ継続的なサービスの提供等に努めていくことが必要です。
- 現在利用しているサービスについては、18歳以上のいずれの障害においても、居宅におけるサービスである「ホームヘルプ」や「移動支援」が最も多くなっており、また、今後の利用意向も一定あることから、引き続き、同様の傾向となることが予想されます。それ以外の施設等におけるサービスでは、知的障害、発達障害の利用が多い傾向がみられます。引き続き、サービスの利用状況や不安、ニーズ等を把握していくことが必要です。
- 今後も利用したいサービスについては、「一般就労を継続するための支援（就労定着支援）」や「退所後に地域生活での相談・助言等の支援（自立生活援助）」は、割合は高くないものの利用意向が一定数あります。また、18歳以上の知的障害、発達障害では「グループホームでの共同生活」の利用意向が一定数あるため、今後も安定的かつ継続的なサービスの提供等に努めていくことが必要です。
- 「放課後等デイサービス」を利用している子どもが多く、今後の利用意向も多いことから、サービス量の増加が予想されます。
- 「訪問型児童発達支援（自宅での指導・訓練を通じた発達に即した適切な支援）」は利用意向が一定見込まれるため、対象者の実態の把握に努め、サービスの提供等に努めていくことが必要です。
- 福祉サービスに関する情報提供については、市が引き続き、情報発信に努めることが必要です。また、身近な支援者との連携を深め、関係機関・事業者などから様々な情報が提供されることも必要です。

◇相談する相手

【総括】

- 相談相手については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族・ご親せき」が5割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「病院・診療所（医療相談）」が2割台前半～3割台後半、知的障害、発達障害では「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が2割台後半～3割台後半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族・ご親せき」が7割台前半～7割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害では「病院・診療所（医療相談）」が4割台半ば、知的障害、発達障害では「友人・知人」が3割台半ば～3割台後半となっています。
- 福祉サービスを利用する場合や日常生活において支援を受ける場合の相談先については、18歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「病院・診療所（医療相談）」が3割台前半～3割台半ばで最も多く、高次脳機能障害では「ケアマネジャー」が3割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が3割台前半～4割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。

【考察】

- 悩みごとの相談先では「ご家族・ご親せき」が多くなっています。また、福祉サービスを利用する場合や日常生活において支援を受ける場合の相談先では「病院・診療所（医療相談）」「ケアマネジャー」「サービスを受けているところ」など、それぞれの身近な生活の場所が多くなっています。市役所窓口や相談支援事業者等においては、今後も、緊密な連携を図っていくとともに、相談内容等に応じた体制の整備等に取り組むことが必要です。

(5) 療育・教育について

【総括】

- 現在受けている、または、過去に受けたことがある療育・保育については、18歳未満をみると、いずれの障害においても「児童発達支援」が5割台後半～6割台後半で最も多くなっています。次いで、「保育所（園）・幼稚園での保育」が2割台後半～3割台半ばとなっています。
- ご家族が求める療育・保育に関する支援については、18歳未満をみると、身体障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」と「福祉サービスに関する相談機関」が同率の3割台半ばで最も多く、知的障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」が5割台半ばで最も多く、発達障害では「学習をサポートしてくれるところ」が5割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「長期休業中の支援をしてくれるところ」と「療育機関」が同率の2割台後半、知的障害では「学習をサポートしてくれるところ」が4割台後半、発達障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」が5割台前半となっています。
- 今後必要な保育や教育については、18歳未満をみると、身体障害では「障害のある人が利用できる設備をふやしてほしい」が4割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「進路指導をしっかりとしてほしい（自立して働けるような力をつけさせてほしい）」が3割台半ば～3割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」が3割台半ば、知的障害、発達障害では「障害特性に応じた配慮をしてほしい」が3割台半ば～3割台後半となっています。
- 望ましい就学環境については、18歳未満をみると、身体障害では「地域の学校において、できるだけ他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」が2割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「地域の学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートが得られる環境」が3割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害では「特別支援学校において、専門的な教育やサポートが受けられる環境」が2割台後半、知的障害、発達障害では「地域の学校において、できるだけ他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」が2割台後半～3割台半ばとなっています。

【考察】

- 受けている療育・保育では「児童発達支援」や「保育所（園）・幼稚園での保育」が多く、家族が求める療育・教育では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」や「福祉サービスに関する相談機関」が多いことから、これらの支援を一体的に提供する児童発達支援センター（たじかの園、あこや学園など）が地域の中核的な療育支援施設として、福祉・教育・医療・保健等の関係機関と連携を図り、障害の特性に応じた支援等に取り組むことが重要です。
- 保育や教育の場については、知的障害、発達障害では将来自立して働けるよう進路指導の充実を求めている様子が見えます。
- 望ましい就学環境については、他の生徒と同じ教育が得られる環境や専門的な教育が得られる環境を必要としつつも、いずれの障害においても地域の学校で教育を受けることを望まれる様子が見えます。そのため、一人ひとりのニーズに応じた教育の推進に努める必要があります。

(6) 雇用・就労について

【総括】

- 日中の生活の過ごし方については、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「家庭内で過ごしている」が3割台前半～4割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「仲間といっしょに施設・事業所などで仕事をしている」が2割台前半～3割台前半で最も多くなっています。
- 就労支援については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「職場の上司や同僚における障害への理解」が2割台前半～4割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「通勤手段の確保」と「企業等における障害者雇用への理解」が同率の2割台前半、

難病、知的障害、発達障害では「企業等における障害者雇用への理解」が2割台前半～3割台半ば、高次脳機能障害では「通勤手段の確保」が1割台後半、精神障害では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が3割台半ばとなっています。

【考察】

- 18歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では、日中を家庭内で過ごす人が多く、知的障害、発達障害では、仲間といっしょに施設・事業所などで仕事をしている人が多くなっています。多様な就労の場の確保や活動の機会を提供するための支援が必要です。
- 今後も就労支援のニーズはますます高まっていくことが予想されます。求められる就労支援は、「職場の上司や同僚における障害への理解」や「企業等における障害者雇用への理解」が多いことから、就労移行、就労定着を提供する支援サービス事業者をはじめ、障害者就業・生活支援センターや相談支援事業者など地域の関係機関が連携を図ることが必要です。

(7) 生活環境、移動・交通について

◇今後の生活での必要な支援について

【総括】

- 今後の暮らし方については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が3割台半ば～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、知的障害を除くいずれの障害においても「おひとりで暮らしたい」が1割台半ば～2割台後半、知的障害では「グループホーム（障害者）を利用したい」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が6割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。
- よりよく暮らしていくために必要なことについては、18歳以上をみると、身体障害では「市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする」が2割台後半で最も多く、難病では「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が3割台後半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、精神障害では「何でも相談できる窓口をもっと多くつくる」が2割台後半～3割台半ばで最も多く、発達障害では「障害に応じた専門相談ができる場所をつくる」が3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が2割台半ばで最も多く、知的障害では「仕事につくための訓練や働く場をふやす」が2割台半ばで最も多く、発達障害では「障害に応じた専門相談ができる場をつくる」が2割台後半で最も多くなっています。

【考察】

- 今後の暮らし方については、「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が多くなっているものの、「おひとりで暮らしたい」や「グループホーム（障害者）を利用したい」も多くなっています。このため、自立生活に必要な巡回訪問サービスやグループホームといった施設について、計画的に整備していくことが必要です。
- 住み慣れた地域で生活を送るためには、福祉サービスの利用に関する相談をはじめ、日常の困りごとから障害特性に応じた専門相談に対応できる体制が必要であることから、地域の支援機関が必要な機能を役割分担しながら、地域全体で支える体制を構築していくことが必要です。

◇外出等

【総括】

- 外出時の同伴者や支援者については、18歳以上をみると、知的障害を除くいずれの障害においても「ご家族（同居）」が6割台半ば～7割台後半で最も多く、知的障害では「ガイドヘルパーや施設の職員」が7割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族（同居）」が9割台前半～9割台半ばで最も多くなっています。

【考察】

- 外出時の同伴者や支援者については、「ご家族」の他に、「ガイドヘルパーや施設の職員」の割合も多く、本市が実施している移動支援等のサービスが外出や社会参加に大きく貢献している様子がうかがえます。今後も安定的かつ継続的なサービスの提供に努めていくことが必

要です。

(8) スポーツ・文化、社会参加活動について

【総括】

- 休暇、長期休暇（夏休み等）の主な過ごし方については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が4割台後半～6割台半ばで最も多くなっています。次いで、「ショッピングセンターや百貨店で買い物をしている」が1割台前半～2割台後半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が5割台後半～7割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「ショッピングセンターや百貨店で買い物をしている」が2割台前半、知的障害、発達障害では「公園などで遊んでいる」が2割台後半となっています。
- 18歳以上の知的障害、発達障害では「移動支援（外出のときの支援）サービスを利用して」が1割台半ば～1割台後半、「映画やコンサート、スポーツ等を鑑賞・見学している」が1割台半ば～1割台後半で多くなっています。
- 放課後等の主な過ごし方については、18歳未満をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が4割台後半～6割台前半で最も多くなっています。次いで、「放課後等デイサービスを利用して」が3割台半ば～4割台後半となっています。

【考察】

- 休暇、長期休暇（夏休み等）の主な過ごし方については、家庭内で過ごす割合が最も多くなっていますが、それ以外では、買い物、映画鑑賞、音楽鑑賞、スポーツ見学など様々となっています。また、放課後等の主な過ごし方についても、家庭内で過ごす割合が最も多くなっていますが、放課後等デイサービスの利用が多くなっていることから、一人ひとりにあった療育となるよう、適切なサービス提供に努めていく必要があります。

(9) 安全・安心について

【総括】

- 地震など災害のときに困ることについては、18歳以上をみると、身体障害、難病では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が2割台後半～3割台前半で最も多く、高次脳機能障害では「避難場所まで行けない（坂や階段がある、避難場所が遠いなど）」が2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「福祉避難所（一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所）が利用できるかどうかわからない」が2割台後半～3割台前半で最も多く、精神障害では「避難場所を知らない」が3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が5割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「福祉避難所（一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所）が利用できるかどうかわからない」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。
- 災害時の単独避難については、18歳以上をみると、身体障害、精神障害では「できる」が3割台半ば～3割台後半で最も多く、難病、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「できない」が3割台後半～4割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「できない」が5割台後半～7割台半ばで最も多くなっています。
- ご家族が不在や一人暮らしの場合に助けてくれる人については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「いない」が3割台後半～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害、難病、知的障害、発達障害、精神障害では「わからない」が2割台前半～2割台後半、高次脳機能障害では「いる」が2割台前半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「いない」が4割台半ば～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害では「いる」が2割台前半、知的障害、発達障害では「わからない」が2割台半ば～2割台後半となっています。
- 消費者トラブルの経験については、18歳以上をみると、いずれの障害においても「ない」が7割台前半～8割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ない」が9割台半ば～9割台後半で最も多くなっています。
- 消費者トラブルの具体的な内訳については、18歳以上をみると、身体障害・知的障害・難

病、精神障害では「ネガティブオプション」が 15 件、16 件で最も多くなっています。次いで「電子商取引」が 13 件、11 件となっています。18 歳未満をみると、「その他・意見・要望など」が 1 件となっています。

【考察】

- 避難場所に関する不安の声が多く、また、災害時に単独避難できない人や、ご近所に救助者がいない人の割合が多くなっています。災害時に障害のある人が円滑に避難できるよう、平時から、最寄りの避難所やその避難経路等について周知を図るとともに、地域における見守り体制の構築等を進めていくことも必要です。
- 消費者トラブルについては、電子商取引、ネガティブオプションが多いため、日頃から積極的な注意喚起等に努めるとともに、トラブル後の対応等についても、障害の特性に配慮することが必要です。

(10) 情報、啓発・差別の解消について

【総括】

- 差別や偏見を感じるかについては、18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「ほとんど感じない」が 3 割前半～4 割前半で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「ときどき感じる」が 3 割前半～3 割半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「ときどき感じる」が 4 割前半～4 割半ばで最も多くなっています。
- 差別や偏見を感じるタイミングについては、18 歳以上をみると、身体障害、知的障害では「街のなかでの視線」が 4 割前半～5 割半ばで最も多く、難病、高次脳機能障害、発達障害、精神障害では「人間関係」が 3 割後半～6 割半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「街のなかでの視線」が 4 割後半～5 割後半で最も多くなっています。
- 障害者差別解消法については、18 歳以上をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が 4 割半ば～6 割半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が 5 割半ば～5 割後半で最も多くなっています。
- 前回調査と比べると、「よく知っている」と「多少知っている」の合計は、10.3%から 11.3%へ 1.0 ポイント増加しています。

【考察】

- 障害や障害のある人に対する差別等については、人間関係や日常生活の場において感じるが多いため、周囲の正しい理解と認識を深めていくことが必要です。とりわけ、外見からはわかりにくい障害等について、その特性や必要な配慮等に関する理解の促進を図ることが必要です。
- 障害者差別解消法の認知度については、前回調査と比べ微増となっているものの、依然としてその認知度は低いことから、その制度内容等をわかりやすい形で示していくとともに、さらなる周知を図ることが必要です。

(11) 権利擁護、行政サービス等における配慮について

【総括】

- 障害者虐待防止法については、18 歳以上をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が 4 割後半～5 割後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が 5 割半ば～5 割後半で最も多くなっています。
- 前回調査と比べると、「よく知っている」と「多少知っている」の合計は、16.9%から 12.8%へ 4.1 ポイント減少しています。
- 成年後見制度については、18 歳以上をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が 3 割半ば～4 割半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が 4 割前半～4 割後半で最も多くなっています。
- 前回調査と比べると、「よく知っている」と「多少知っている」の合計は、21.7%から 22.4%へ 0.7 ポイント増加しています。

【考察】

- 障害者虐待防止法の認知度については、前回調査と比べ微減となっていて、その認知度は低いことから、その制度内容等をわかりやすい形で示していくとともに、さらなる周知を図ることが必要です。
- 成年後見制度は、制度の対象となる人もふえていくことが予想されるため、さらなる周知を図るとともに、制度につなげるための取り組みも必要です。
- 成年後見制度の認知度については、前回調査と比べ微増となっているものの、依然としてその認知度は低いことから、その制度内容等をわかりやすい形で示していくとともに、さらなる周知を図ることが必要です。

(12) 介助者について

【総括】

- 介助者の年齢については、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70歳代」が2割台後半～3割台前半で最も多く、知的障害、精神障害では「60歳代」が2割台後半で最も多く、発達障害では「50歳代」と「60歳代」が同率の2割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「40歳代」が5割台半ば～6割台前半で最も多くなっています。
- 18歳以上の介助者の不安については、18歳以上をみると、介助者の不安として「大いにある」は、いずれの障害においても『⑨将来に対して不安がある』が3割台後半～7割台前半、『⑧精神的に疲れる』が2割台半ば～4割台前半、『①医療費や交通費などの経済的負担が大きい』が1割台後半～3割台半ばとなっています。

【考察】

- 介助者の高齢化が顕著になっており、将来に対して不安を抱えている人も多くなっています。また、障害のある人とご家族等の高齢化に伴って、同居生活を続けることが難しくなっていくことも予想されます。

2. 属性別の特徴

(1) 年齢別の特徴【身体障害者年齢区分】

身体障害は分布の年齢が幅広いため、64歳以下と65歳以上で区分して集計したところ、65歳以上の高齢者において以下の特徴がみられました。

- お一人暮らしが多くなる
(お一人暮らし) 64歳以下：17.1%→65歳以上：23.1%
- 年金暮らしがふえる
(年金暮らし) 64歳以下：52.1%→65歳以上：89.5%
- 介助者が両親から子どもに代わる
(子ども) 64歳以下：7.9%→65歳以上：32.1%
- 差別や偏見は特に感じにくくなる
(差別等をまったく感じない) 64歳以下：18.0%→65歳以上：29.0%
- 外出する際の支援者は、ガイドヘルパー等が減る
(ガイドヘルパーや施設の職員) 64歳以下：47.8%→65歳以上：24.7%

(2) 障害の種類別、原因別の特徴

身体障害の種類別、精神障害の原因別に違いがあるため、種類別、原因別に集計したところ、以下の特徴がみられました。

○身体障害の中で、視覚障害では外出や移動、災害に関する問題が多い

【移動について】

(外出に介助を必要としない) 全体：23.1%→視覚障害：13.5%

(移動支援の利用状況) 全体：21.8%→視覚障害：31.1%

(移動支援の利用意向) 全体：15.2%→視覚障害：20.2%

【地震などの災害について】

(緊急時に介助者がいない) 全体：14.9%→視覚障害：31.5%

(近所に頼れる人がいない) 全体：39.9%→視覚障害：41.6%

(一人での避難が困難) 全体：35.2%→視覚障害：52.8%

○聴覚・平衡機能障害では差別や偏見、災害に関する問題が多い

(人間関係から差別や偏見を感じる) 全体：19.2%→聴覚・平衡機能障害：36.0%

(緊急時に情報を得る手段がない) 全体：14.3%→聴覚・平衡機能障害：22.0%

○音声・言語・そしゃく機能障害ではケアマネジャーから情報を得ている人が多い

(ケースワーカーやケアマネジャーから福祉サービスの情報を得ている)

全体：20.4%→音声・言語・そしゃく機能障害：35.3%

○肢体不自由では就労支援、災害時に関する問題が多い

(避難場所まで行くことができない) 全体：26.2%→肢体不自由：34.8%

(一人での避難が困難) 全体：35.2%→肢体不自由：43.3%

○精神障害の中で、気分(感情)障害(躁うつ病・うつ病を含む)では外出、就労支援に関する問題が多い

(外出したいと思わない) 全体：17.6%→気分障害：23.5%

(在宅勤務の拡充) 全体：18.3%→気分障害：23.9%

(職場の上司や同僚に障害の理解があること) 全体：40.4%→気分障害：48.2%

○不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、解離性障害では差別や偏見に関する問題が多い

(差別や偏見をよく感じる)

全体：11.8%→不安障害、ストレス関連障害、身体表現性障害、解離性障害：22.1%

Ⅲ 調査結果

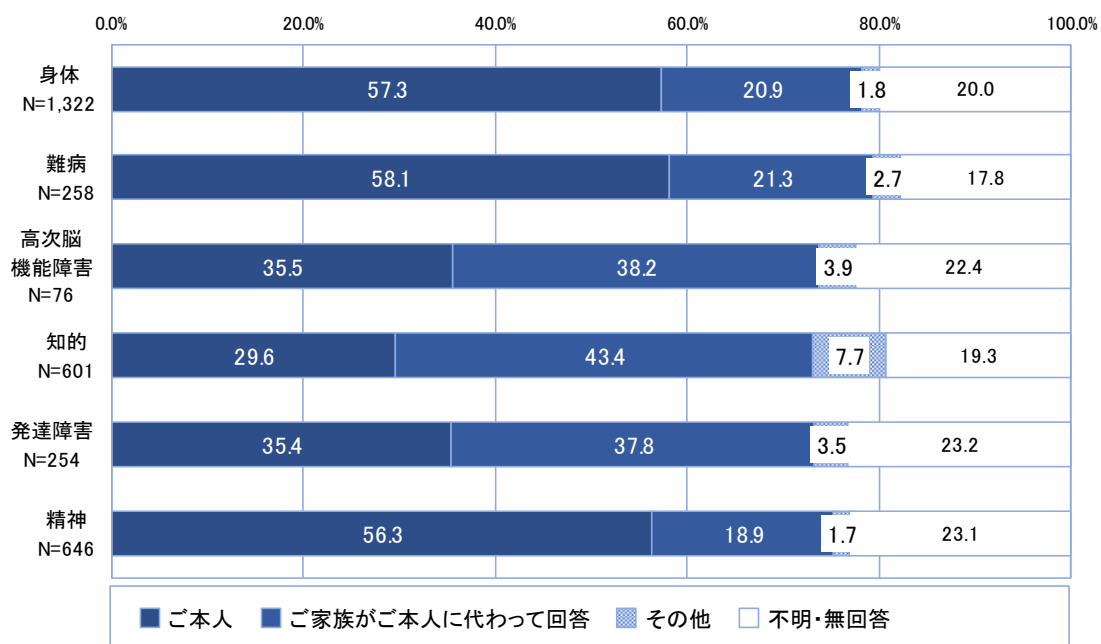
1. 回答者について

アンケートに回答していただくのはどなたですか。(単数回答)

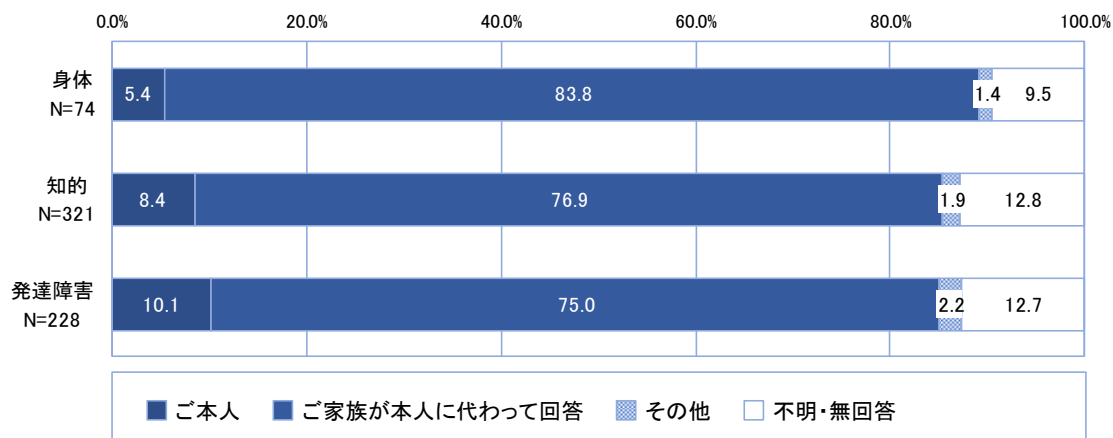
- 18 歳以上の身体障害、難病、精神障害では「ご本人」が最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「ご家族がご本人に代わって回答」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「ご家族」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「ご本人」が5割台半ば～5割台後半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「ご家族がご本人に代わって回答」が3割台後半～4割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族がご本人に代わって回答」が7割台半ば～8割台半ばで最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



「あなた」は次の手帳を持っていますか。持っている場合はその内容についてお答えください。（複数回答）

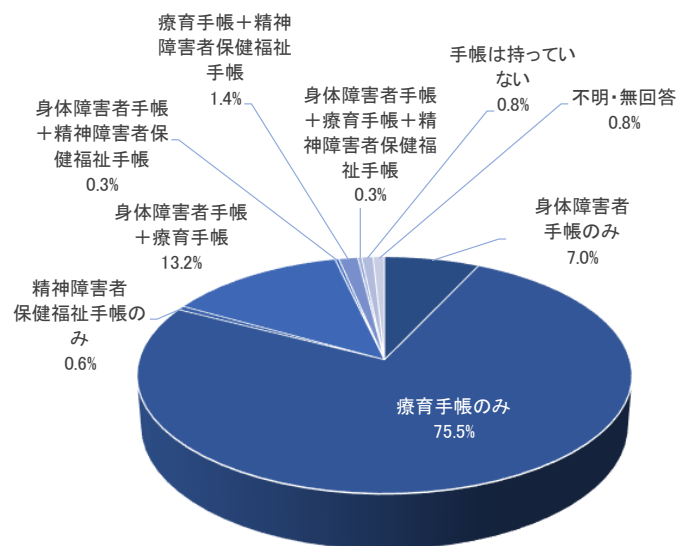
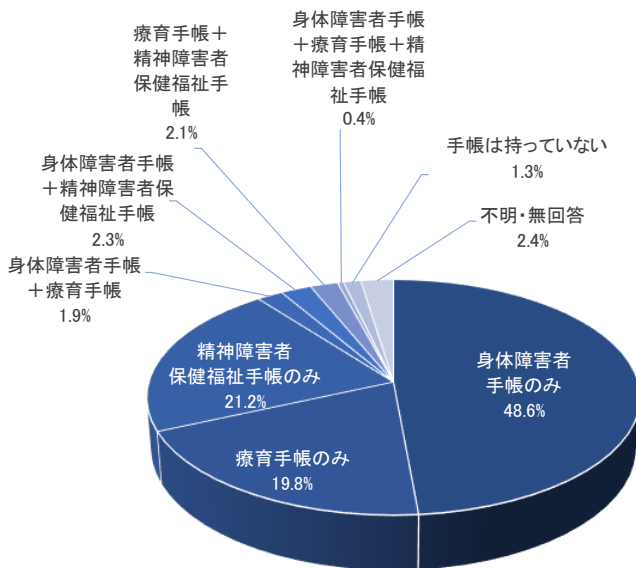
●18歳未満の1割台前半は、身体障害と知的障害の重複手帳所持者となっている。

18歳以上をみると、「身体+療育」が1.9%、「身体+精神」が2.3%、「療育+精神」が2.1%、「身体+療育+精神」が0.4%となっています。

18歳未満をみると、「身体+療育」が13.2%、「身体+精神」が0.3%、「療育+精神」が1.4%、「身体+療育+精神」が0.3%となっています。

【18歳以上】

【18歳未満】

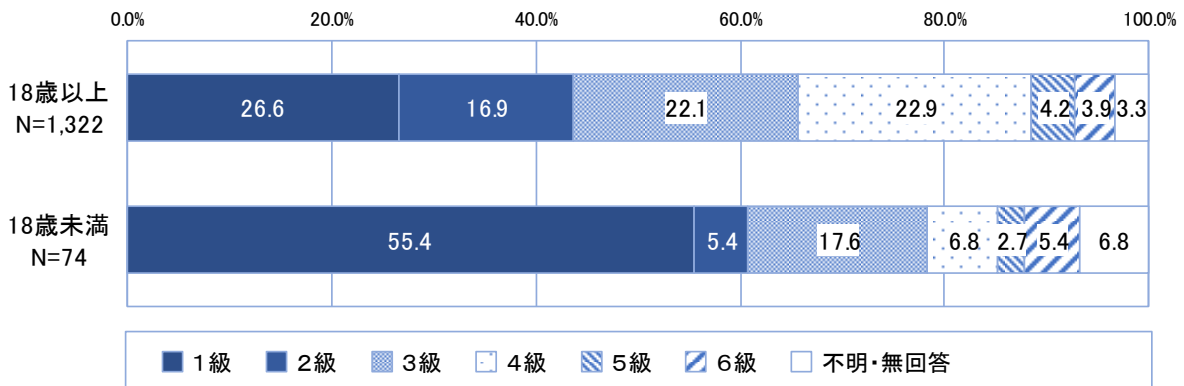


種類	18歳以上	18歳未満
身体障害者手帳のみ	1,206	25
療育手帳のみ	491	268
精神障害者保健福祉手帳のみ	527	2
身体障害者手帳+療育手帳	48	47
身体障害者手帳+精神障害者保健福祉手帳	57	1
療育手帳+精神障害者保健福祉手帳	51	5
身体障害者手帳+療育手帳+精神障害者保健福祉手帳	11	1
手帳は持っていない	32	3
不明・無回答	60	3
合計	2,483	355

補問：身体障害者手帳の等級（単数回答）

●18歳以上、18歳未満ともに「1級」が最も多くなっている。

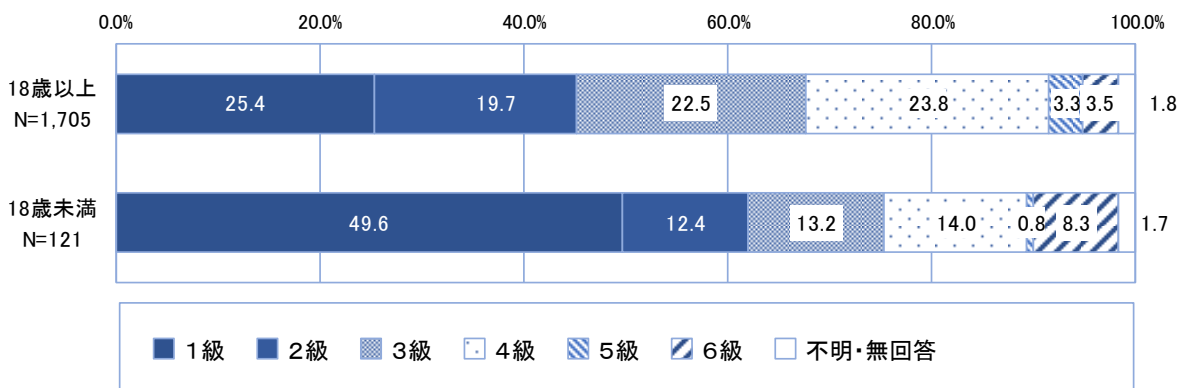
18歳以上をみると、「1級」が2割台半ばで最も多くなっています。次いで、「4級」が2割台前半となっています。18歳未満をみると、「1級」が5割台半ばで最も多くなっています。次いで、「3級」が1割台後半となっています。



◇平成26年調査結果

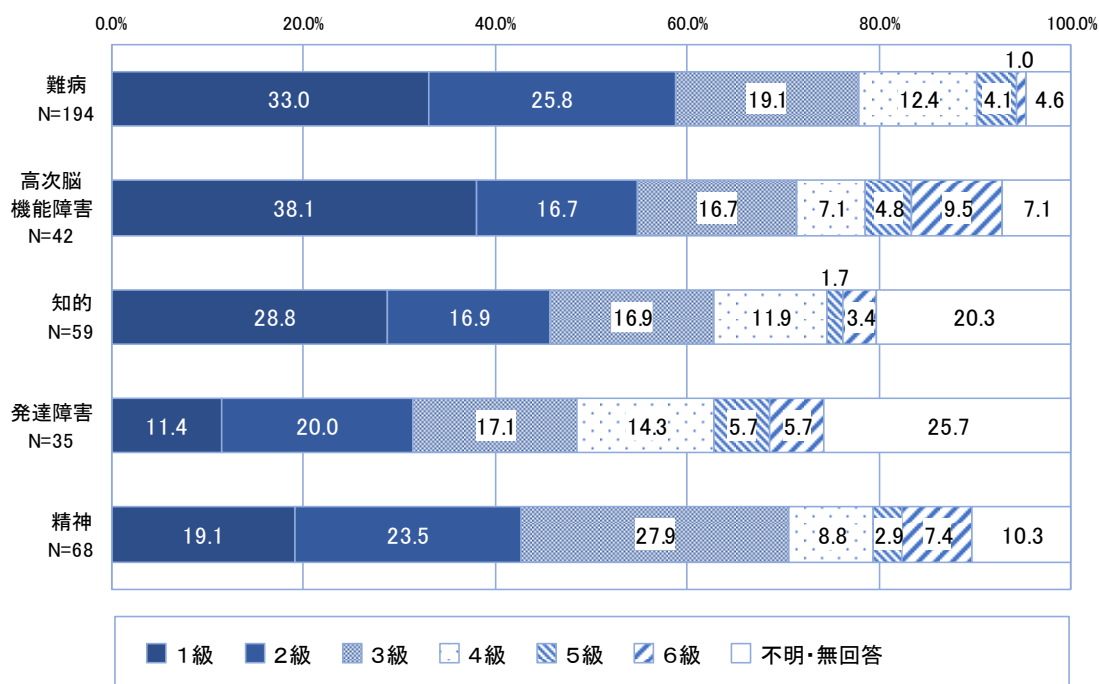
前回調査では、18歳以上みると、「1級」が2割台半ばで最も多くなっています。次いで「4級」が2割台半ばとなっています。18歳未満をみると、「1級」が4割台後半で最も多くなっています。次いで「4級」が1割台半ばとなっています。

今回調査では、前回調査と比べて18歳以上の「1級」が1.2ポイント増加し、「2級」が2.8ポイント減少、18歳未満では「1級」が5.8ポイント増加し、「4級」が7.2ポイント減少しています。

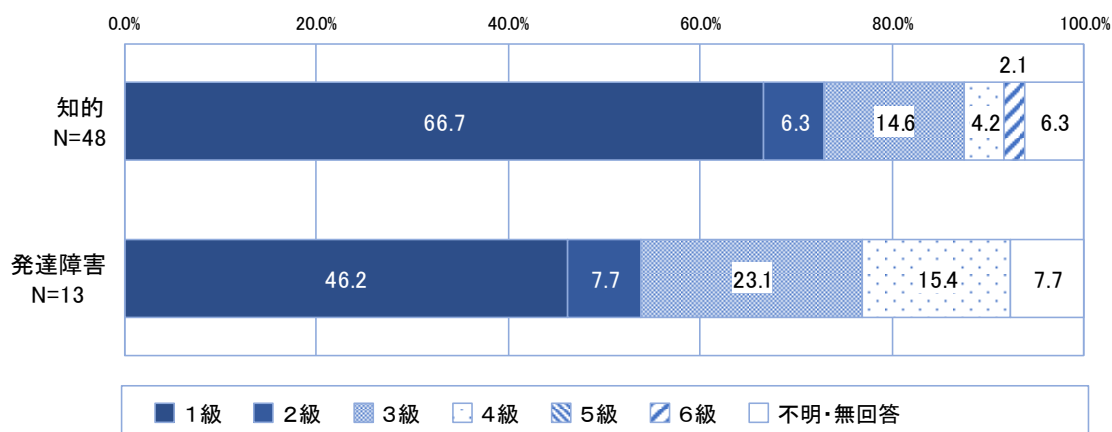


今回調査（平成 29 年調査）において、身体障害との重複手帳所持者（障害別）の状況については、18 歳以上をみると、難病、高次脳機能障害、知的障害では「1 級」が2割台後半～3割台後半で最も多く、発達障害では「2 級」が2割で最も多く、精神障害では「3 級」が2割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、知的障害、発達障害では「1 級」が4割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】



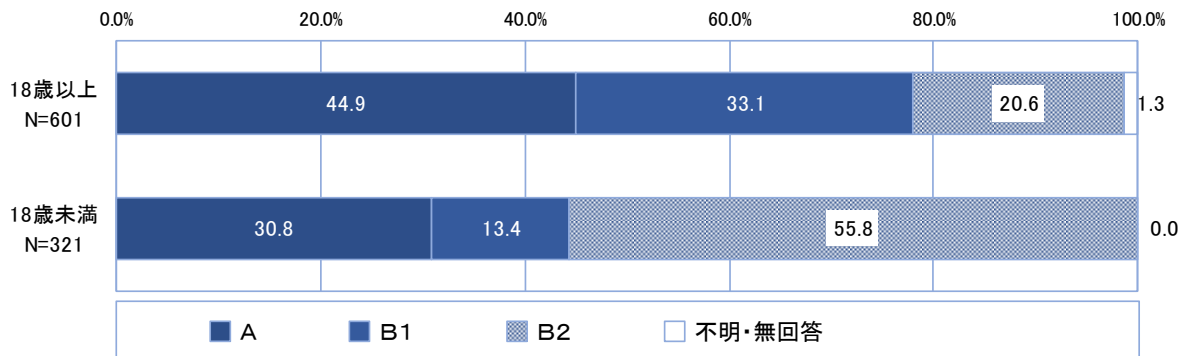
【18 歳未満】



補問：療育手帳の判定（単数回答）

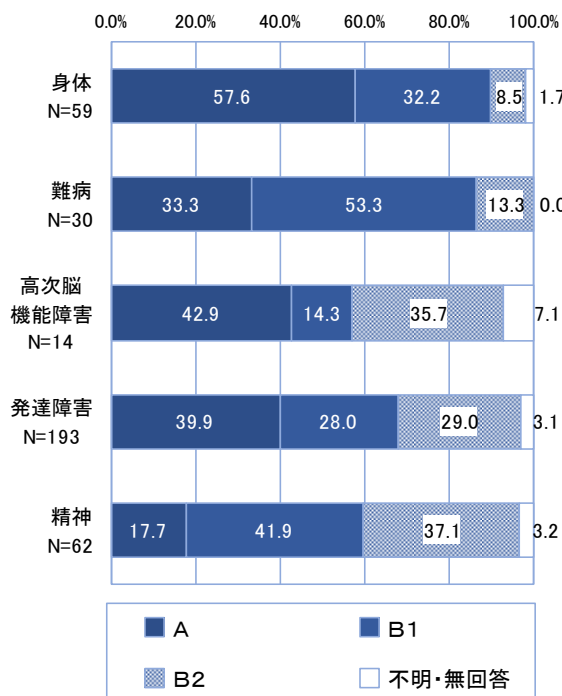
●18歳以上では「A」が最も多く、18歳未満では「B2」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、「A」が4割台半ばで最も多くなっています。次いで、「B1」が3割台前半となっています。18歳未満をみると、「B2」が5割台半ばで最も多くなっています。次いで、「A」が3割台前半となっています。

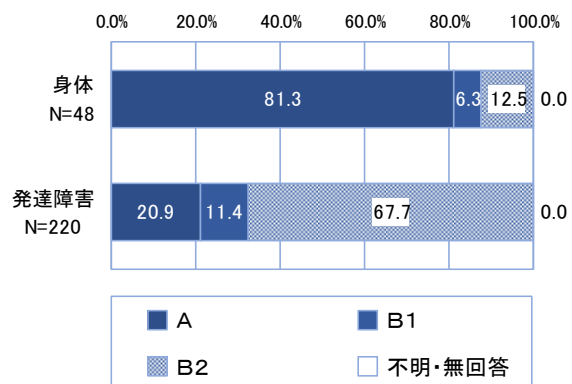


知的障害との重複手帳所持者（障害別）の状況については、18歳以上をみると、身体障害、高次脳機能障害、発達障害では「A」が3割台後半～5割台後半で最も多く、難病、精神障害では「B1」が4割台前半～5割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「A」が8割台前半で最も多く、発達障害では「B2」が6割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



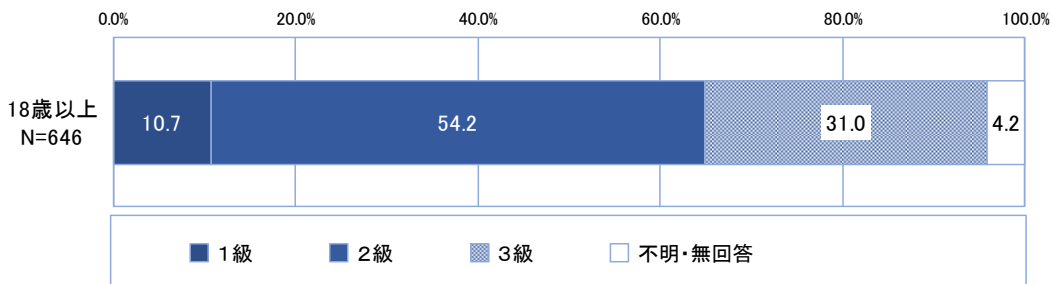
【18歳未満】



補問：精神障害者保健福祉手帳の等級（単数回答）

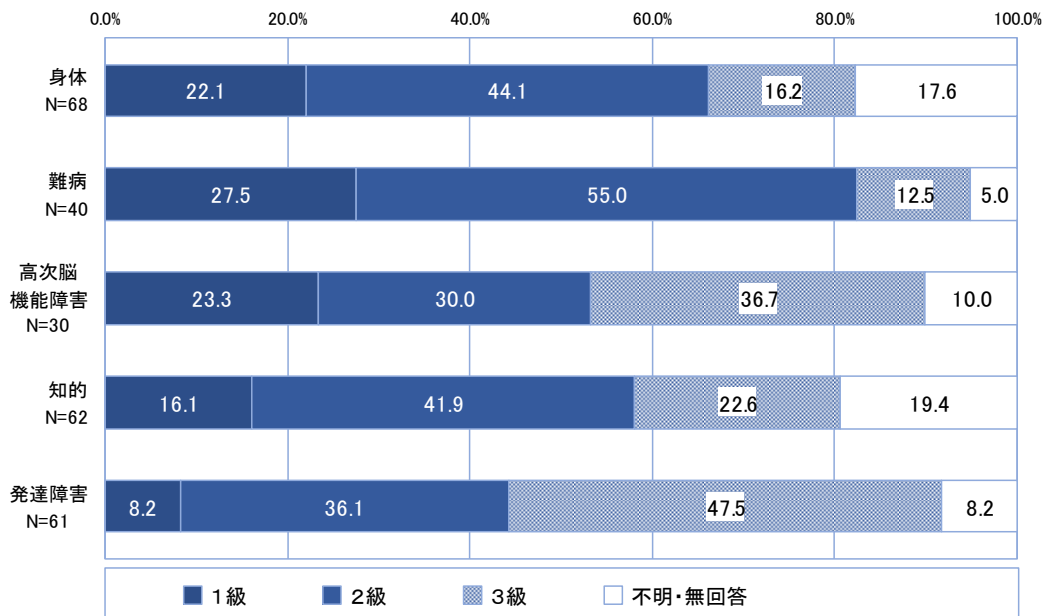
●18歳以上では「2級」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、「2級」が5割台半ばで最も多くなっています。次いで、「3級」が3割台前半となっています。



精神障害との重複手帳所持者（障害別）については、18歳以上をみると、身体障害、難病、知的障害では「2級」が4割台前半～5割台半ばで最も多く、高次脳機能障害、発達障害では「3級」が3割台後半～4割台後半で最も多くなっています。

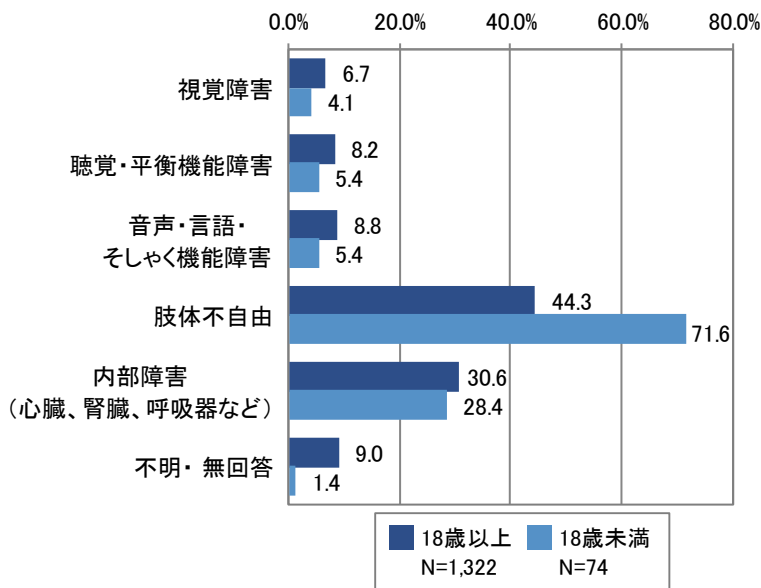
【18歳以上】



補問：障害の種類・原因（複数回答）

●18歳以上、18歳未満ともに「肢体不自由」が最も多くなっている。

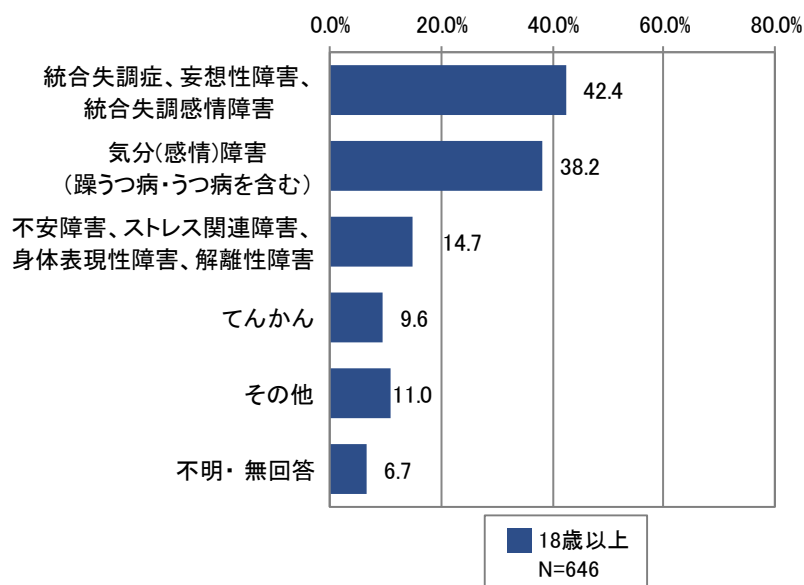
18歳以上をみると、「肢体不自由」が4割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、「肢体不自由」が7割台前半で最も多くなっています。



●18歳以上では「統合失調症、妄想性障害、統合失調感情障害」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、「統合失調症、妄想性障害、統合失調感情障害」が4割台前半で最も多くなっています。次いで、「気分（感情）障害（躁うつ病・うつ病を含む）」が3割台後半となっています。

【18歳以上】

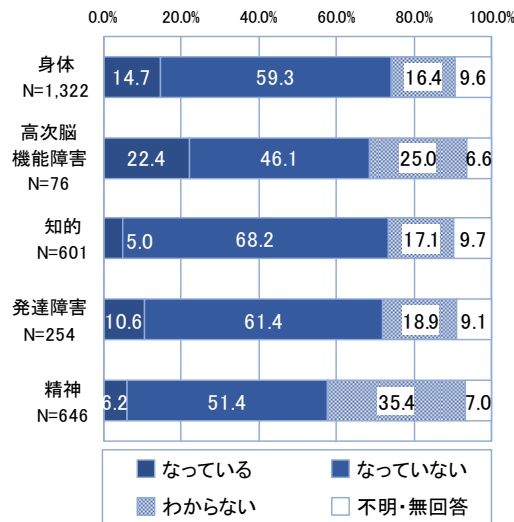


難病（358疾患）の対象の有無（単数回答）

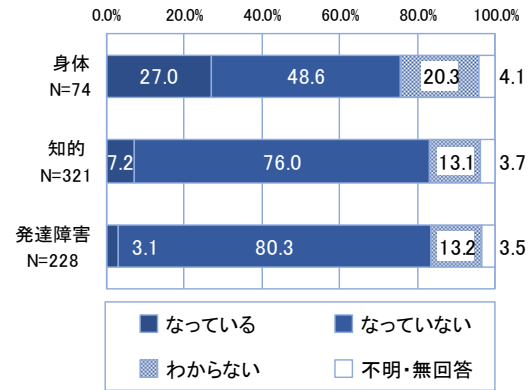
- 18歳以上の難病を除くいずれの障害においても「なっていない」が最も多くなっている。
18歳未満のいずれの障害においても「なっていない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、難病を除くいずれの障害においても「なっていない」が4割台後半～6割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「なっていない」が4割台後半～8割台前半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



補問：難病の疾患名（自由記述）

- 18歳以上では「パーキンソン病」が20件で最も多くなっている。

18歳以上をみると、「パーキンソン病」が20件で最も多くなっています。次いで、「網膜色素変性症」が13件となっています。

【18歳以上】

358疾患対象 病名	件数
脊髄小脳変性症	5
モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	1
多発性硬化症	3
重症筋無力症	1
ギラン・バレー症候群	1
筋萎縮性側索硬化症	2
パーキンソン病	20
ハンチントン病	1
後縦帯骨化症	2
骨形成不全症	1
結節性硬化症	1
ルビンシュタイン・テイビ症候群	2
ミオチューブラーミオパチ	1
後縦帯骨化症	1
多系統萎縮症	2

358疾患対象 病名	件数
網膜色素変性症	13
メニエール病	1
特発性血小板減少性紫斑病	1
拡張型心筋症	1
潰瘍性大腸炎	3
クローン病	1
原発性胆汁性肝硬変	1
てんかん	6
モワット・ウイルソン症候群	1
ウエスト症候群	1
ファロー四徴症	1
ウィリアムズ症候群	1
筋ジストロフィー	1
多発性筋炎	1
全身性エリテマトーデス	1

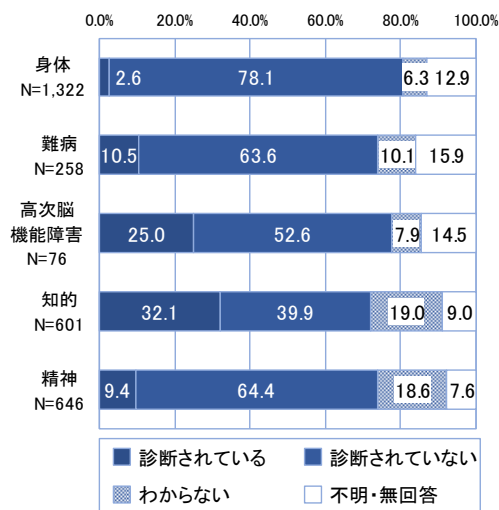
358疾患対象 病名	件数
ベーチェット病	1
全身性エリテマトーデス	1
悪性関節リウマチ	3
結節性硬化症(プリングル病)	2
大脳皮質基底核変性症	2
スモン	3
膠原病	2
ヒルシュブルグ病	1
左心低形成症候群	1
多発性硬化症	1
ダウン症候群	1
重症筋無力症	1
再生不良性貧血	1

発達障害の診断の有無（単数回答）

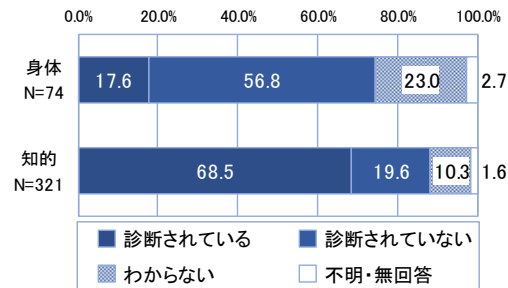
- 18 歳以上の発達障害を除くいずれの障害においても「診断されていない」が最も多くなっている。18 歳未満の身体障害では「診断されていない」が最も多く、知的障害では「診断されている」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、発達障害を除くいずれの障害においても「診断されていない」が3割台後半～7割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、身体障害では「診断されていない」が5割台後半で最も多く、知的障害では「診断されている」が6割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】



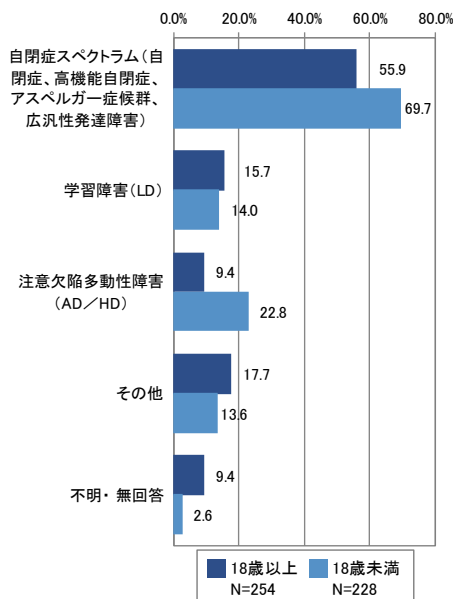
【18 歳未満】



補問：発達障害の種類（複数回答）

- 18 歳以上、18 歳未満ともに「自閉症スペクトラム」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、「自閉症スペクトラム」が5割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、「自閉症スペクトラム」が6割台後半で最も多くなっています。

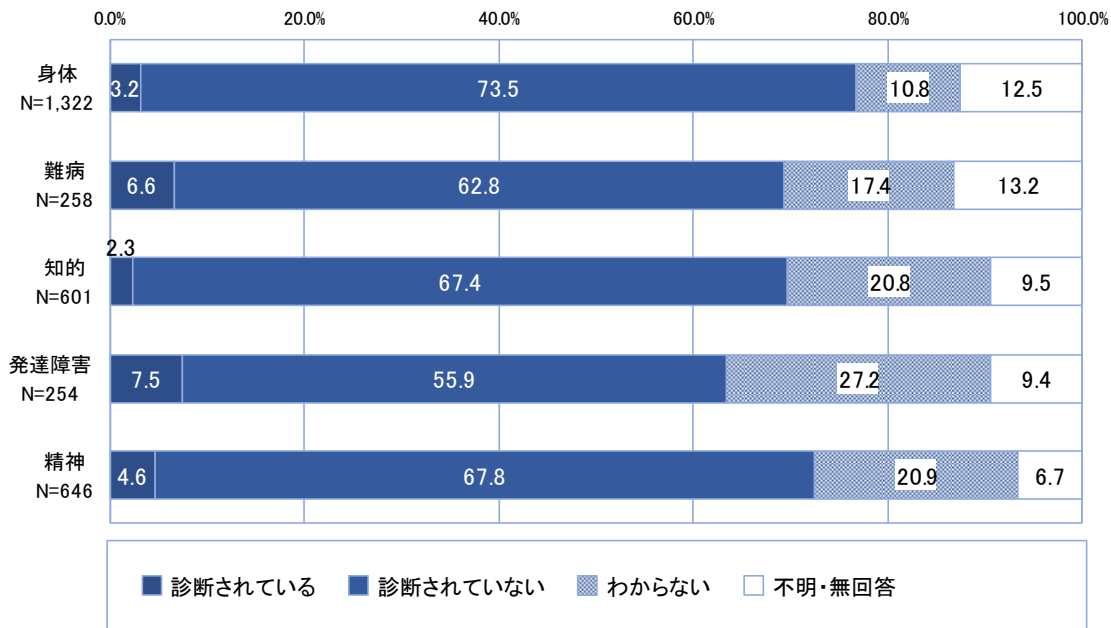


高次脳機能障害の対象の有無（単数回答）

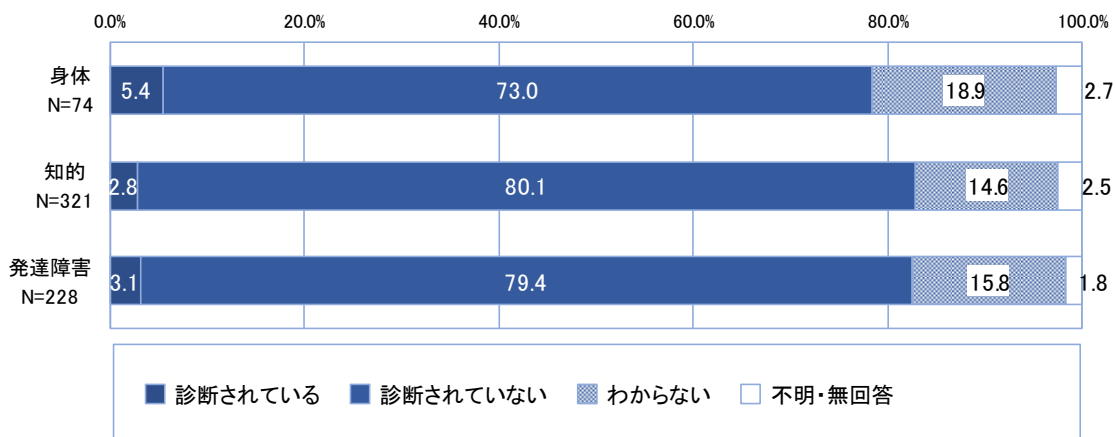
- 18歳以上の高次脳機能障害を除くいずれの障害、18歳未満ともに「診断されていない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、高次脳機能障害を除くいずれの障害においても「診断されていない」が5割台半ば～7割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「診断されていない」が7割台前半～8割台前半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

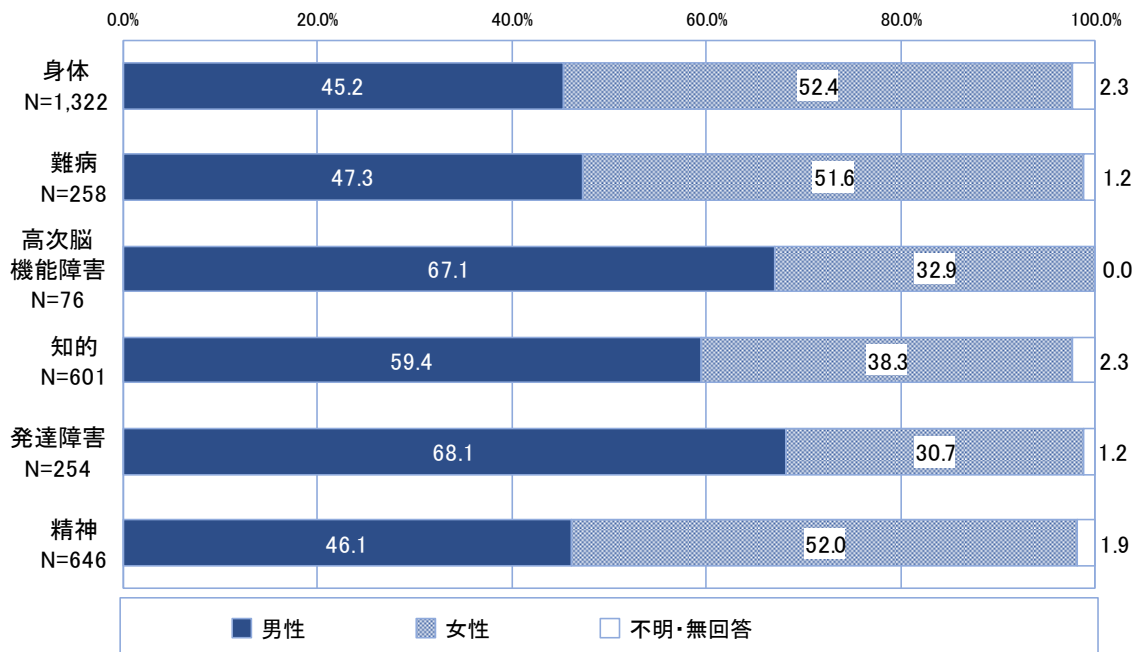


「あなた」の性別はどちらですか。(単数回答)

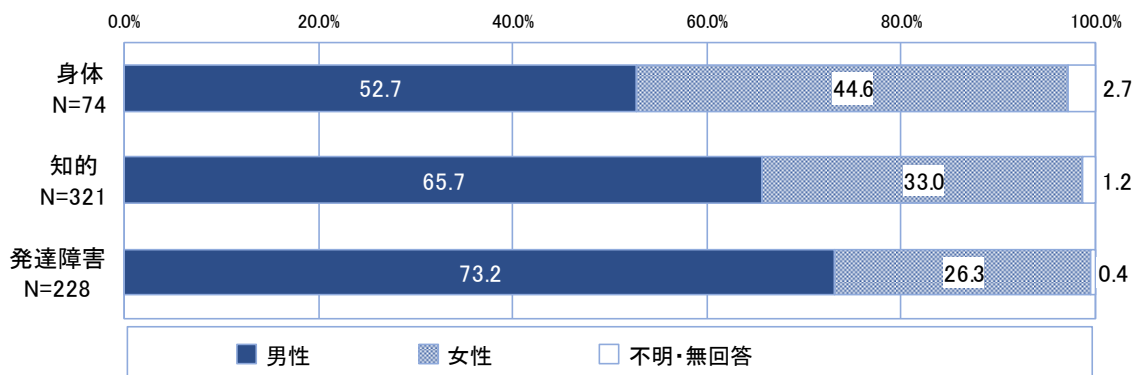
- 18 歳以上の身体障害、難病、精神障害では「女性」が最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「男性」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「男性」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「女性」が5割台前半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「男性」が5割台後半～6割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「男性」が5割台前半～7割台前半で最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



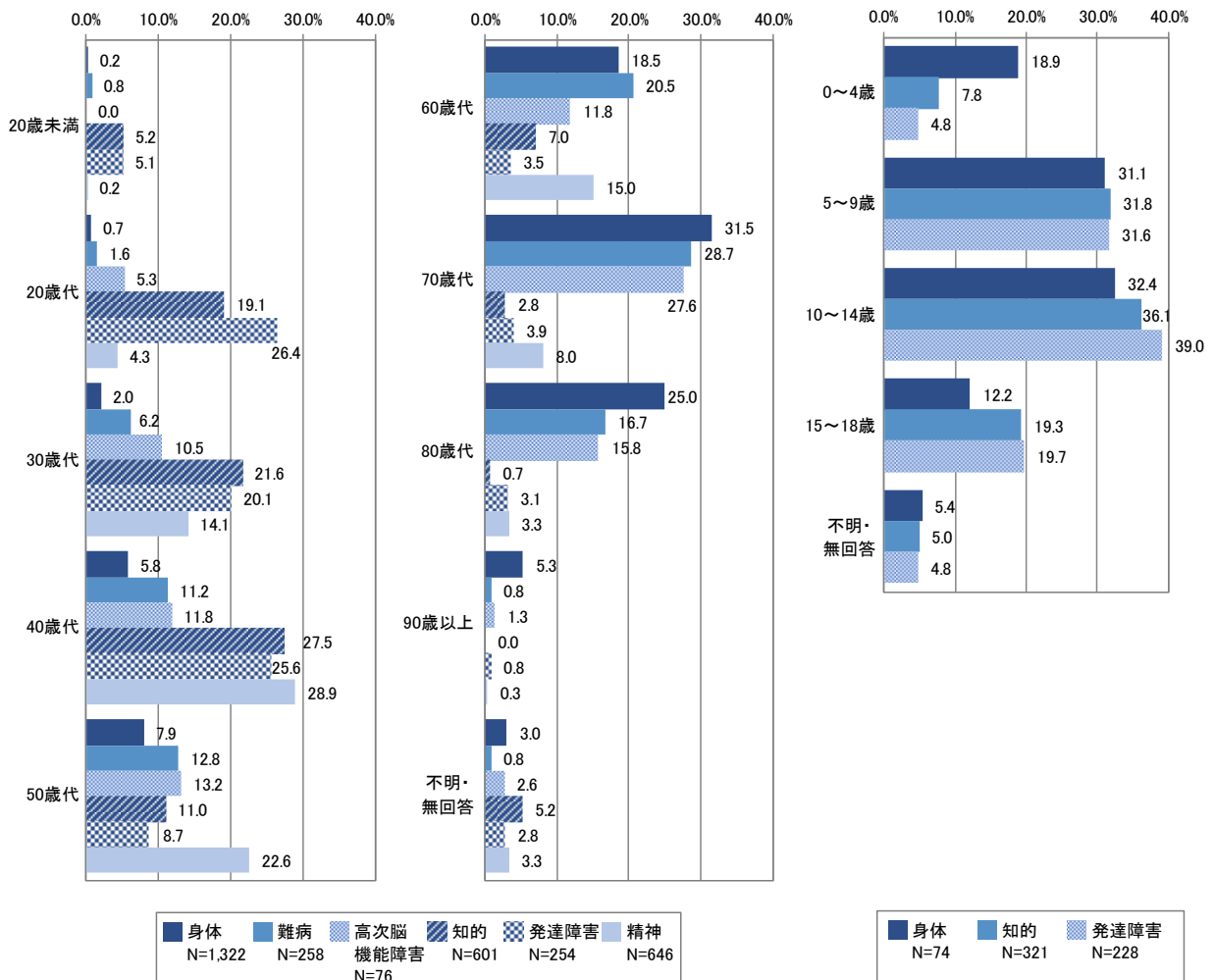
「あなた」の年齢はおいくつですか。(平成 29 年 4 月 1 日現在)

- 18 歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害では「70 歳代」が最も多く、知的障害、精神障害では「40 歳代」が最も多く、発達障害では「20 歳代」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「10～14 歳」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70 歳代」が 2 割台後半～3 割台前半で最も多く、知的障害、精神障害では「40 歳代」が 2 割台後半で最も多く、発達障害では「20 歳代」が 2 割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「10～14 歳」が 3 割台前半～3 割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】

【18 歳未満】

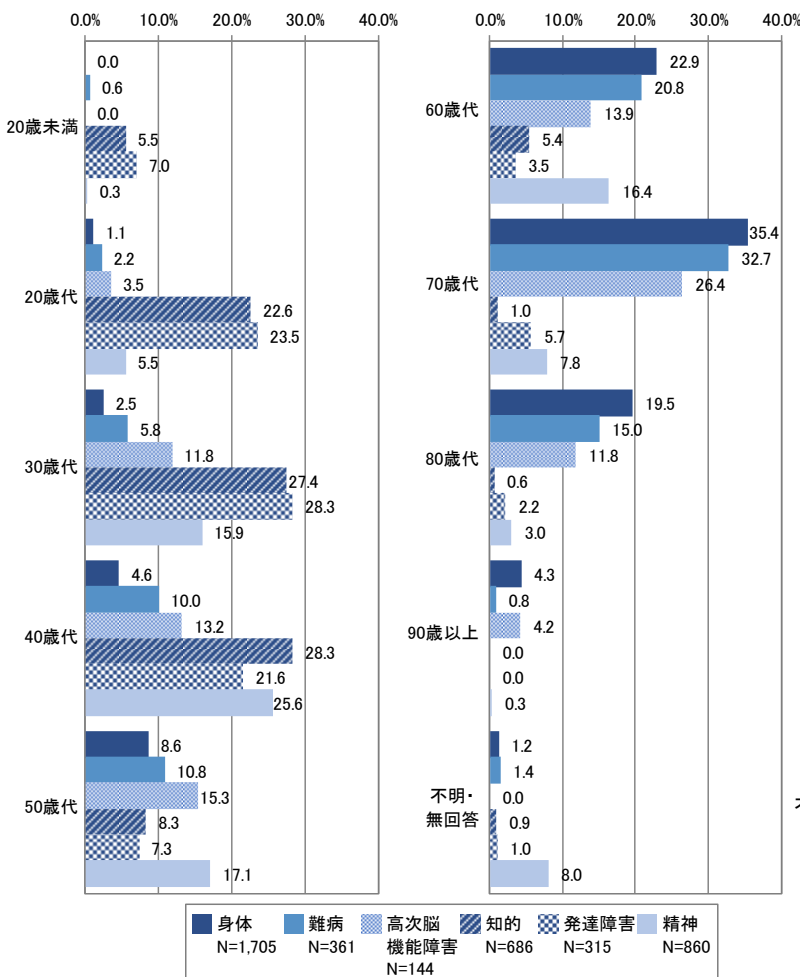


◇平成 26 年調査結果

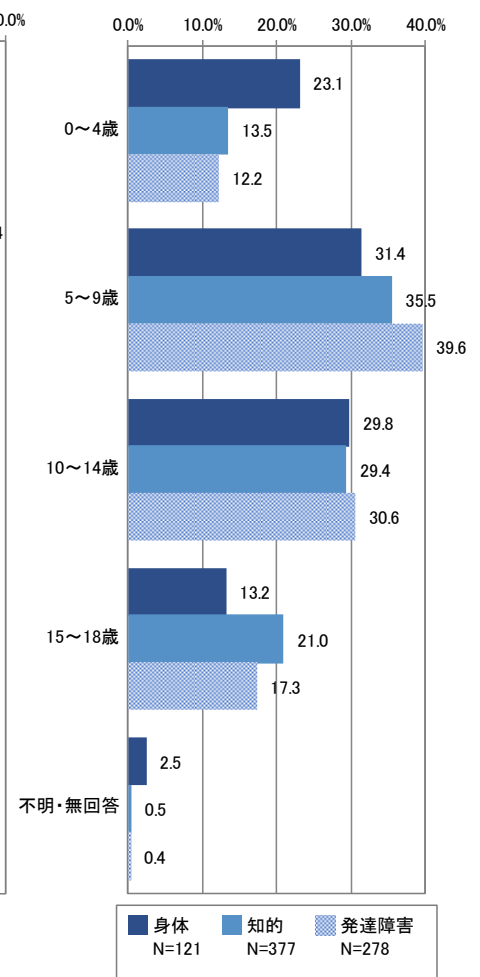
前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70 歳代」が 2 割台半ば～3 割台半ばで最も多く、知的障害、精神障害では「40 歳代」が 2 割台半ば～2 割台後半で最も多く、発達障害では「30 歳代」が 2 割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「5～9 歳」が 3 割台前半～3 割台後半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の身体障害では「80 歳代」、精神障害では「50 歳代」が 5.5 ポイント増加し、発達障害では「30 歳代」が 8.2 ポイント減少、18 歳未満の発達障害では「10～14 歳」が 8.4 ポイント増加し、「5～9 歳」が 8.0 ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】

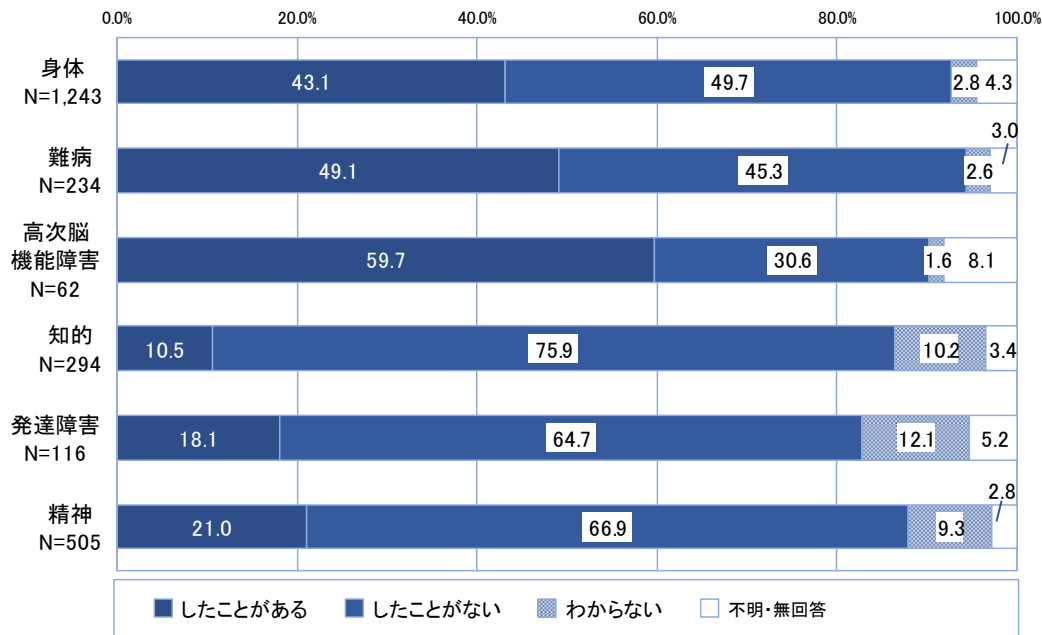


「あなた」は、介護保険サービスの要介護認定申請をしたことがありますか。
(単数回答)

- 40歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害では「したことがある」が最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「したことがない」が最も多くなっている。

40歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「したことがある」が4割台前半～5割台後半で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「したことがない」が6割台半ば～7割台半ばで最も多くなっています。

【40歳以上】



※この調査項目については、40歳以上の方に限定して回答を得ています。なお65歳以上の障害のある人が要介護または要支援状態となった場合（40歳～64歳の方は特定疾病による場合）に、要介護または要支援認定を受け、介護保険の保険給付を受けることができます。その際、障害者福祉と介護保険とで共通するサービスについては、介護保険からの保険給付が優先されます。

●要介護状態の区分（上記で「したことがある」と答えた人）

単位：%

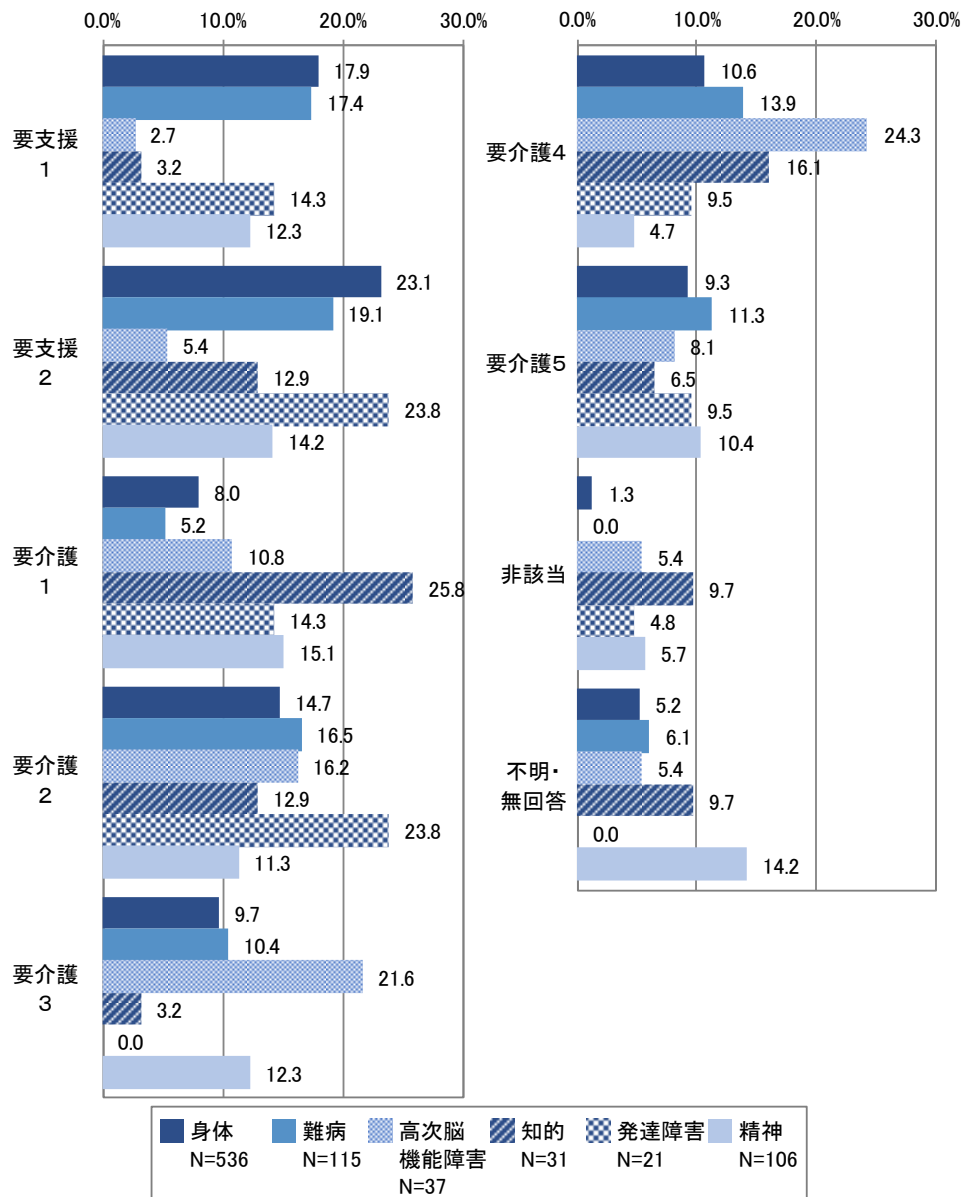
	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	非該当	不明・無回答
身体 N=536	17.9	23.1	8.0	14.7	9.7	10.6	9.3	1.3	5.2
難病 N=115	17.4	19.1	5.2	16.5	10.4	13.9	11.3	0.0	6.1
高次脳機能障害 N=37	2.7	5.4	10.8	16.2	21.6	24.3	8.1	5.4	5.4
知的 N=31	3.2	12.9	25.8	12.9	3.2	16.1	6.5	9.7	9.7
発達障害 N=21	14.3	23.8	14.3	23.8	0.0	9.5	9.5	4.8	0.0
精神 N=106	12.3	14.2	15.1	11.3	12.3	4.7	10.4	5.7	14.2

補問：要介護認定の区分（単数回答）

●40 歳以上の身体障害、難病では「要支援2」が最も多く、高次脳機能障害では「要介護4」が最も多く、知的障害、精神障害では「要介護1」が最も多く、発達障害では「要支援2」と「要介護2」が同率で最も多くなっている。

40 歳以上をみると、身体障害、難病では「要支援2」が1割台後半～2割台前半で最も多く、高次脳機能障害では「要介護4」が2割台半ばで最も多く、知的障害、精神障害では「要介護1」が1割台半ば～2割台半ばで最も多く、発達障害では「要支援2」と「要介護2」が同率の2割台半ばで最も多くなっています。

【40 歳以上】

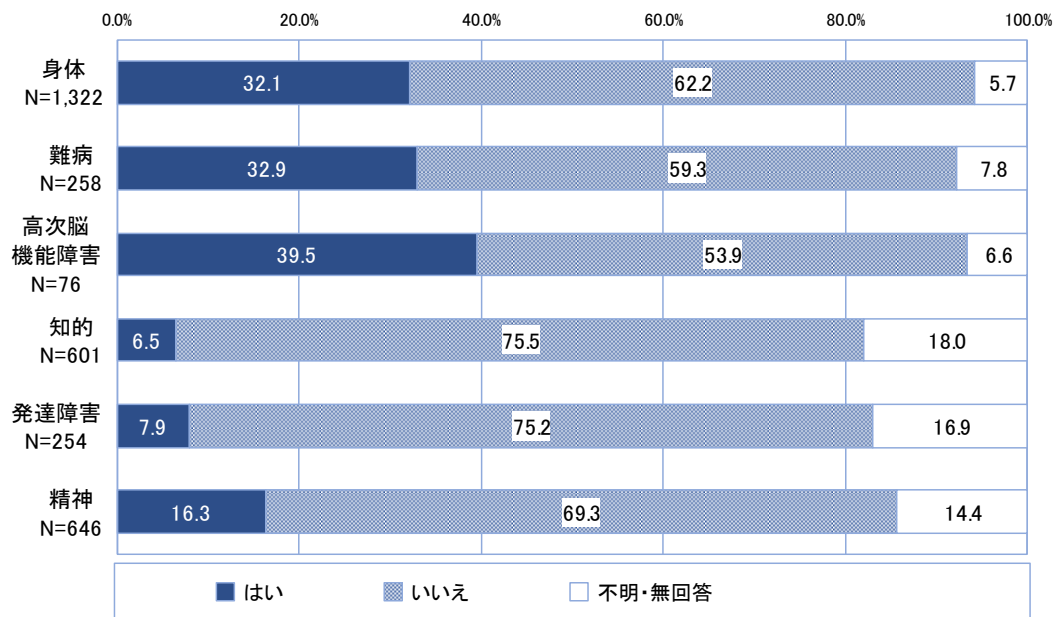


「あなた」は、現在、介護保険サービスを利用していますか。(単数回答)

- 18歳以上のいずれの障害においても「いいえ」(利用したことがない)が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「いいえ」(利用したことがない)が5割台半ば～7割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】



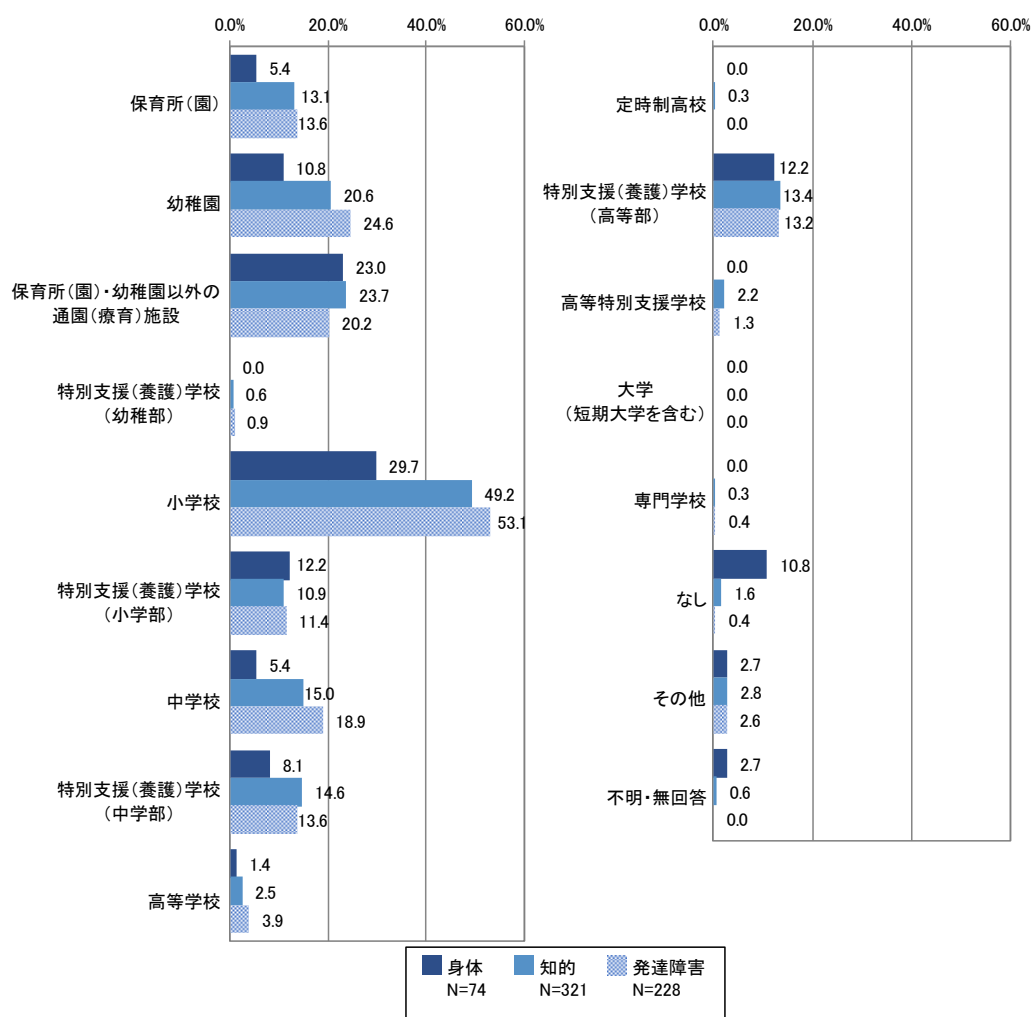
2. 現在の生活について

「あなた」はどこに通われていましたか（在園・在学中を含む）。（複数回答）

●18歳未満のいずれの障害においても「小学校」が最も多くなっている。

18歳未満をみると、いずれの障害においても「小学校」が2割台後半～5割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害、知的障害では「保育所（園）・幼稚園以外の通園（療育）施設」が2割台前半～2割台半ば、発達障害では「幼稚園」が2割台半ばとなっています。

【18歳未満】

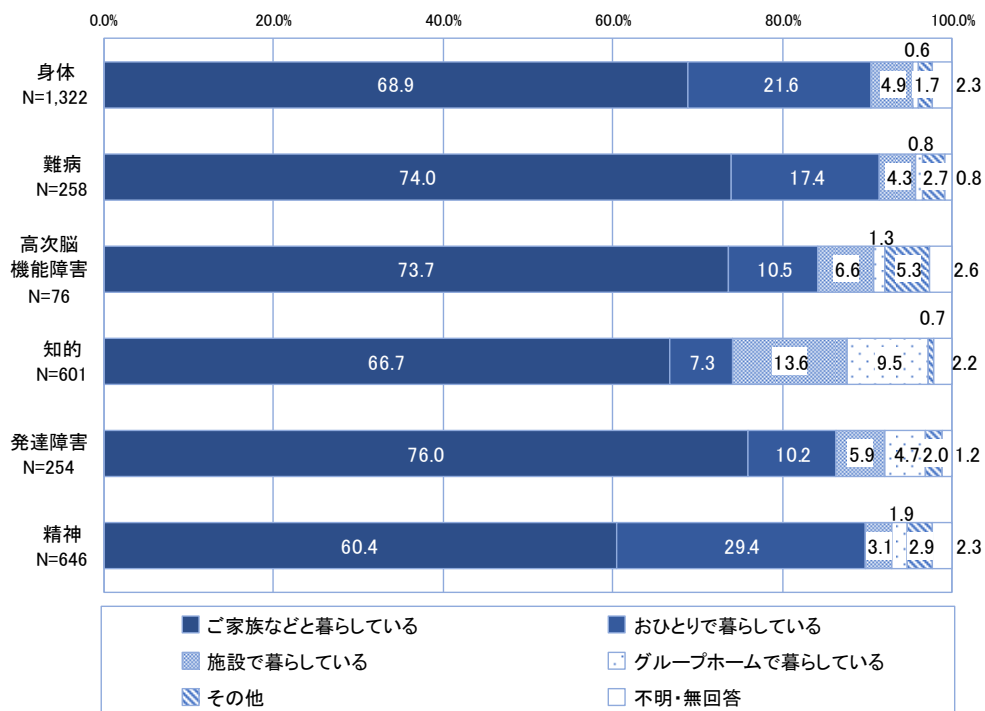


「あなた」は、普段どなたといっしょに暮らしていますか。(単数回答)

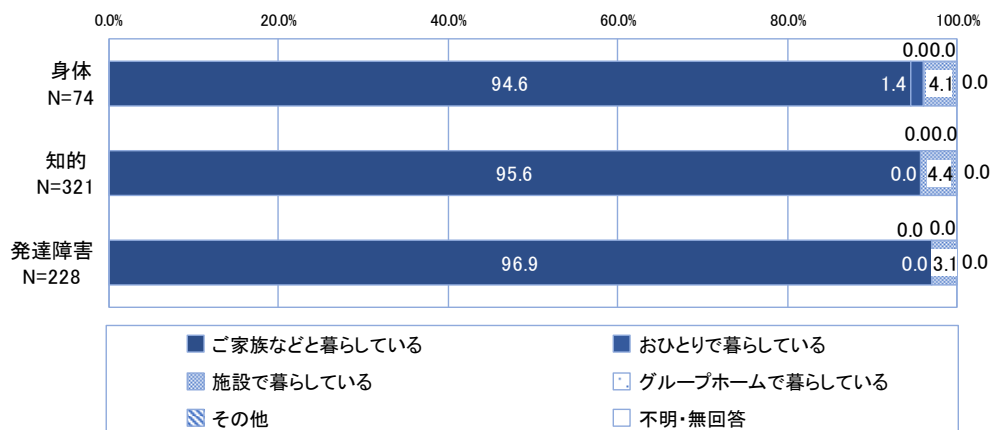
●18歳以上、18歳未満ともに「ご家族などと暮らしている」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族などと暮らしている」が6割前半～7割台半ばで最も多くなっています。次いで、知的障害を除くいずれの障害においても「おひとりで暮らしている」が1割前半～2割台後半、知的障害では「施設で暮らしている」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族などと暮らしている」が9割台半ば～9割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

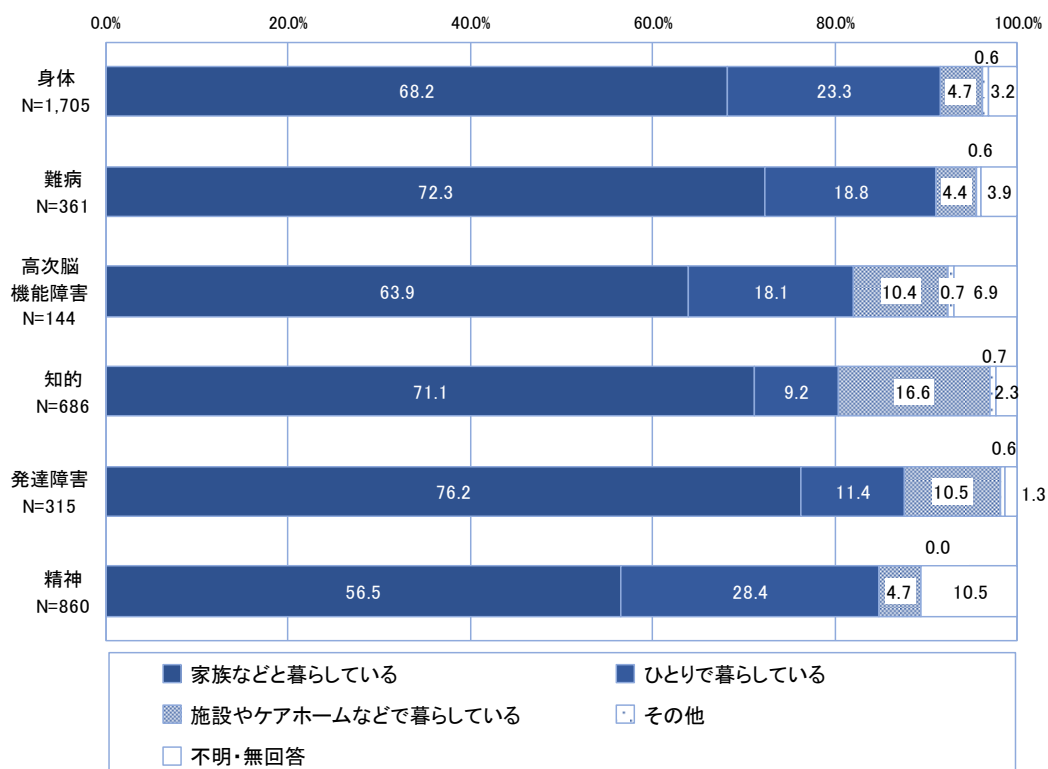


◇平成 26 年調査結果

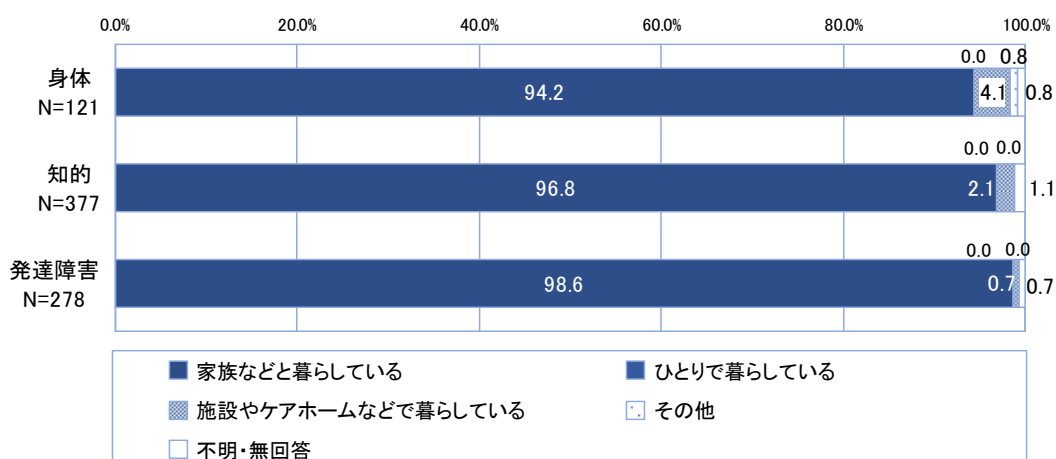
前回調査では、18 歳以上をみると、いずれの障害においても「家族などと暮らしている」が 5 割台半ば～7 割台半ばで最も多くなっています。次いで、知的障害を除くいずれの障害においても「ひとりで暮らしている」が 1 割台前半～2 割台後半、知的障害では「施設やケアホームなどで暮らしている」が 1 割台半ばとなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「家族などと暮らしている」が 9 割台半ば～9 割台後半で最も多くなっています。

今回調査については、前回調査と比べて 18 歳以上の高次脳機能障害では「家族などと暮らしている」が 9.8 ポイント増加し、「ひとりで暮らしている」が 7.6 ポイント減少、18 歳未満の発達障害では「施設やケアホームなどで暮らしている」が 2.4 ポイント増加し、「家族などと暮らしている」が 1.7 ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



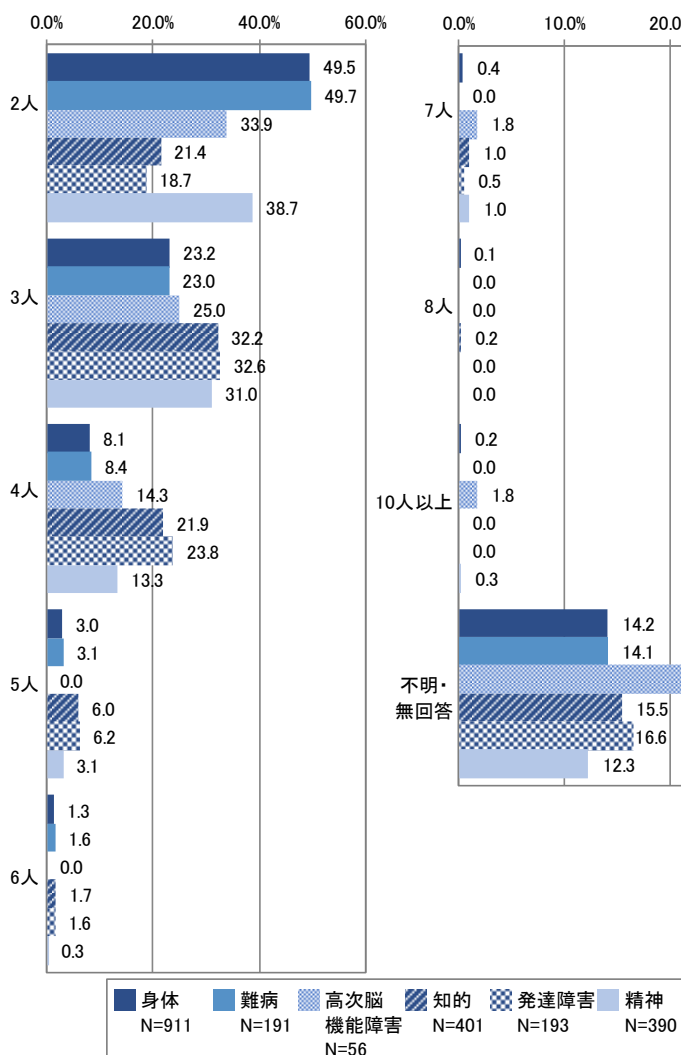
ご家族数・補問：ご家族と暮らしている人の状況について（数量回答・複数回答）

●ご家族の人数について、18歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「2人」が最も多く、知的障害、発達障害では「3人」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「3人」と「4人」が同率で最も多く、知的障害、発達障害では「4人」が最も多くなっている。

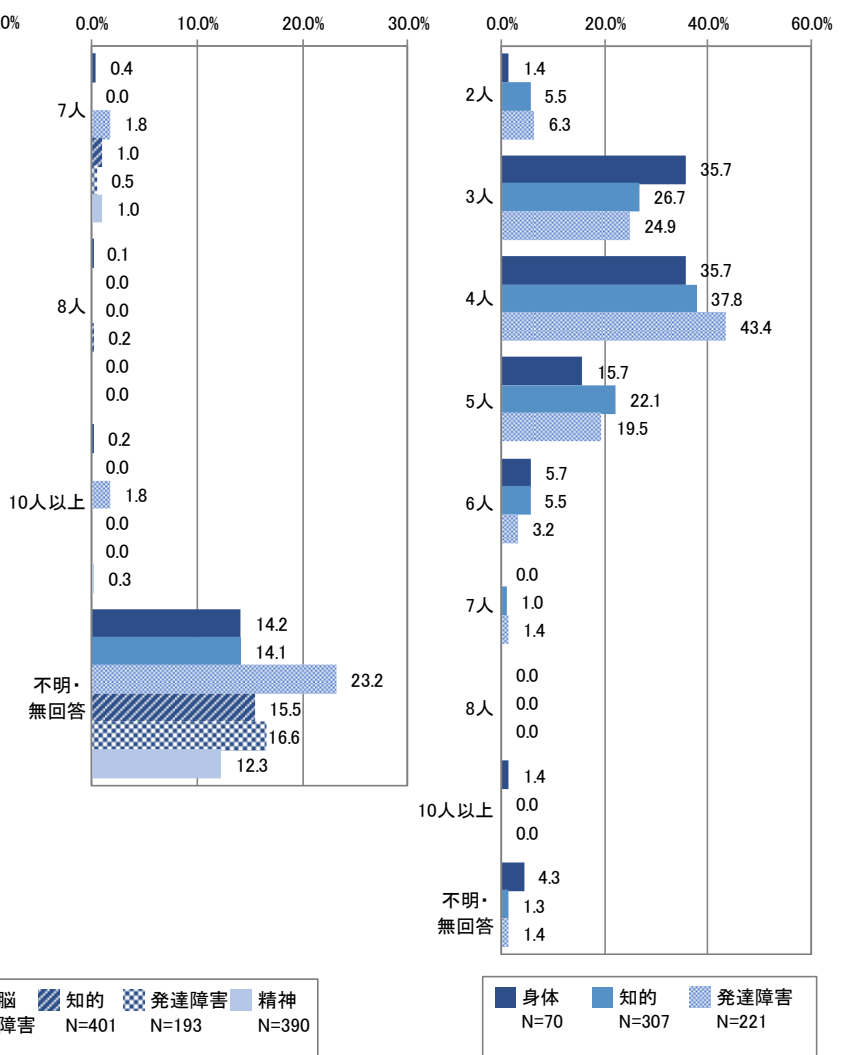
ご家族の人数について、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「2人」が3割台半ば～4割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「3人」が3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「3人」と「4人」が同率の3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「4人」が3割台後半～4割台半ばで最も多くなっています。

家族の人数(数量回答)

【18歳以上】



【18歳未満】



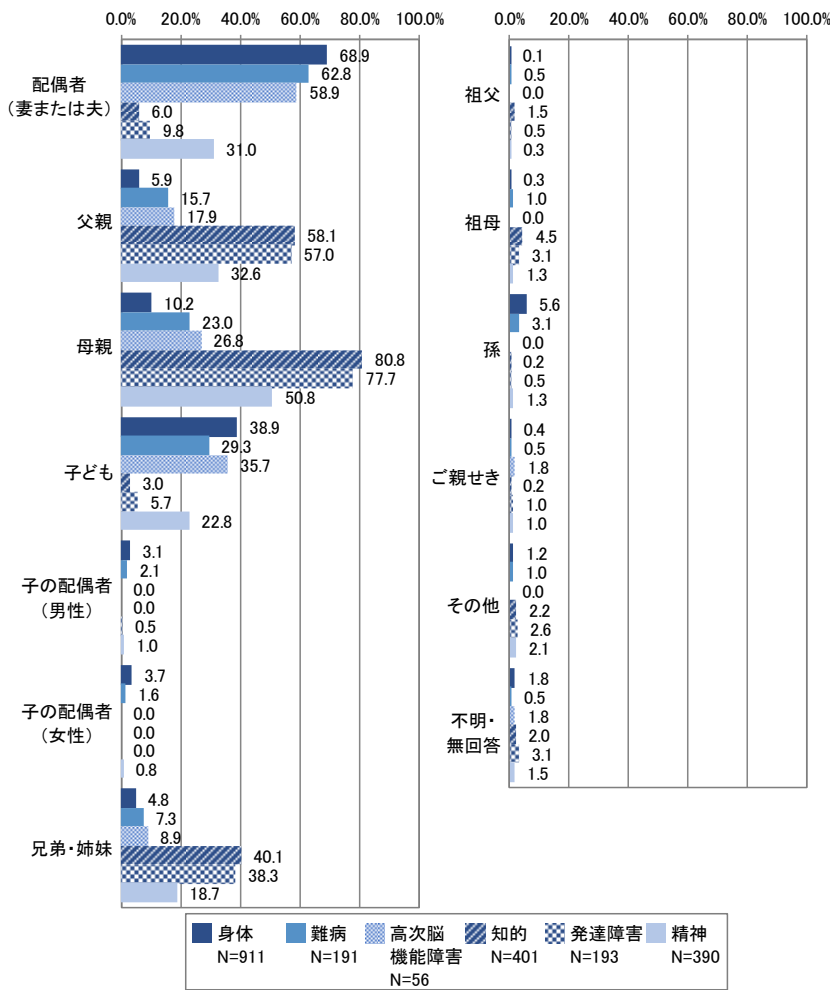
※家族の人数は回答者を含めた人数となります。

●いっしょに暮らしている人について、18歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害では「配偶者」が最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が最も多くなっている。18歳未満のいずれの障害においても「母親」が最も多くなっている。

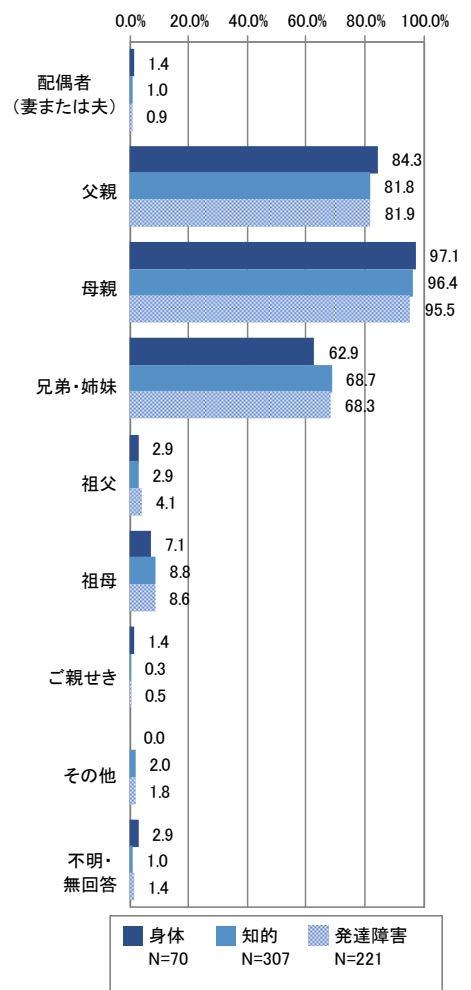
いっしょに暮らしている人について、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「配偶者」が5割後半～6割後半で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が5割台前半～8割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「母親」が9割台半ば～9割台後半で最も多くなっています。

いっしょに暮らしている人(複数回答)

【18歳以上】



【18歳未満】

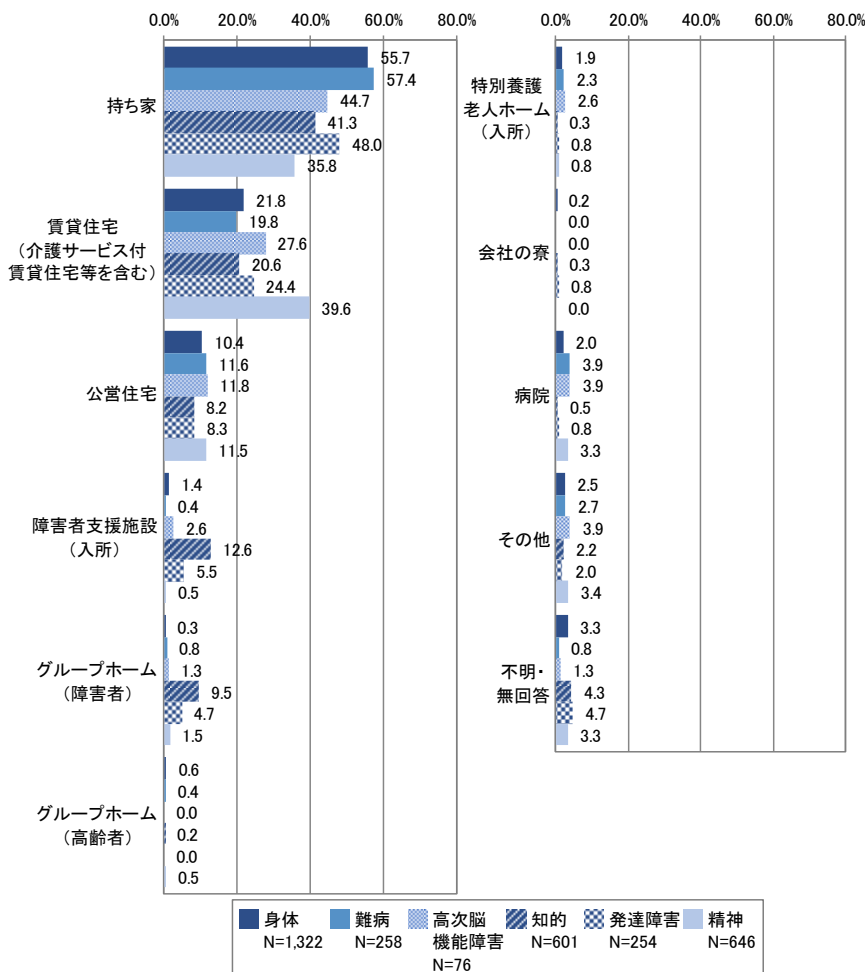


「あなた」の普段のお住まい、あるいは暮らしているのはどこですか。（単数回答）

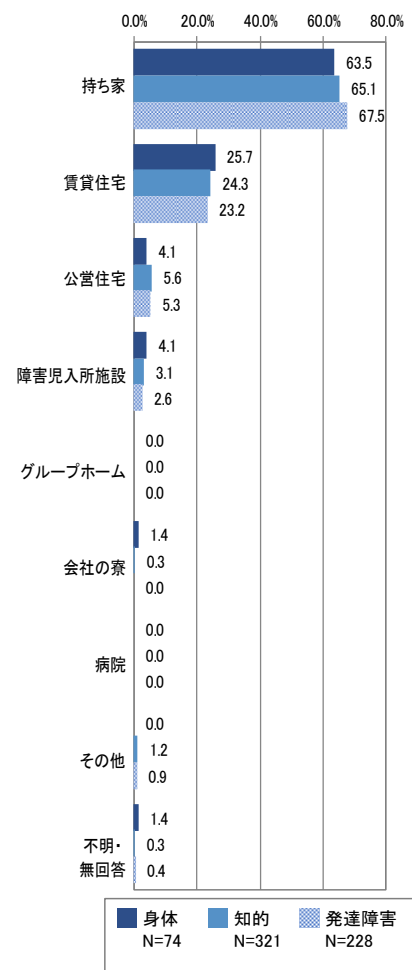
- 18 歳以上の精神障害を除くいずれの障害においても「持ち家」が最も多く、精神障害では「賃貸住宅」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「持ち家」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、精神障害を除くいずれの障害においても「持ち家」が4割台前半～5割台後半で最も多く、精神障害では「賃貸住宅」が3割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「持ち家」が6割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】

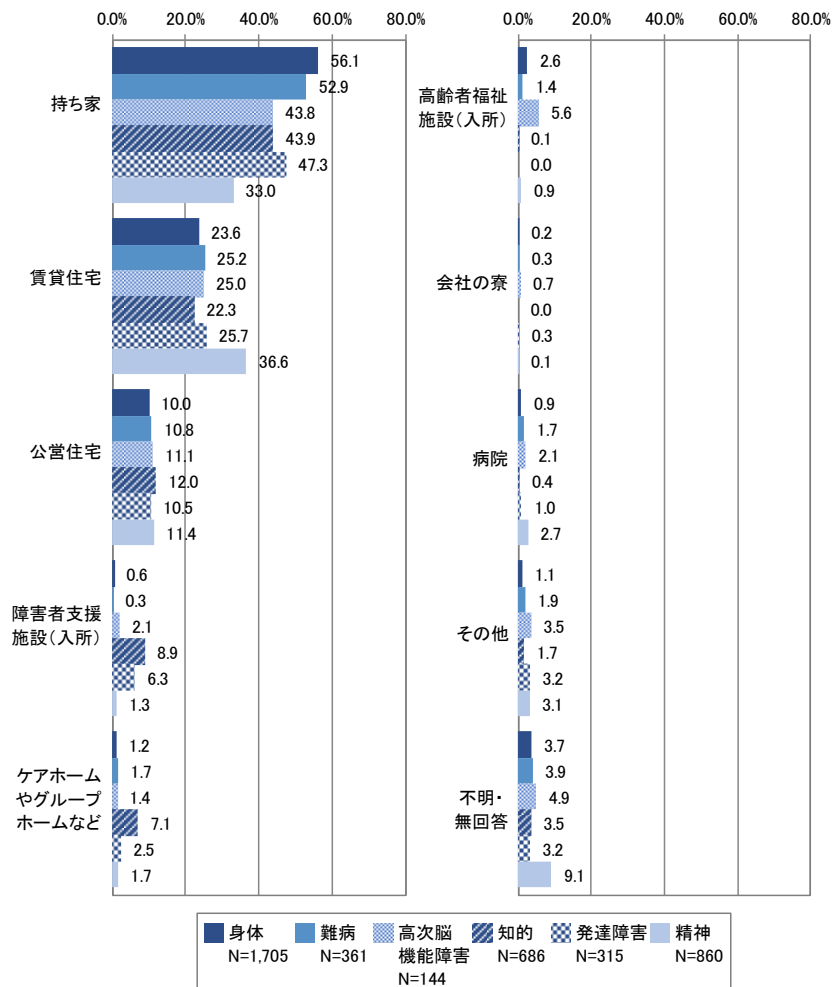


◇平成 26 年調査結果

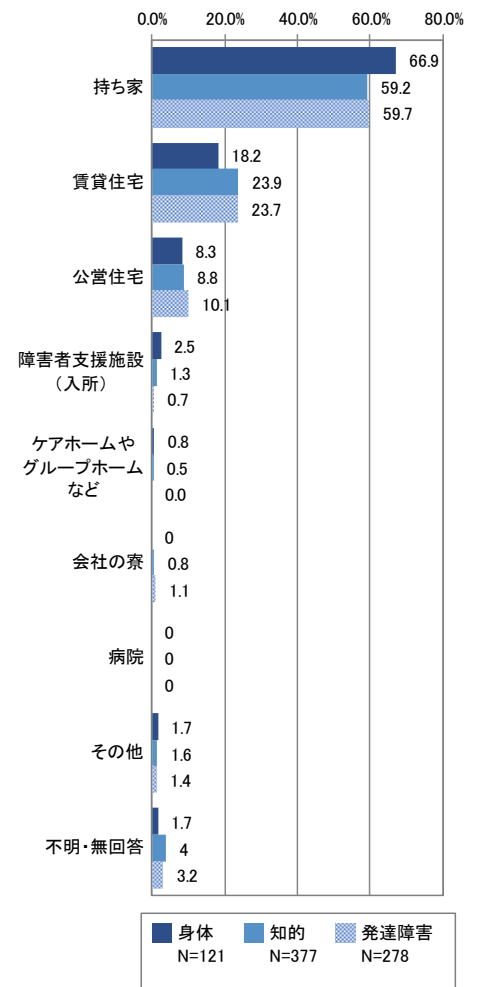
前回調査では、18 歳以上をみると、精神障害を除くいずれの障害においても「持ち家」が4割台半ば～5割台半ばで最も多く、精神障害では「賃貸住宅」が3割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「持ち家」が5割台後半～6割台後半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて18 歳以上の難病では「持ち家」が4.5ポイント増加し、「賃貸住宅」が5.4ポイント減少、18 歳未満の発達障害では「持ち家」が7.8ポイント増加し、「公営住宅」が4.8ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】

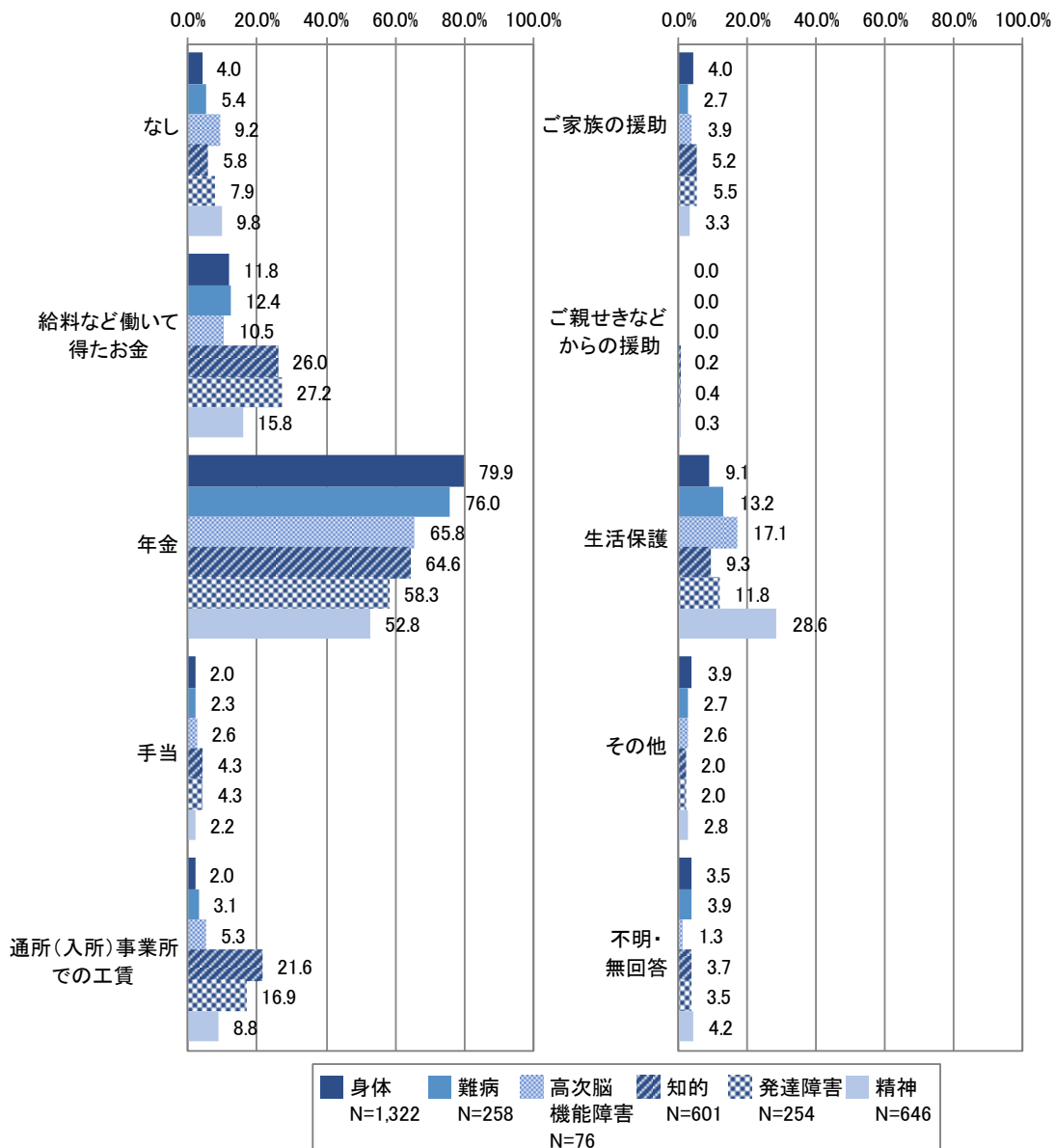


「あなた」の主な収入はどれですか。(複数回答)

●18歳以上のいずれの障害においても「年金」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「年金」が5割台前半～7割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害、知的障害、発達障害では「給料など働いて得たお金」が1割台前半～2割台後半、難病、高次脳機能障害、精神障害では「生活保護」が1割台前半～2割台後半となっています。

【18歳以上】

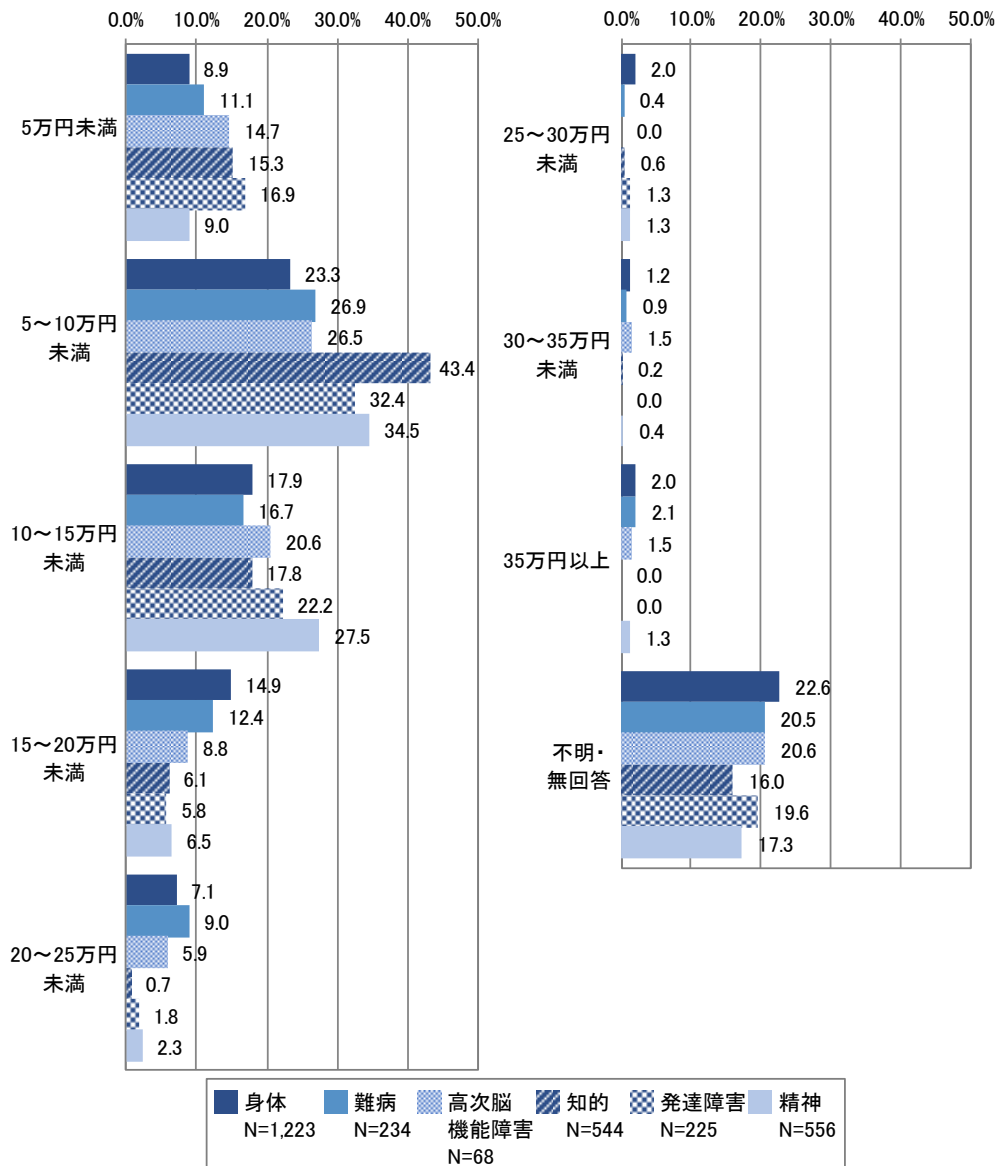


収入のある方におたずねします。「あなた」の月収の総額はいくらですか（年金や手当を含む）。（数量回答）

●18歳以上のいずれの障害においても「5～10万円未満」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「5～10万円未満」が2割前半～4割台半ばで最も多くなっています。次いで、「10～15万円未満」が1割台後半～2割台後半となっています。

【18歳以上】

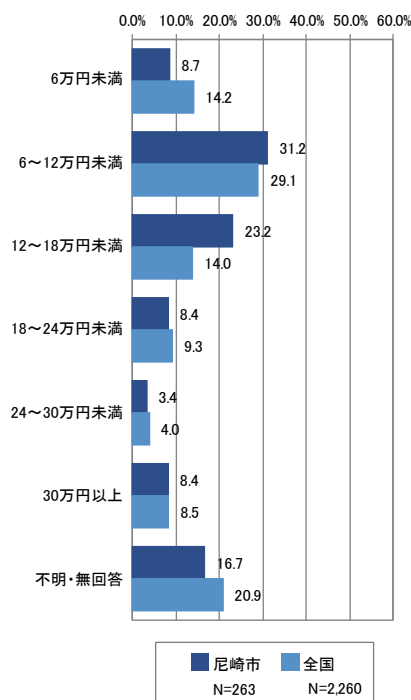


◇全国の調査結果との比較

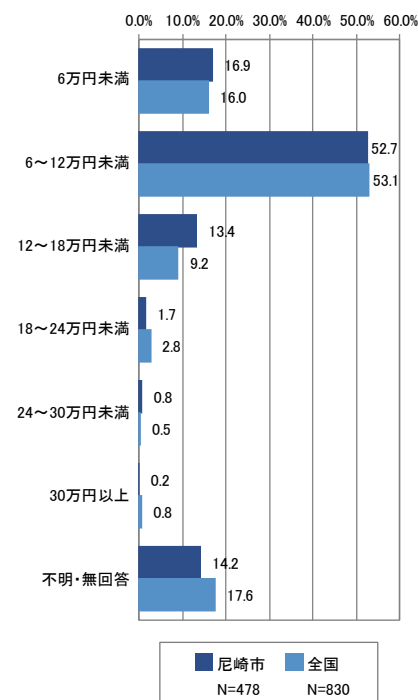
全国調査と比べると、65 歳以上の精神障害を除いて、全国調査より「12～18 万円未満」が多くなっています。また、65 歳未満の知的障害と 65 歳以上の精神障害を除いて、全国調査より「6万円未満」が少なくなっています。

【18～65 歳未満】

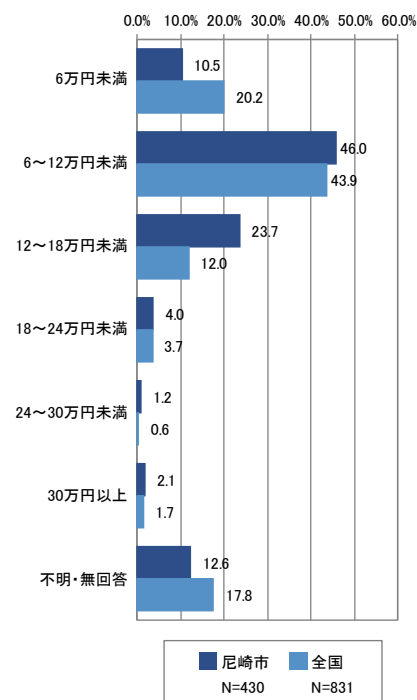
身体障害



知的障害

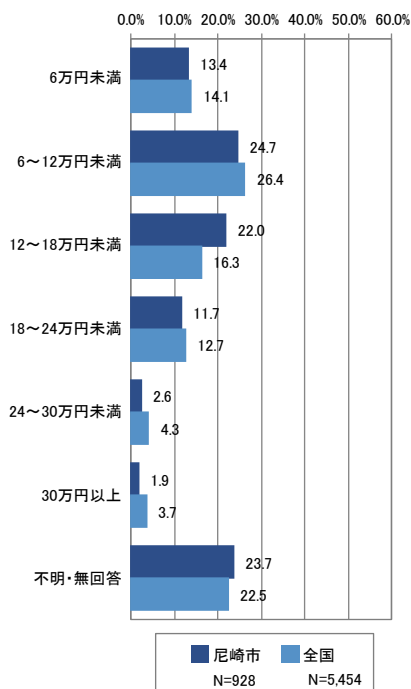


精神障害

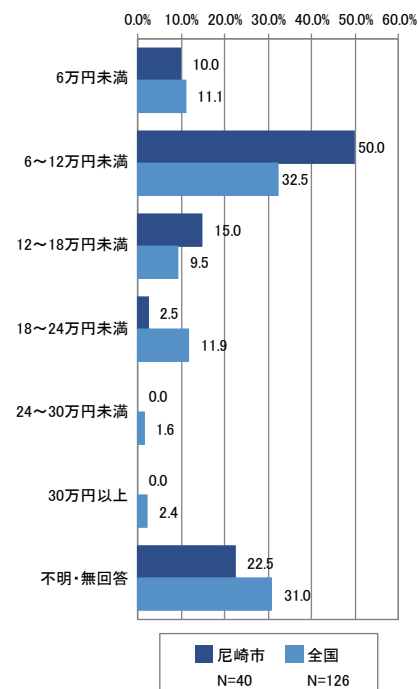


【65 歳以上】

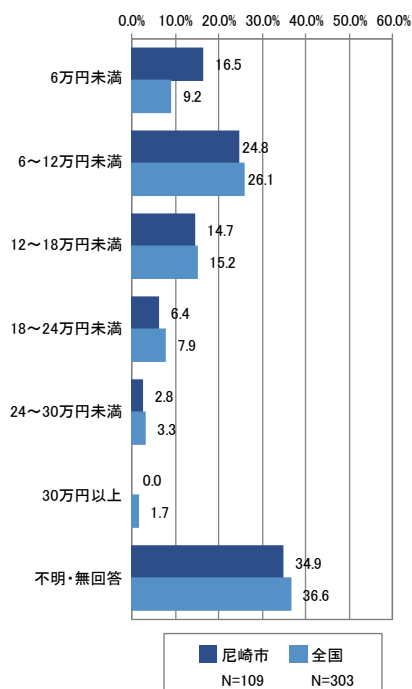
身体障害



知的障害



精神障害



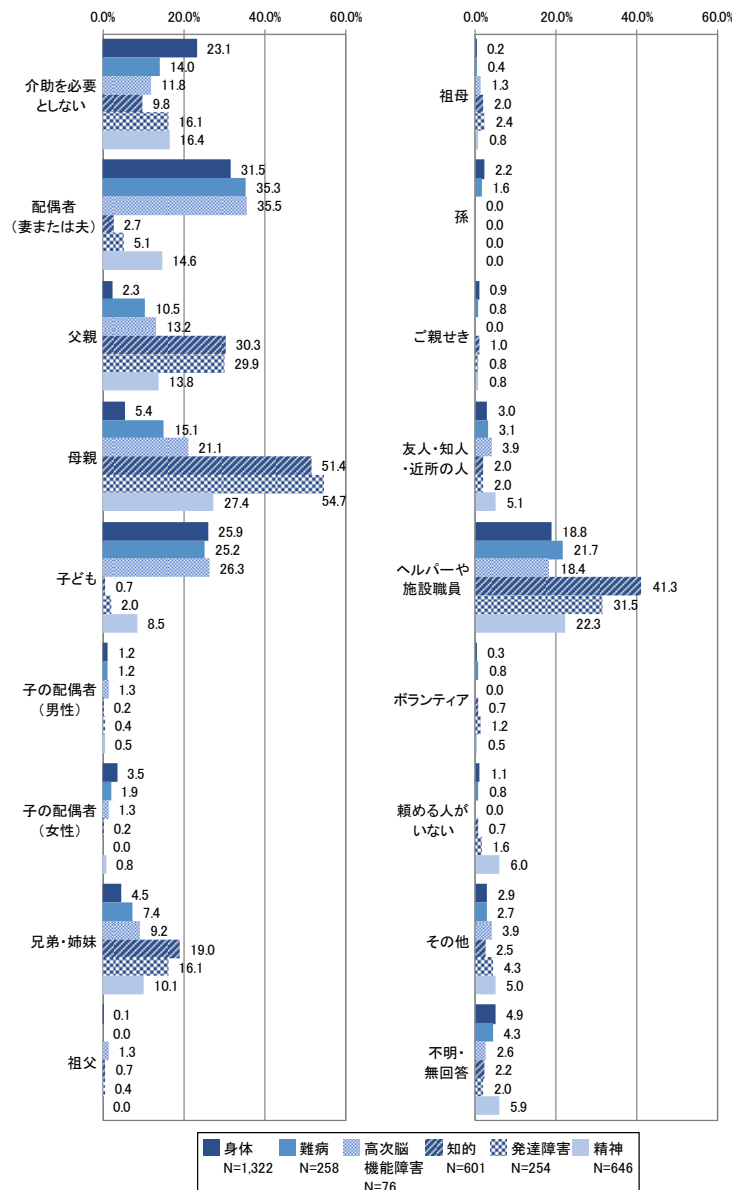
※全国調査は、厚生労働省が実施した「平成 23 年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」の結果を掲載しています。

「あなた」の主な介助者（日常生活の支援をしてくれる方）はどなたですか。
（複数回答）

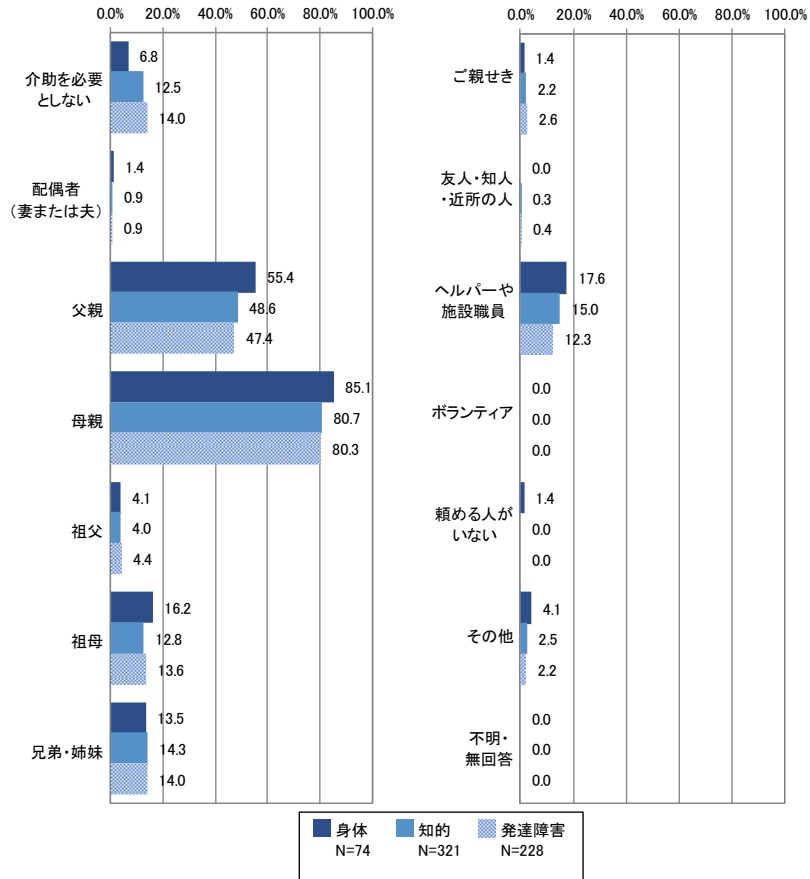
- 18歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害では「配偶者」が最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が最も多くなっている。18歳未満のいずれの障害においても「母親」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「配偶者」が3割台前半～3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が2割台後半～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害、難病、高次脳機能障害では「子ども」が2割台半ば、知的障害、発達障害、精神障害では「ヘルパーや施設職員」が2割台前半～4割台前半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「母親」が8割台前半～8割台半ばで最も多くなっています。次いで、「父親」が4割台後半～5割台半ばとなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

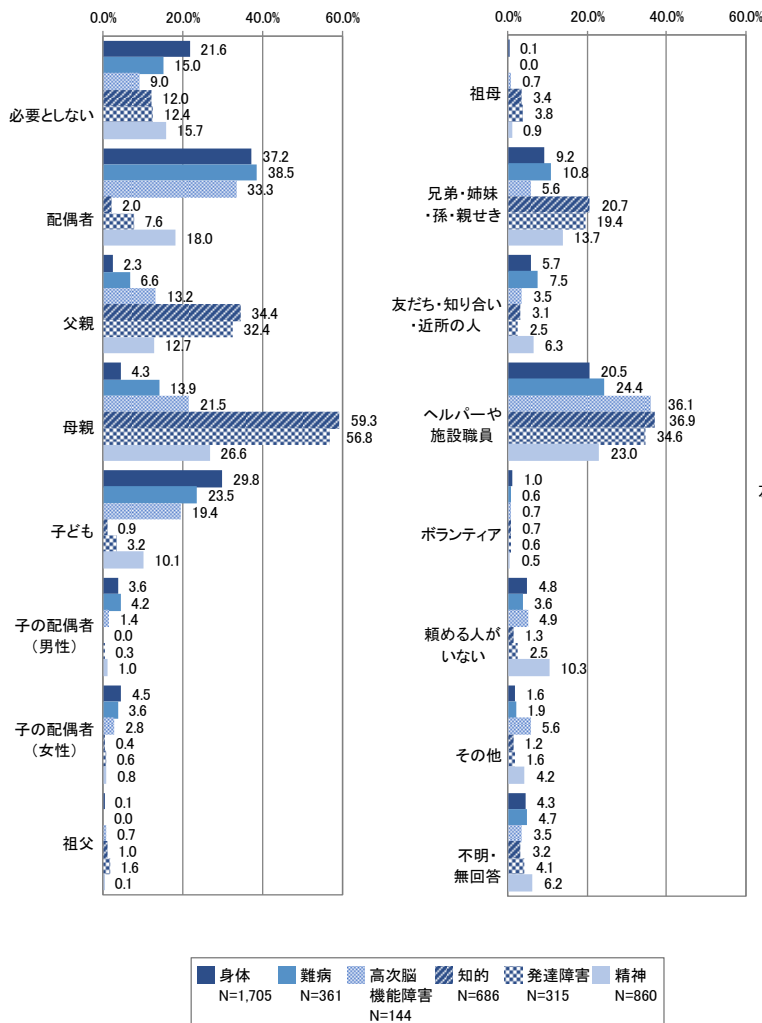


◇平成 26 年調査結果

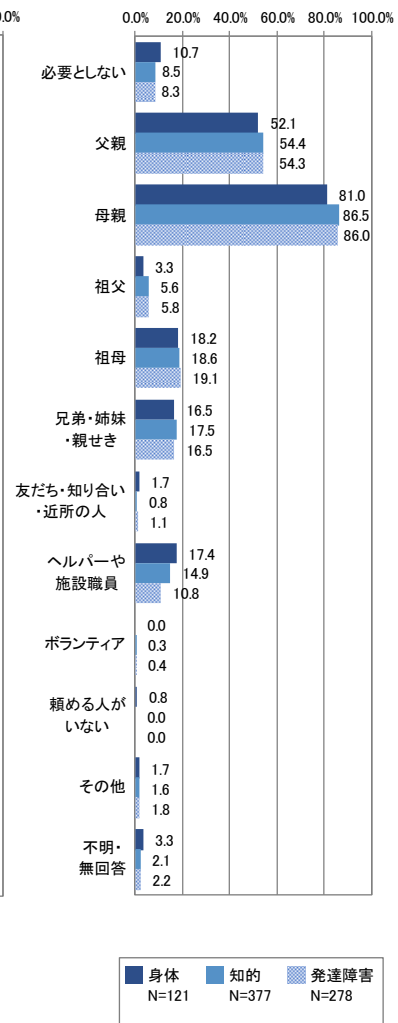
前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病では「配偶者」が3割台後半で最も多く、高次脳機能障害では「ヘルパーや施設職員」が3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「母親」が2割台半ば～5割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「母親」が8割台前半～8割台半ばで最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて18 歳以上の高次脳機能障害では「子ども」が6.9ポイント増加し、「ヘルパーや施設職員」が17.7ポイント減少、18 歳未満の発達障害では「必要としない」が5.7ポイント増加し、「父親」が6.9ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



おおむねこの1年間の日常生活を送る上での生活のしづらさはどのようなものがありましたか。(単数回答)

【18歳以上】

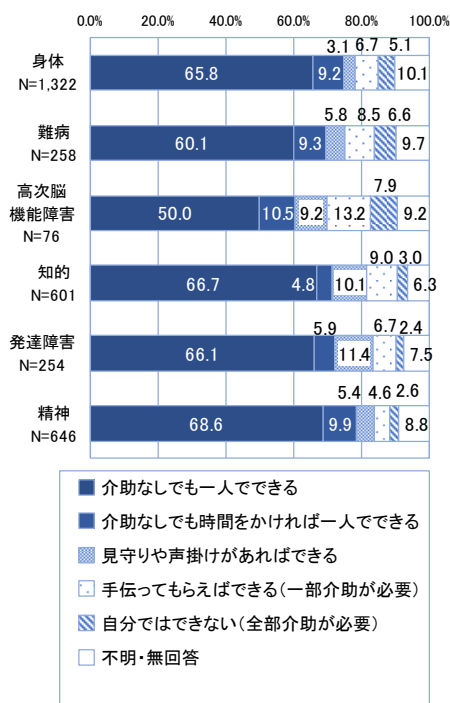
- 『食事の支度や後片付けをする』や『身の回りの掃除、整理整頓をする』というIADL（応用的な日常生活動作）に関する動作において介助を必要とする人の割合が多くなっている。また、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では『お金の管理をする』、『薬の管理をする』という身の回りの管理に関する動作において介助が必要な人の割合が多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においてもADL※（日常生活動作）の項目で「介助なしでも一人で行える」もしくは「介助なしでも時間をかければ一人で行える」という人が4割台後半～8割台半ばとなっています。高次脳機能障害では『食事の支度や後片付けをする』『衣服を着たり脱いだりする』『排せつをする（トイレをトイレなど）』『入浴をする』『家の中を移動する』『身の回りの掃除、整理整頓をする』『洗濯をする』『買い物をする』で「自分ではできない」が1割台半ば～3割台後半となっています。高次脳機能障害、知的障害、発達障害では『お金の管理をする』『薬の管理をする』で「自分ではできない」が2割台後半～4割台前半となっています。

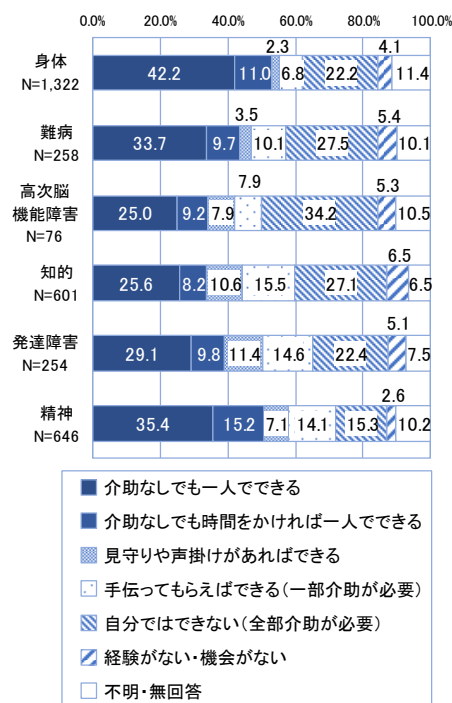
※ ADL (Activities of Daily Living) は「日常生活動作」といい、身辺自立、身体活動（歩行など）、排せつなどの行為にあたります。IADL (Instrumental Activity of Daily Living) は「応用的な日常生活動作」といい、ADLより高次で、在宅生活の基本となる活動をいいます。

この調査では、調査項目を厚生労働省が実施した「平成23年生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）」と同一内容としています。そのため、同調査の分類方法にしたがい、ADL（食事をする、衣服を着たり脱いだりする、排せつをする、入浴をする、家の中を移動する）、IADL（食事の支度や後片付けをする、身の回りの掃除、整理整頓をする、洗濯をする、買い物をする）、身の回りの管理（お金の管理をする、薬の管理をする）と定義しています。

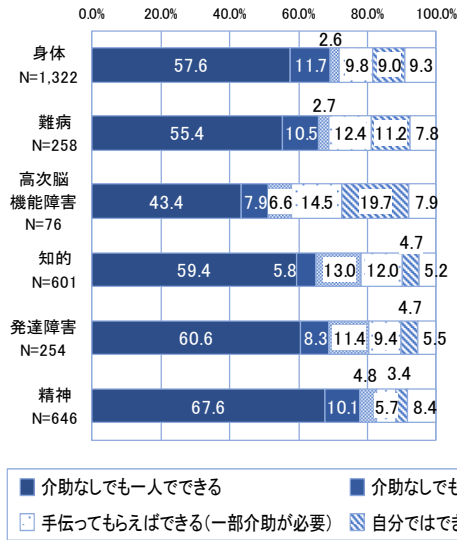
① 食事をする



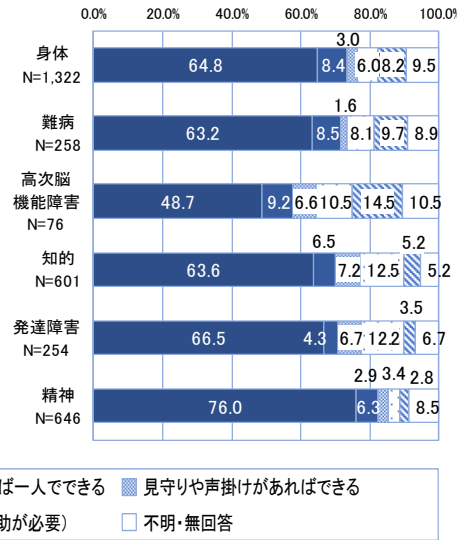
② 食事の支度や後片付けをする



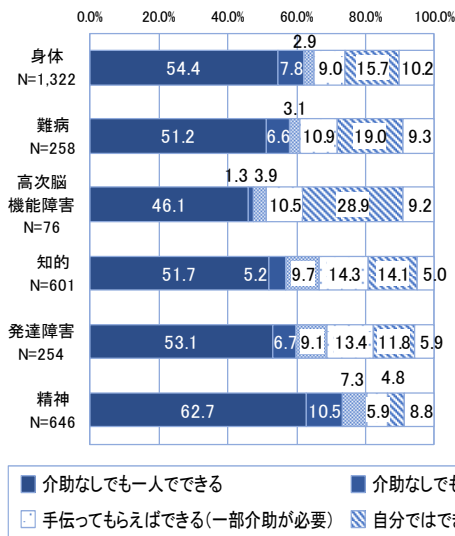
③衣服を着たり脱いだりする



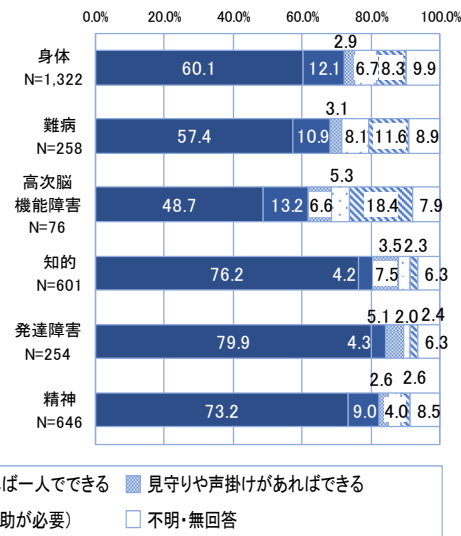
④排せつをする(トイレをえるなど)



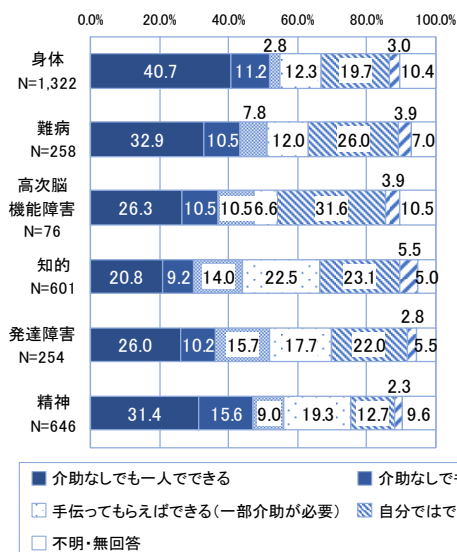
⑤入浴をする



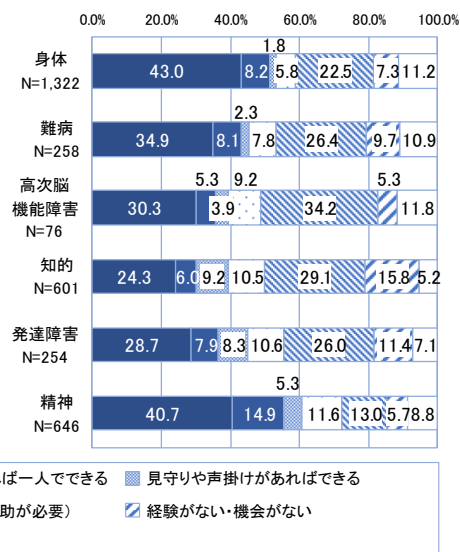
⑥家の中を移動する



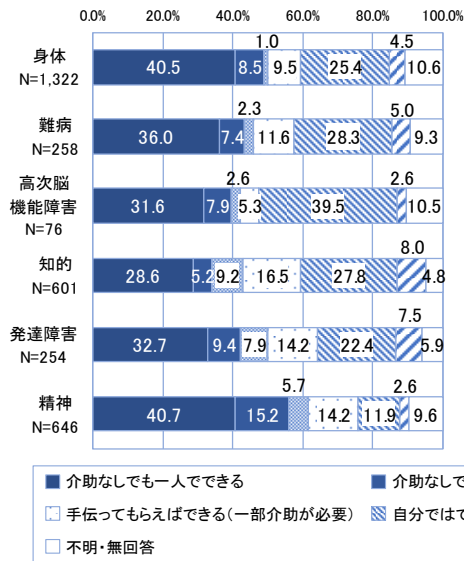
⑦身の回りの掃除、整理整頓をする



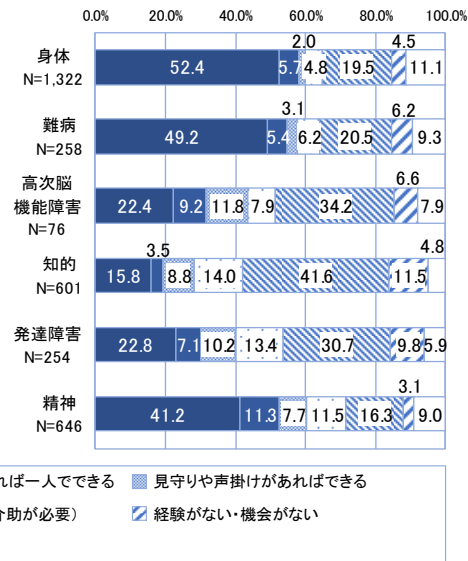
⑧洗濯をする



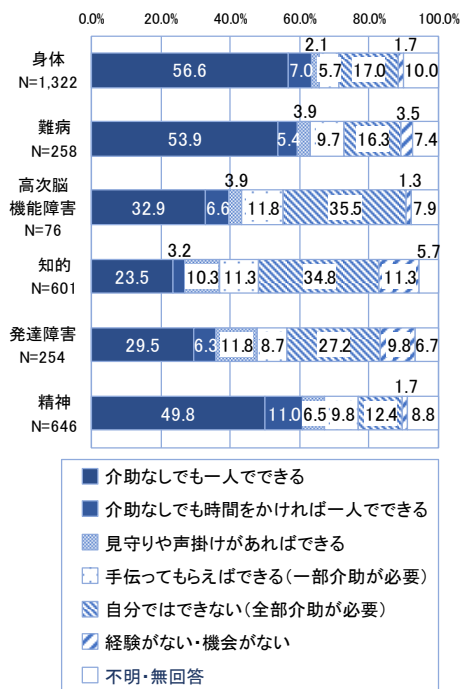
⑨買い物をする



⑩お金の管理をする



⑪薬の管理をする

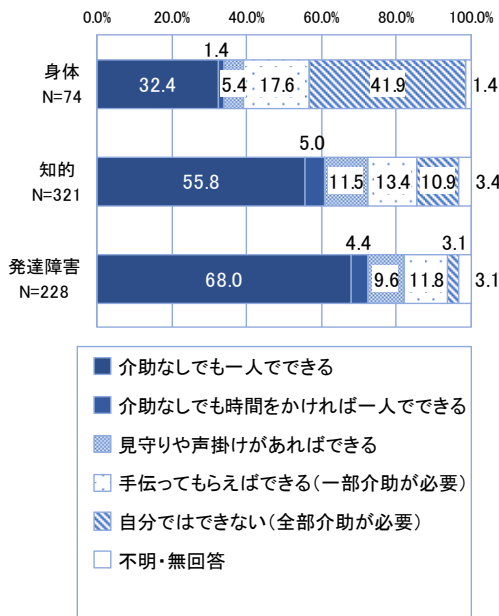


【18歳未満】

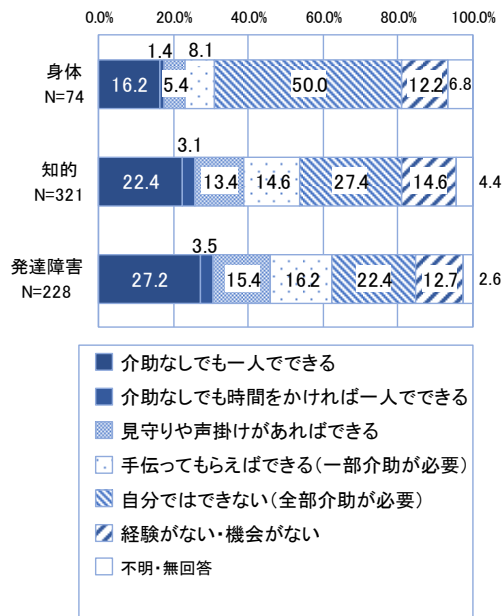
●18歳未満では、ADL（日常生活動作）以外の項目で介助を必要とする人の割合が多いが、身体障害では日常生活のあらゆる場面において介助を必要とする割合が多くなっている。

18歳未満をみると、身体障害では、いずれの日常生活動作においては「自分ではできない」が3割台後半～5割台後半となっています。知的障害、発達障害ではADL（日常生活動作）以外の項目で、「自分ではできない」が1割台後半～3割台半ばとなっています。

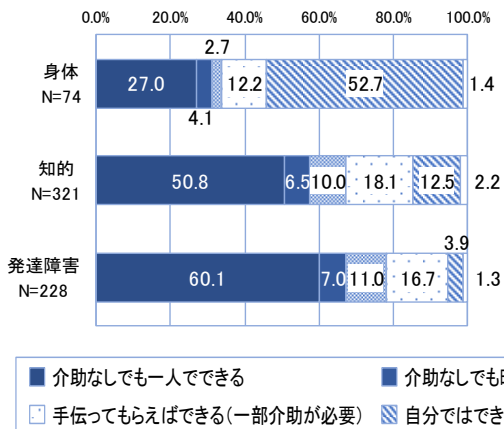
①食事をする



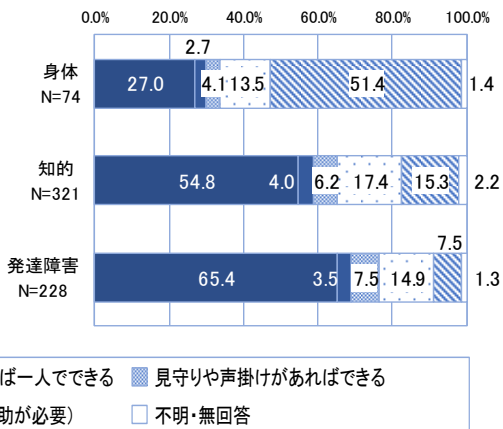
②食事の支度や後片付けをする



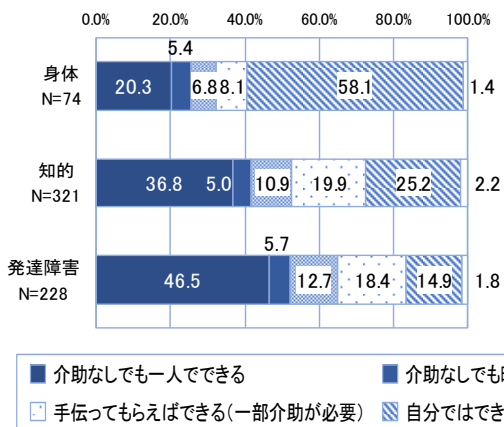
③衣服を着たり脱いだりする



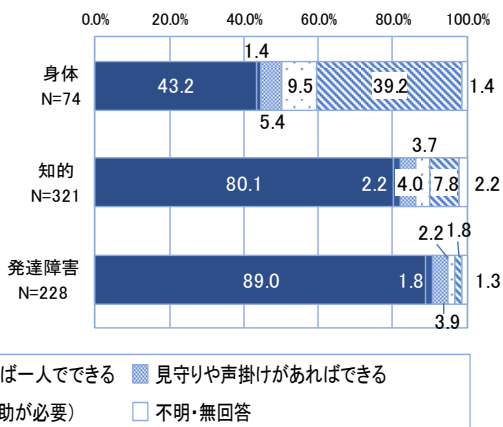
④排せつをする(トイレを使えるなど)



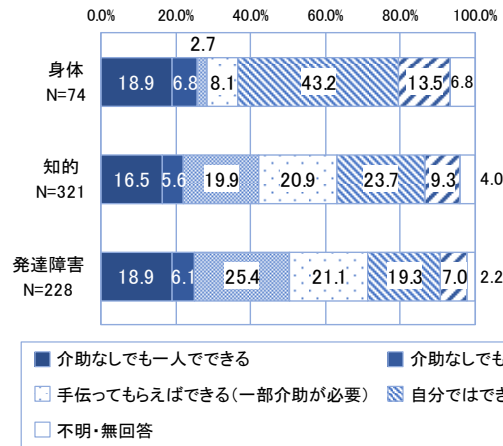
⑤入浴をする



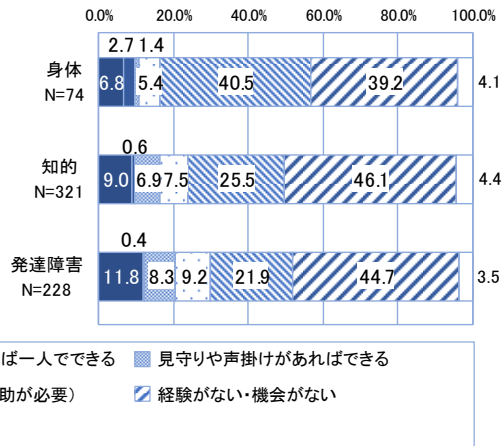
⑥家の中を移動する



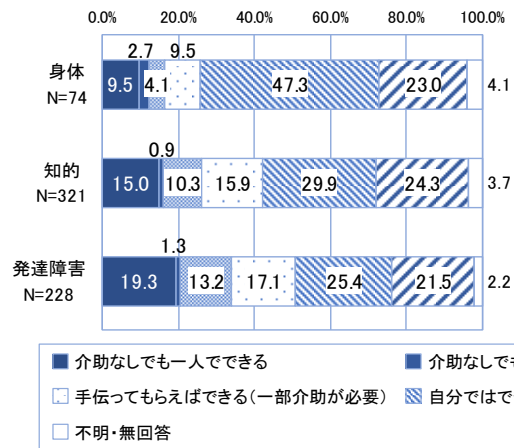
⑦身の回りの掃除、整理整頓をする



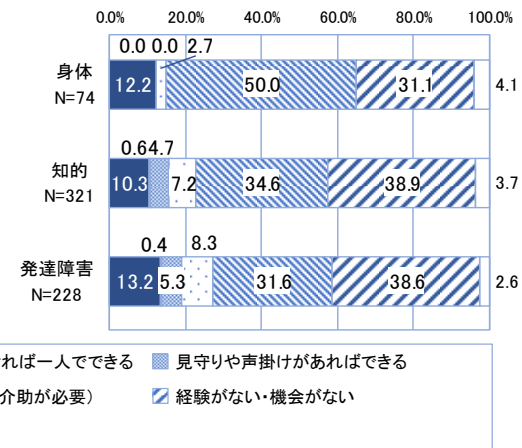
⑧洗濯をする



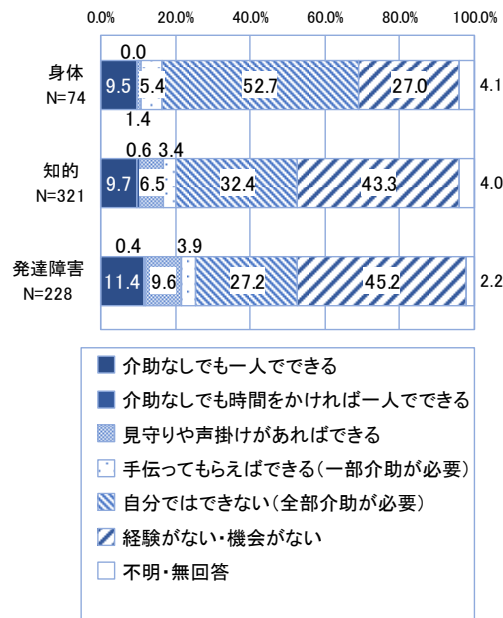
⑨買い物をする



⑩お金の管理をする



⑪薬の管理をする



3. 保健・医療について

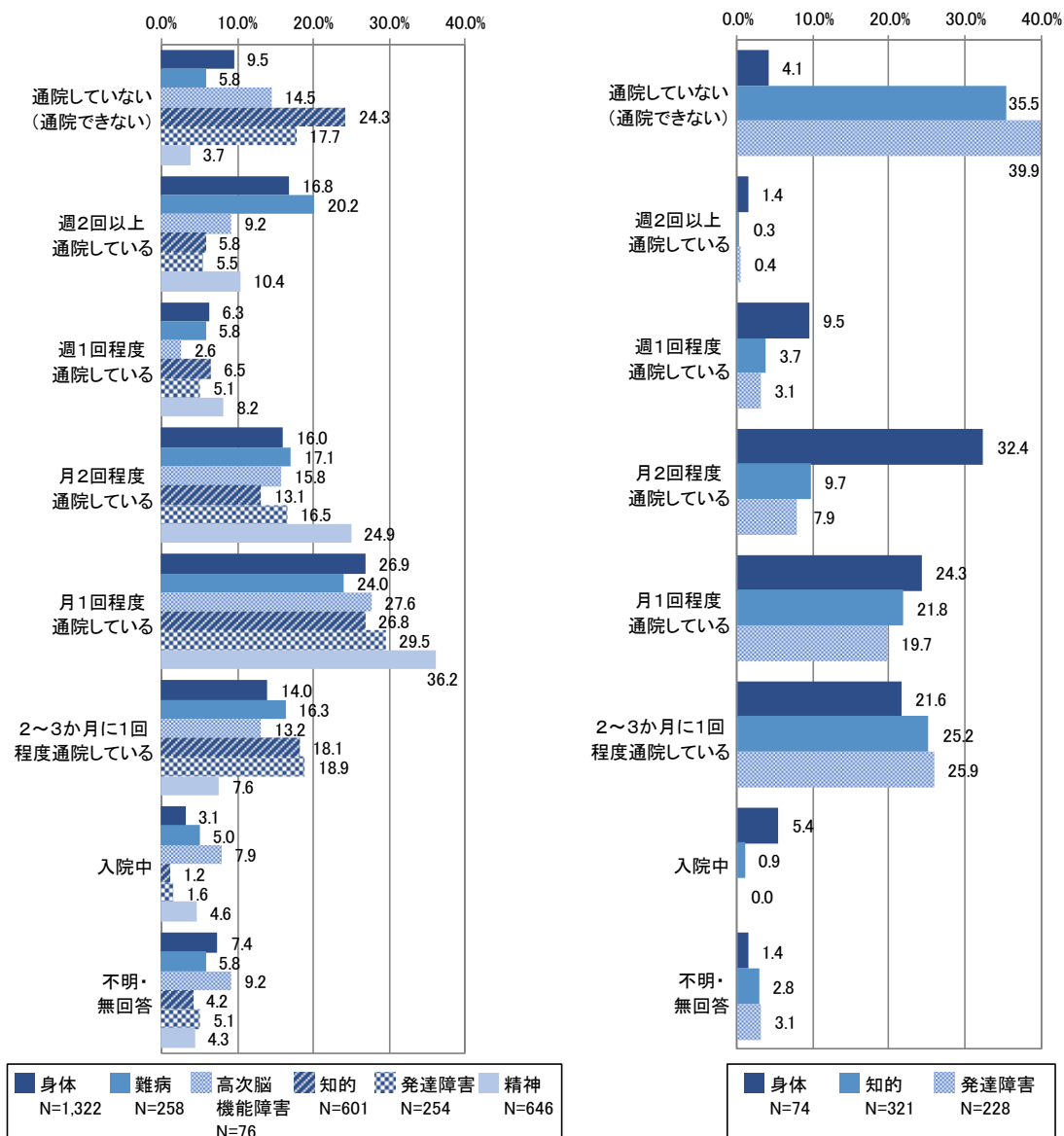
「あなた」は現在、通院していますか。それはどれくらいの回数ですか。(単数回答)

- 18歳以上のいずれの障害においても「月1回程度通院している」が最も多くなっている。
18歳未満の身体障害では「月2回程度通院している」が最も多く、知的障害、発達障害では「通院していない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「月1回程度通院している」が2割台半ば～3割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「月2回程度通院している」が3割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「通院していない」が3割台半ば～3割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】

【18歳未満】

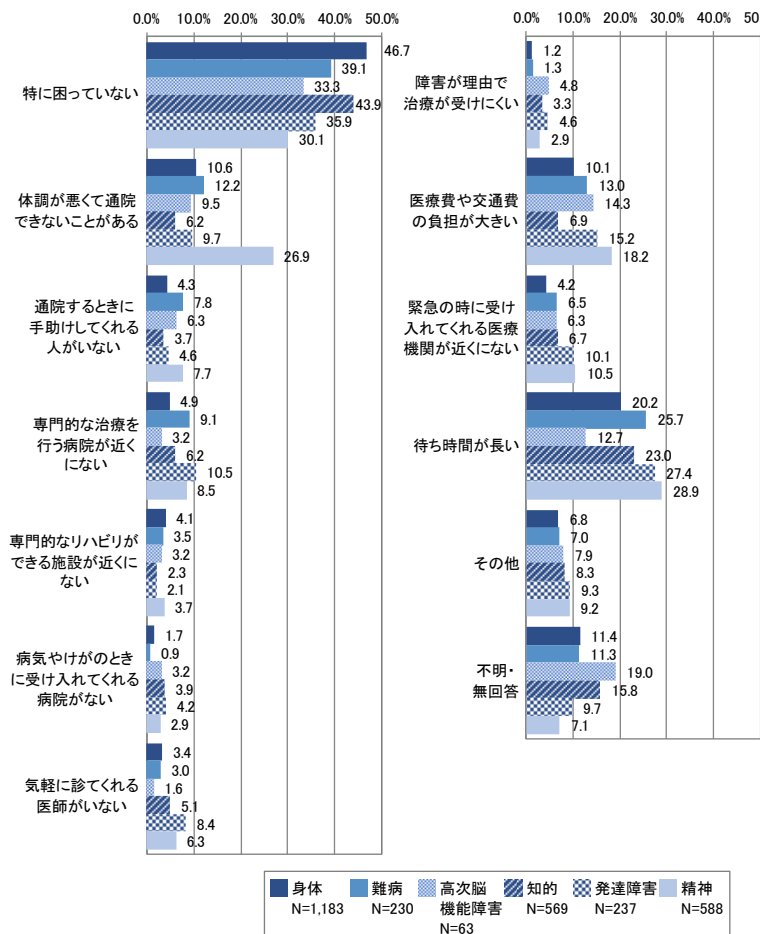


現在、通院している方におたずねします。「あなた」は通院していて困っていることはありますか。(複数回答)

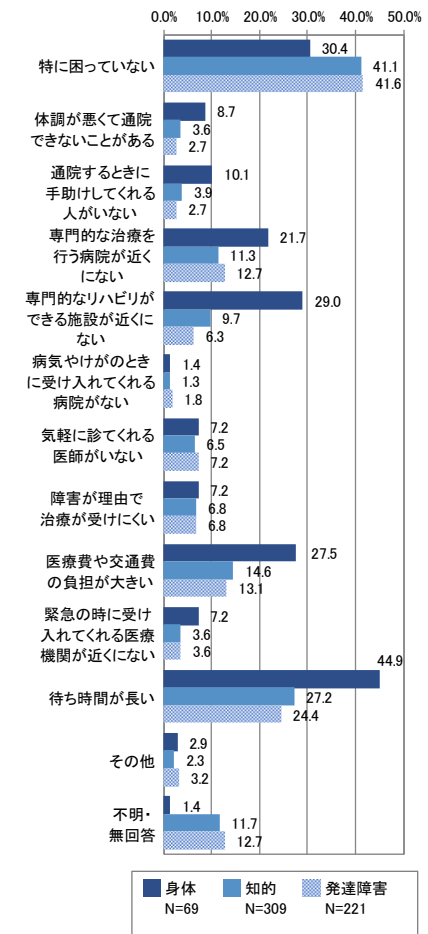
- 18歳以上のいずれの障害においても「特に困っていない」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害は「待ち時間が長い」が最も多く、知的障害、発達障害では「特に困っていない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「特に困っていない」が3割台前半～4割台後半で最も多くなっています。次いで、高次脳機能障害を除くいずれの障害においても「待ち時間が長い」が2割台前半～2割台後半、高次脳機能障害では「医療費や交通費の負担が大きい」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、身体障害では「待ち時間が長い」が4割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「特に困っていない」が4割台前半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

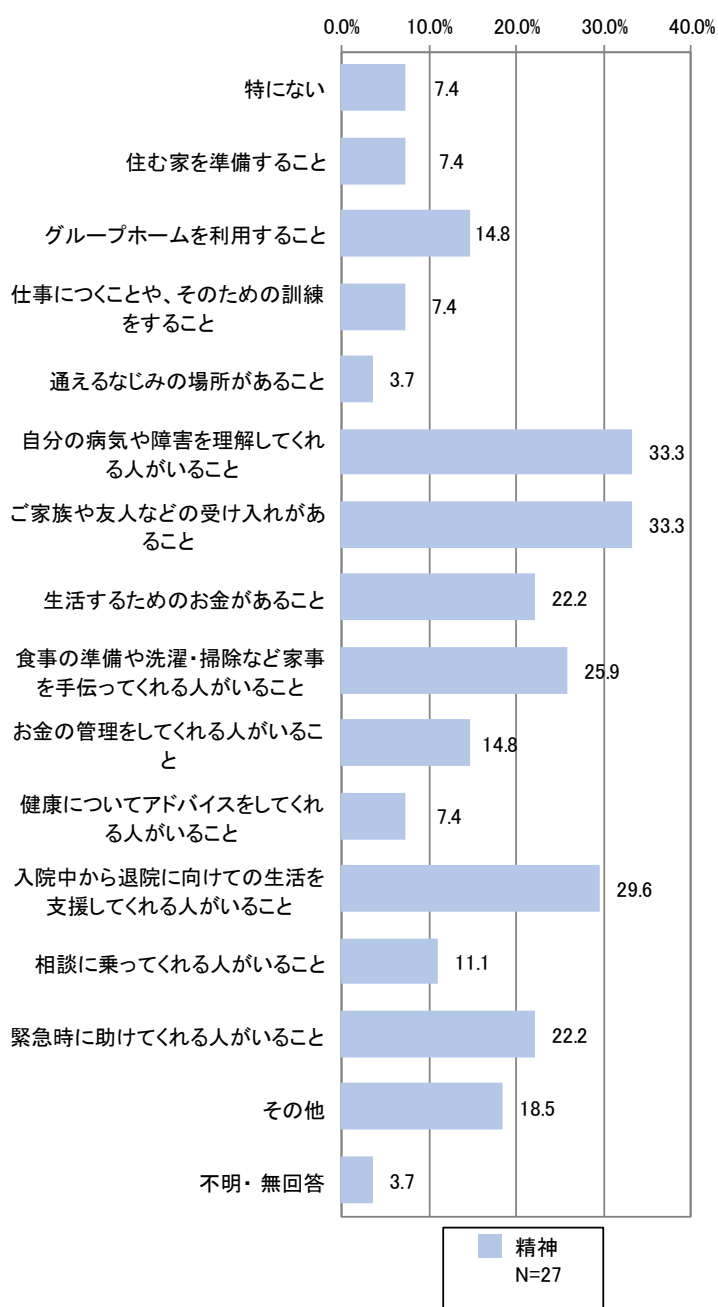


現在入院している方におたずねします。今後、「あなた」が退院して地域で暮らすためにどのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

●18 歳以上の精神障害では「自分の病気や障害を理解してくれる人がいること」と「ご家族や友人などの受け入れがあること」が同率で最も多くなっている。

18 歳以上をみると、精神障害では「自分の病気や障害を理解してくれる人がいること」と「ご家族や友人などの受け入れがあること」が同率の3割台前半で最も多くなっています。次いで、「入院中から退院に向けての生活を支援してくれる人がいること」が2割台後半となっています。

【18 歳以上】（精神障害者用調査）



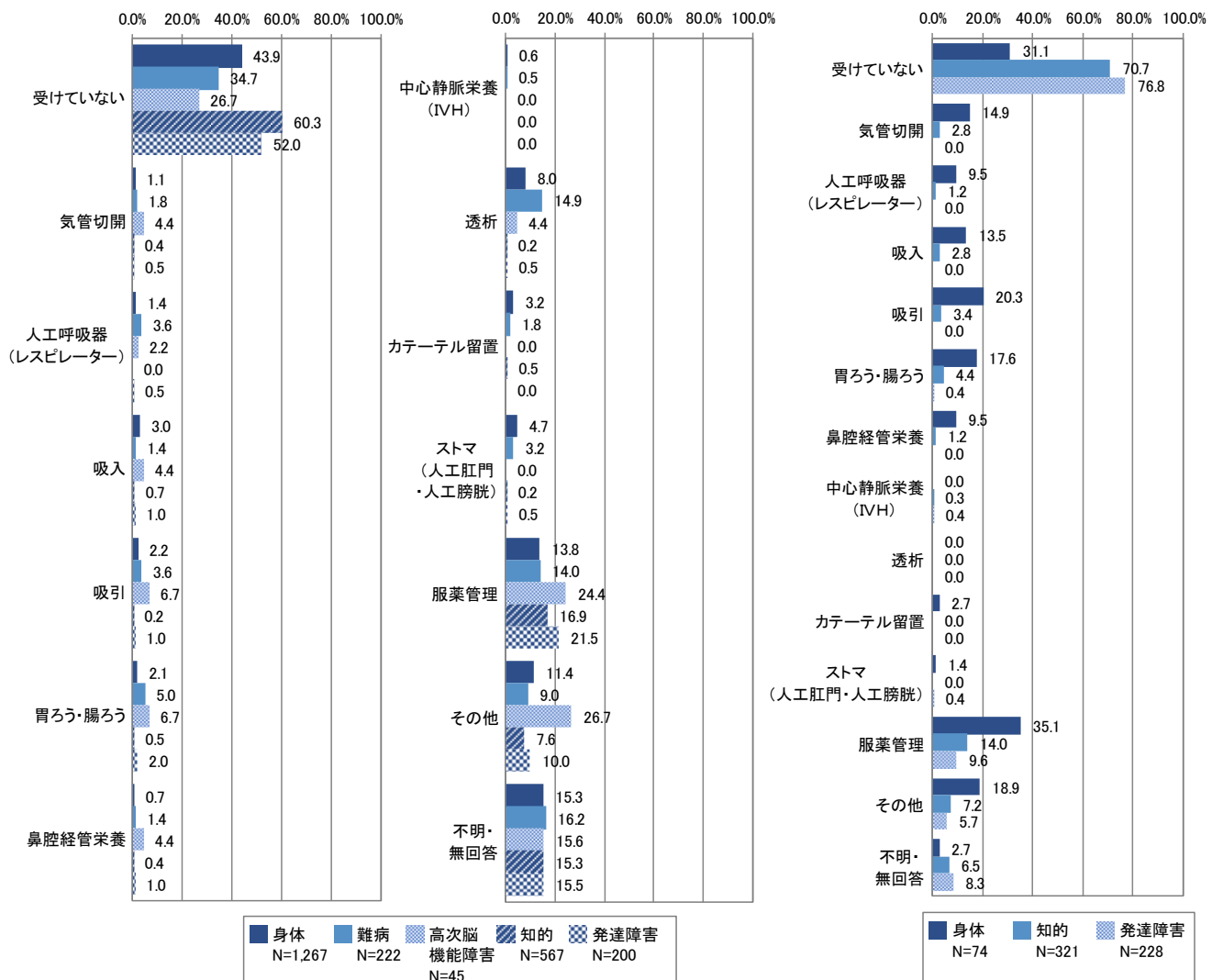
「あなた」が現在、受けている医療的ケアについて、お答えください。
(複数回答)

- 18歳以上の高次脳機能障害を除くいずれの障害においても「受けていない」が最も多く、高次脳機能障害では「受けていない」と「その他」が同率で最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「服薬管理」が最も多く、知的障害、発達障害では「受けていない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、高次脳機能障害を除くいずれの障害においても「受けていない」が3割台半ば～6割台前半で最も多く、高次脳機能障害では「受けていない」と「その他」が同率の2割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「服薬管理」が1割台半ば～2割台半ば、難病では「透析」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、身体障害では「服薬管理」が3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「受けていない」が7割台前半～7割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「受けていない」が3割台前半、知的障害、発達障害では「服薬管理」が1割未満～1割台半ばとなっています。

【18歳以上】(身体・知的・難病患者用調査)

【18歳未満】

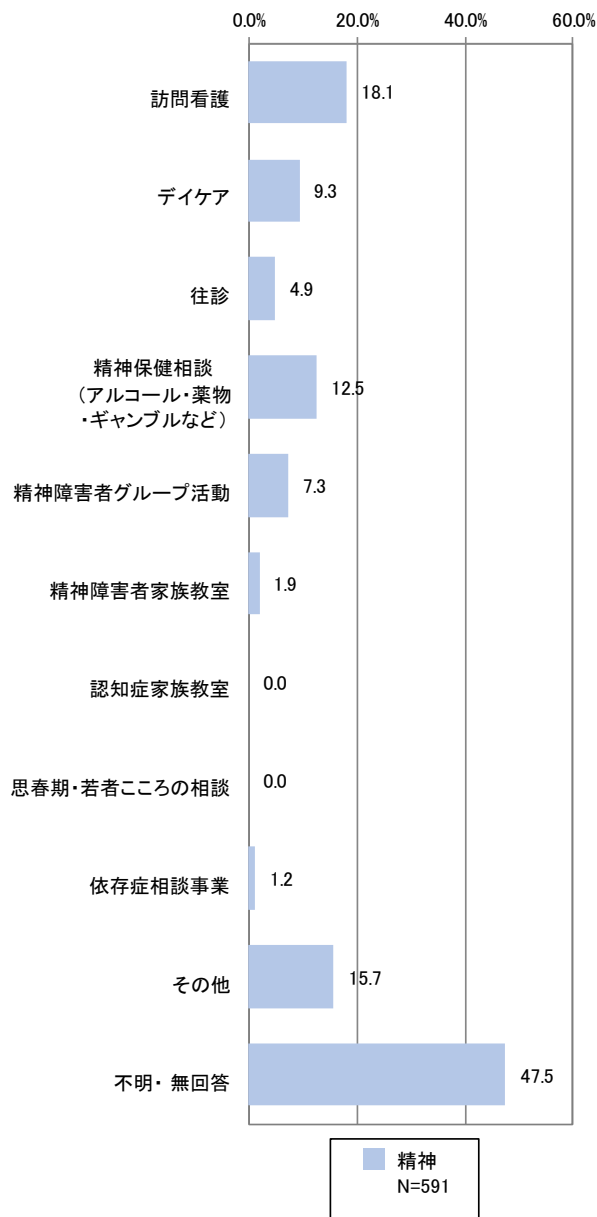


「あなた」が現在、受けている支援（医療的な支援を含む）について、お答えください。（複数回答）

●18歳以上の精神障害では「訪問看護」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、精神障害では「訪問看護」が1割台後半で最も多くなっています。次いで「その他」が1割台半ばとなっています。

【18歳以上】（精神障害者用調査）



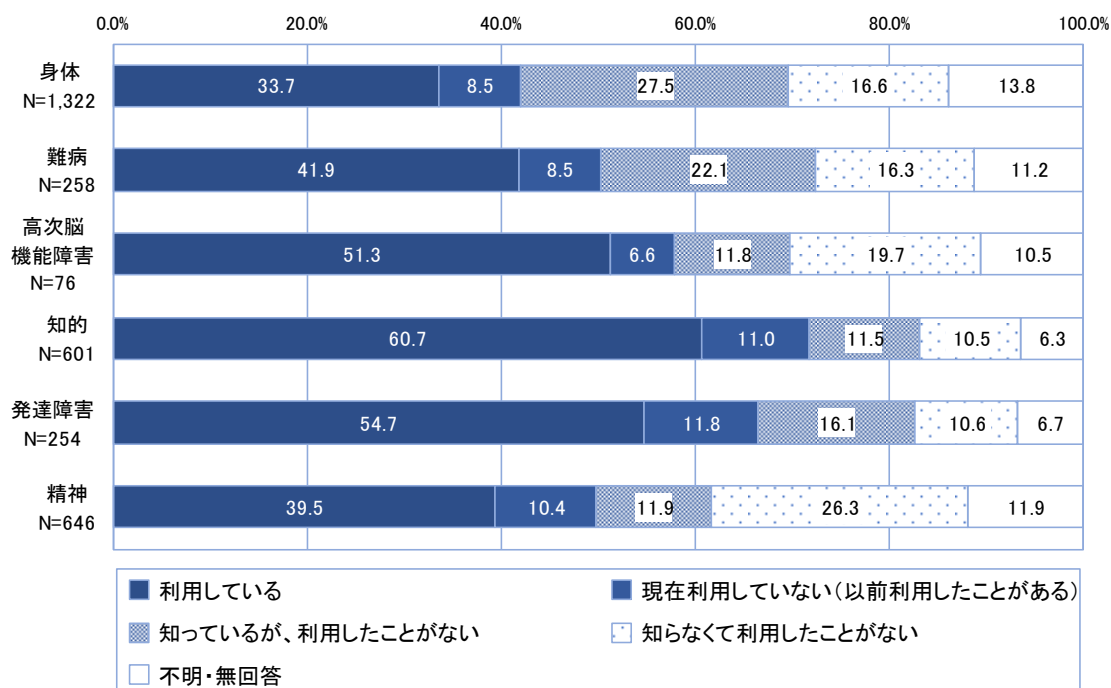
4. 福祉サービス、相談支援について

「あなた」は、障害福祉サービスを利用していますか。(単数回答)

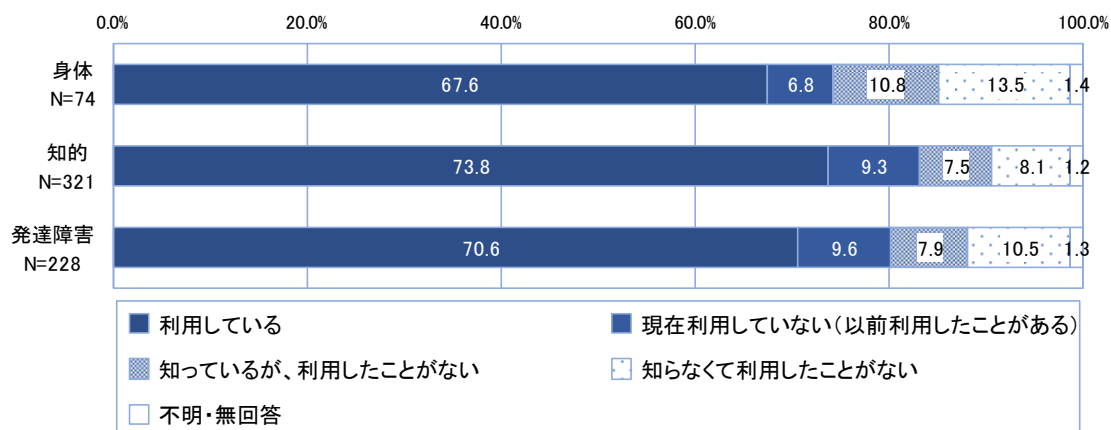
●18歳以上、18歳未満ともに「利用している」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「利用している」が3割台半ば～6割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「利用している」が6割台後半～7割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



現在、障害福祉サービスを利用していない方におたずねします。「あなた」が現在利用していない理由を記入ください。（自由記述）

●18歳以上、18歳未満ともに「利用する必要がないため」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害・知的障害・難病、精神障害では「利用する必要がないため」が223件、32件で最も多くなっています。18歳未満をみると、「利用する必要がないため」が11件で最も多くなっています。

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
サービスを受けるほど障害の状態が重くないため	9	0	0	9
そのようなサービスがあることを知らなかったため	0	0	1	1
利用する必要がないため	223	32	11	266
ご家族などの介助や支援で生活できるため	15	5	3	23
サービスの利用の仕方がわからないため	13	10	2	25
サービスを利用したくても利用料が負担になるため	9	3	1	13
サービスを利用したくても世間の目が気になるため	1	0	0	1
利用したいサービスがないため	12	2	2	16
その他・意見・要望など	62	31	10	103
合計	344	83	30	457

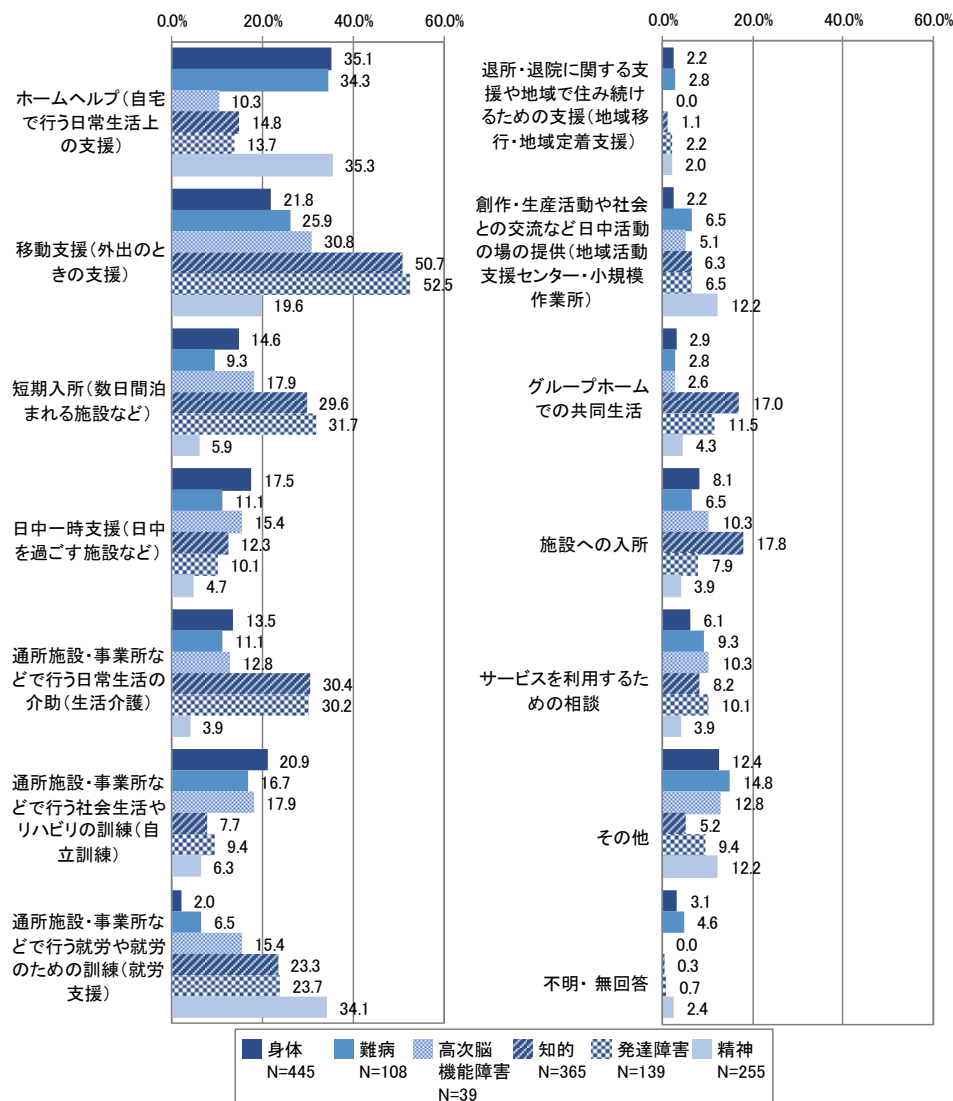
※高次脳機能障害及び発達障害は、18歳以上の「身体障害・知的障害・難病」及び「精神障害」に含まれています。

障害福祉サービスを利用している方におたずねします。「あなた」が現在利用しているサービスは、次のどれですか。（複数回答）

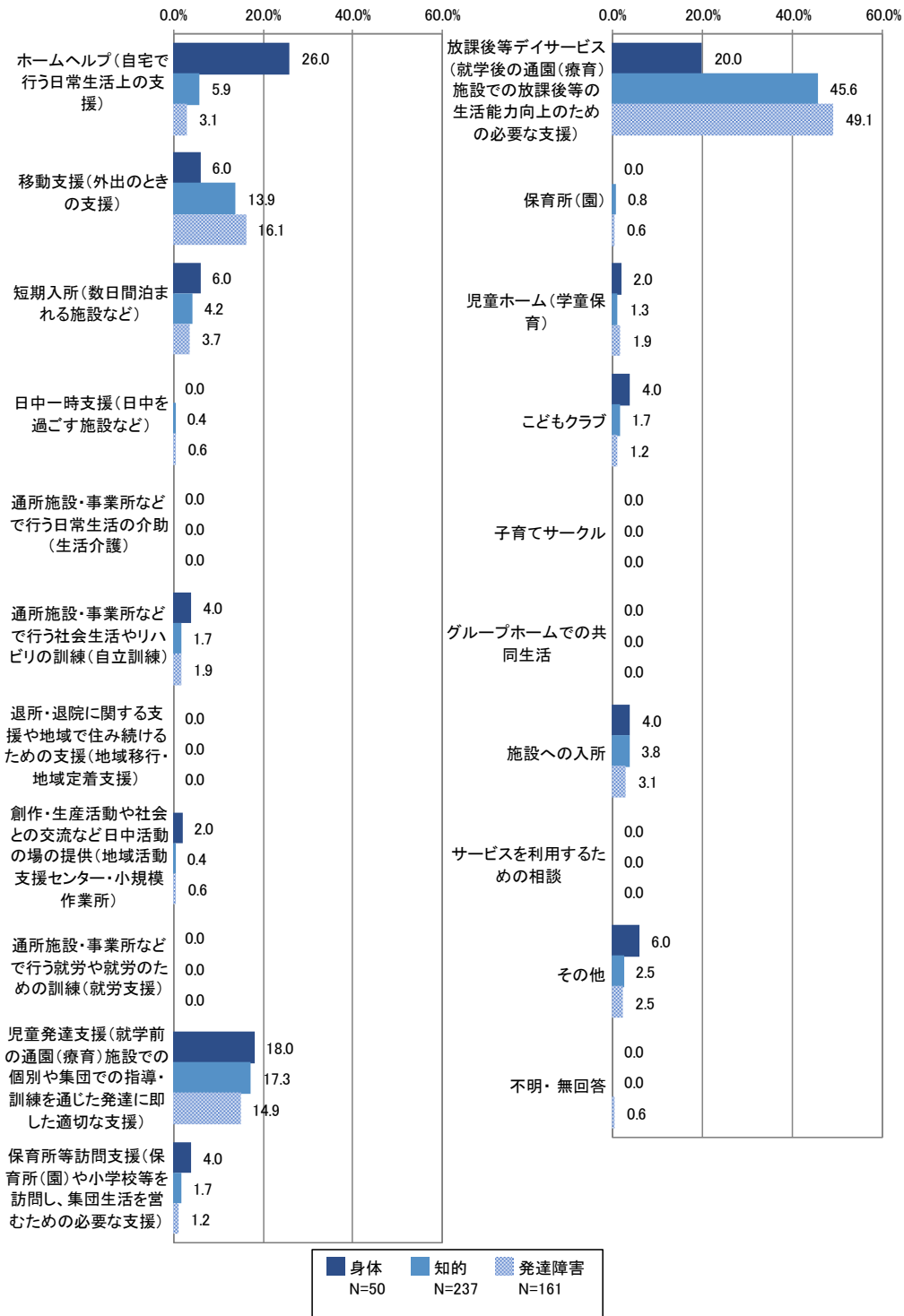
- 18歳以上の身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ」が最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「移動支援」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「ホームヘルプ」が最も多く、知的障害、発達障害では「放課後等デイサービス」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が3割台半ばで最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「移動支援（外出のときの支援）」が3割台前半～5割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「放課後等デイサービス（就学後の通園（療育）施設での放課後等の生活能力向上のための必要な支援）」が4割台半ば～4割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

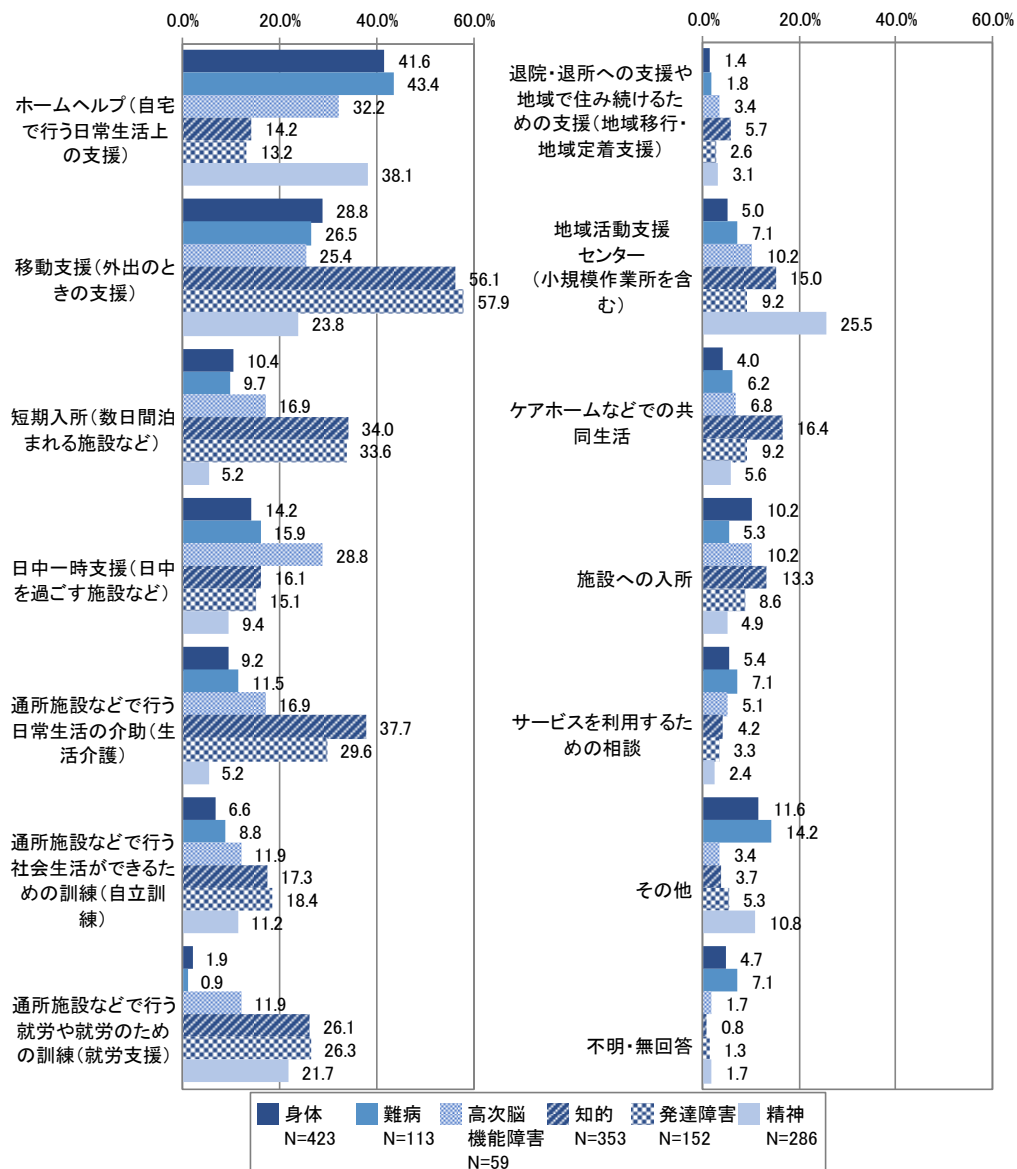


◇平成 26 年調査結果

前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が3割前半～4割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「移動支援（外出のときの支援）」が5割台半ば～5割台後半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の身体障害では「通所施設などで行う社会生活ができるための訓練（自立訓練）」が 14.3 ポイント増加し、高次脳機能障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が 21.9 ポイント減少しています。

【18 歳以上】

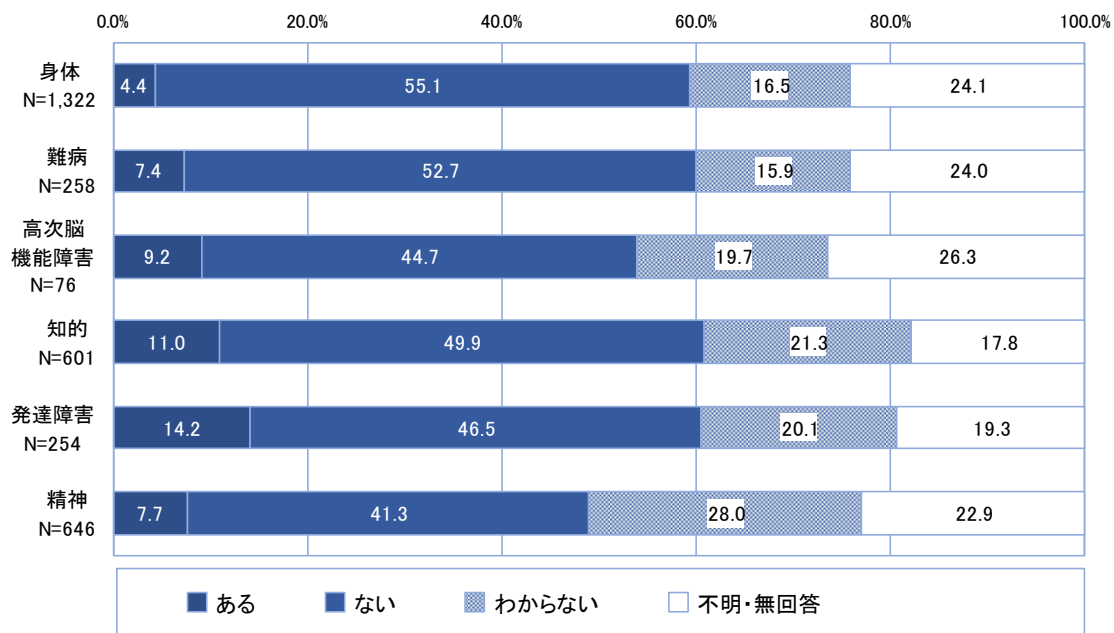


「あなた」は、障害福祉サービスを利用したいのに、利用できない状況がありますか。
 (単数回答)

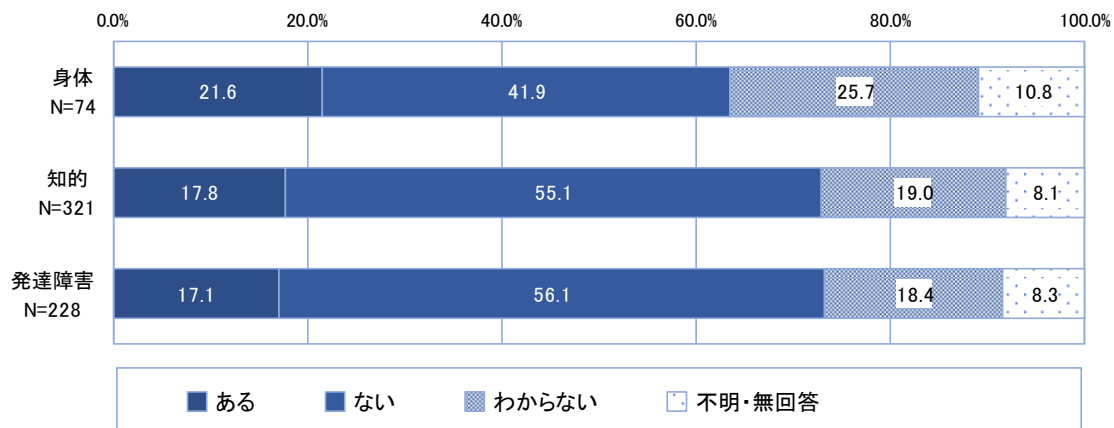
●18歳以上、18歳未満ともに「ない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ない」が4割台前半～5割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ない」が4割台前半～5割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



サービスを利用できない状況があると回答した方におたずねします。その理由を記入ください。（自由記述）

- 18歳以上の身体障害・知的障害・難病では「利用できるサービスが制限されているため」が最も多く、精神障害では「サービスを利用するのが不安なため」が最も多くなっている。18歳未満では「施設等の利用人数が限られているため」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害・知的障害・難病では「利用できるサービスが制限されているため」が19件で最も多く、精神障害では「サービスを利用するのが不安なため」が6件で最も多くなっています。18歳未満をみると、「施設等の利用人数が限られているため」が18件で最も多くなっています。

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
利用できるサービスが制限されているため	19	5	14	38
施設等の利用人数が限られているため	4	0	18	22
ご家族同居のため	4	0	0	4
お金がかかるため	8	2	1	11
施設の人員不足のため	17	1	1	19
人間関係に問題があったため	2	5	0	7
家から離れているため	0	1	1	2
サービスを利用するのが不安なため	0	6	2	8
その他・意見・要望など	31	12	17	60
合計	85	32	54	171

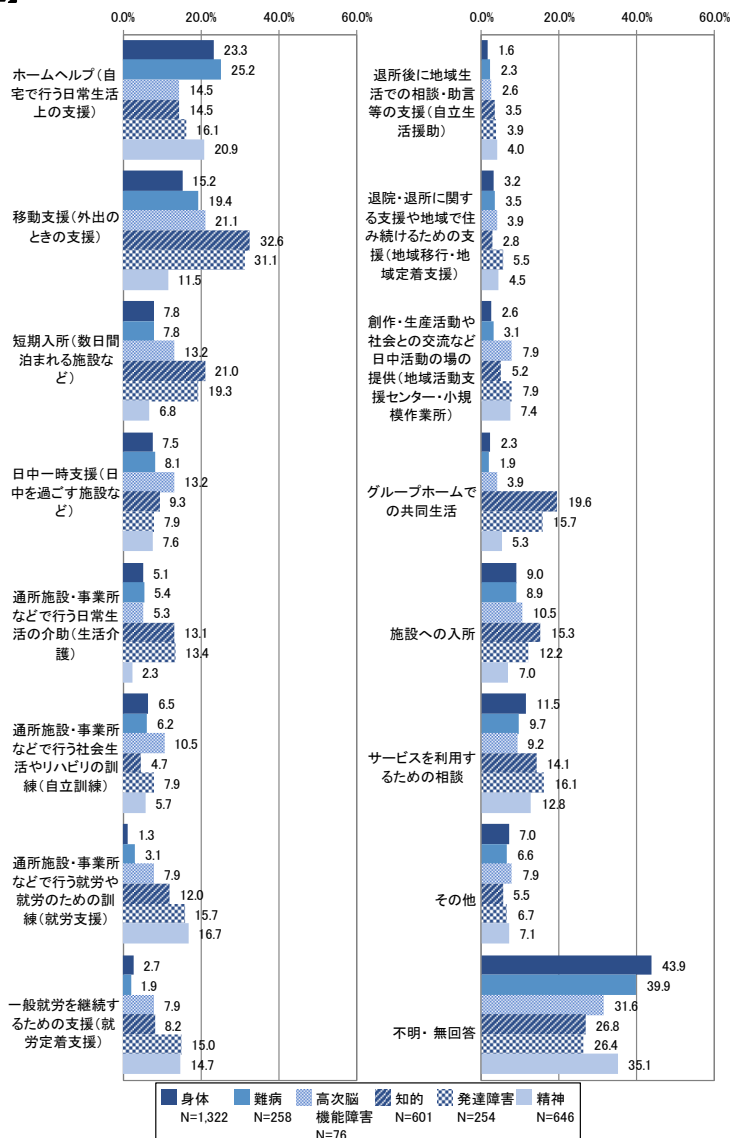
※高次脳機能障害及び発達障害は、18歳以上の「身体障害・知的障害・難病」及び「精神障害」に含まれています。

「あなた」が今後も利用したい、あるいは、今後は利用したいサービスは、次のどれですか。（複数回答）

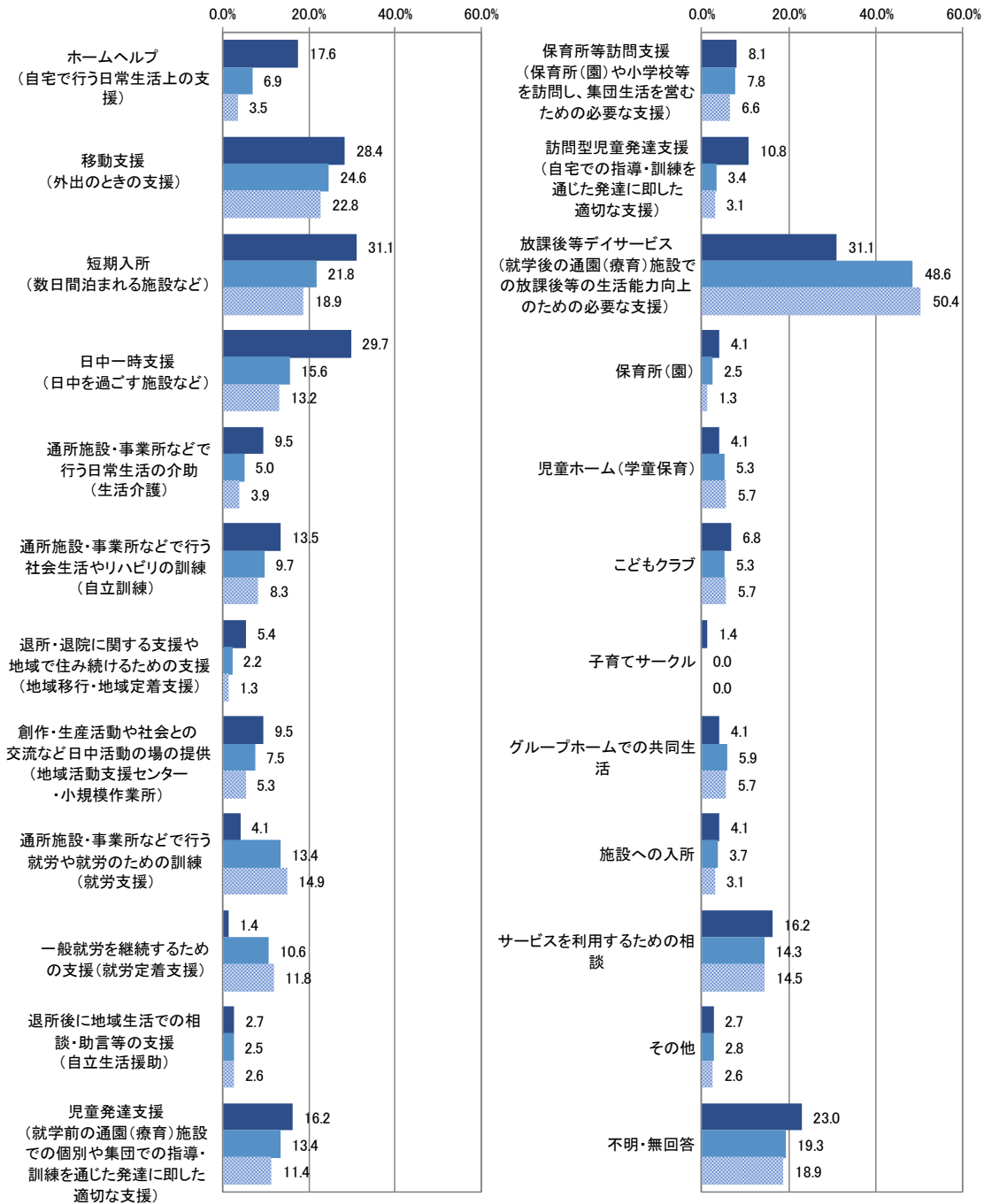
●18歳以上の身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ」が最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「移動支援」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「短期入所」と「放課後等デイサービス」が同率で最も多く、知的障害、発達障害では「放課後等デイサービス」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ（自宅で行う日常生活上の支援）」が2割台前半～2割台半ばで最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「移動支援（外出のときの支援）」が2割台前半～3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「短期入所（数日間泊まれる施設など）」と「放課後等デイサービス（就学後の通園（療育）施設での放課後等の生活能力向上のための必要な支援）」が同率の3割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「放課後等デイサービス（就学後の通園（療育）施設での放課後等の生活能力向上のための必要な支援）」が4割台後半～5割台前半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



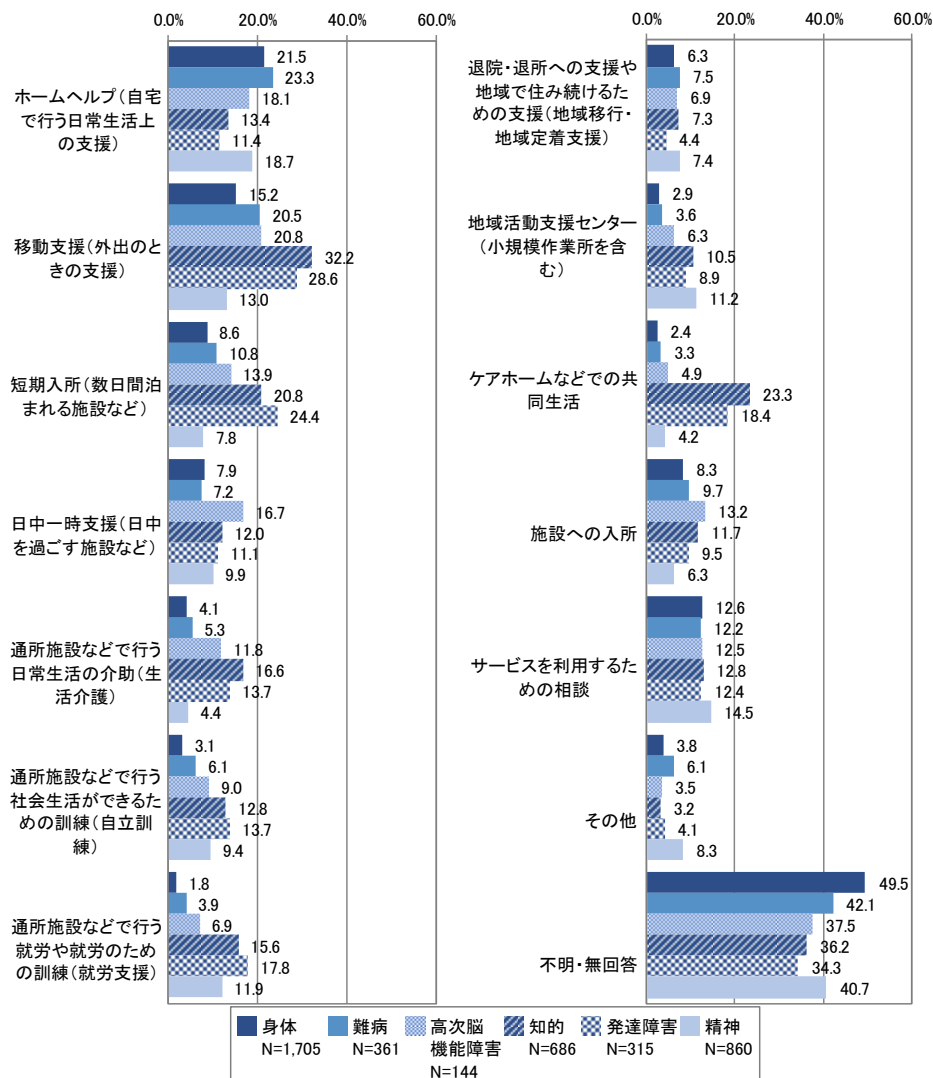
■ 身体 N=74
 ■ 知的 N=321
 ■ 発達障害 N=228

◇平成 26 年調査結果

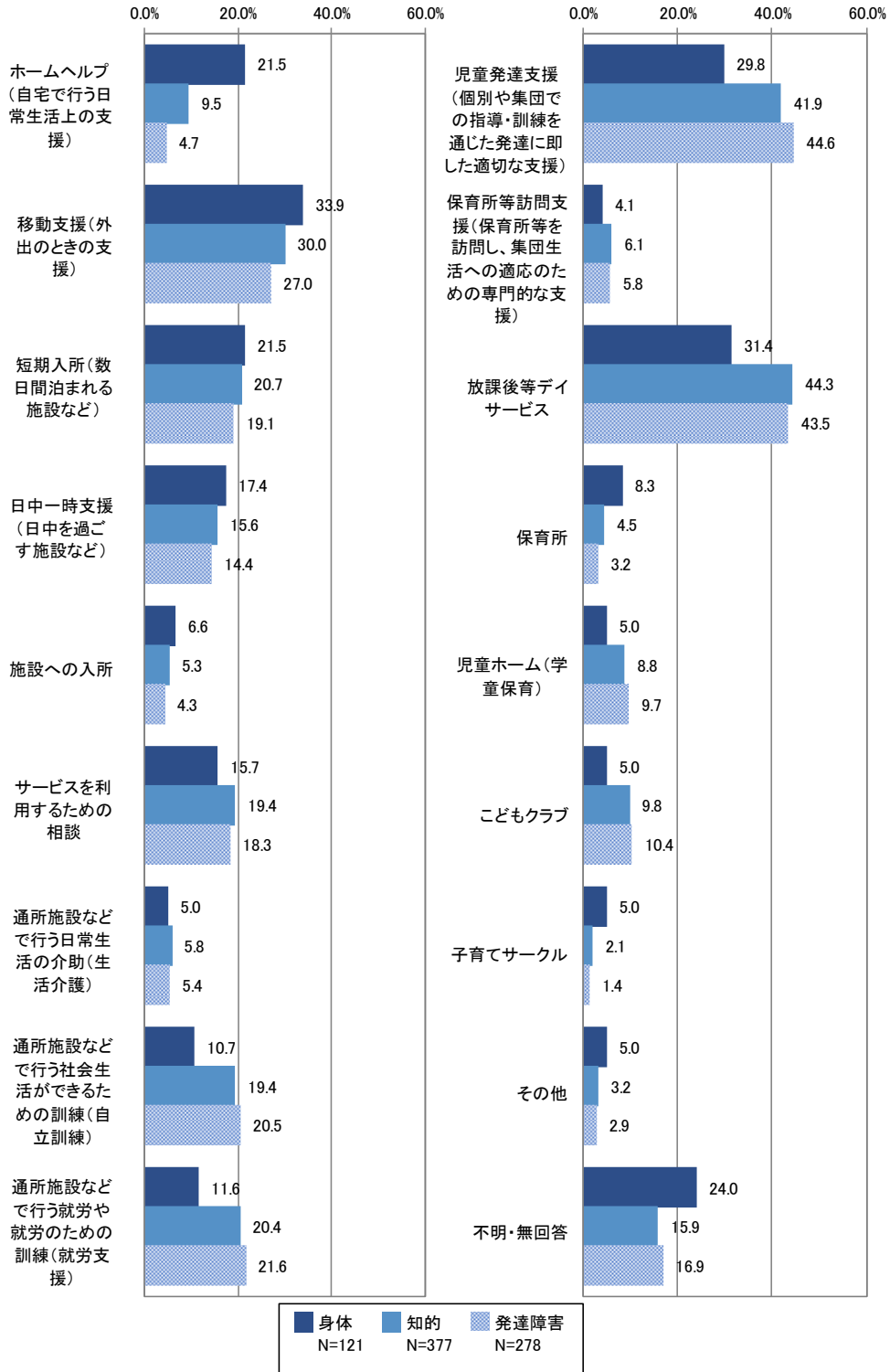
前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「ホームヘルプ（自宅で
行う日常生活上の支援）」が1 割後半～2割前半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発
達障害では「移動支援（外出のときの支援）」が2割前半～3割前半で最も多くなっています。
18 歳未満をみると、身体障害では「移動支援（外出のときの支援）」が3割半ばで最も多く、知
的障害では「放課後等デイサービス」が4割半ばで最も多く、発達障害では「児童発達支援（個
別や集団での指導・訓練を通じた発達に即した適切な支援）」が4割半ばで最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の精神障害では「通所施設などで行う就労や就労の
ための訓練（就労支援）」が 4.8 ポイント増加し、知的障害では「通所施設などで行う社会生活が
できるための訓練（自立訓練）」が 8.1 ポイント減少、18 歳未満の身体障害では「日中一時支援（日
中を過ごす施設など）」が 12.3 ポイント増加し、発達障害の「児童発達支援（個別や集団での指導・
訓練を通じた発達に即した適切な支援）」が 33.2 ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18歳未満】

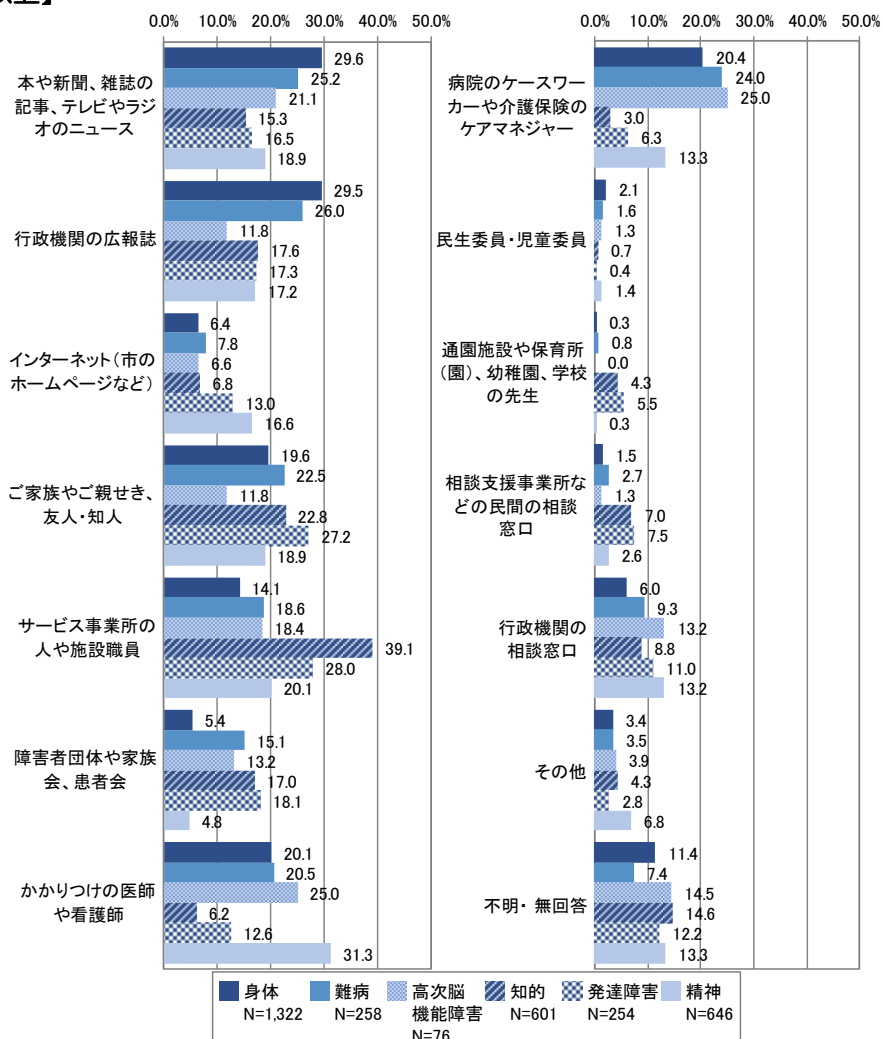


「あなた」は将来のことや福祉サービス等に関する情報を、どこから知ることが多いですか。（複数回答）

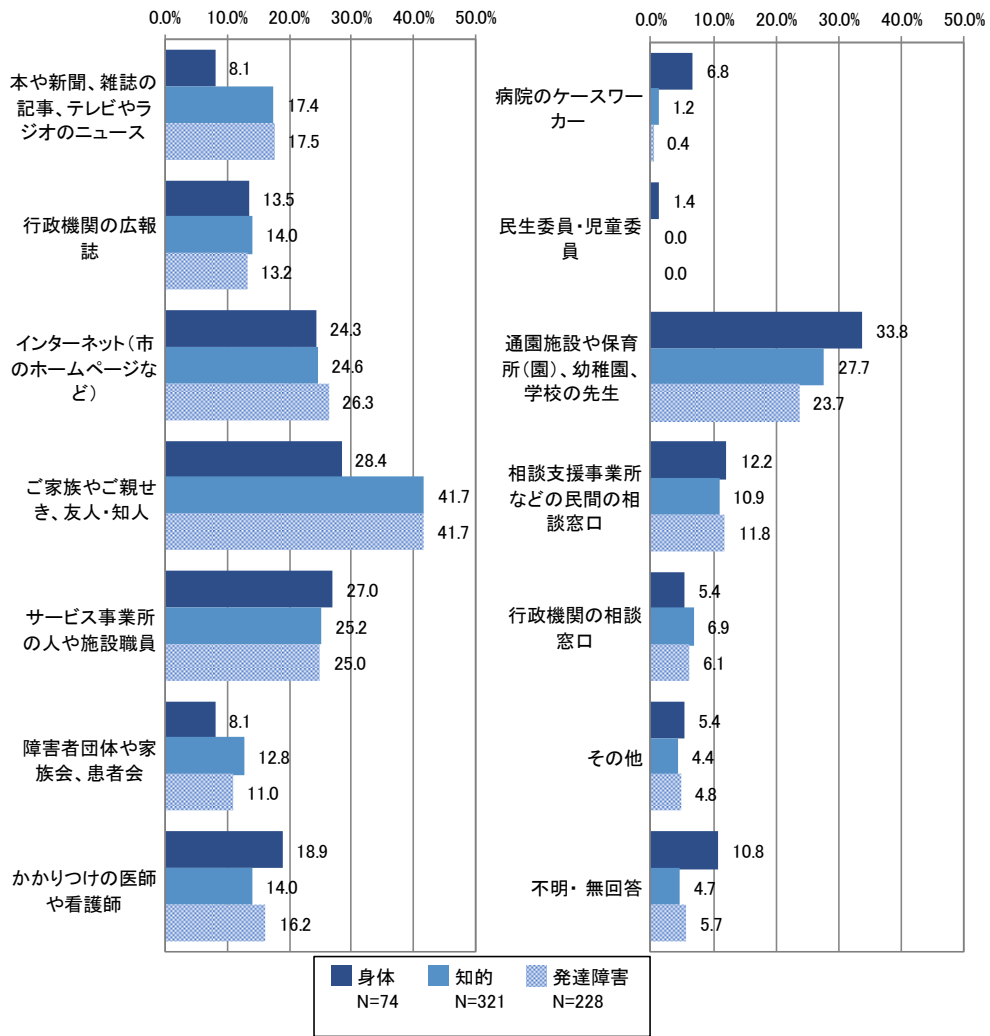
●18歳以上の身体障害では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が最も多く、難病では「行政機関の広報誌」が最も多く、高次脳機能障害では「かかりつけの医師や看護師」と「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が同率で最も多く、知的障害、発達障害では「サービス事業所の人や施設職員」が最も多く、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害は「通園施設や保育所（園）、幼稚園、学校の先生」が最も多く、知的障害、発達障害は「ご家族やご親せき、友人・知人」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が2割台後半で最も多く、難病では「行政機関の広報誌」が2割台半ばで最も多く、高次脳機能障害では「かかりつけの医師や看護師」と「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネジャー」が同率の2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「サービス事業所の人や施設職員」が2割台後半～3割台後半で最も多く、精神障害では「かかりつけの医師や看護師」が3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害は「通園施設や保育所（園）、幼稚園、学校の先生」が3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害は「ご家族やご親せき、友人・知人」が4割台前半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

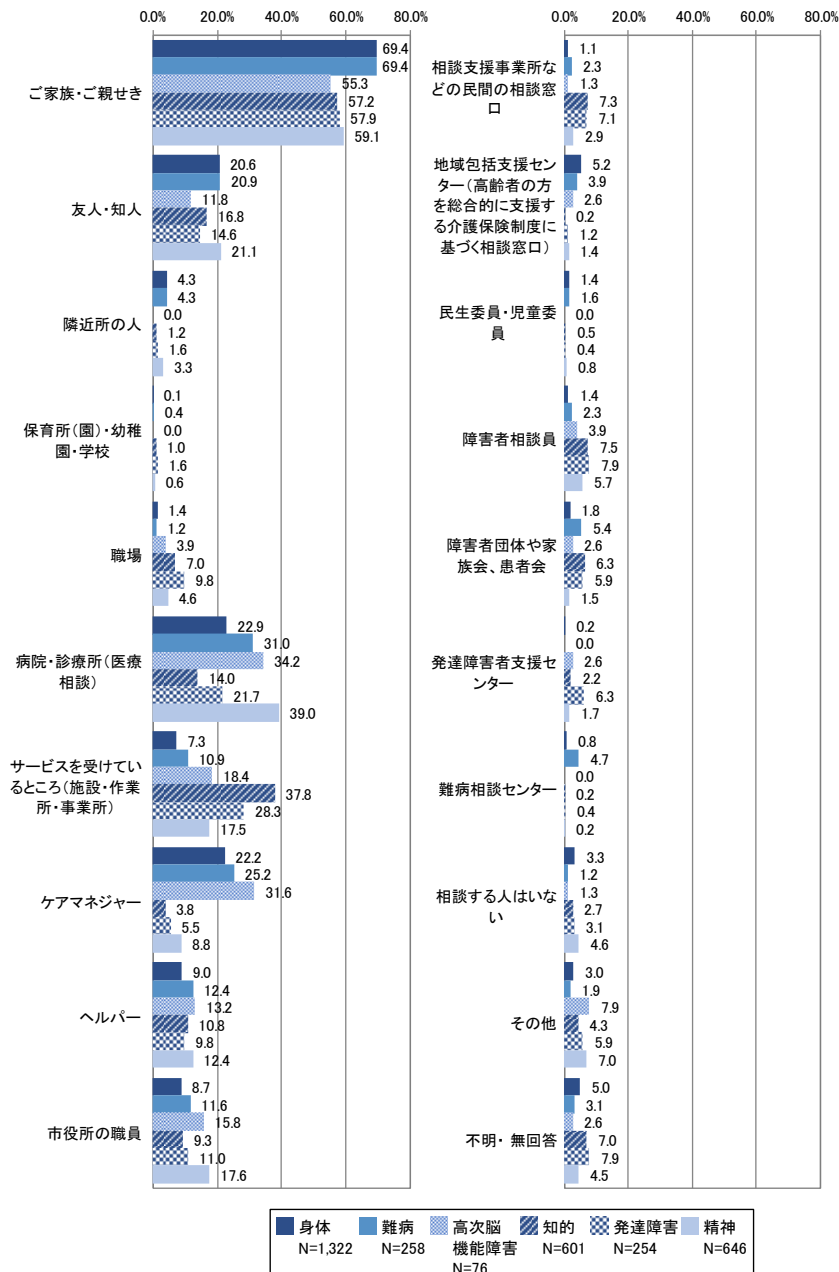


「あなた」が悩みや困ったことを相談するのはどなたですか。(複数回答)

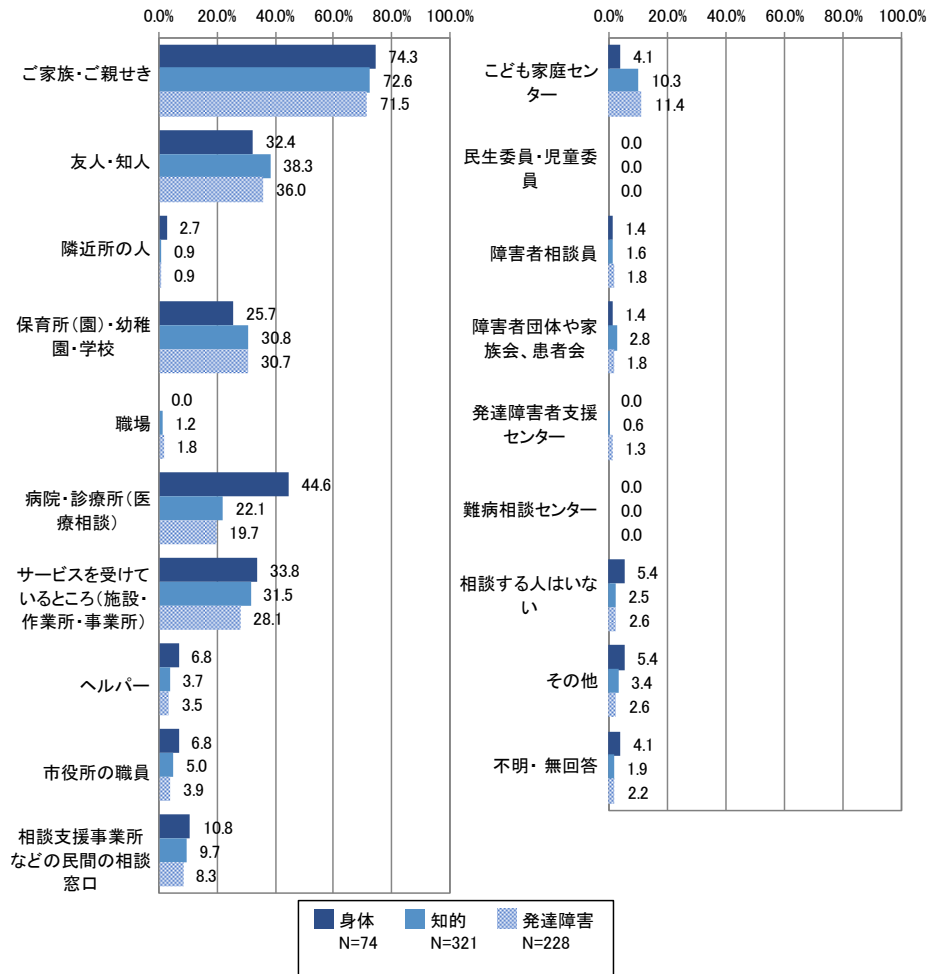
●18歳以上、18歳未満ともに「ご家族・ご親せき」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族・ご親せき」が5割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「病院・診療所（医療相談）」が2割台前半～3割台後半、知的障害、発達障害では「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が2割台後半～3割台後半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族・ご親せき」が7割台前半～7割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害では「病院・診療所（医療相談）」が4割台半ば、知的障害、発達障害では「友人・知人」が3割台半ば～3割台後半となっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

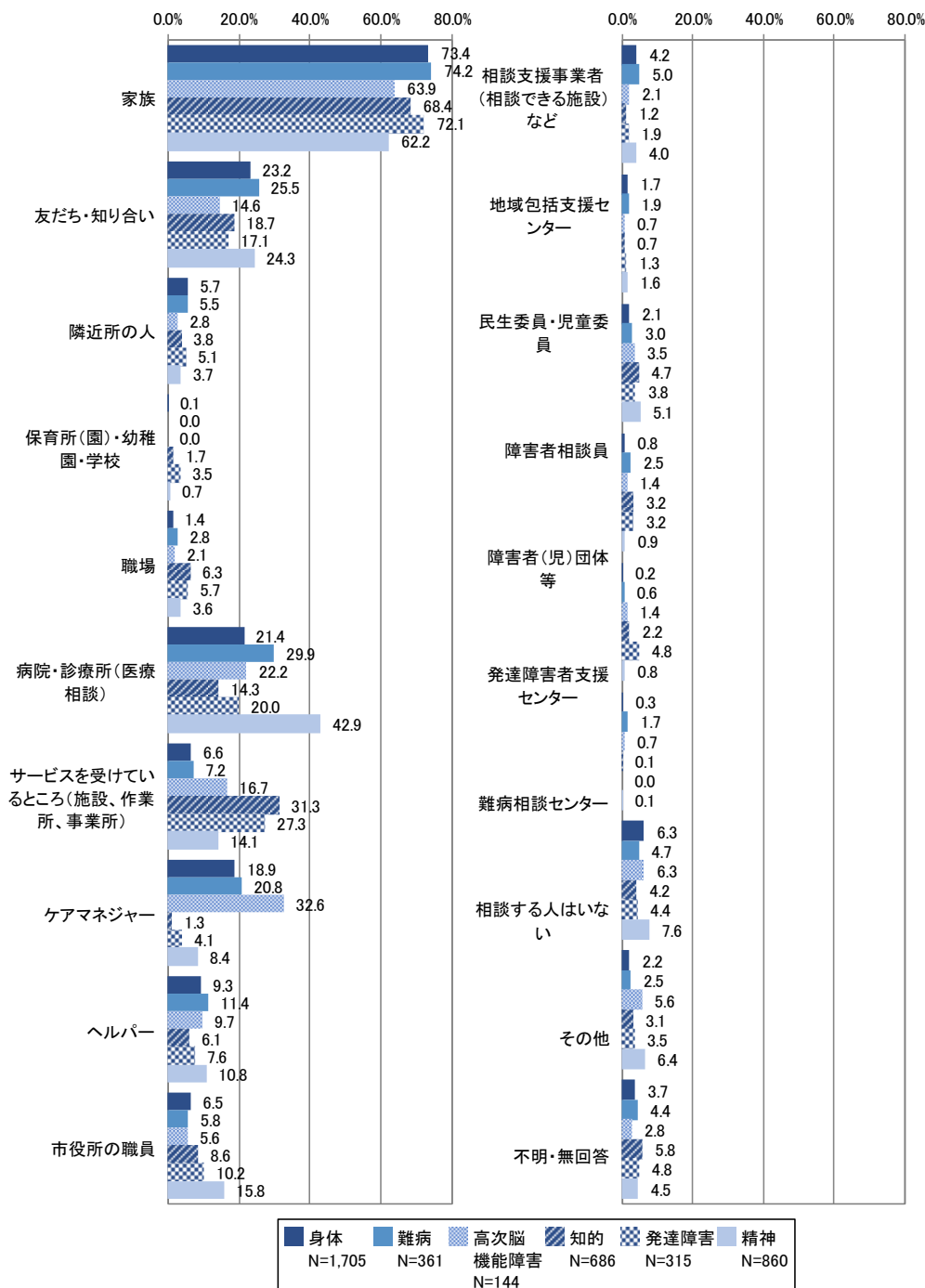


◇平成 26 年調査結果

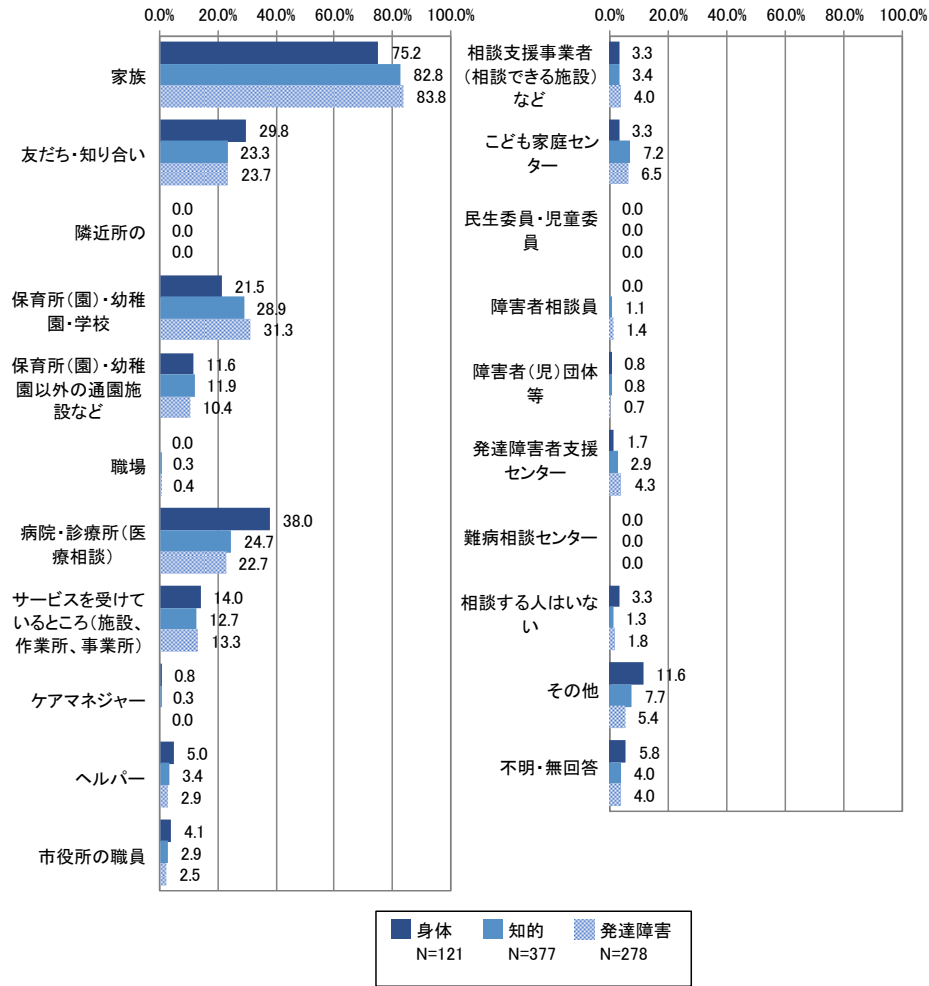
前回調査では、18 歳以上をみると、いずれの障害においても「家族」が6割前半～7割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「家族」が7割台半ば～8割台半ばで最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の高次脳機能障害では「病院・診療所（医療相談）」が 12.0 ポイント増加し、発達障害では「ご家族・ご親せき」が 14.2 ポイント減少、18 歳未満の身体障害では「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が 19.8 ポイント増加し、発達障害では「ご家族・ご親せき」が 12.3 ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18歳未満】

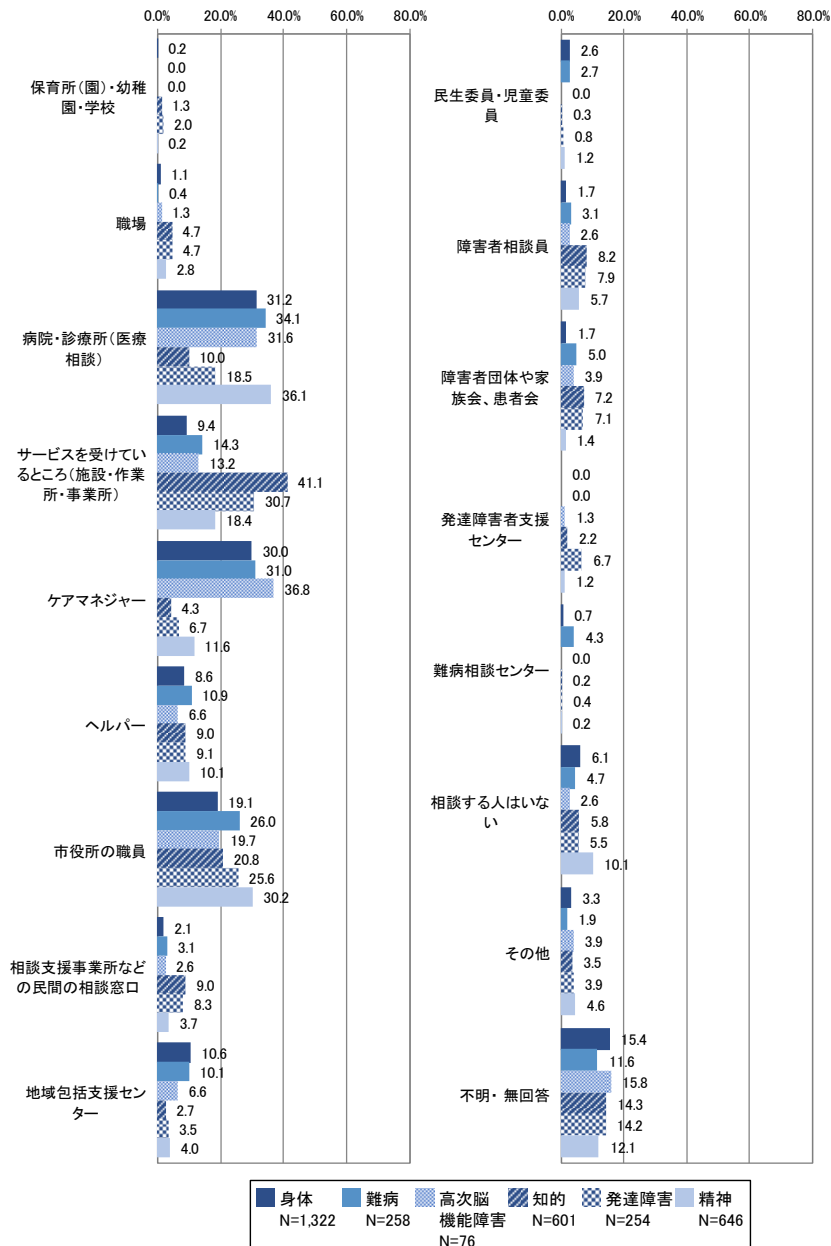


「あなた」が福祉サービスを利用する場合や日常生活において支援を受ける場合の相談先はどこですか。（複数回答）

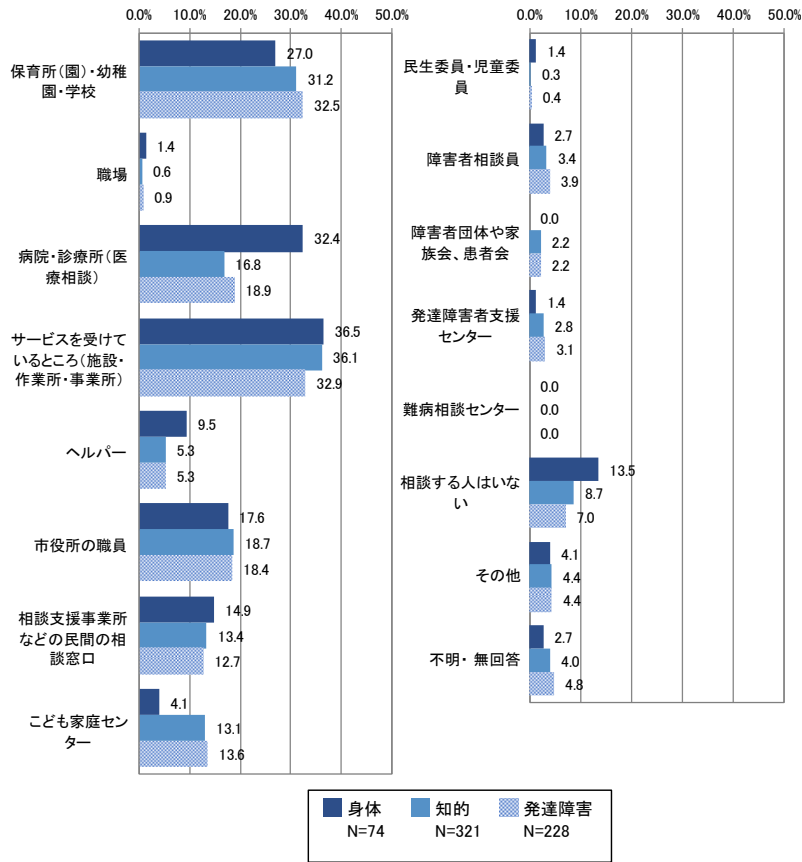
●18歳以上の身体障害、難病、精神障害では「病院・診療所（医療相談）」が最も多く、高次脳機能障害では「ケアマネジャー」が最も多く、知的障害、発達障害では「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が最も多くなっている。18歳未満のいずれの障害においても「サービスを受けているところ」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、難病、精神障害では「病院・診療所（医療相談）」が3割台前半～3割台半ばで最も多く、高次脳機能障害では「ケアマネジャー」が3割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が3割台前半～4割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「サービスを受けているところ（施設・作業所・事業所）」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



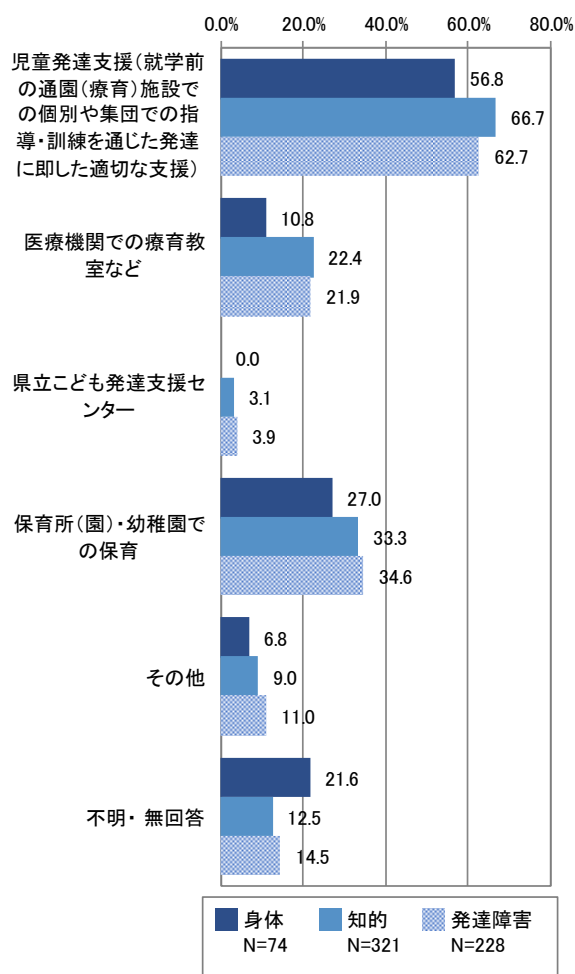
5. 療育・教育について

現在、どのような療育・保育を受けていますか、または過去に受けたことがありますか。(複数回答)

●18歳未満のいずれの障害においても「児童発達支援」が最も多くなっている。

18歳未満をみると、いずれの障害においても「児童発達支援」が5割台後半～6割台後半で最も多くなっています。次いで、「保育所(園)・幼稚園での保育」が2割台後半～3割台半ばとなっています。

【18歳未満】

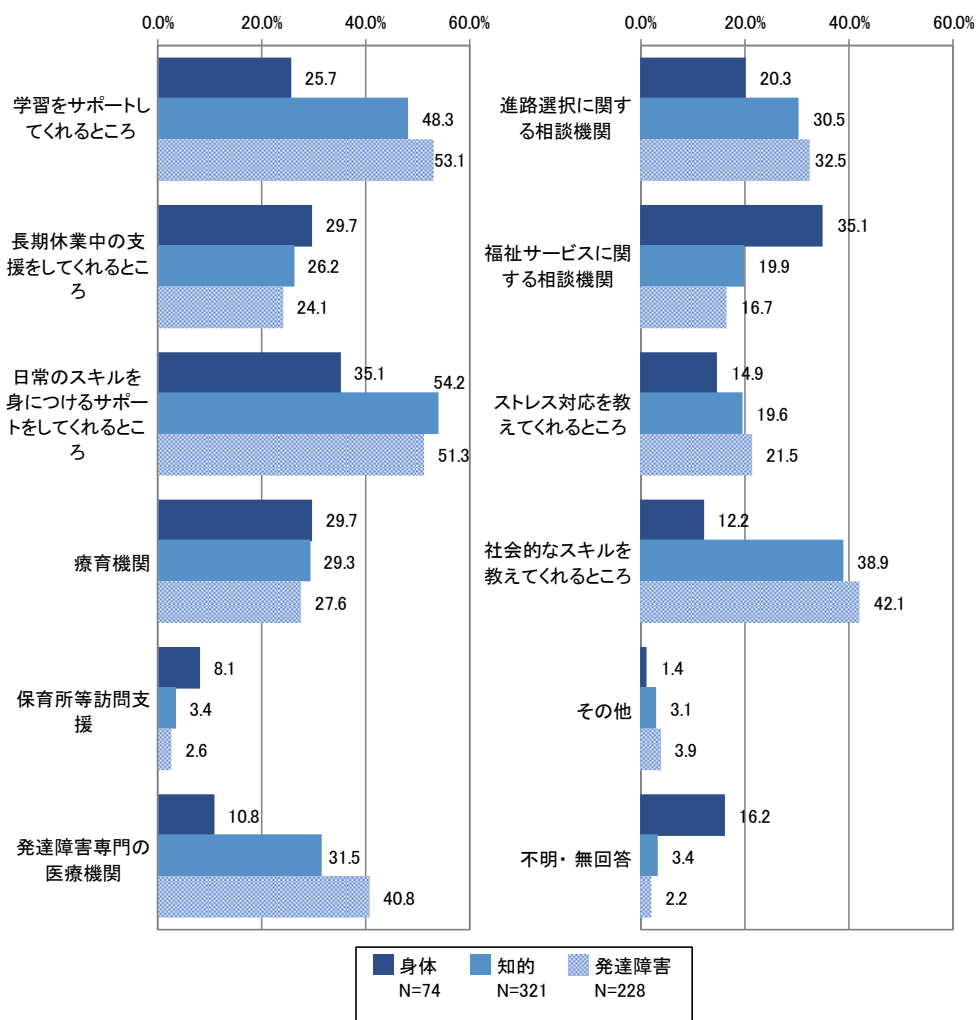


「あなた」や、ご家族が求める療育・保育に関する支援は何ですか。（複数回答）

- 18 歳未満の身体障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」と「福祉サービスに関する相談機関」が同率で最も多く、知的障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」が最も多く、発達障害では「学習をサポートしてくれるところ」が最も多くなっている。

18 歳未満をみると、身体障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」と「福祉サービスに関する相談機関」が同率の3割台半ばで最も多く、知的障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」が5割台半ばで最も多く、発達障害では「学習をサポートしてくれるところ」が5割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「長期休業中の支援をしてくれるところ」と「療育機関」が同率の2割台後半、知的障害では「学習をサポートしてくれるところ」が4割台後半、発達障害では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」が5割台前半となっています。

【18 歳未満】



◇クロス集計：年齢別×療育や保育に関する支援

●学習のサポートや日常のスキル習得については、特に7～12歳で多くなっている。

18歳未満をみると、いずれの障害においても『10～12歳』では「学習をサポートしてくれるところ」が最も多く、『7～9歳』では「日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ」が最も多くなっています。

【18歳未満】

単位：%

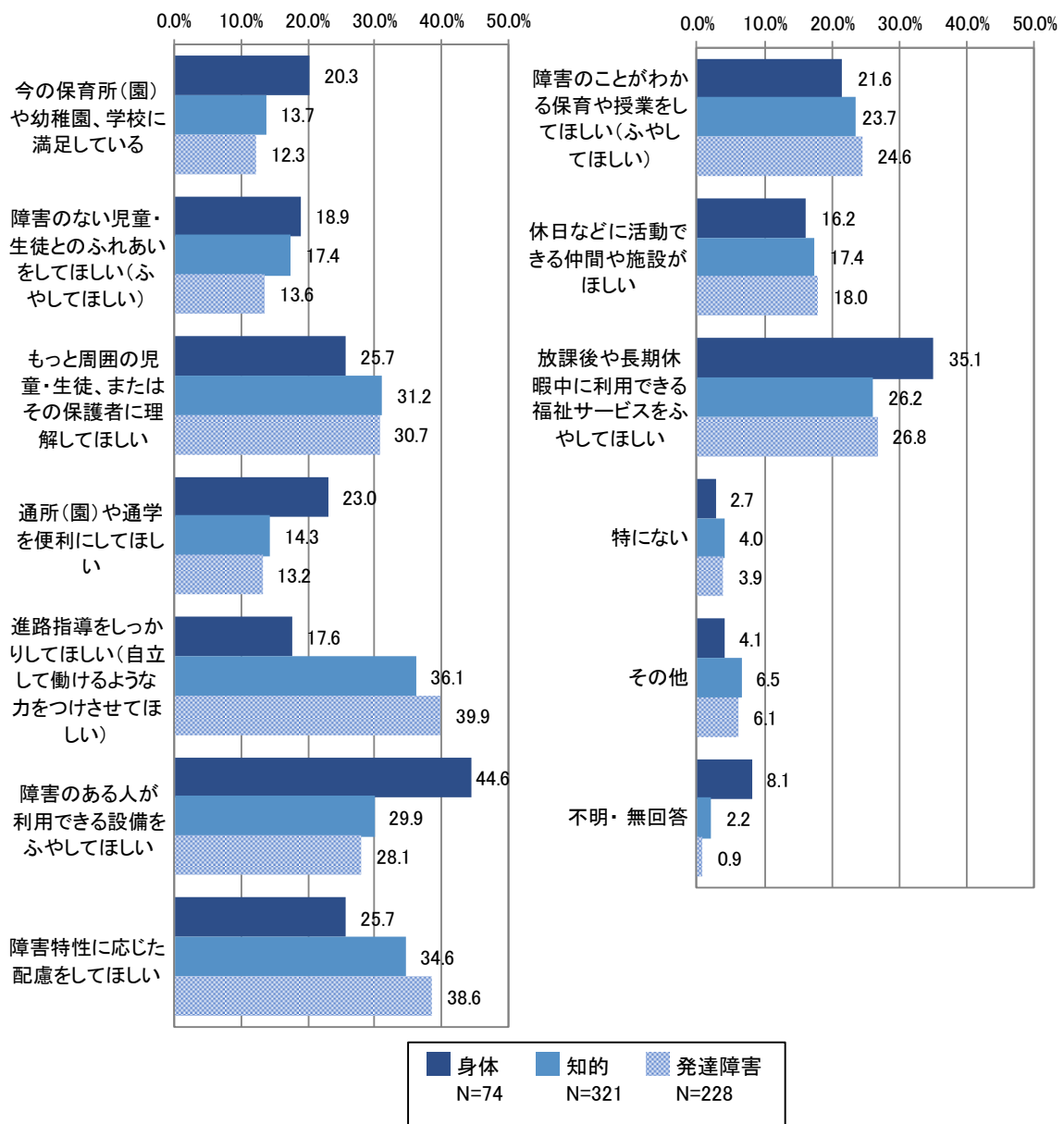
	学習をサポートしてくれるところ	長期休業中の支援をしてくれるところ	日常のスキルを身につけるサポートをしてくれるところ	療育機関	保育所等訪問支援	発達障害専門の医療機関	進路選択に関する相談機関	福祉サービスに関する相談機関	ストレス対応を教えてください	社会的なスキルを教えてください	その他	不明・無回答	
全体 N=355	46.5	24.8	50.7	27.6	3.7	30.4	30.4	20.6	19.4	36.9	3.4	5.1	
身体	0～3歳 N=11	9.1	0.0	18.2	45.5	27.3	18.2	0.0	54.5	0.0	0.0	18.2	
	4～6歳 N=13	15.4	30.8	23.1	38.5	15.4	0.0	30.8	30.8	15.4	0.0	7.7	
	7～9歳 N=13	46.2	46.2	69.2	23.1	0.0	7.7	23.1	61.5	23.1	23.1	0.0	
	10～12歳 N=20	45.0	45.0	35.0	25.0	5.0	20.0	30.0	25.0	15.0	25.0	0.0	
	13～15歳 N=7	0.0	14.3	28.6	42.9	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	
	16～18歳 N=6	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	33.3
	0～3歳 N=14	28.6	14.3	64.3	35.7	14.3	14.3	14.3	21.4	14.3	21.4	0.0	7.1
4～6歳 N=48	47.9	18.8	64.6	56.3	10.4	29.2	27.1	10.4	16.7	37.5	4.2	2.1	
7～9歳 N=65	61.5	38.5	66.2	33.8	4.6	38.5	23.1	18.5	20.0	36.9	3.1	0.0	
10～12歳 N=68	64.7	36.8	52.9	23.5	1.5	26.5	32.4	17.6	19.1	41.2	0.0	0.0	
13～15歳 N=68	44.1	22.1	48.5	17.6	0.0	33.8	33.8	23.5	17.6	38.2	5.9	5.9	
16～18歳 N=42	26.2	14.3	38.1	16.7	0.0	35.7	42.9	23.8	28.6	45.2	4.8	7.1	
発達障害	0～3歳 N=5	20.0	40.0	40.0	80.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0
	4～6歳 N=31	58.1	16.1	71.0	54.8	9.7	38.7	25.8	6.5	19.4	45.2	9.7	0.0
	7～9歳 N=47	57.4	29.8	68.1	31.9	4.3	51.1	25.5	12.8	25.5	38.3	2.1	0.0
	10～12歳 N=51	66.7	33.3	45.1	21.6	0.0	35.3	37.3	9.8	17.6	41.2	0.0	0.0
	13～15歳 N=53	52.8	18.9	45.3	15.1	0.0	41.5	35.8	22.6	22.6	39.6	5.7	3.8
	16～18歳 N=30	36.7	16.7	33.3	20.0	0.0	46.7	40.0	23.3	26.7	50.0	6.7	6.7

「あなた」は、保育や教育について今後、どのようなことが必要だと思いますか。
(複数回答)

- 18歳未満の身体障害では「障害のある人が利用できる設備をふやしてほしい」が最も多く、知的障害、発達障害では「進路指導をしっかりとしてほしい(自立して働けるような力をつけさせてほしい)」が最も多くなっている。

18歳未満をみると、身体障害では「障害のある人が利用できる設備をふやしてほしい」が4割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「進路指導をしっかりとしてほしい(自立して働けるような力をつけさせてほしい)」が3割台半ば～3割台後半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」が3割台半ば、知的障害、発達障害では「障害特性に応じた配慮をしてほしい」が3割台半ば～3割台後半となっています。

【18歳未満】



◇クロス集計：年齢別×必要な保育・教育

- 身体障害では「障害のある人が利用できる設備をふやしてほしい」、知的障害、発達障害の10歳以上では「進路指導をしっかりとしてほしい」が多くなっている。

18歳未満をみると、身体障害では、どの年齢においても「障害のある人が利用できる設備をふやしてほしい」、4～12歳では「放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい」が多くなっています。知的障害、発達障害の10歳以上では「進路指導をしっかりとほしい（自立して働けるような力をつけさせてほしい）」が多くなっています。

【18歳未満】

単位：%

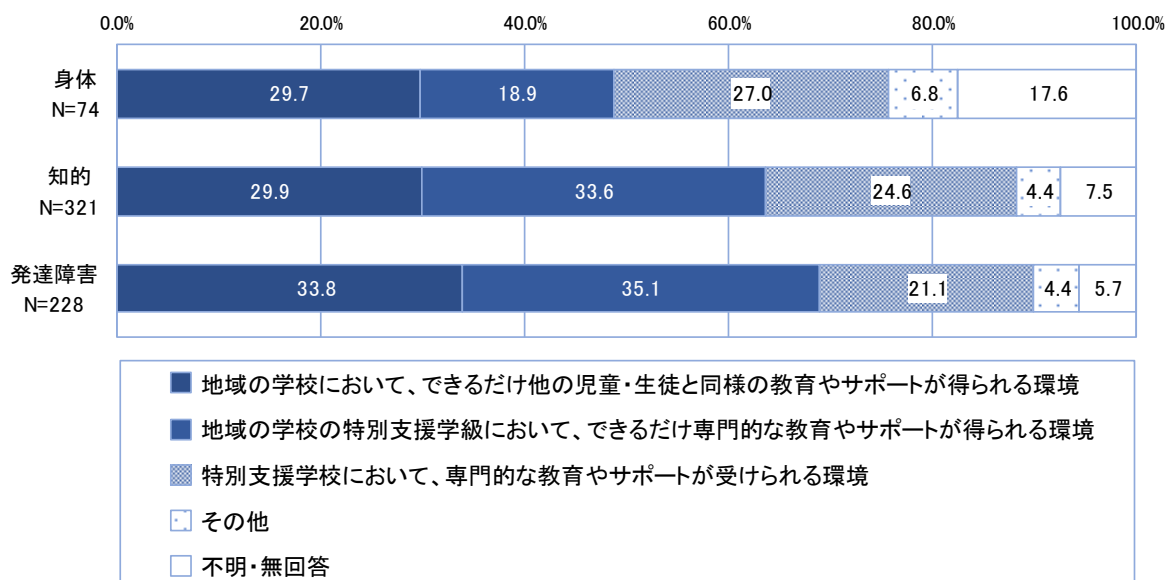
	今の保育所（園）や幼稚園、学校に満足している	障害のない児童・生徒とのふれあいをしてほしい（ふやしてほしい）	もっと周囲の児童・生徒、またはその保護者に理解してほしい	通所（園）や通学を便利にしてほしい	進路指導をしっかりとしてほしい（自立して働けるような力をつけさせてほしい）	障害のある人が利用できる設備をふやしてほしい	障害特性に応じた配慮をしてほしい	障害のことがわかる保育や授業をしてほしい（ふやしてほしい）	休日などに活動できる仲間や施設がほしい	放課後や長期休暇中に利用できる福祉サービスをふやしてほしい	特にない	その他	不明・無回答	
全体 N=355	14.4	17.2	30.7	14.4	35.5	30.7	34.4	25.1	17.2	25.9	3.9	6.5	2.8	
身体	0～3歳 N=11	0.0	27.3	36.4	9.1	9.1	63.6	18.2	45.5	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1
	4～6歳 N=13	23.1	23.1	23.1	23.1	7.7	38.5	23.1	15.4	15.4	30.8	0.0	15.4	7.7
	7～9歳 N=13	15.4	30.8	38.5	30.8	30.8	46.2	53.8	23.1	15.4	46.2	0.0	0.0	15.4
	10～12歳 N=20	30.0	5.0	25.0	35.0	25.0	35.0	20.0	20.0	20.0	55.0	0.0	5.0	0.0
	13～15歳 N=7	57.1	14.3	0.0	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0
	16～18歳 N=6	0.0	16.7	16.7	33.3	16.7	33.3	0.0	16.7	16.7	33.3	33.3	0.0	0.0
知的	0～3歳 N=14	0.0	14.3	57.1	21.4	7.1	21.4	28.6	35.7	7.1	21.4	0.0	7.1	7.1
	4～6歳 N=48	22.9	25.0	25.0	16.7	16.7	33.3	39.6	27.1	12.5	27.1	2.1	8.3	4.2
	7～9歳 N=65	13.8	26.2	43.1	15.4	33.8	27.7	41.5	29.2	13.8	29.2	0.0	9.2	0.0
	10～12歳 N=68	17.6	13.2	32.4	14.7	42.6	23.5	41.2	27.9	13.2	35.3	2.9	2.9	0.0
	13～15歳 N=68	10.3	14.7	25.0	14.7	50.0	36.8	29.4	11.8	26.5	14.7	0.0	10.3	2.9
	16～18歳 N=42	9.5	7.1	19.0	7.1	38.1	33.3	21.4	21.4	21.4	28.6	21.4	2.4	0.0
発達障害	0～3歳 N=5	0.0	20.0	40.0	0.0	40.0	20.0	40.0	80.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	4～6歳 N=31	22.6	19.4	29.0	16.1	19.4	35.5	48.4	29.0	16.1	25.8	0.0	6.5	3.2
	7～9歳 N=47	10.6	21.3	48.9	14.9	29.8	27.7	42.6	31.9	14.9	23.4	0.0	10.6	0.0
	10～12歳 N=51	15.7	9.8	25.5	13.7	47.1	17.6	45.1	23.5	9.8	35.3	3.9	2.0	0.0
	13～15歳 N=53	9.4	11.3	26.4	13.2	56.6	34.0	35.8	15.1	24.5	18.9	0.0	9.4	0.0
	16～18歳 N=30	6.7	3.3	23.3	6.7	36.7	33.3	23.3	20.0	23.3	33.3	20.0	3.3	0.0

「あなた」にとって、望ましい就学環境とはどのような環境だと思いますか。
 (単数回答)

●18 歳未満の身体障害では「地域の学校において、できるだけ他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」が最も多く、知的障害、発達障害では「地域の学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートが得られる環境」が最も多くなっている。

18 歳未満をみると、身体障害では「地域の学校において、できるだけ他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」が2割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「地域の学校の特別支援学級において、できるだけ専門的な教育やサポートが得られる環境」が3割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害では「特別支援学校において、専門的な教育やサポートが受けられる環境」が2割台後半、知的障害、発達障害では「地域の学校において、できるだけ他の児童・生徒と同様の教育やサポートが得られる環境」が2割台後半～3割台半ばとなっています。

【18 歳未満】



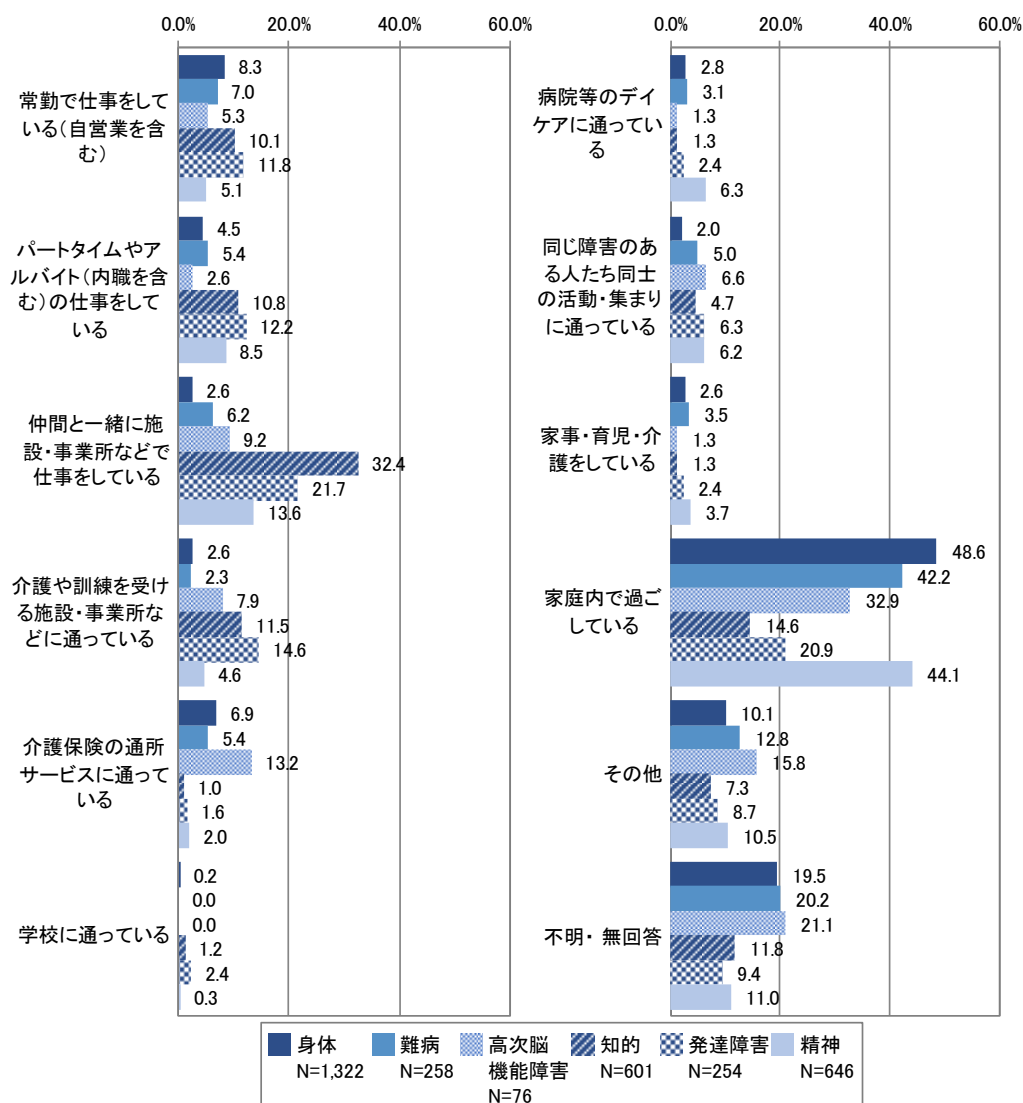
6. 雇用・就労について

「あなた」は日中の生活をどのように過ごされていますか。(複数回答)

- 18 歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「家庭内で過ごしている」が最も多く、知的障害、発達障害では「仲間といっしょに施設・事業所などで仕事をしている」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「家庭内で過ごしている」が3割台前半～4割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「仲間といっしょに施設・事業所などで仕事をしている」が2割台前半～3割台前半で最も多くなっています。

【18 歳以上】

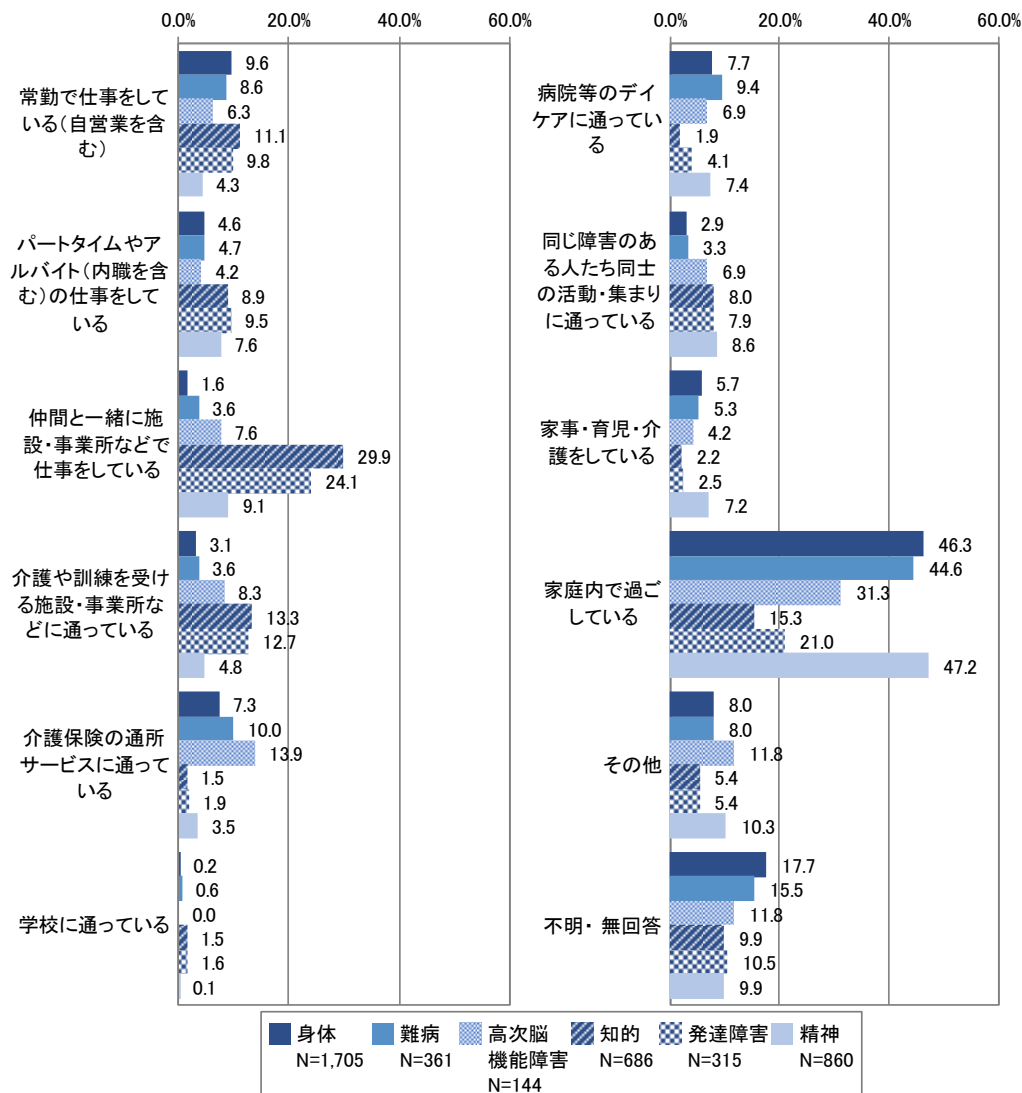


◇平成 26 年調査結果

前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「家庭内で過ごしている」が3割台前半～4割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「仲間といっしょに施設・事業所などで仕事をしている」が2割台半ば～2割台後半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて18歳以上の難病では「その他」が4.8ポイント増加し、「病院等のデイケアに通っている」が6.3ポイント減少しています。

【18歳以上】



◇クロス集計：障害別×日中の生活状況（65歳未満）

●身体障害の65歳未満の常勤雇用は2割台半ばとなっている。

65歳未満をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「家庭内で過ごしている」が3割台前半～4割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「仲間といっしょに施設・事業所などで仕事をしている」が2割台半ば～3割台半ばで最も多くなっています。

65歳未満の「常勤で仕事をしている（自営業を含む）」や「パートタイムやアルバイト（内職を含む）の仕事をしている」では、65歳以上含む18歳以上の全体（P.81）より、多くなる傾向があります。特に、身体障害の「常勤で仕事をしている（自営業を含む）」は、1割未満から2割台半ばまで増加しています。

単位：%

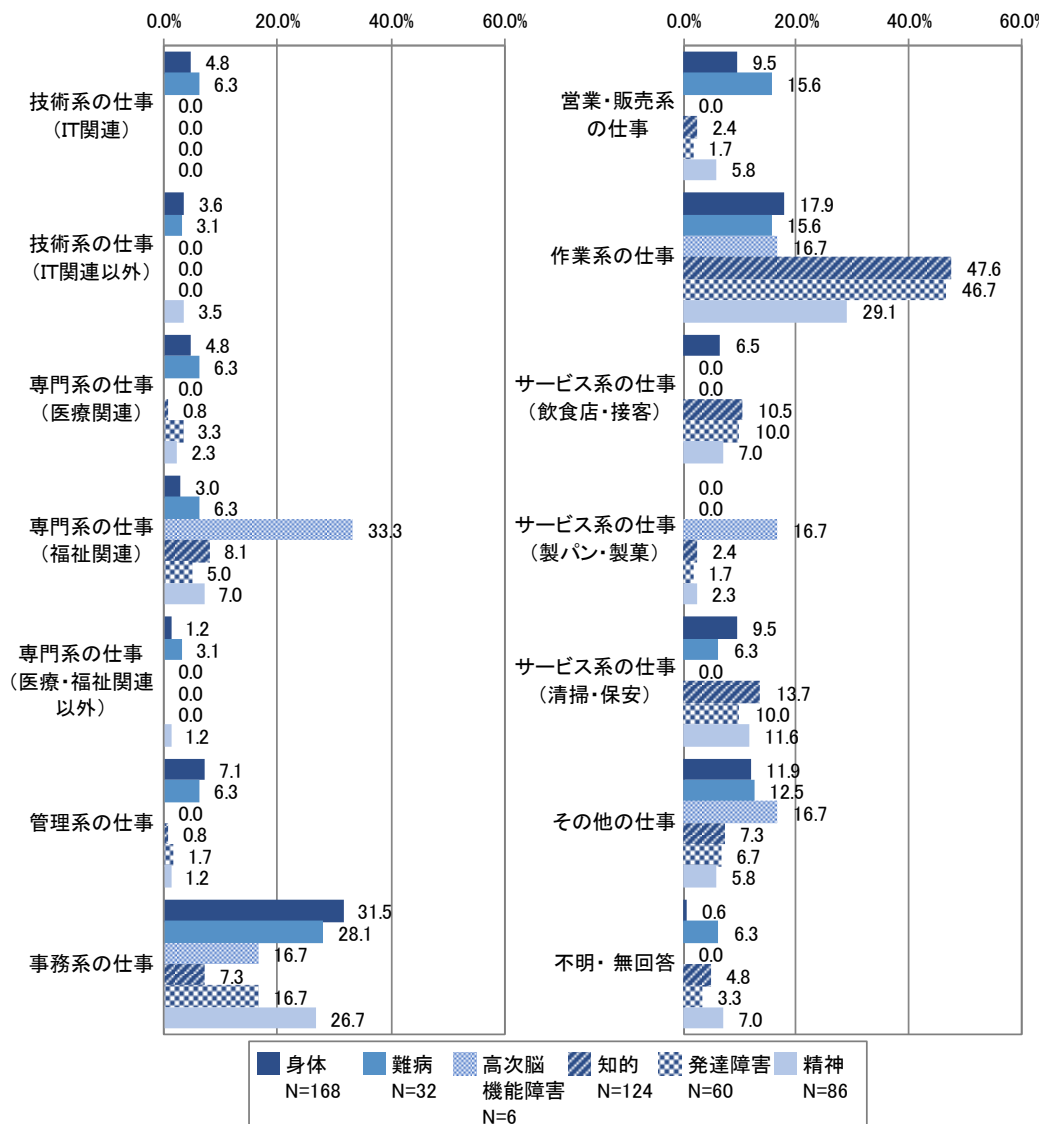
	常勤で仕事をしている （自営業を含む）	パートタイムやアルバイト（内職を含む）の仕事をしている	仲間と一緒に施設・事業所などで仕事をしている	介護や訓練を受ける施設・事業所などに通っている	介護保険の通所サービスに通っている	学校に通っている	病院等のデイケアに通っている	同じ障害のある人たち同士の活動・集まりに通っている	家事・育児・介護をしている	家庭内で過ごしている	その他	不明・無回答
全体 N=1,240	13.1	11.3	21.6	6.9	0.9	0.5	2.7	5.4	3.5	28.8	7.6	9.3
身体 N=305	24.3	10.2	8.2	3.6	1.6	0.7	0.3	3.9	4.6	33.4	8.9	9.5
難病 N=103	12.6	8.7	14.6	2.9	1.9	0.0	0.0	5.8	5.8	35.0	8.7	13.6
高次脳機能障害 N=33	9.1	6.1	18.2	6.1	3.0	0.0	0.0	9.1	0.0	30.3	18.2	12.1
知的 N=526	11.0	12.2	34.4	12.0	0.4	1.0	1.3	5.1	1.5	13.3	6.3	10.5
発達障害 N=222	12.6	14.0	23.9	15.8	0.9	1.8	2.7	7.2	2.7	18.5	8.6	6.8
精神 N=510	6.3	10.2	16.9	5.7	1.0	0.2	5.5	7.3	3.9	42.5	8.6	9.2

現在、仕事をしている方におたずねします。「あなた」はどのような仕事をしていますか。（複数回答）

●18 歳以上の身体障害、難病では「事務系の仕事」が最も多く、高次脳機能障害では「専門系の仕事（福祉関連）」が最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「作業系の仕事」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病では「事務系の仕事」が2割台後半～3割台前半で最も多く、高次脳機能障害では「専門系の仕事（福祉関連）」が3割台前半で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「作業系の仕事」が2割台後半～4割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】

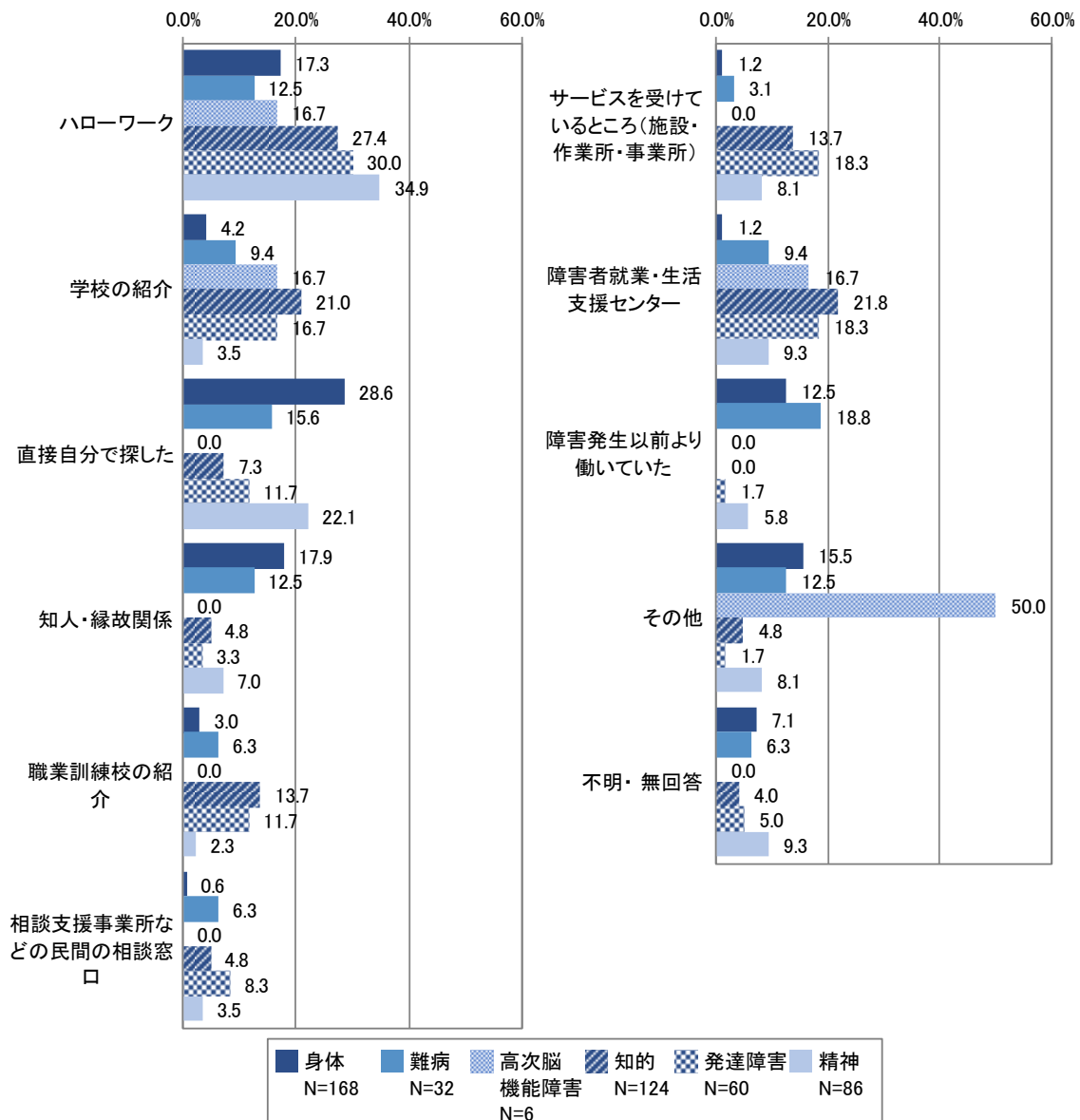


現在、仕事をしている方におたずねします。「あなた」は現在の仕事をどのようにして見つけれましたか。(複数回答)

●18 歳以上の身体障害では「直接自分で探した」が最も多く、難病では「障害発生以前より働いていた」が最も多く、高次脳機能障害では「その他」が最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「ハローワーク」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害では「直接自分で探した」が2割台後半で最も多く、難病では「障害発生以前より働いていた」が1割台後半で最も多く、高次脳機能障害では「その他」が5割で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「ハローワーク」が2割台後半～3割台半ばで最も多くなっています。

【18 歳以上】

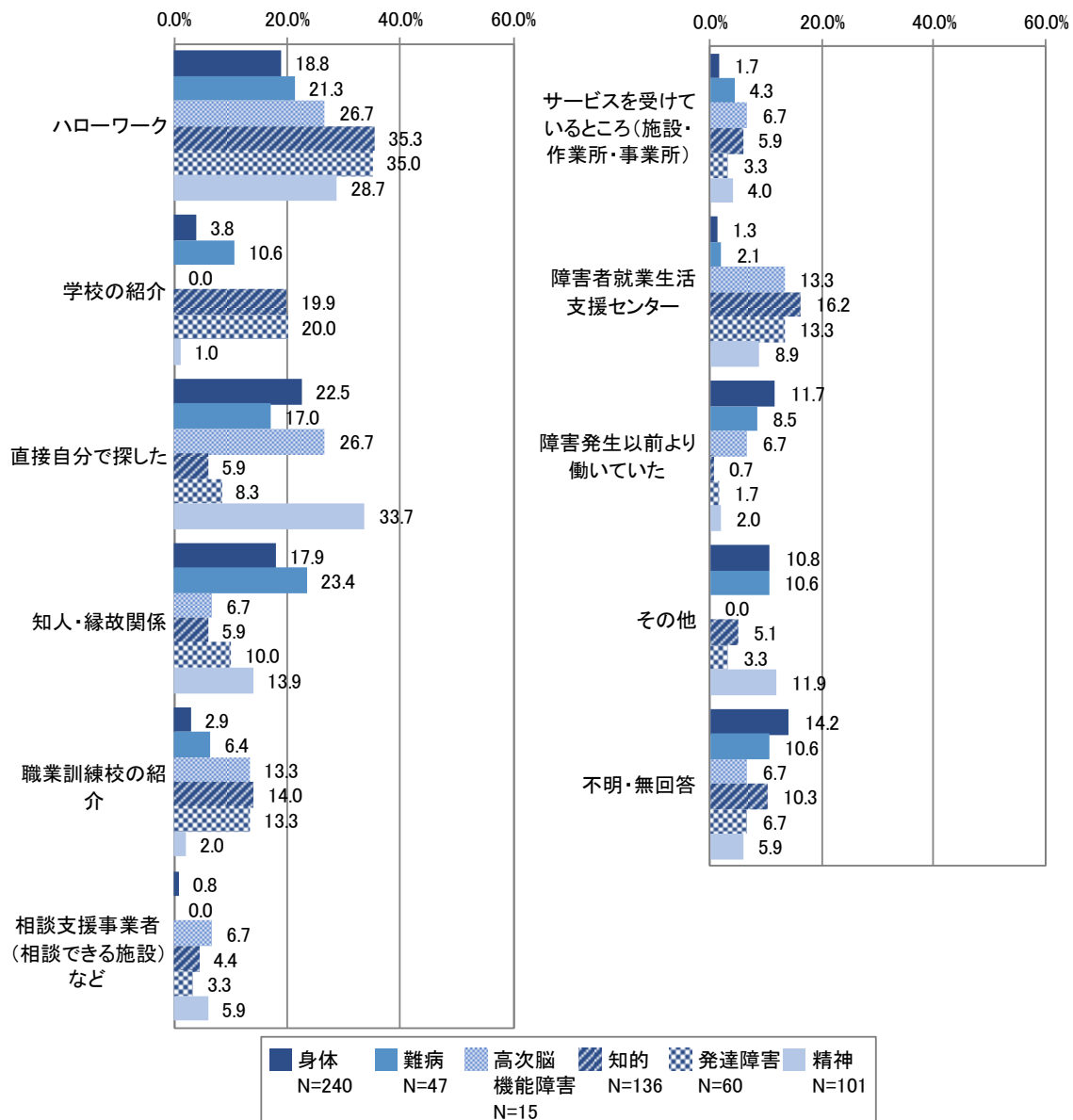


◇平成 26 年調査結果

前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、精神障害では「直接自分で探した」が2割台前半～3割台半ばで最も多く、難病では「知人・縁故関係」が2割台半ばで最も多く、高次脳機能障害では「ハローワーク」と「直接自分で探した」が同率の2割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「ハローワーク」が3割台半ばで最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて18歳以上の高次脳機能障害では「その他」が50.0ポイント増加し、「直接自分で探した」が26.7ポイント減少しています。

【18歳以上】



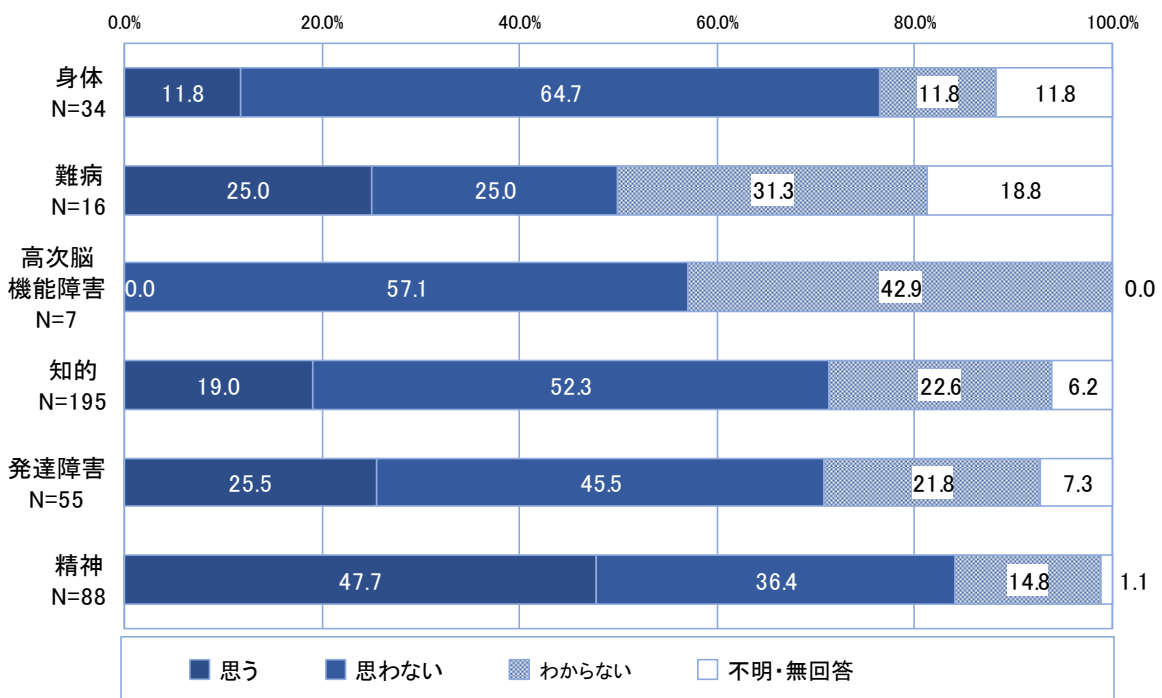
現在、仲間といっしょに施設などで仕事をしている方におたずねします。「あなた」は、一般就労をしたいと思いませんか。(単数回答)

●18歳以上の身体障害、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「思わない」が最も多く、難病では「わからない」が最も多く、精神障害では「思う」が最も多くなっている。

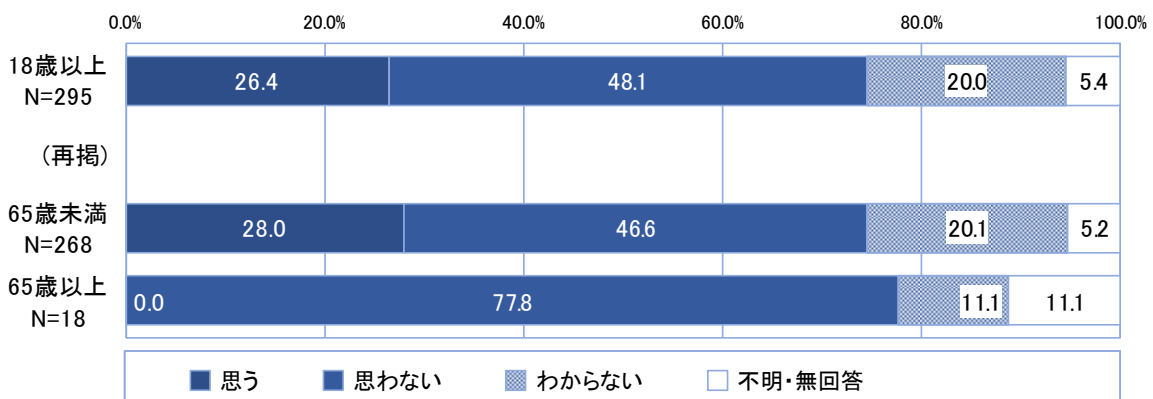
18歳以上をみると、身体障害、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「思わない」が4割台半ば～6割台半ばで最も多く、難病では「わからない」が3割台前半で最も多く、精神障害では「思う」が4割台後半で最も多くなっています。

18歳以上のうち、65歳未満に限定してみると、「思う」が2割台後半で、18歳以上（全体）の2割台半ばより増加します。

【18歳以上】



【18歳以上（65歳未満、65歳以上）】

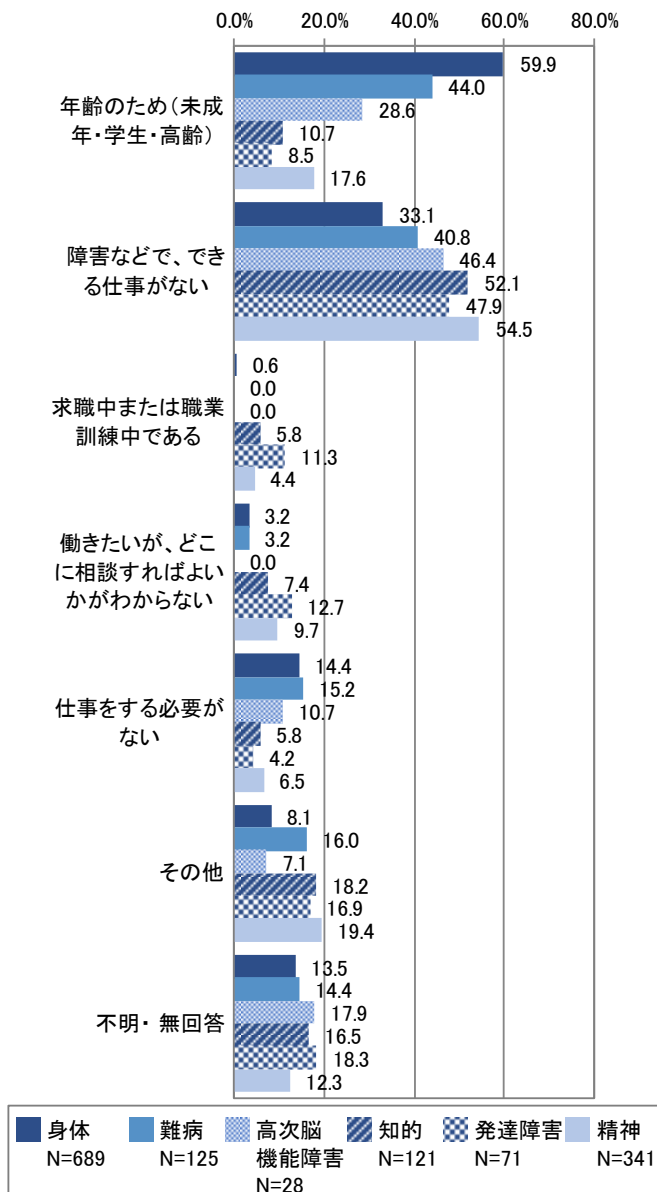


現在、仕事をしていない方におたずねします。「あなた」が仕事をしていないのはどのような理由によりますか。（複数回答）

●18歳以上の身体障害、難病では「年齢のため（未成年・学生・高齢）」が最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害、精神障害では「障害などで、できる仕事がない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、難病では「年齢のため（未成年・学生・高齢）」が4割台半ば～5割台後半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害、精神障害では「障害などで、できる仕事がない」が4割台半ば～5割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】

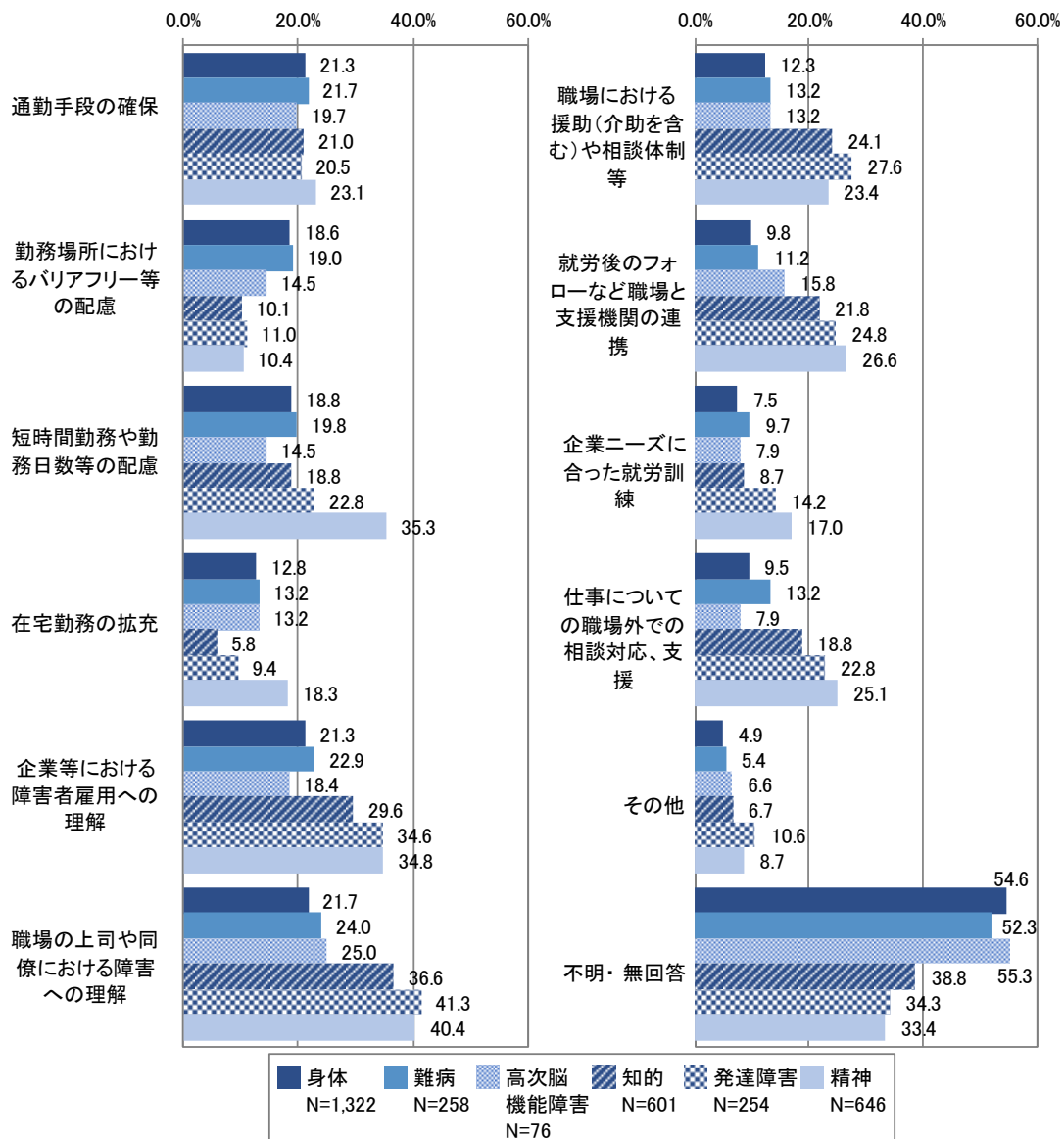


「あなた」は、障害のある人の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答）

●18歳以上のいずれの障害においても「職場の上司や同僚における障害への理解」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「職場の上司や同僚における障害への理解」が2割台前半～4割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「通勤手段の確保」と「企業等における障害者雇用への理解」が同率の2割台前半、難病、知的障害、発達障害では「企業等における障害者雇用への理解」が2割台前半～3割台半ば、高次脳機能障害では「通勤手段の確保」が1割台後半、精神障害では「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が3割台半ばとなっています。

【18歳以上】

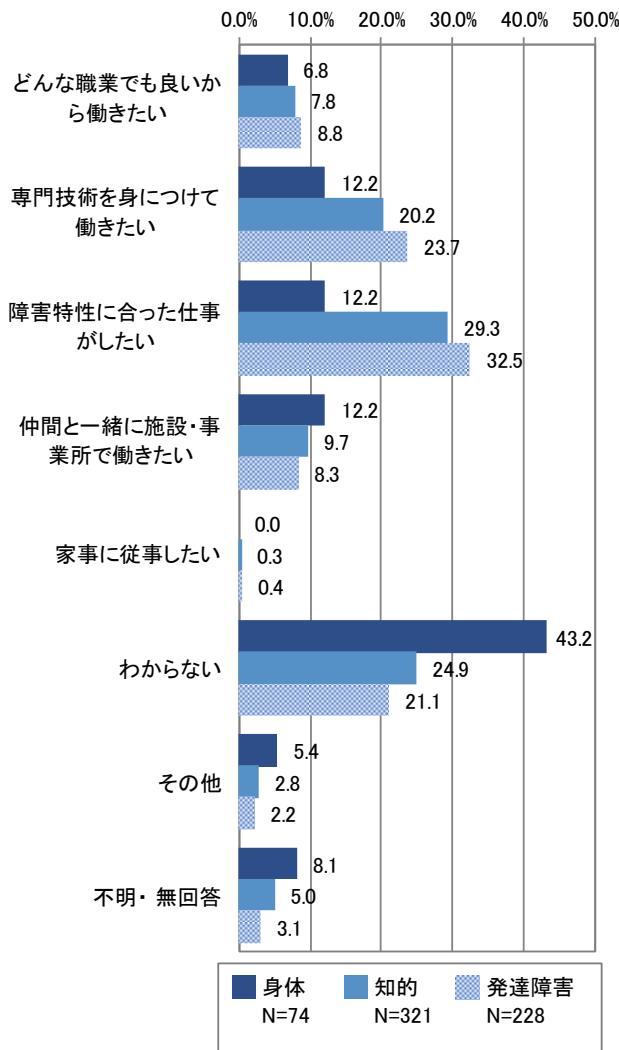


「あなた」は将来どのような生活をしたいと思いますか。(単数回答)

●18 歳未満の身体障害では「わからない」が最も多く、知的障害、発達障害では「障害特性に合った仕事がしたい」が最も多くなっている。

18 歳未満をみると、身体障害では「わからない」が4割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「障害特性に合った仕事がしたい」が2割台後半～3割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「専門技術を身につけて働きたい」「障害特性に合った仕事がしたい」「仲間といっしょに施設・事業所で働きたい」が同率の1割台前半、知的障害では「わからない」が2割台半ば、発達障害では「専門技術を身につけて働きたい」が2割台半ばとなっています。

【18 歳未満】

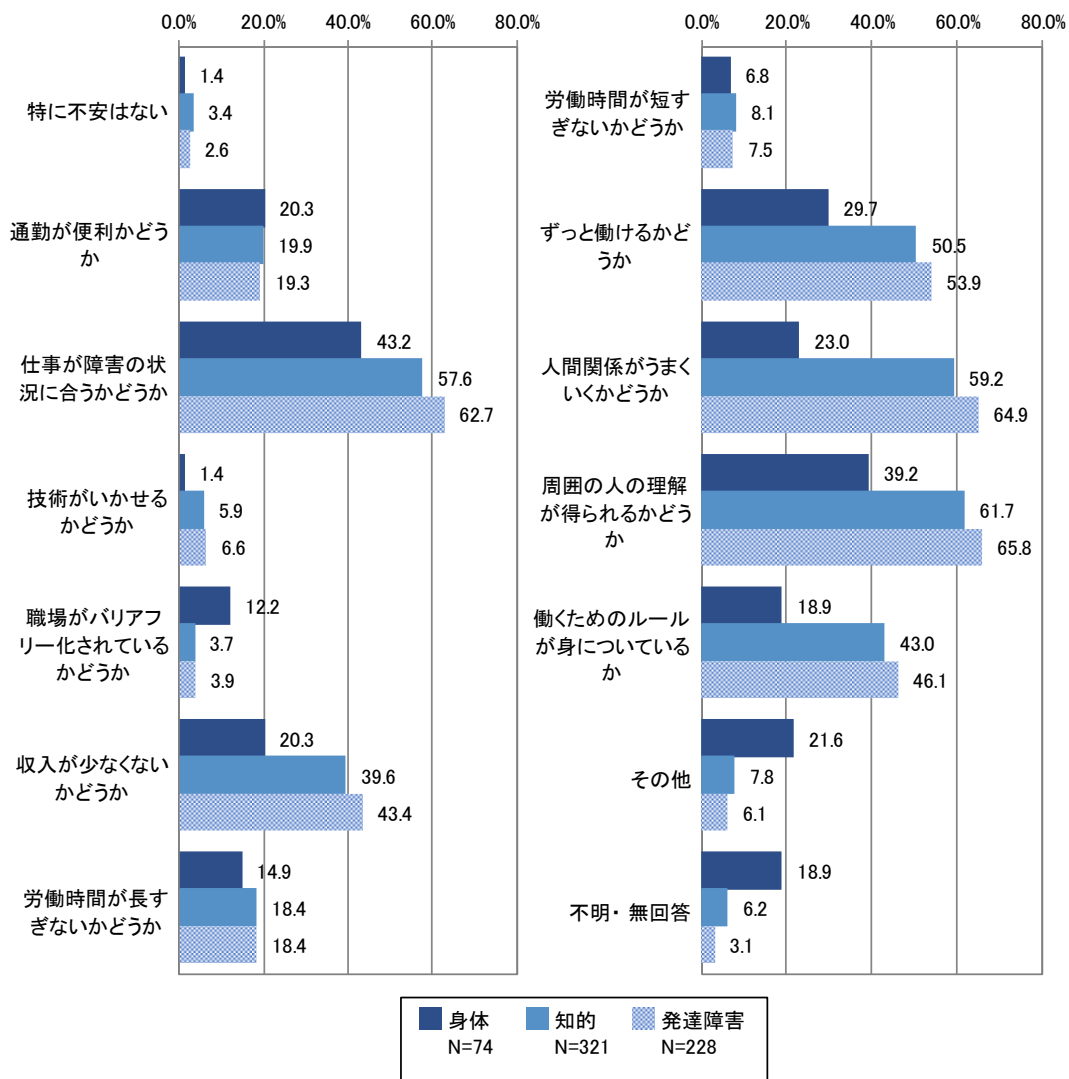


将来、仕事をするとき、あるいは仕事をしているなかで、「あなた」はどんな不安がありますか。（複数回答）

●18歳未満の身体障害では「仕事が障害の状況に合うかどうか」が最も多く、知的障害、発達障害では「周囲の人の理解が得られるかどうか」が最も多くなっている。

18歳未満をみると、身体障害では「仕事が障害の状況に合うかどうか」が4割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「周囲の人の理解が得られるかどうか」が6割台前半～6割台半ばで最も多くなっています。

【18歳未満】



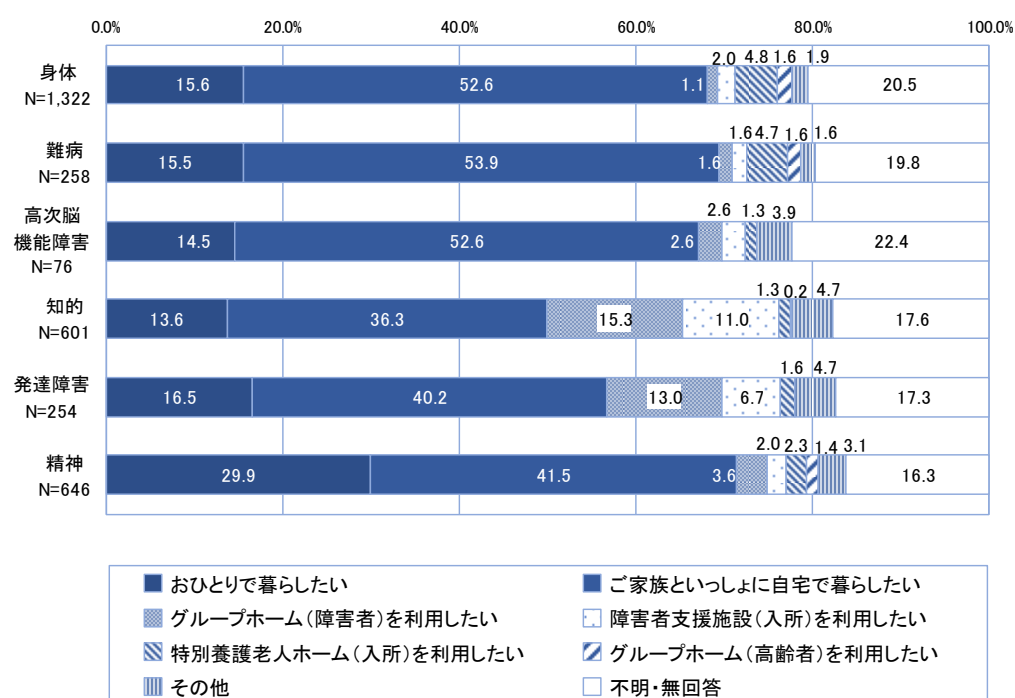
7. 生活環境、移動・交通について

「あなた」は今後どのように暮らしたいと思いますか。(単数回答)

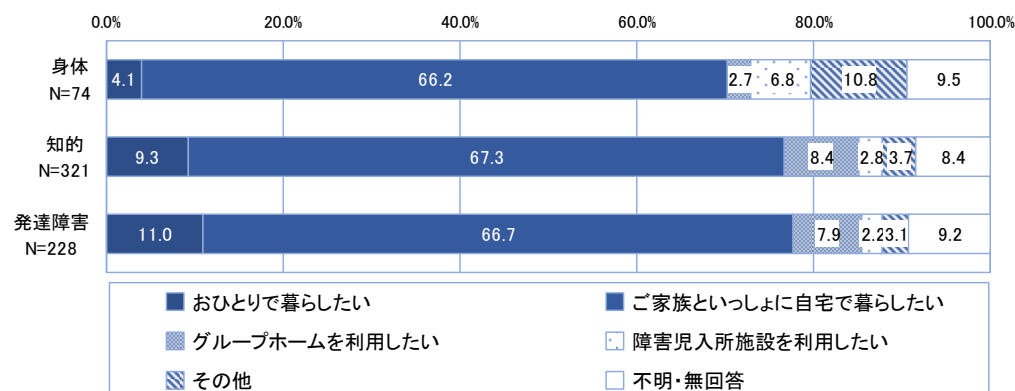
- 18歳以上、18歳未満ともに「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が3割台半ば～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、知的障害を除くいずれの障害においても「おひとり暮らし」が1割台半ば～2割台後半、知的障害では「グループホーム(障害者)を利用したい」が1割台半ばとなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が6割台半ば～6割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



◇クロス集計：回答者×今後希望する暮らし方

- 18歳以上、18歳未満ともに「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多く、18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多くなっています。また、18歳以上のいずれの障害においても「おひとりで暮らしたい」については、ご家族よりも本人の回答が多くなっており、一方、「特別養護老人ホーム（入所）を利用したい」については、本人よりご家族の回答が多くなっています。

【18歳以上】

単位：%

	おひとりで暮らしたい	ご家族といっしょに自宅で暮らしたい	グループホーム（障害者）を利用したい	障害者支援施設（入所）を利用したい	特別養護老人ホーム（入所）を利用したい	グループホーム（高齢者）を利用したい	その他	不明・無回答
全体 N=2,483	19.1	46.7	5.0	3.7	3.5	1.3	2.7	18.1
身体	本人 N=758	19.9	57.5	0.5	0.8	2.9	1.1	15.8
	家族が本人に代わって回答 N=276	8.7	52.5	1.4	2.2	10.1	1.8	19.9
	その他 N=24	16.7	8.3	8.3	16.7	4.2	0.0	37.5
難病	本人 N=150	18.7	61.3	0.7	0.0	2.0	1.3	14.7
	家族が本人に代わって回答 N=55	7.3	56.4	0.0	0.0	12.7	0.0	21.8
	その他 N=7	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9
機能障害 高次脳	本人 N=27	18.5	59.3	0.0	3.7	0.0	0.0	11.1
	家族が本人に代わって回答 N=29	10.3	62.1	3.4	3.4	3.4	0.0	17.2
	その他 N=3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
知的	本人 N=178	24.2	44.9	9.0	5.6	0.6	6.7	8.4
	家族が本人に代わって回答 N=261	6.1	36.4	21.8	11.1	2.3	1.1	21.1
	その他 N=46	4.3	13.0	13.0	41.3	0.0	15.2	13.0
発達障害	本人 N=90	27.8	53.3	1.1	1.1	1.1	5.6	10.0
	家族が本人に代わって回答 N=96	6.3	35.4	22.9	9.4	2.1	4.2	19.8
	その他 N=9	0.0	0.0	33.3	22.2	0.0	22.2	22.2
精神障害	本人 N=364	36.8	46.4	1.9	0.8	0.5	3.8	8.8
	家族が本人に代わって回答 N=122	10.7	38.5	9.8	4.1	6.6	3.3	23.0
	その他 N=11	54.5	0.0	0.0	9.1	9.1	18.2	9.1

【18歳未満】

単位：%

		おひとり暮らし	ご家族といっしょに自宅で暮らしたい	グループホームを利用したい	障害児入所施設を利用したい	その他	不明・無回答
	全体 N=355	9.6	66.5	7.6	2.8	4.5	9.0
身体	本人 N=4	0.0	25.0	0.0	25.0	25.0	25.0
	家族が本人に代わって回答 N=62	4.8	67.7	3.2	6.5	8.1	9.7
	その他 N=1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
知的	本人 N=27	22.2	63.0	3.7	3.7	7.4	0.0
	家族が本人に代わって回答 N=247	8.5	66.8	9.7	2.4	3.2	9.3
	その他 N=6	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0
発達障害	本人 N=23	21.7	73.9	4.3	0.0	0.0	0.0
	家族が本人に代わって回答 N=171	10.5	65.5	9.4	1.8	2.9	9.9
	その他 N=5	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0

◇クロス集計：普段のお住まい×今後希望する暮らし方

- 持ち家の方はご家族といっしょに暮らしたい人が特に多く、賃貸や公営住宅の方はおひとりで暮らしたい人が多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても賃貸住宅や公営住宅よりも持ち家の方が「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても持ち家、賃貸住宅、公営住宅では「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」が最も多くなっています。

また、施設等で暮らしている方では、いずれの障害においても施設等を希望する人が多くなっています。

【18歳以上】

単位：%

	おひとりで暮らしたい	ご家族といっしょに自宅で暮らしたい	グループホーム（障害者）を利用したい	障害者支援施設（入所）を利用したい	特別養護老人ホーム（入所）を利用したい	グループホーム（高齢者）を利用したい	その他	不明・無回答
全体 N=2,483	19.1	46.7	5.0	3.7	3.5	1.3	2.7	18.1
持ち家 N=737	10.4	64.7	0.8	1.2	3.1	1.2	1.4	17.1
賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅等を含む） N=288	29.2	41.0	0.3	1.7	5.2	2.1	2.4	18.1
公営住宅 N=137	21.9	45.3	2.2	0.0	1.5	1.5	0.7	27.0
障害者支援施設（入所） N=18	0.0	0.0	5.6	50.0	0.0	0.0	11.1	33.3
グループホーム（障害者） N=4	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
グループホーム（高齢者） N=8	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	50.0	0.0	12.5
特別養護老人ホーム（入所） N=25	0.0	4.0	0.0	0.0	56.0	0.0	8.0	32.0
会社の寮 N=2	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病院 N=27	3.7	40.7	0.0	0.0	7.4	0.0	3.7	44.4
その他 N=33	27.3	27.3	0.0	3.0	12.1	0.0	6.1	24.2
身体								
持ち家 N=148	10.1	64.9	2.0	2.0	2.7	2.0	0.0	16.2
賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅等を含む） N=51	29.4	37.3	0.0	0.0	5.9	2.0	2.0	23.5
公営住宅 N=30	23.3	50.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	23.3
障害者支援施設（入所） N=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
グループホーム（障害者） N=2	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム（高齢者） N=1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム（入所） N=6	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	33.3
会社の寮 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病院 N=10	10.0	50.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	30.0
その他 N=7	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3
難病								
持ち家 N=34	8.8	70.6	2.9	2.9	0.0	0.0	0.0	14.7
賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅等を含む） N=21	28.6	28.6	0.0	4.8	4.8	0.0	4.8	28.6
公営住宅 N=9	22.2	44.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
障害者支援施設（入所） N=2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
グループホーム（障害者） N=1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
グループホーム（高齢者） N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
特別養護老人ホーム（入所） N=2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
会社の寮 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
病院 N=3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3
その他 N=3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
高次脳機能障害								

【18歳以上】

単位：%

		おひとり で暮ら したい	ご家族 といっ しょに 自宅 で暮 ら し た い	グ ル ー プ ホ ー ム （ 障 害 者 ） を 利 用 し た い	障 害 者 支 援 施 設 （ 入 所 ） を 利 用 し た い	特 別 養 護 老 人 ホ ー ム （ 入 所 ） を 利 用 し た い	グ ル ー プ ホ ー ム （ 高 齢 者 ） を 利 用 し た い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
知的	持ち家 N=248	8.9	50.0	13.3	7.3	0.4	0.4	1.6	18.1
	賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅等を含む） N=124	23.4	40.3	5.6	4.8	0.0	0.0	6.5	19.4
	公営住宅 N=49	24.5	32.7	10.2	6.1	2.0	0.0	2.0	22.4
	障害者支援施設（入所） N=76	0.0	13.2	6.6	46.1	1.3	0.0	13.2	19.7
	グループホーム（障害者） N=57	14.0	7.0	64.9	0.0	1.8	0.0	3.5	8.8
	グループホーム（高齢者） N=1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特別養護老人ホーム（入所） N=2	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	会社の寮 N=2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	病院 N=3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
	その他 N=13	30.8	15.4	0.0	7.7	23.1	0.0	15.4	7.7
発達障害	持ち家 N=122	9.0	52.5	12.3	5.7	0.8	0.0	1.6	18.0
	賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅等を含む） N=62	30.6	35.5	8.1	1.6	1.6	0.0	4.8	17.7
	公営住宅 N=21	28.6	33.3	4.8	14.3	4.8	0.0	4.8	9.5
	障害者支援施設（入所） N=14	0.0	14.3	7.1	35.7	0.0	0.0	14.3	28.6
	グループホーム（障害者） N=12	8.3	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3
	グループホーム（高齢者） N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特別養護老人ホーム（入所） N=2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0
	会社の寮 N=2	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	病院 N=2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0
	その他 N=5	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
精神障害	持ち家 N=231	16.5	63.2	3.0	1.3	1.7	0.9	2.2	11.3
	賃貸住宅（介護サービス付賃貸住宅等を含む） N=256	46.1	26.6	2.7	2.0	3.5	0.8	3.5	14.8
	公営住宅 N=74	37.8	43.2	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	16.2
	障害者支援施設（入所） N=3	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	グループホーム（障害者） N=10	20.0	0.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	グループホーム（高齢者） N=3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0
	特別養護老人ホーム（入所） N=5	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	60.0
	会社の寮 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	病院 N=21	4.8	23.8	4.8	9.5	0.0	9.5	9.5	38.1
	その他 N=22	18.2	36.4	0.0	0.0	4.5	4.5	13.6	22.7

【18歳未満】

単位：%

		おひとり で暮ら したい	ご家族 といっ しょに 自宅 で暮 らした い	グル ー プ ホ ー ム を 利 用 し た い	障 害 児 入 所 施 設 を 利 用 し た い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
	全体 N=355	9.6	66.5	7.6	2.8	4.5	9.0
身 体	持ち家 N=47	6.4	70.2	2.1	4.3	10.6	6.4
	賃貸住宅 N=19	0.0	73.7	0.0	0.0	10.5	15.8
	公営住宅 N=3	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0
	障害児入所施設 N=3	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	グループホーム N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	会社の寮 N=1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	病院 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	知 的	持ち家 N=209	9.6	67.9	8.1	1.4	3.3
賃貸住宅 N=78		12.8	71.8	5.1	0.0	5.1	5.1
公営住宅 N=18		0.0	72.2	22.2	0.0	0.0	5.6
障害児入所施設 N=10		0.0	30.0	20.0	40.0	0.0	10.0
グループホーム N=0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会社の寮 N=1		0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
病院 N=0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他 N=4		0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0
発 達 障 害		持ち家 N=154	11.7	65.6	7.8	1.9	2.6
	賃貸住宅 N=53	13.2	73.6	3.8	0.0	5.7	3.8
	公営住宅 N=12	0.0	66.7	25.0	0.0	0.0	8.3
	障害児入所施設 N=6	0.0	50.0	16.7	16.7	0.0	16.7
	グループホーム N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	会社の寮 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	病院 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他 N=2	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0

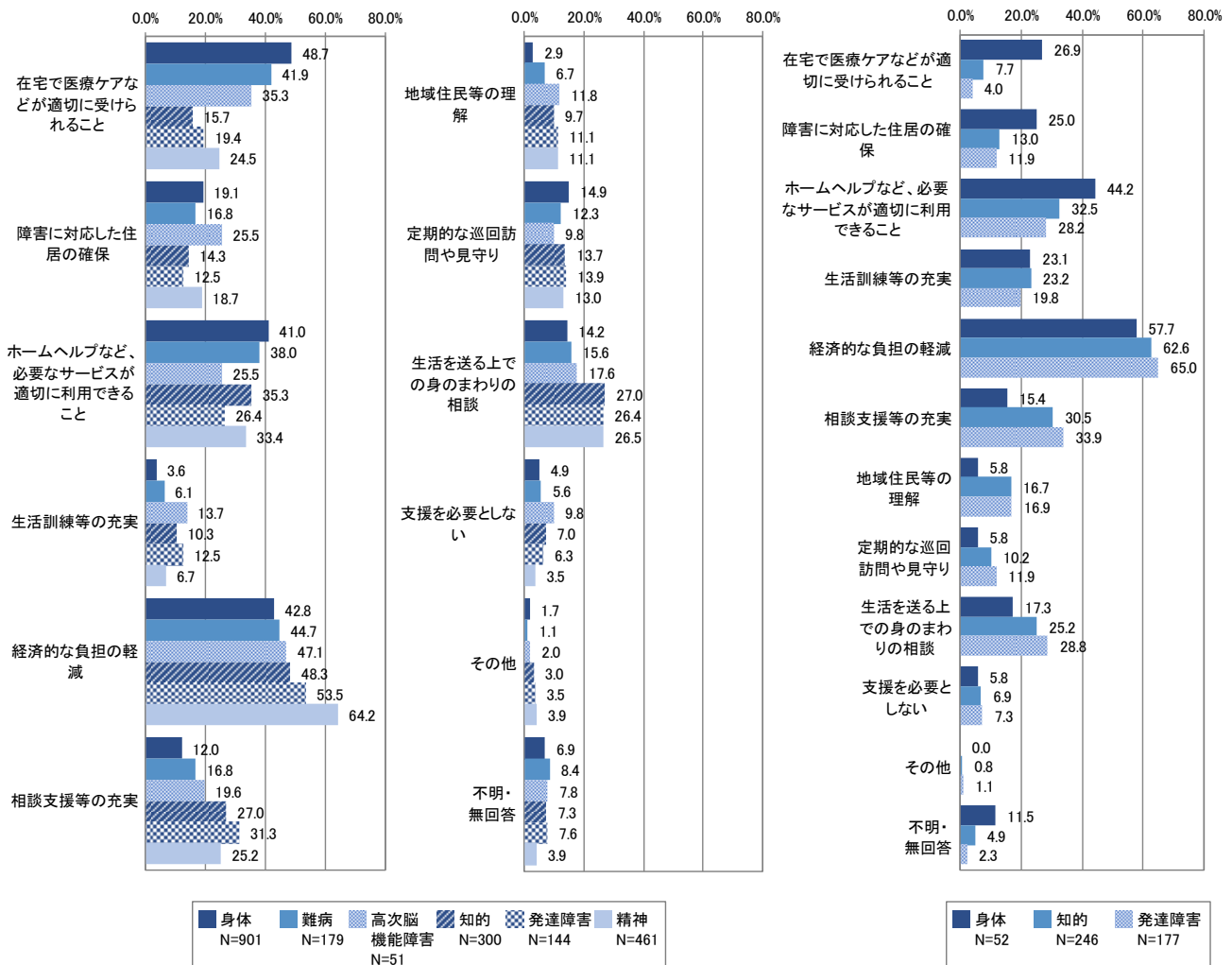
「おひとりで暮らしたい」または「ご家族といっしょに自宅で暮らしたい」と回答した方におたずねします。そのときは、どのような支援があればよいと思いますか。（複数回答）

●18歳以上の身体障害では「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」が最も多く、身体障害を除くいずれの障害においても「経済的な負担の軽減」が最も多くなっている。18歳未満のいずれの障害においても「経済的な負担の軽減」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害では「在宅で医療ケアなどが適切に受けられること」が4割台後半で最も多く、身体障害を除くいずれの障害においても「経済的な負担の軽減」が4割台半ば～6割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「経済的な負担の軽減」が5割台後半～6割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】

【18歳未満】

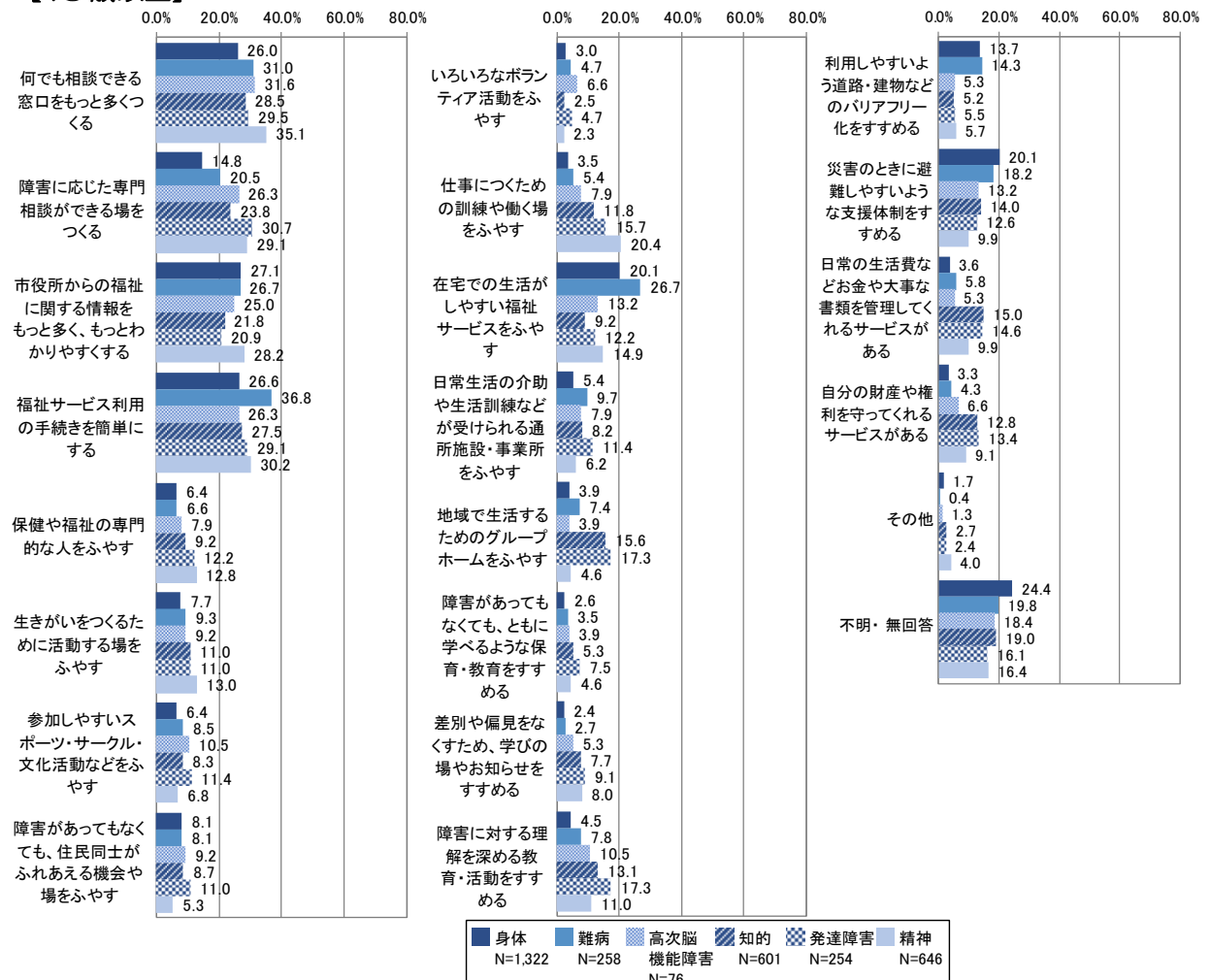


「あなた」がよりよく暮らしていくためには、どのようなことが必要だと考えますか。
 (複数回答)

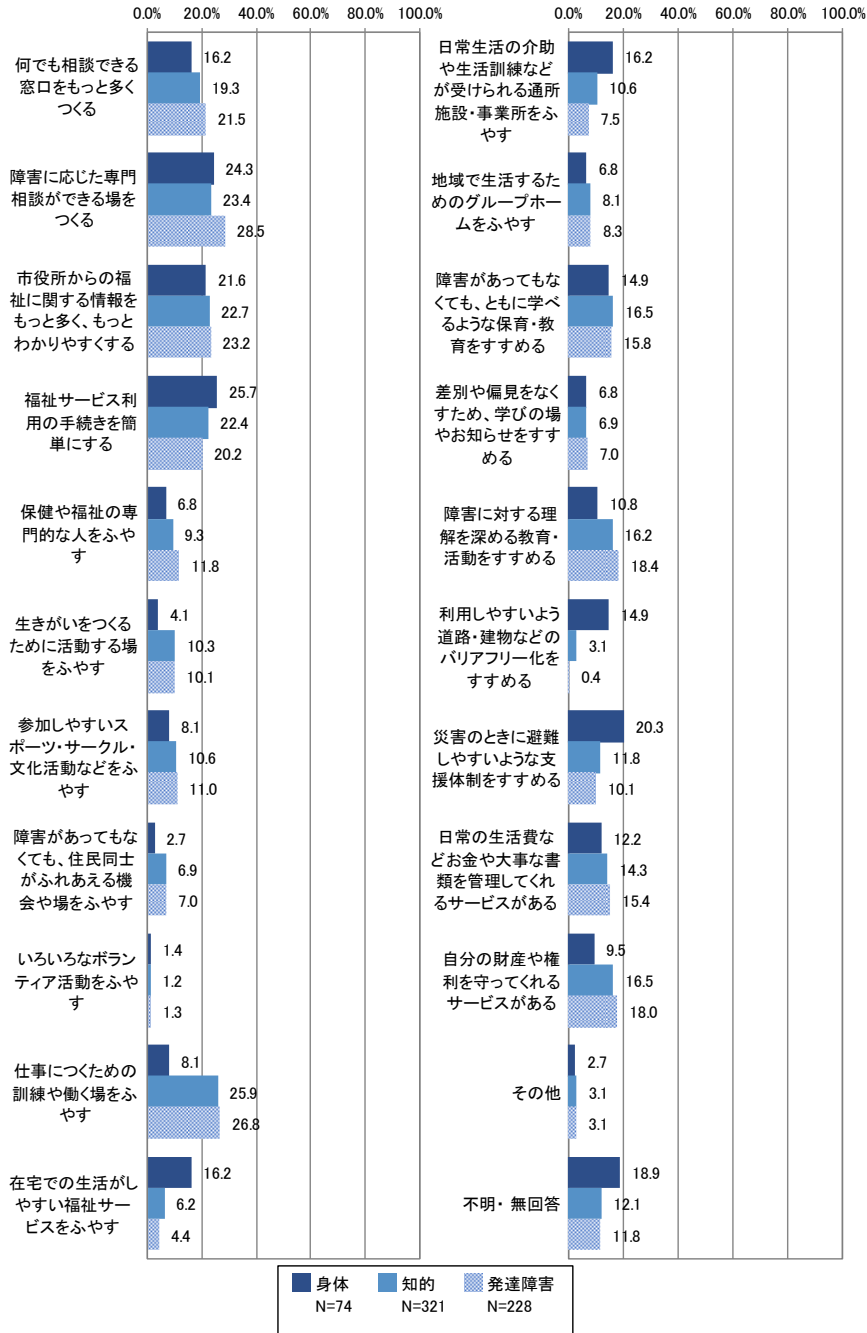
●18歳以上の身体障害では「市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする」が最も多く、難病では「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が最も多く、高次脳機能障害、知的障害、精神障害では「何でも相談できる窓口をもっと多くつくる」が最も多く、発達障害では「障害に応じた専門相談ができる場所をつくる」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が最も多く、知的障害では「仕事につくための訓練や働く場をふやす」が最も多く、発達障害では「障害に応じた専門相談ができる場所をつくる」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害では「市役所からの福祉に関する情報をもっと多く、もっとわかりやすくする」が2割台後半で最も多く、難病では「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が3割台後半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、精神障害では「何でも相談できる窓口をもっと多くつくる」が2割台後半～3割台半ばで最も多く、発達障害では「障害に応じた専門相談ができる場所をつくる」が3割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「福祉サービス利用の手続きを簡単にする」が2割台半ばで最も多く、知的障害では「仕事につくための訓練や働く場をふやす」が2割台半ばで最も多く、発達障害では「障害に応じた専門相談ができる場所をつくる」が2割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

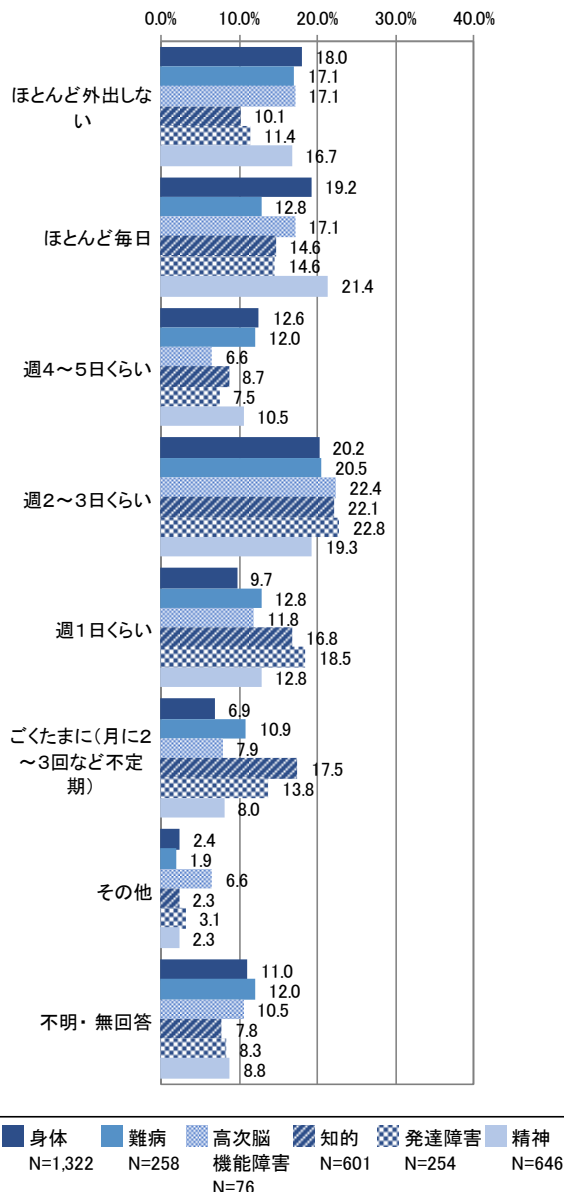


「あなた」は現在、通勤・通学・通院を除き、どのくらいの回数で外出していますか。
(単数回答)

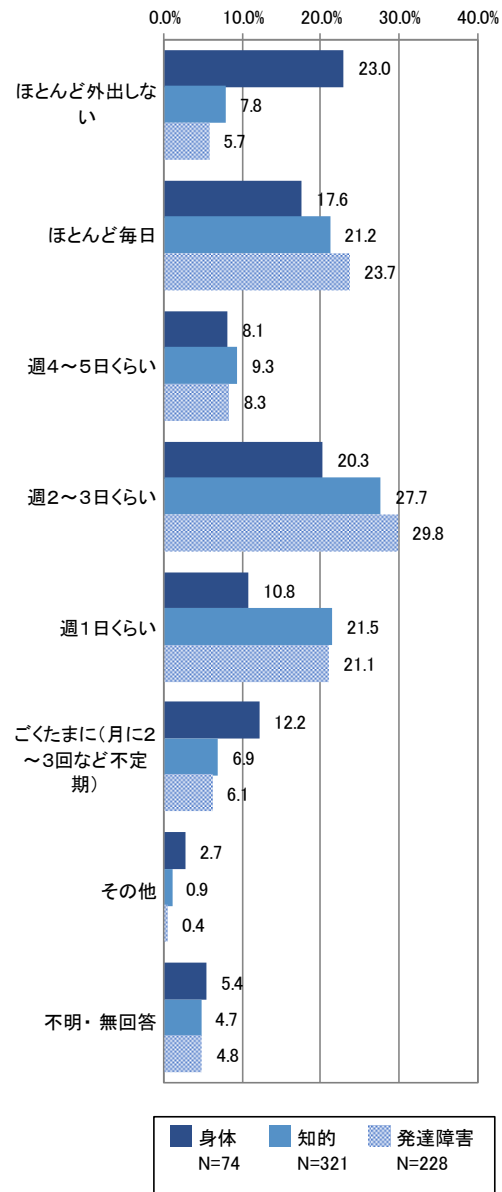
●18 歳以上の精神障害を除くいずれの障害においても「週2～3日くらい」が最も多く、精神障害では「ほとんど毎日」が最も多くなっている。18 歳未満の身体障害では「ほとんど外出しない」が最も多く、知的障害、発達障害では「週2～3日くらい」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、精神障害を除くいずれの障害においても「週2～3日くらい」が2割台前半で最も多く、精神障害では「ほとんど毎日」が2割台前半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、身体障害では「ほとんど外出しない」が2割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「週2～3日くらい」が2割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



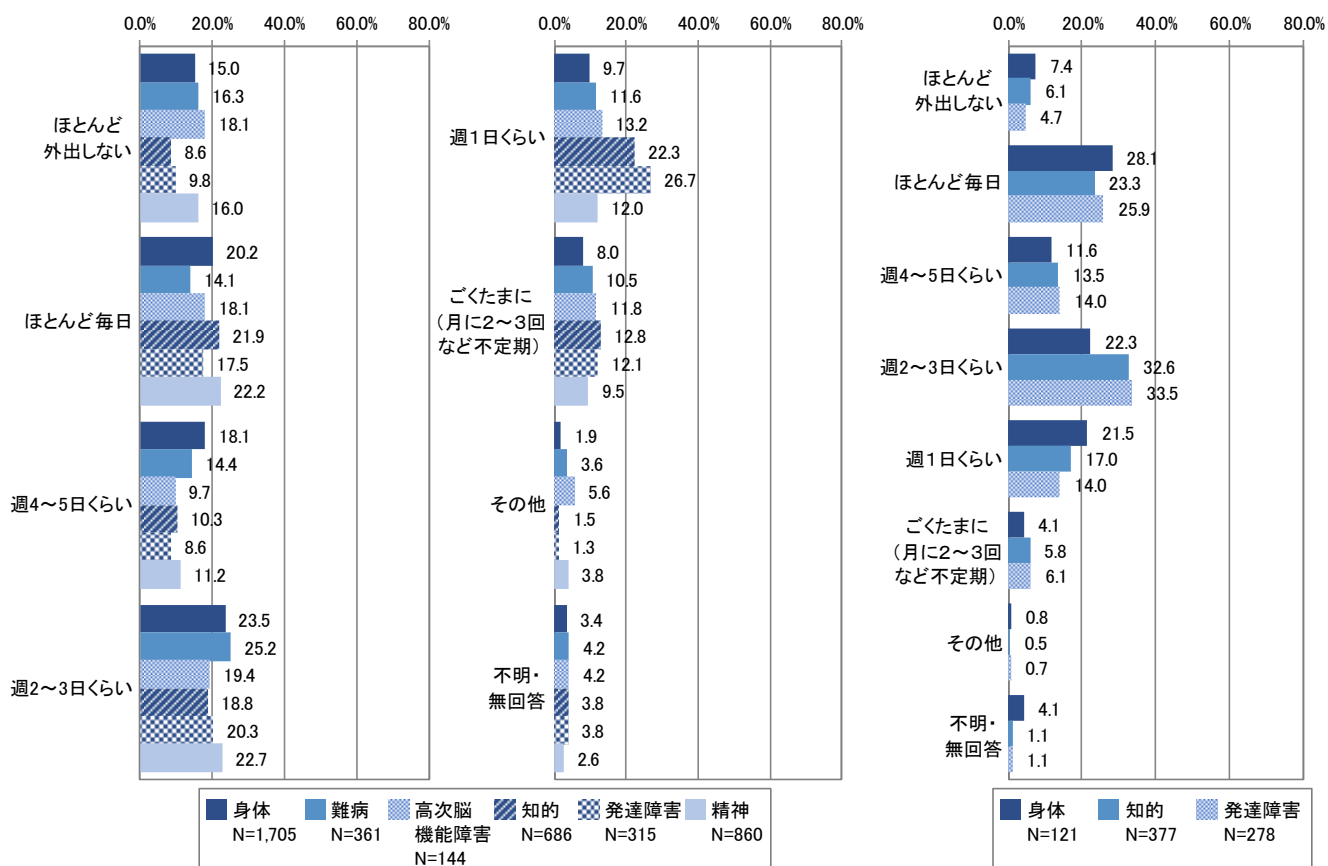
◇平成 26 年調査結果

前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害、精神障害では「週2～3日くらい」が1割台後半～2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「週1日くらい」が2割台前半～2割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、身体障害では「ほとんど毎日」が2割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「週2～3日くらい」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の知的障害では「ごくたまに（月に2～3回など不定期）」が 4.7 ポイント増加し、発達障害では「週1日くらい」が 8.2 ポイント減少、18 歳未満の身体障害では「ほとんど外出しない」が 15.6 ポイント増加し、「週1日くらい」が 10.7 ポイント減少しています。

【18 歳以上】

【18 歳未満】

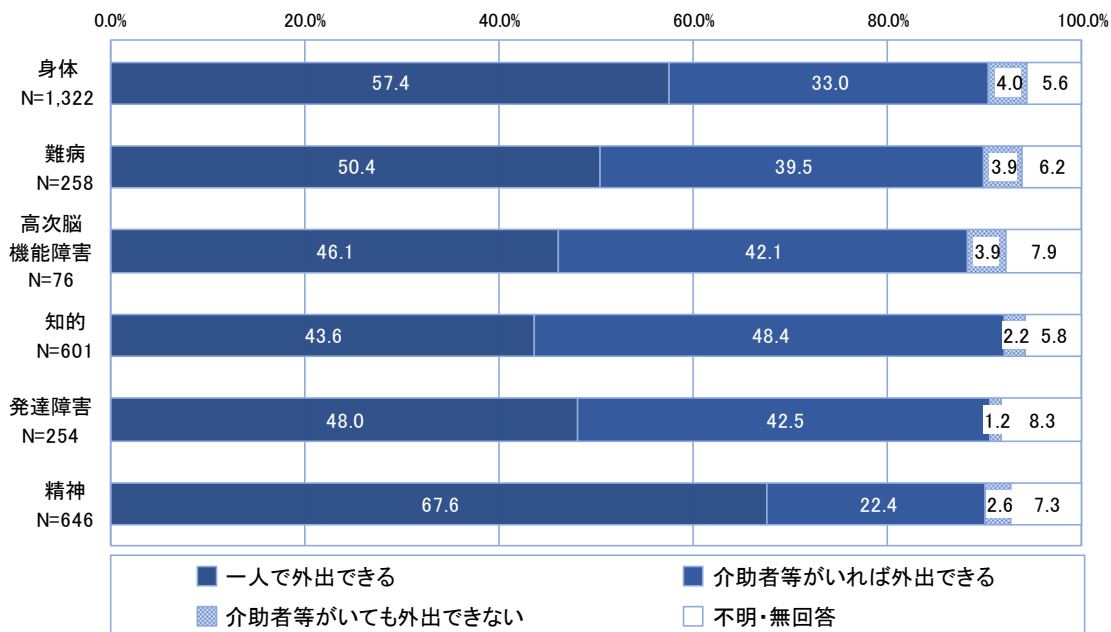


「あなた」は一人で外出することができますか。(単数回答)

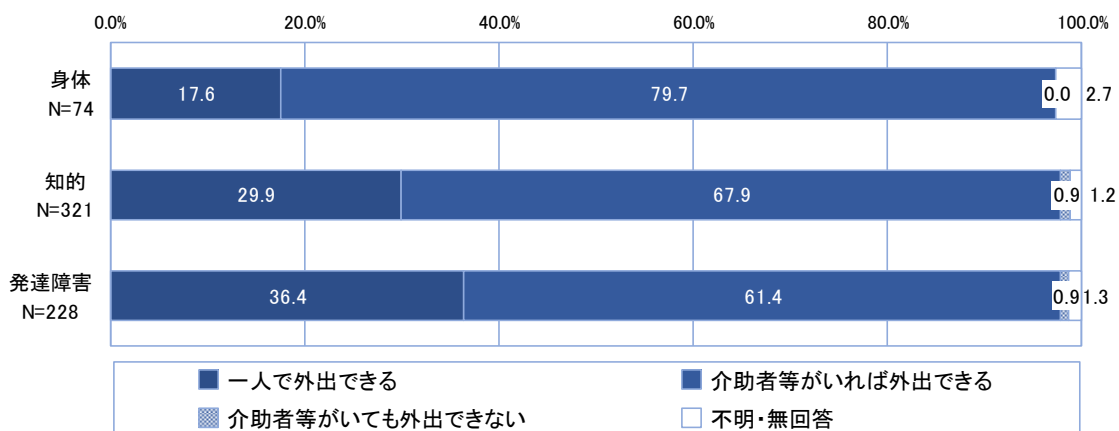
- 18 歳以上の知的障害を除くいずれの障害においても「一人で外出できる」が最も多く、知的障害では「介助者等がいれば外出できる」が最も多く、18 歳未満のいずれの障害においても「介助者等がいれば外出できる」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、知的障害を除くいずれの障害においても「一人で外出できる」が4割台半ば～6割台後半で最も多く、知的障害では「介助者等がいれば外出できる」が4割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「介助者等がいれば外出できる」が6割台前半～7割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



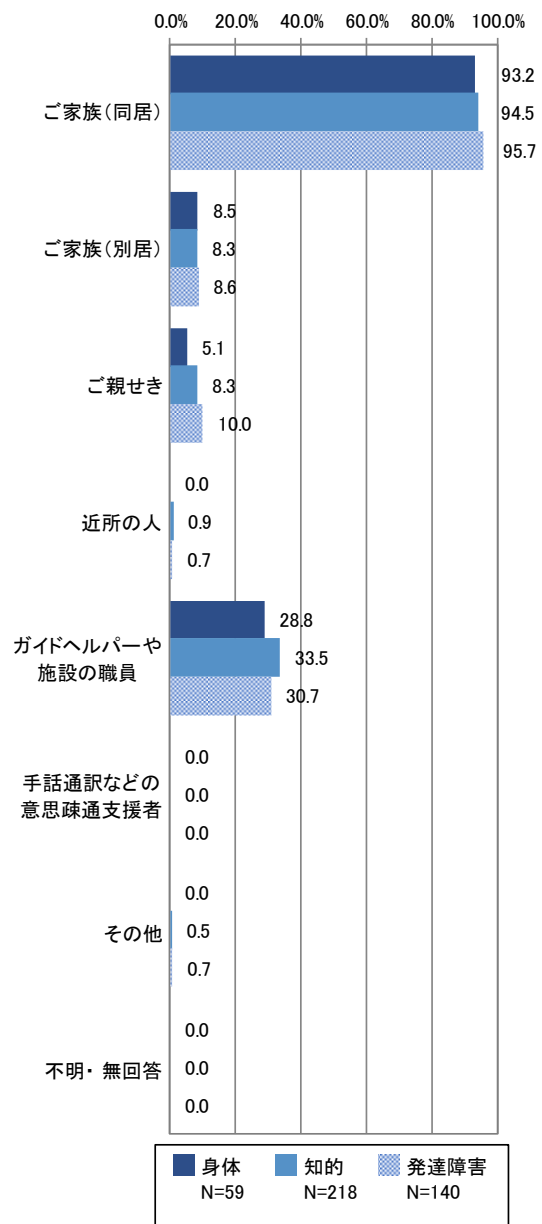
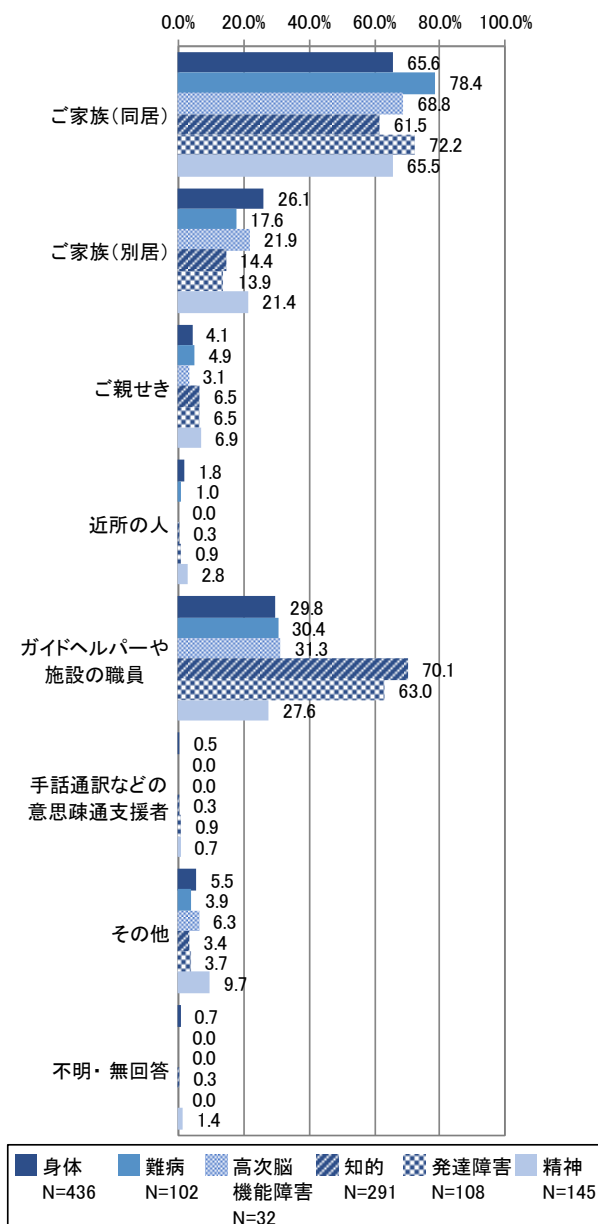
「あなた」が外出する際の主な同伴者や必要な支援者は誰ですか。（複数回答）

- 18歳以上の知的障害を除くいずれの障害においても「ご家族（同居）」が最も多く、知的障害では「ガイドヘルパーや施設の職員」が最も多くなっている。18歳未満のいずれの障害においても「ご家族（同居）」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、知的障害を除くいずれの障害においても「ご家族（同居）」が6割台半ば～7割台後半で最も多く、知的障害では「ガイドヘルパーや施設の職員」が7割台前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族（同居）」が9割台前半～9割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】

【18歳未満】



◇クロス集計：障害の種類×外出する際の同伴者・支援者

●18歳以上、18歳未満ともに「ご家族（同居）」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ご家族（同居）」が最も多くなっています。次いで、視覚障害、聴覚・平衡、内部障害（心臓、腎臓、呼吸器など）では「ご家族（別居）」が多く、音声・言語・そしゃく、肢体不自由では「ガイドヘルパーや施設の職員」が多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ご家族（同居）」が最も多くなっています。

【18歳以上】

単位：%

	ご家族 (同居)	ご家族 (別居)	ご親せき	近所の人	ガイドヘルパーや 施設の職員	手話通訳 などの意 思疎通支 援者	その他	不明・ 無回答
全体 N=820	64.0	21.5	4.6	1.6	42.8	0.2	5.1	0.6
視覚障害 N=2	51.0	39.2	3.9	3.9	37.3	0.0	7.8	0.0
聴覚・平衡 N=3	61.0	36.6	4.9	2.4	22.0	0.0	9.8	0.0
音声・言語・そしゃく N=4	65.1	16.3	4.7	0.0	34.9	2.3	4.7	2.3
肢体不自由 N=46	67.0	24.5	5.2	1.9	30.7	0.5	5.7	0.5
内部障害 (心臓、腎臓、呼吸器など) N=15	76.4	25.5	1.8	1.8	24.5	0.0	3.6	0.9

【18歳未満】

単位：%

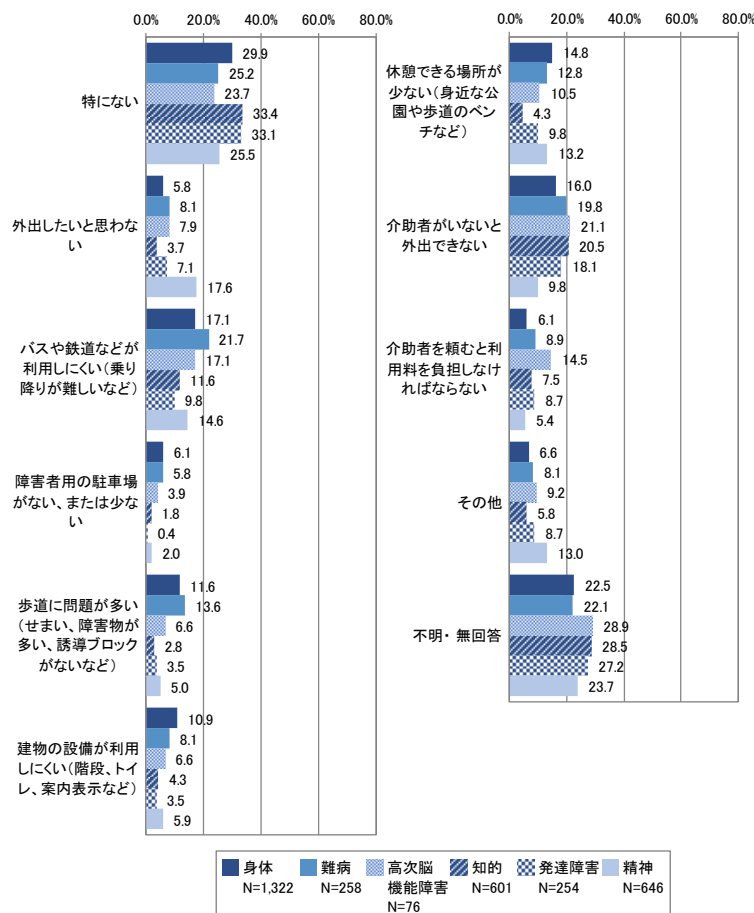
	ご家族 (同居)	ご家族 (別居)	ご親せき	近所の人	ガイドヘルパーや 施設の職員	手話通訳 などの意 思疎通支 援者	その他	不明・ 無回答
全体 N=233	94.8	8.2	8.2	0.9	32.2	0.0	0.4	0.0
視覚障害 N=2	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
聴覚・平衡 N=3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声・言語・そしゃく N=4	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
肢体不自由 N=46	93.5	8.7	6.5	0.0	32.6	0.0	0.0	0.0
内部障害 (心臓、腎臓、呼吸器など) N=15	93.3	13.3	6.7	0.0	26.7	0.0	0.0	0.0

「あなた」は外出のときに困ったり、外出しようと思ったときにとりやめたりすることはありますか。それはどのようなときですか。（複数回答）

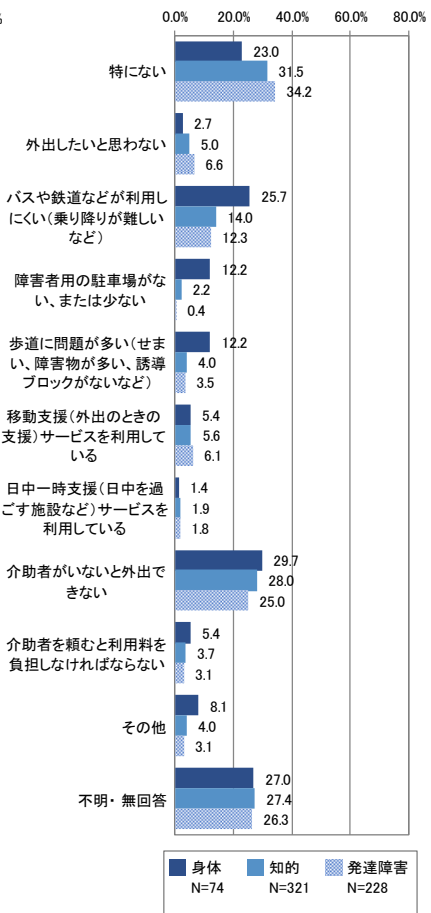
●18歳以上のいずれの障害においても「特にない」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「介助者がいないと外出できない」が最も多く、知的障害、発達障害では「特にない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「特にない」が2割台半ば～3割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「介助者がいないと外出できない」が2割台後半で最も多く、知的障害、発達障害では「特にない」が3割台前半～3割半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

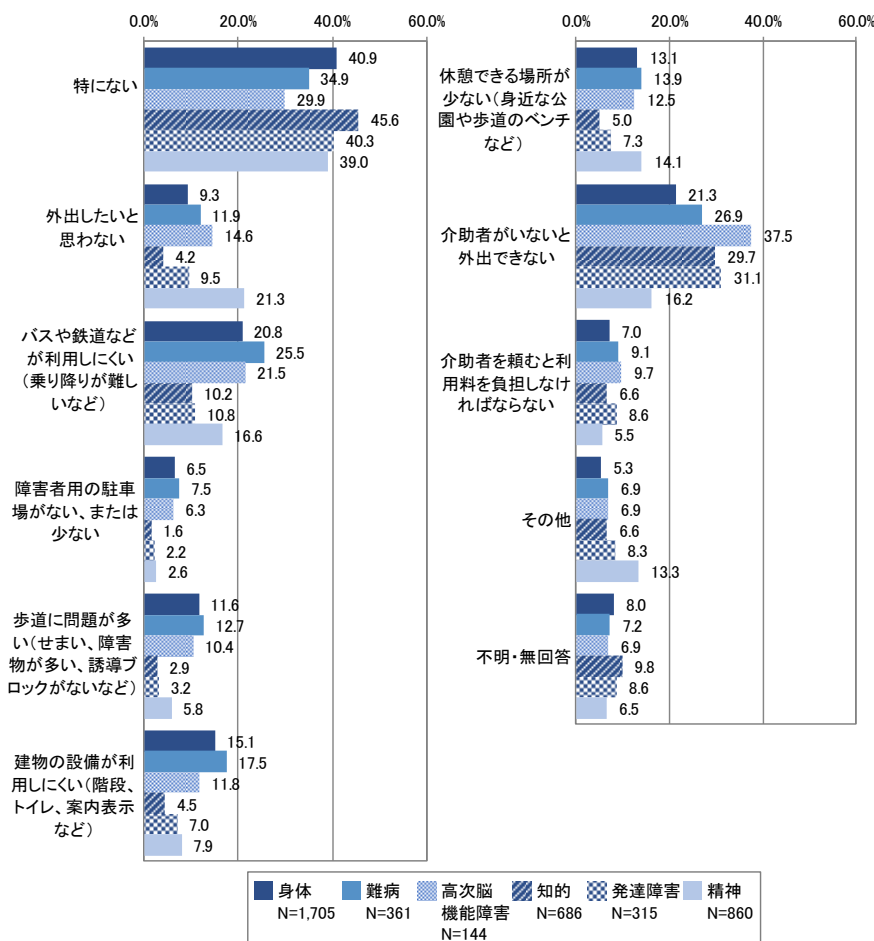


◇平成 26 年調査結果

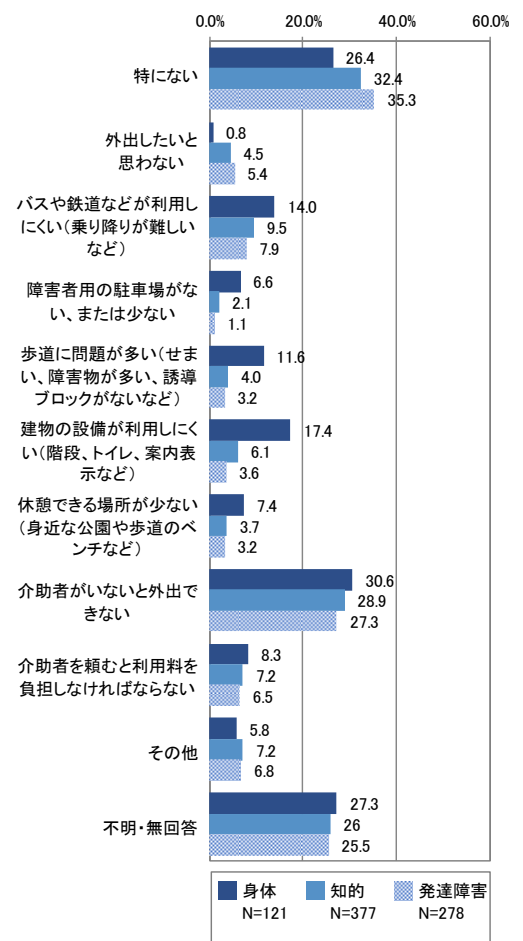
前回調査では、18 歳以上をみると、高次脳機能障害を除くいずれの障害においても「特にない」が3割台半ば～4割台半ばで最も多く、高次脳機能障害では「介助者がいないと外出できない」が3割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、身体障害では「介助者がいないと外出できない」が3割台前半で最も多く、知的障害、発達障害では「特にない」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の高次脳機能障害では「介助者を頼むと利用料を負担しなければならない」が 4.8 ポイント増加し、「介助者がいないと外出できない」が 16.4 ポイント減少、18 歳未満の身体障害では「バスや鉄道などが利用しにくい（乗り降りが難しいなど）」が 11.7 ポイント増加し、発達障害では「介助者を頼むと利用料を負担しなければならない」が 3.4 ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】



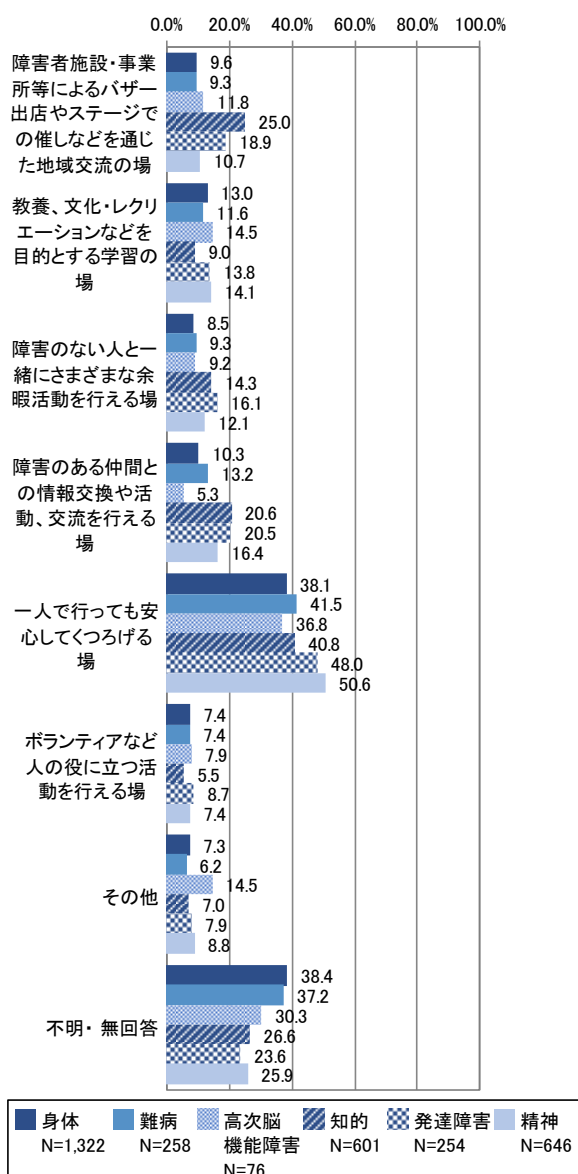
8. スポーツ・文化、社会参加活動について

平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。（複数回答）

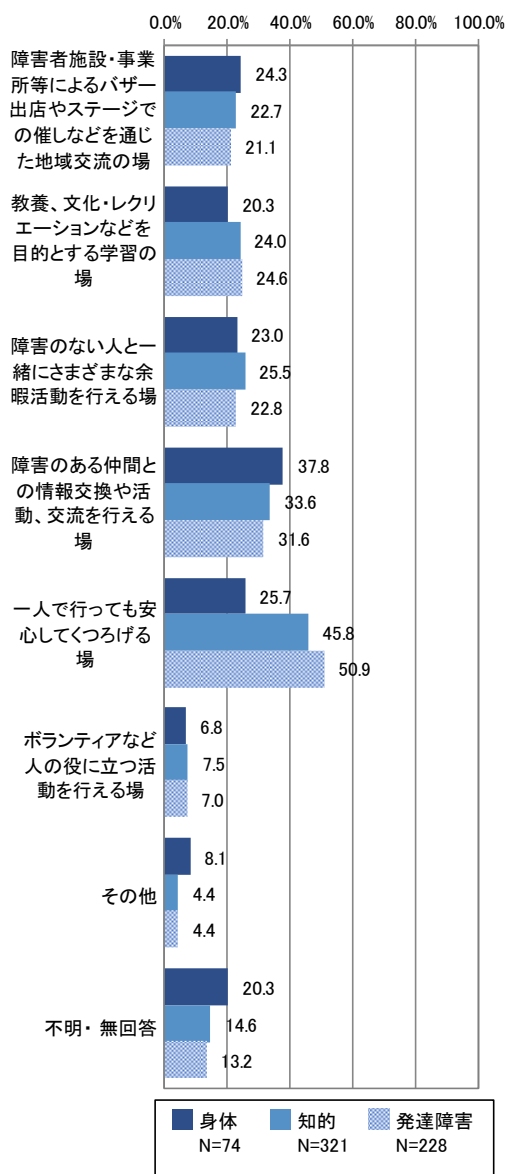
- 18歳以上のいずれの障害においても「一人で行っても安心してくつろげる場」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「障害のある仲間との情報交換や活動、交流を行える場」が最も多く、知的障害、発達障害では「一人で行っても安心してくつろげる場」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「一人で行っても安心してくつろげる場」が3割後半～5割前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「障害のある仲間との情報交換や活動、交流を行える場」が3割後半で最も多く、知的障害、発達障害では「一人で行っても安心してくつろげる場」が4割台半ば～5割台前半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

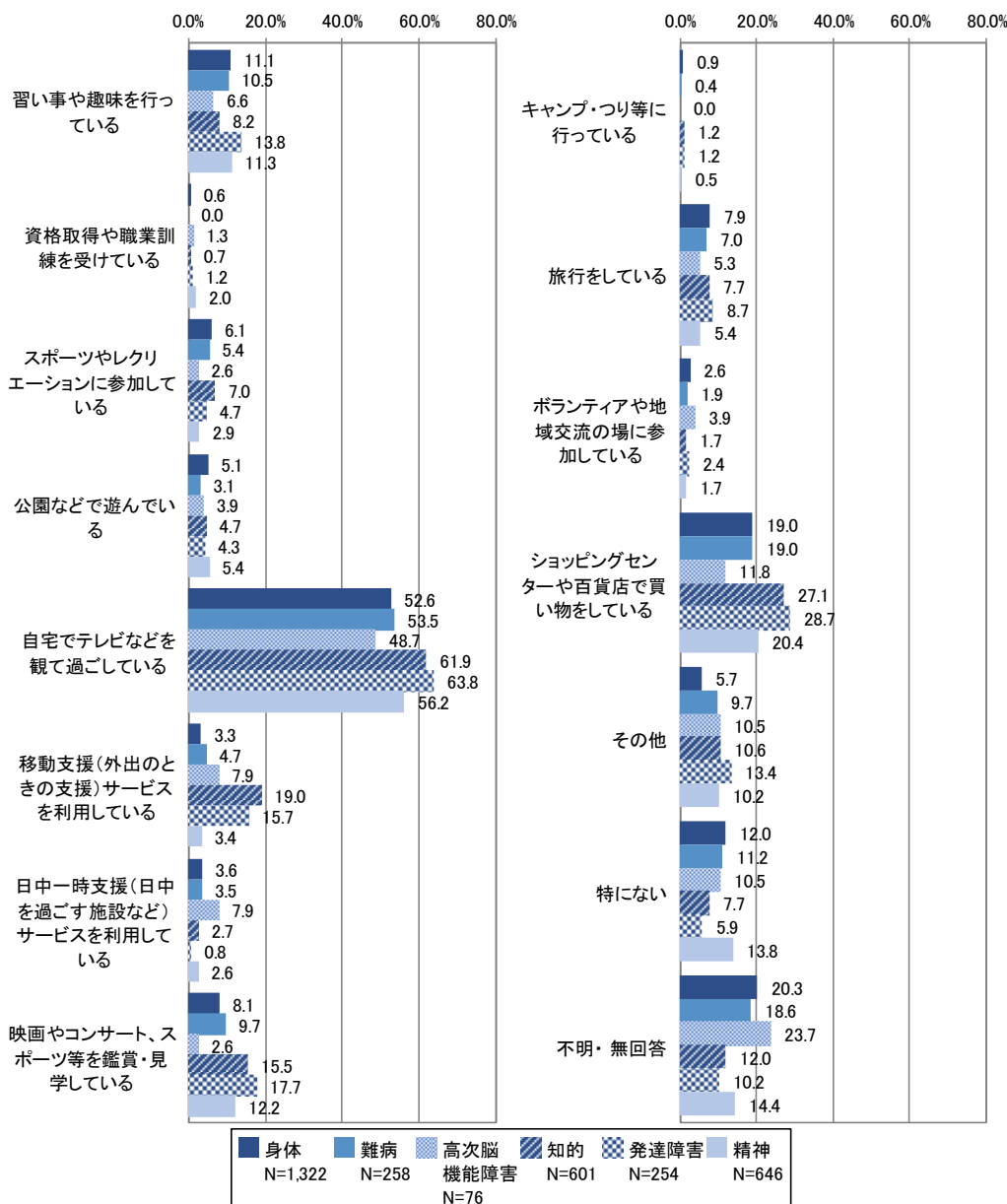


「あなた」の休暇、長期休暇（夏休み等）の主な過ごし方は次のうちのどれですか。
（複数回答）

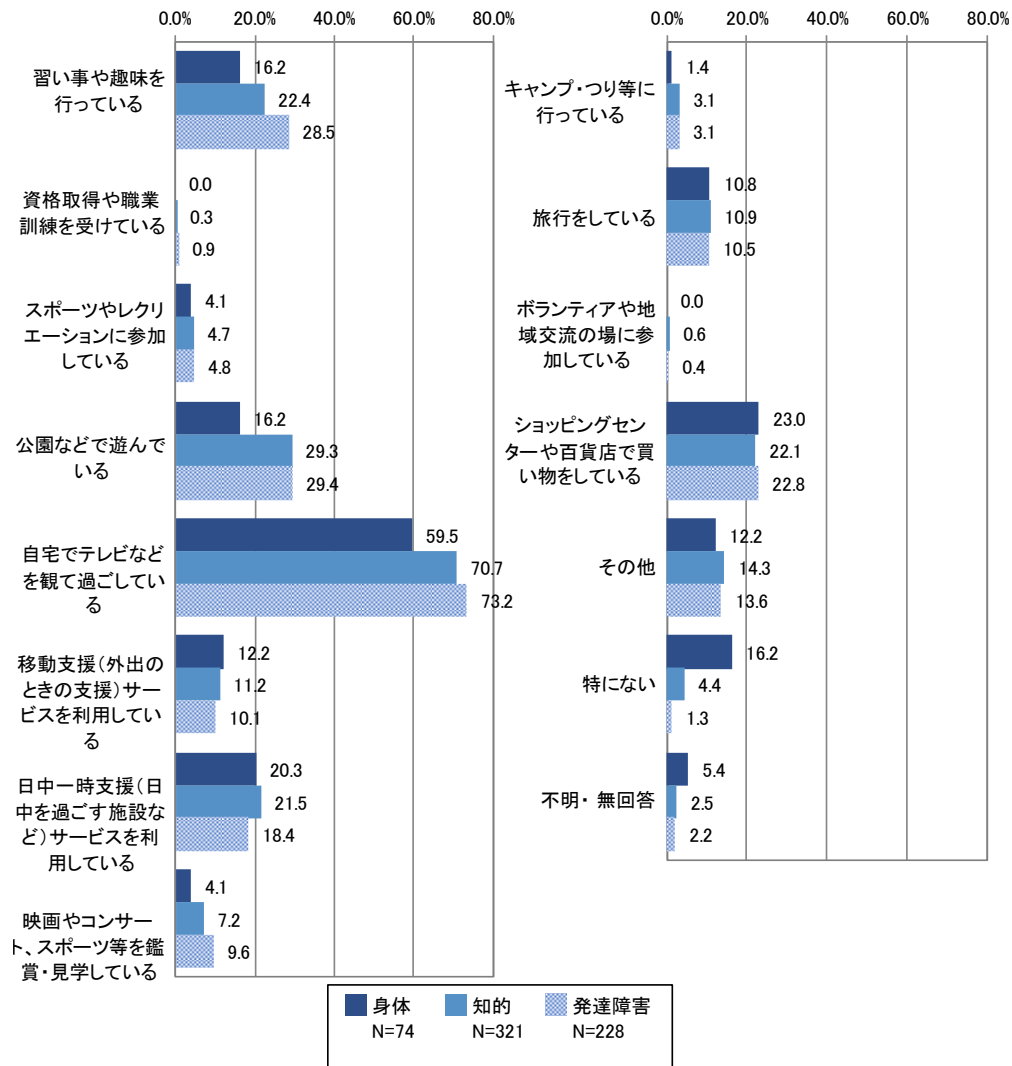
●18歳以上、18歳未満ともに「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が4割台後半～6割台半ばで最も多くなっています。次いで、「ショッピングセンターや百貨店で買い物をしている」が1割台前半～2割台後半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が5割台後半～7割台前半で最も多くなっています。次いで、身体障害では「ショッピングセンターや百貨店で買い物をしている」が2割台前半、知的障害、発達障害では「公園などで遊んでいる」が2割台後半となっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

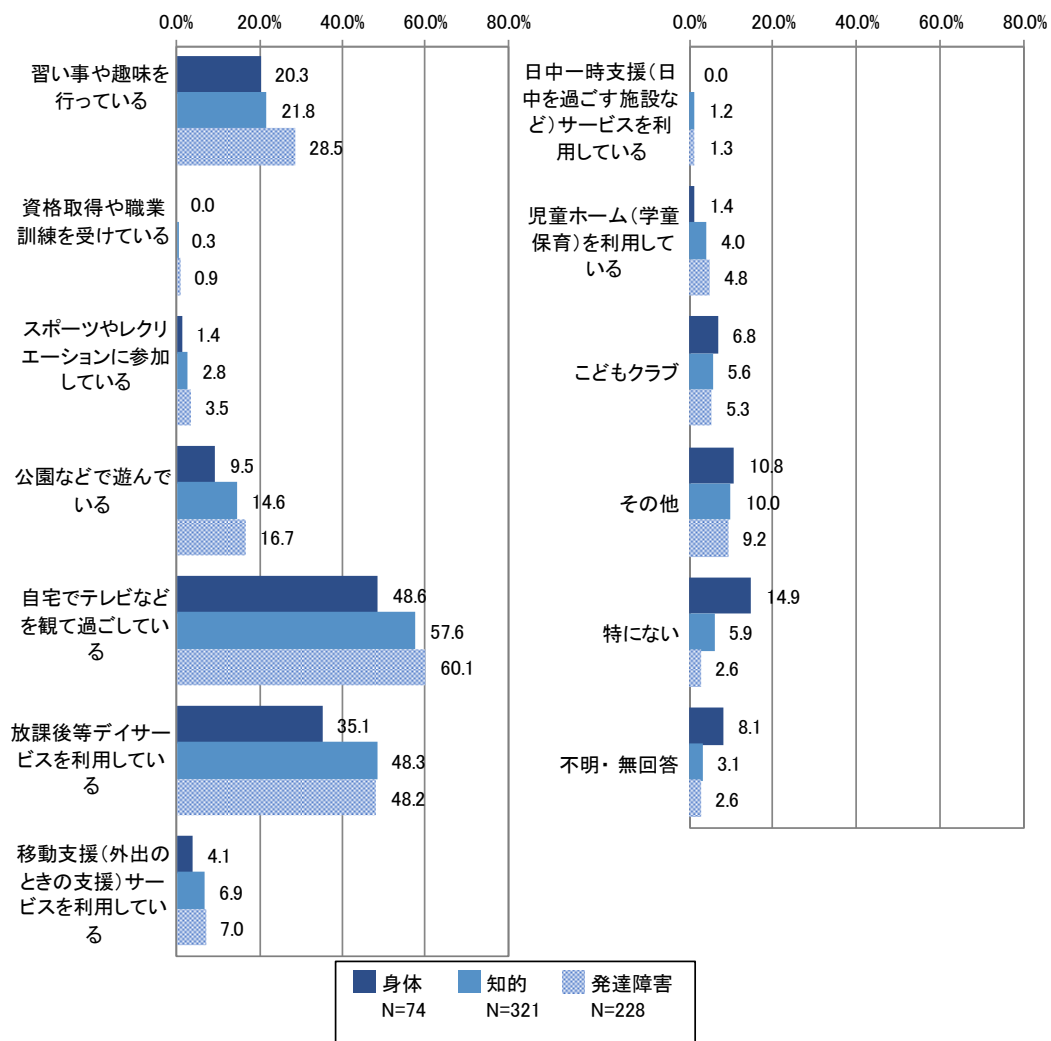


「あなた」の放課後等の主な過ごし方は次のうちのどれですか。（複数回答）

- 18 歳未満のいずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が最も多くなっている。

18 歳未満をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が4割台後半～6割台前半で最も多くなっています。次いで、「放課後等デイサービスを利用している」が3割台半ば～4割台後半となっています。

【18 歳未満】

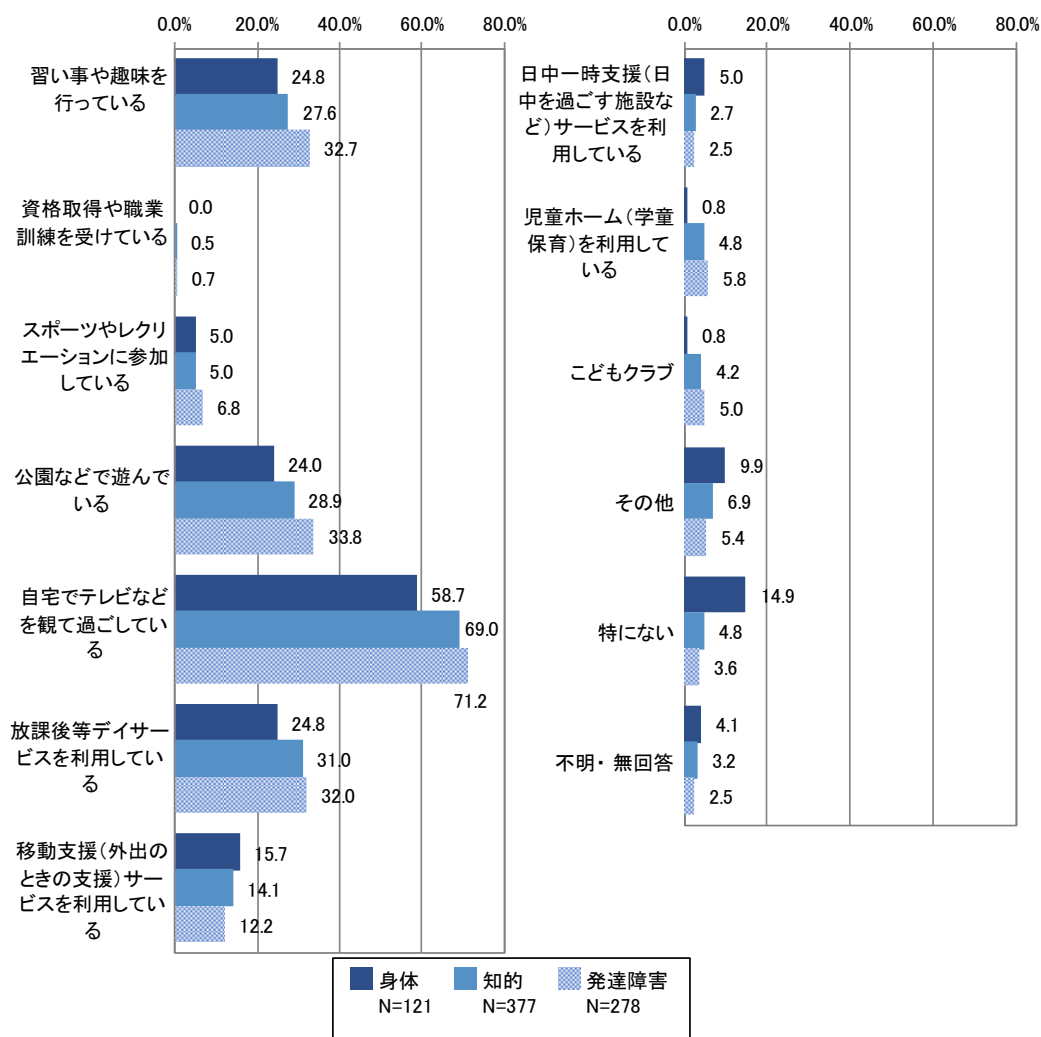


◇平成 26 年調査結果

前回調査では、18 歳未満をみると、いずれの障害においても「自宅でテレビなどを観て過ごしている」が5割台後半～7割台前半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳未満をみると、知的障害では「放課後等デイサービスを利用している」が 17.3 ポイント増加し、発達障害の「公園などで遊んでいる」が 17.1 ポイント減少しています。

【18 歳未満】



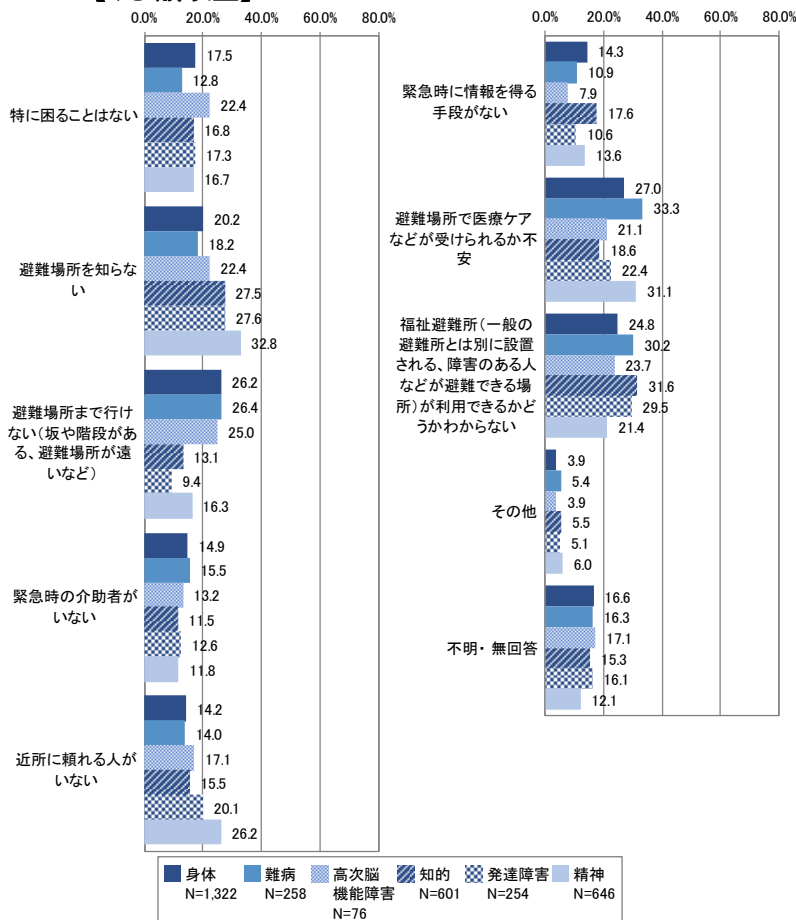
9. 安全・安心について

「あなた」が地震など災害のときに困ることは何ですか。(複数回答)

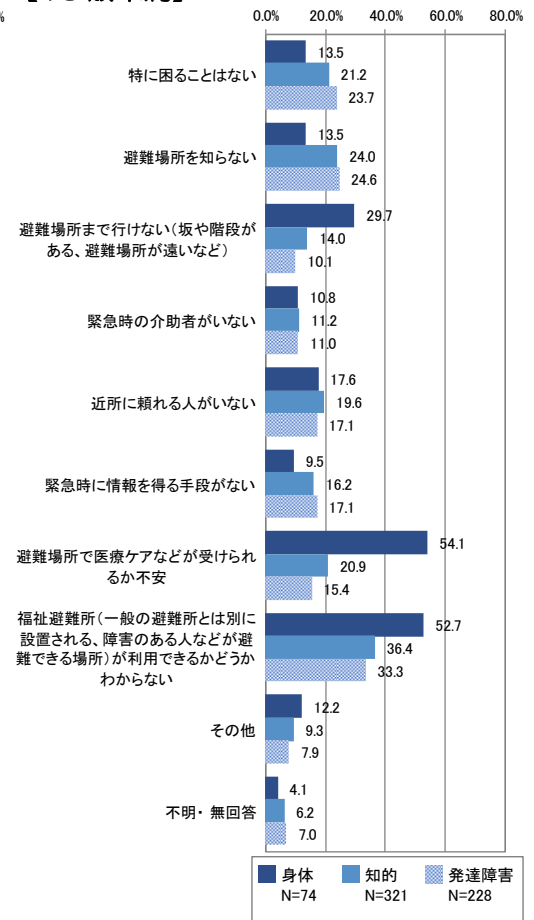
- 18歳以上の身体障害、難病では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が最も多く、高次脳機能障害では「避難場所まで行けない」が最も多く、知的障害、発達障害では「福祉避難所が利用できるかどうか分からない」が最も多く、精神障害が「避難場所を知らない」が最も多くなっている。18歳未満の身体障害では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が最も多く、知的障害、発達障害では「福祉避難所が利用できるかどうか分からない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、難病では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が2割後半～3割前半で最も多く、高次脳機能障害では「避難場所まで行けない(坂や階段がある、避難場所が遠いなど)」が2割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「福祉避難所(一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所)が利用できるかどうか分からない」が2割後半～3割前半で最も多く、精神障害では「避難場所を知らない」が3割前半で最も多くなっています。18歳未満をみると、身体障害では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が5割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害では「福祉避難所(一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所)が利用できるかどうか分からない」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



【全体】

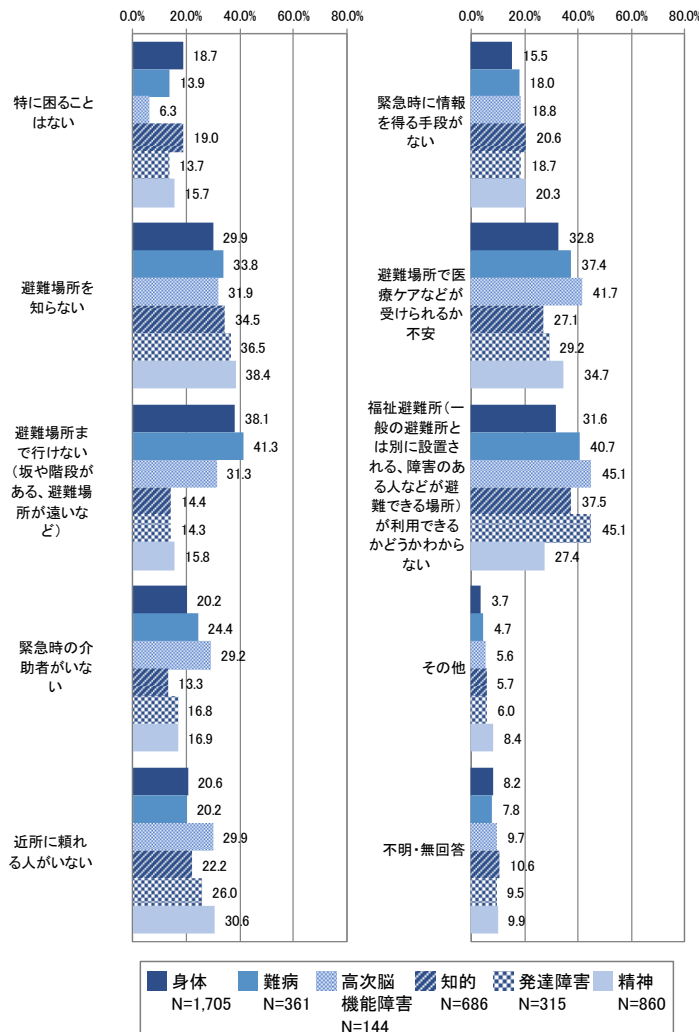
「避難場所を知らない」(全体 N=3,780) 24.4%

◇平成 26 年調査結果

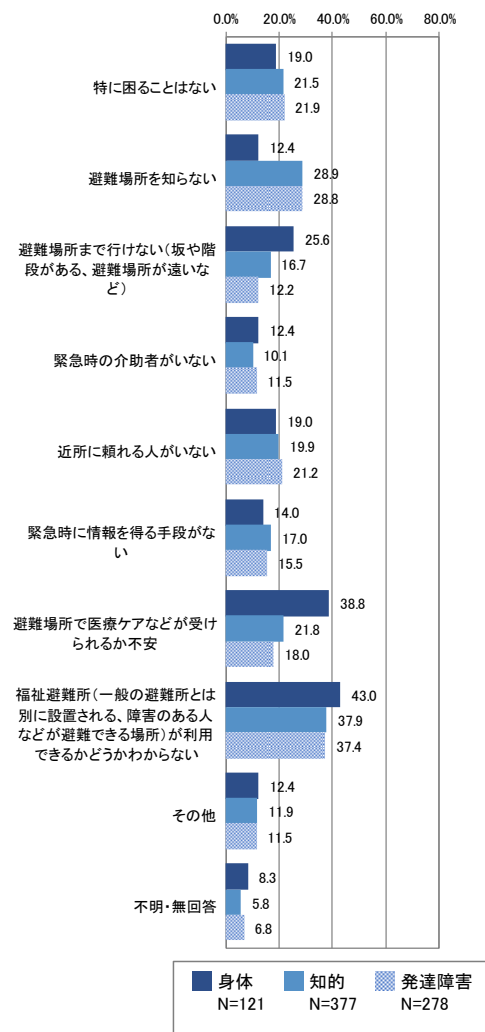
前回調査では、18 歳以上をみると、身体障害、難病では「避難場所まで行けない（坂や階段がある、避難場所が遠いなど）」が3割台後半～4割台前半で最も多く、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「福祉避難所（一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所）が利用できるかどうかわからない」が3割台後半～4割台半ばで最も多く、精神障害では「避難場所を知らない」が3割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「福祉避難所（一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所）が利用できるかどうかわからない」が3割台後半～4割台前半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べて 18 歳以上の高次脳機能障害では「特に困ることはない」が 16.1 ポイント増加し、「福祉避難所（一般の避難所とは別に設置される、障害のある人などが避難できる場所）が利用できるかどうかわからない」が 21.4 ポイント減少、18 歳未満の身体障害では「避難場所で医療ケアなどが受けられるか不安」が 15.3 ポイント増加し、「特に困ることはない」が 5.5 ポイント減少しています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】

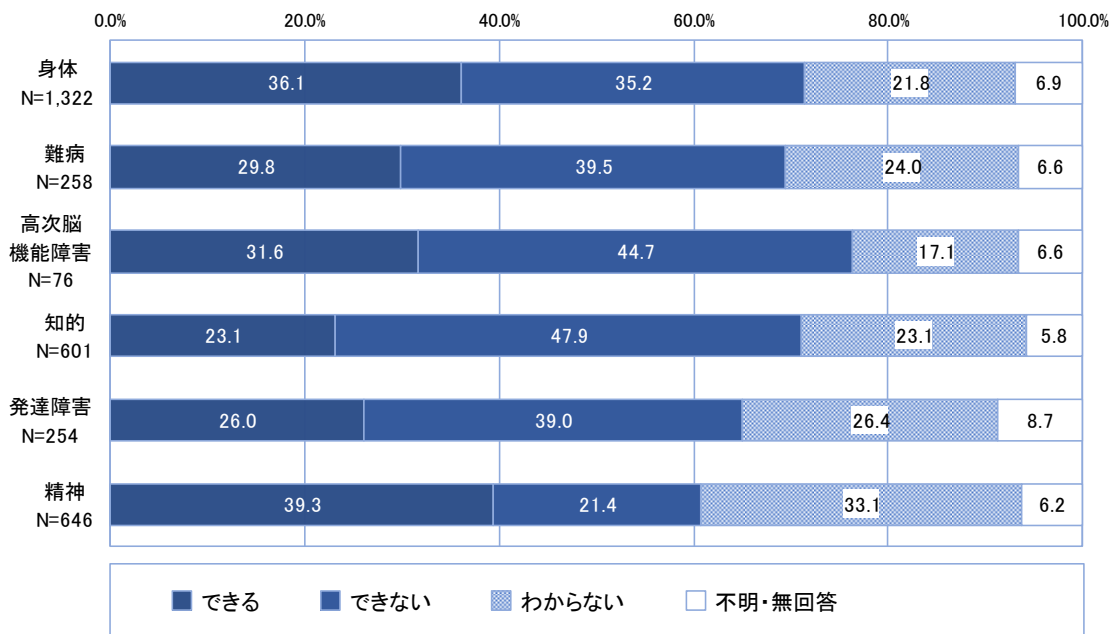


「あなた」は、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。(単数回答)

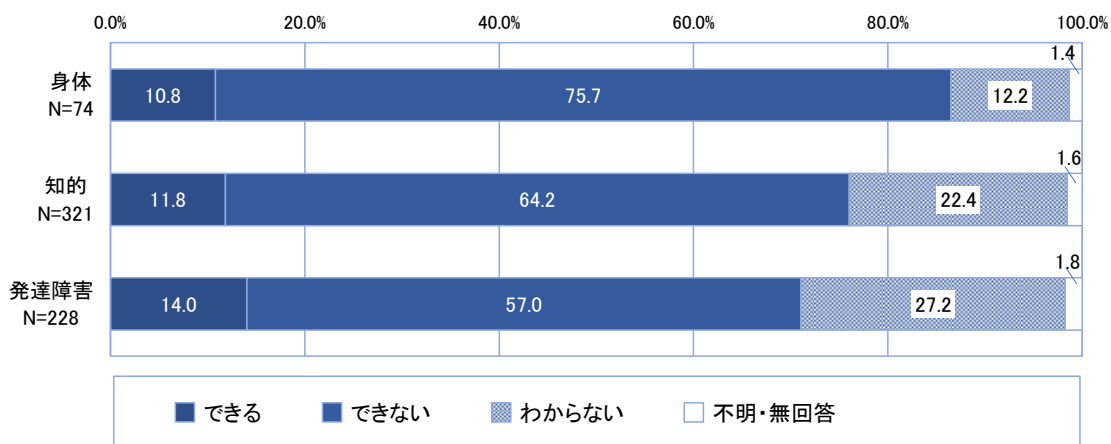
- 18 歳以上の身体障害、精神障害では「できる」が最も多く、難病、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「できない」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「できない」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、精神障害では「できる」が3割台半ば～3割台後半で最も多く、難病、高次脳機能障害、知的障害、発達障害では「できない」が3割台後半～4割台後半で最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「できない」が5割台後半～7割台半ばで最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】

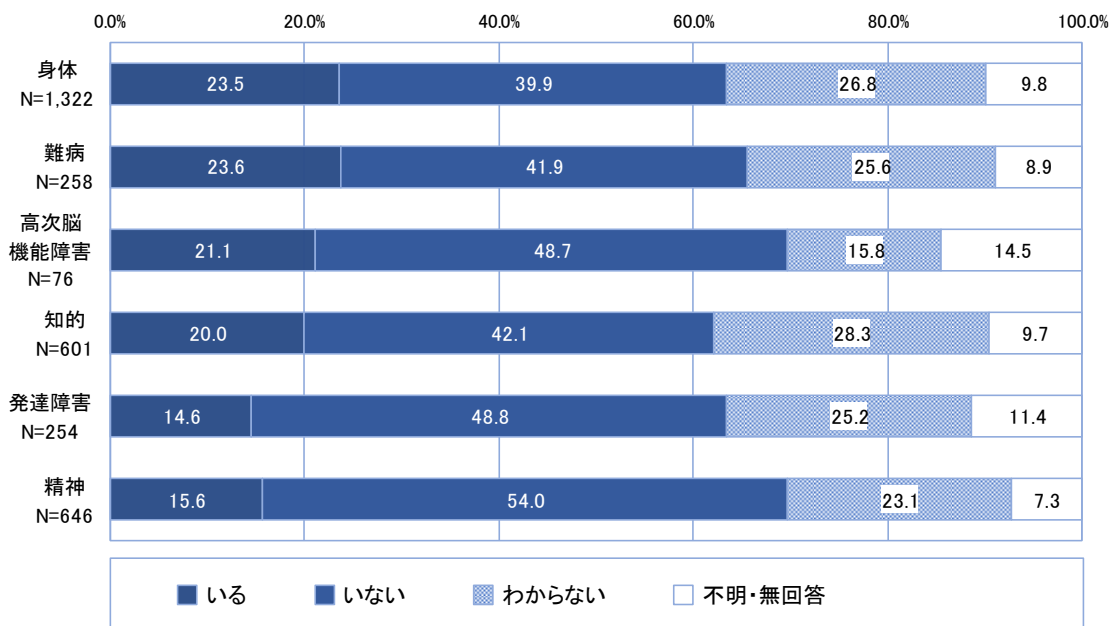


ご家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所に「あなた」を助けてくれる人はいますか。(単数回答)

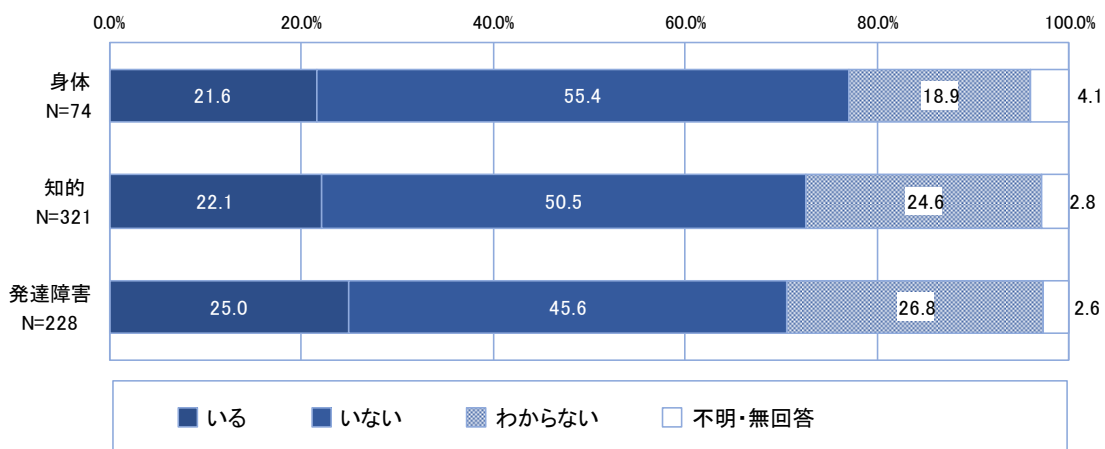
●18歳以上、18歳未満ともに「いない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「いない」が3割台後半～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害、難病、知的障害、発達障害、精神障害では「わからない」が2割台前半～2割台後半、高次脳機能障害では「いる」が2割台前半となっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「いない」が4割台半ば～5割台半ばで最も多くなっています。次いで、身体障害では「いる」が2割台前半、知的障害、発達障害では「わからない」が2割台半ば～2割台後半となっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

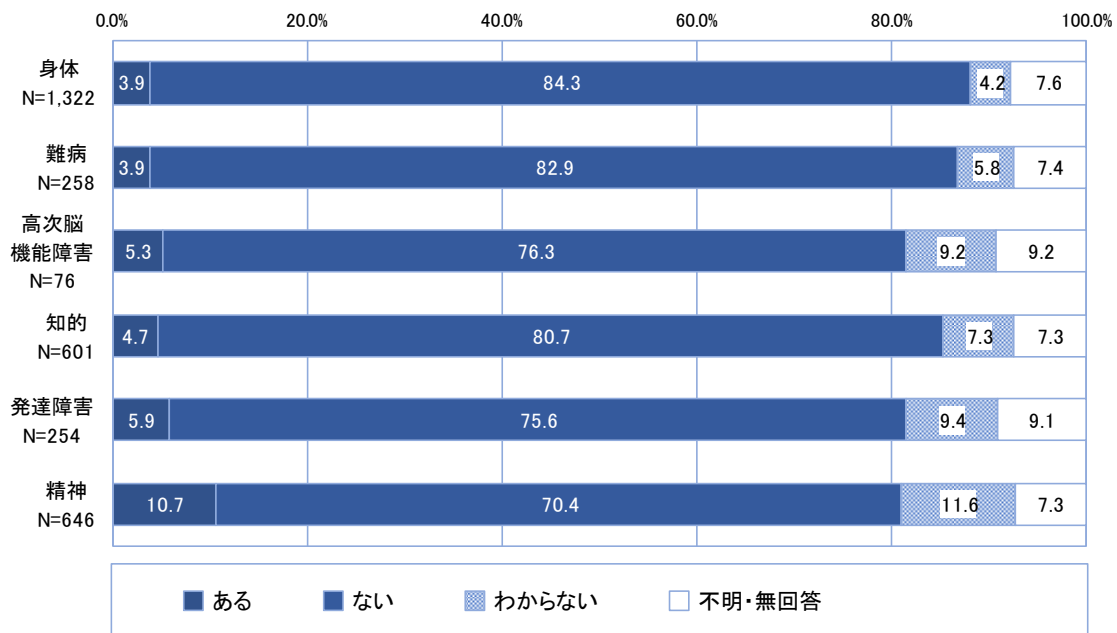


「あなた」は、これまでに悪徳商法などの消費者トラブルに巻き込まれたことがありますか。(単数回答)

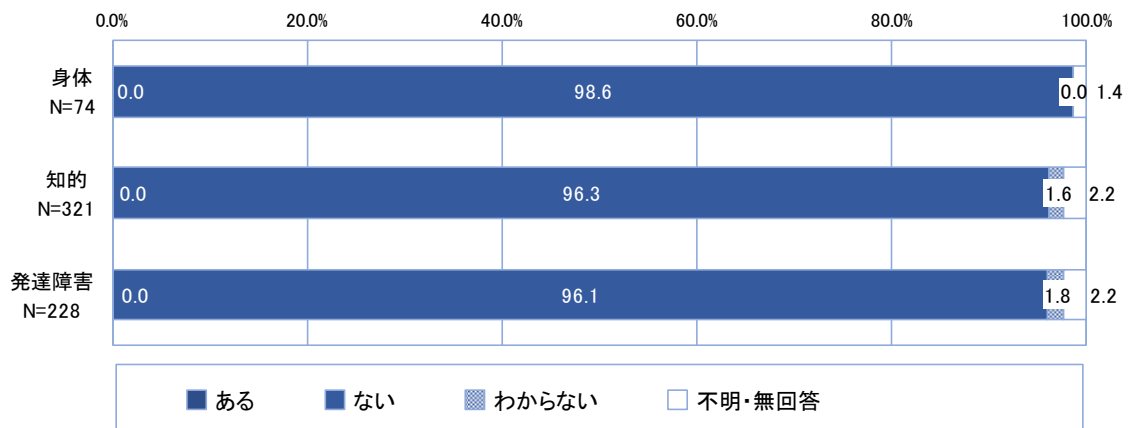
●18歳以上、18歳未満ともに「ない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「ない」が7割台前半～8割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「ない」が9割台半ば～9割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】



補問：消費者トラブルの内容・結果（自由記述）

- 18歳以上の身体障害・知的障害・難病、精神障害では「ネガティブオプション」が15件、16件で最も多くなっている。18歳未満では「その他・意見・要望など」が1件となっている。

18歳以上をみると、身体障害・知的障害・難病、精神障害では「ネガティブオプション」が15件、16件で最も多くなっています。次いで、「電子商取引」が13件、11件となっています。18歳未満をみると、「その他・意見・要望など」が1件となっています。

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
家庭訪販	2	0	0	2
身分詐称	0	1	0	1
電話勧誘	12	6	0	18
点検商法	4	4	0	8
キャッチセールス	0	1	0	1
利殖商法	5	2	0	7
電子商取引	13	11	0	24
ネガティブオプション	15	16	0	31
紹介販売	0	2	0	2
開運商法	1	0	0	1
その他・意見・要望など	2	2	1	5
合計	54	45	1	100

※高次脳機能障害及び発達障害は、18歳以上の「身体障害・知的障害・難病」及び「精神障害」に含まれています。

※消費者トラブルの名称について

家庭訪販：販売員が消費者の家庭を訪問し、商品・サービスを販売するもの

身分詐称（かたり商法）：あたかも公的機関や有名企業の職員、関係者であるかのように装い売りつける商法

電話勧誘：販売員が消費者の職場や家庭等へ電話で勧誘し、商品・サービスを販売するもの

点検商法：「点検に来た」といって来訪し、「布団にダニがいる」「工事をしないと危険」などと、事実と異なることをいい新品や別の商品・サービス等を契約させる商法

キャッチセールス：駅や繁華街の路上で呼び止めて喫茶店や営業所に連れて行き、応じるまで解放しない雰囲気の商品・サービスの契約をさせるもの

利殖商法：「高利回り」など利殖になることを強調して投資や出資を勧誘する商法

電子商取引：オンラインショッピング、インターネット等のネットワーク上で行う取引

ネガティブオプション：商品を一方的に送りつけ、消費者が受け取った以上、支払わなければならないと勘違いして支払うことを狙った商法

紹介販売：商品・サービスを購入した人に、知人など他の人を紹介させて販売を拡大する販売システム

開運商法：「購入しなければ不幸になる」などと不安をあおり、それを解消するために必要と、商品（つぼや数珠）や祈祷などを契約させる商法

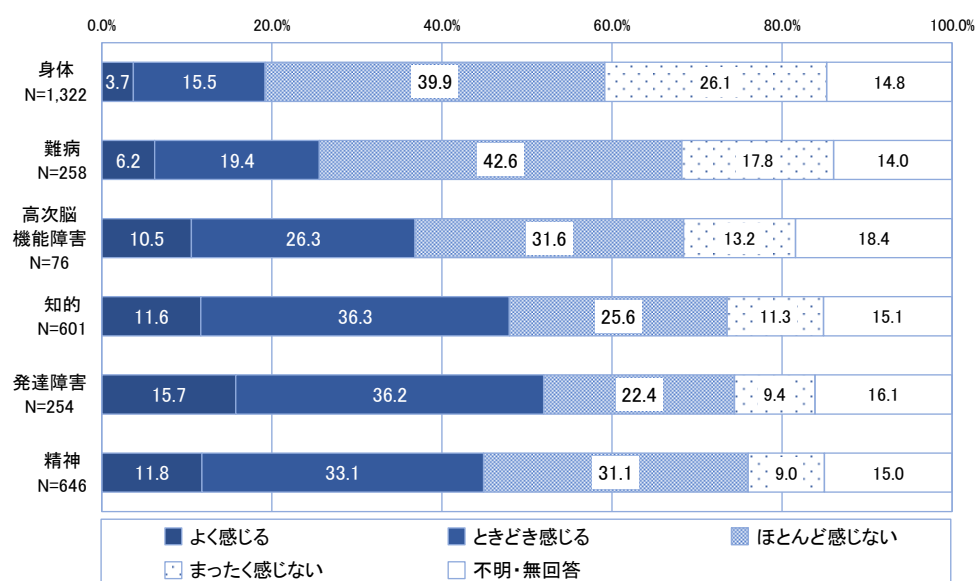
10. 情報、啓発・差別の解消について

「あなた」は日常生活において、障害があるために差別や偏見を感じることはありませんか。(単数回答)

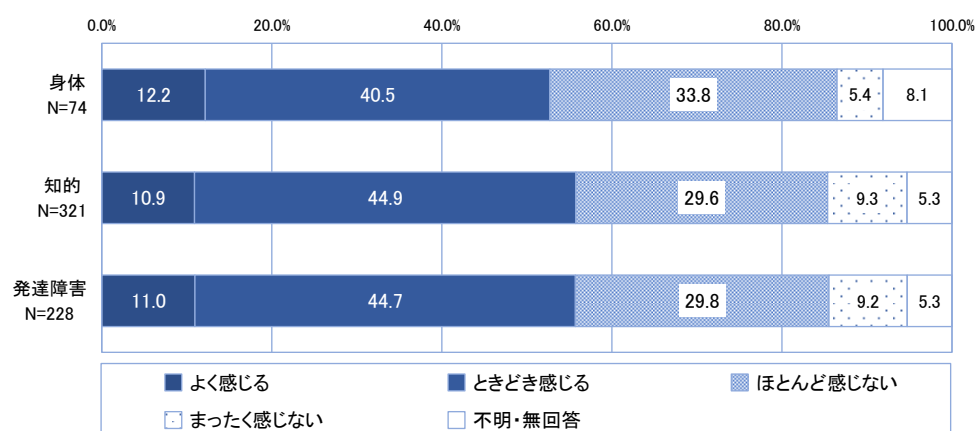
- 18 歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害では「ほとんど感じない」が最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「ときどき感じる」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「ときどき感じる」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「ほとんど感じない」が3割台前半～4割台前半で最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「ときどき感じる」が3割台前半～3割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「ときどき感じる」が4割台前半～4割台半ばで最も多くなっています。

【18 歳以上】



【18 歳未満】

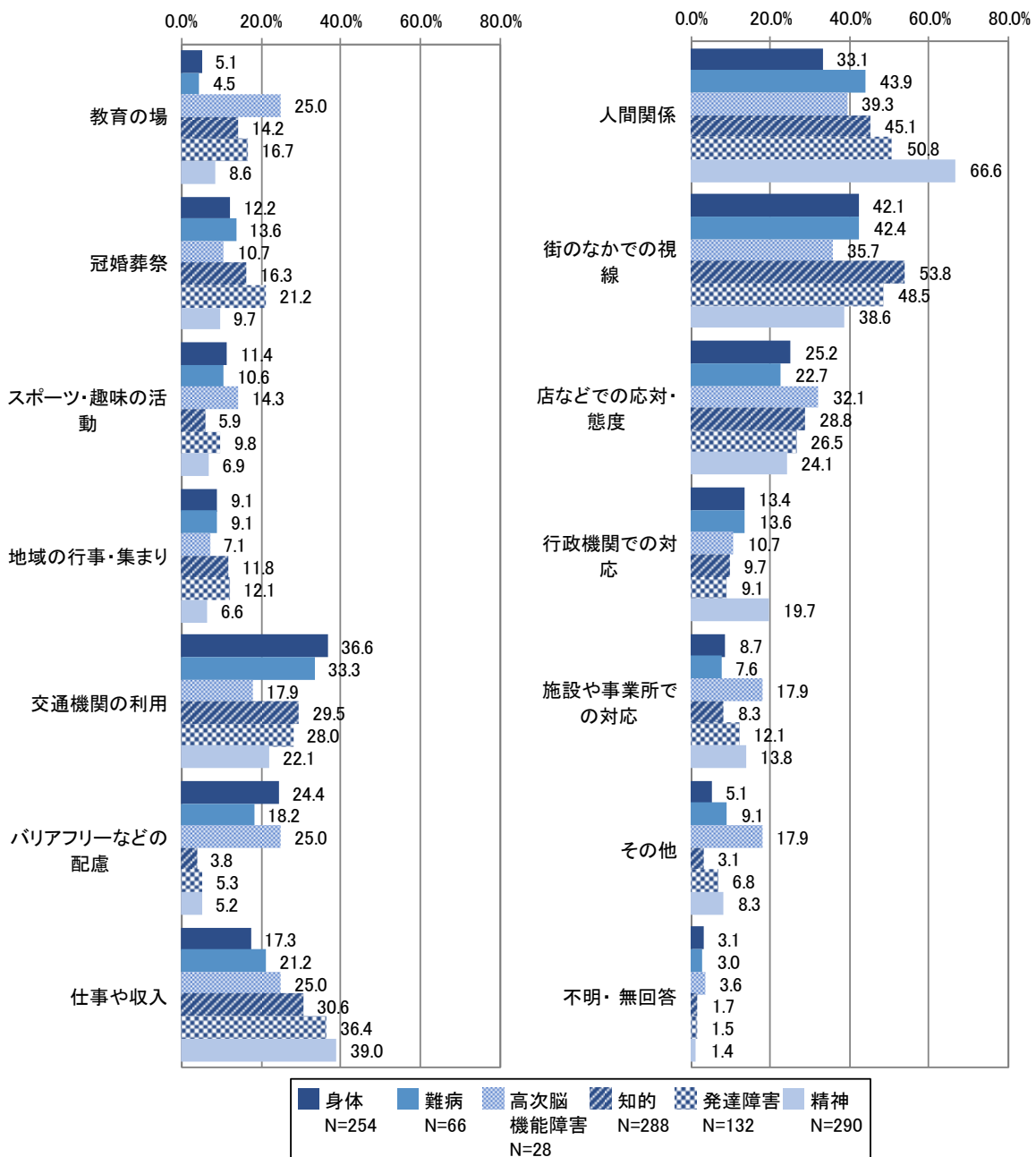


差別や偏見を感じると回答された方におたずねします。「あなた」は、どのようなときにそれを感じましたか。(複数回答)

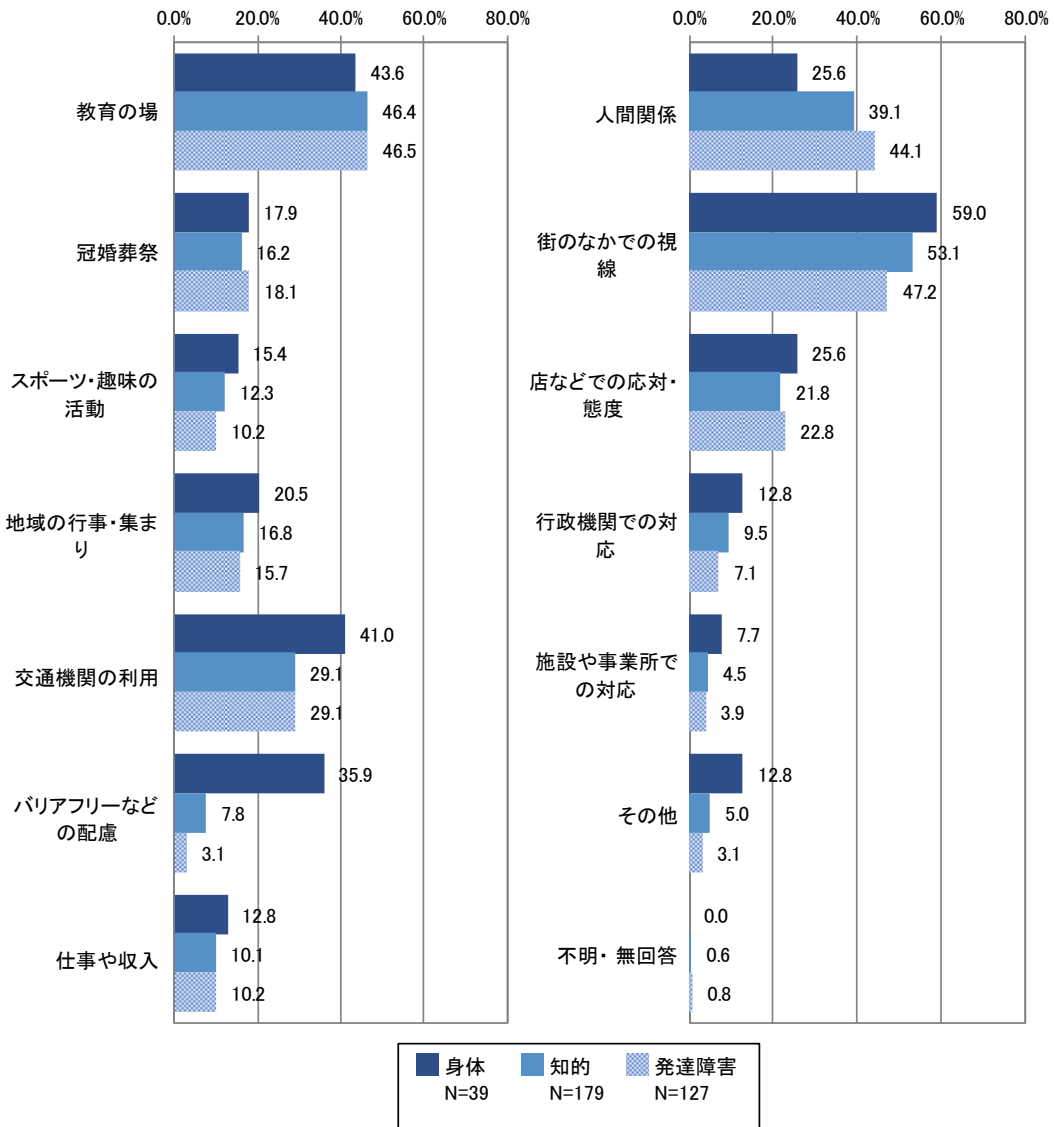
●18歳以上の身体障害、知的障害では「街のなかでの視線」が最も多く、難病、高次脳機能障害、発達障害、精神障害では「人間関係」が最も多くなっている。18歳未満のいずれの障害においても「街のなかでの視線」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、身体障害、知的障害では「街のなかでの視線」が4割前半～5割台半ばで最も多く、難病、高次脳機能障害、発達障害、精神障害では「人間関係」が3割台後半～6割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「街のなかでの視線」が4割台後半～5割台後半で最も多くなっています。

【18歳以上】



【18歳未満】

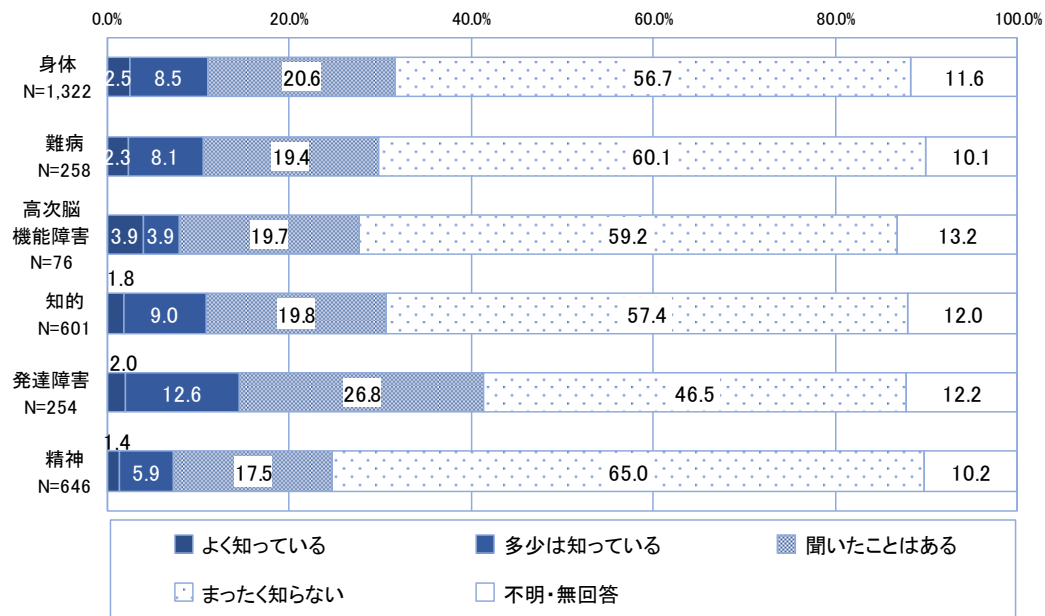


「あなた」は障害者差別解消法（障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律）についてご存知ですか。（単数回答）

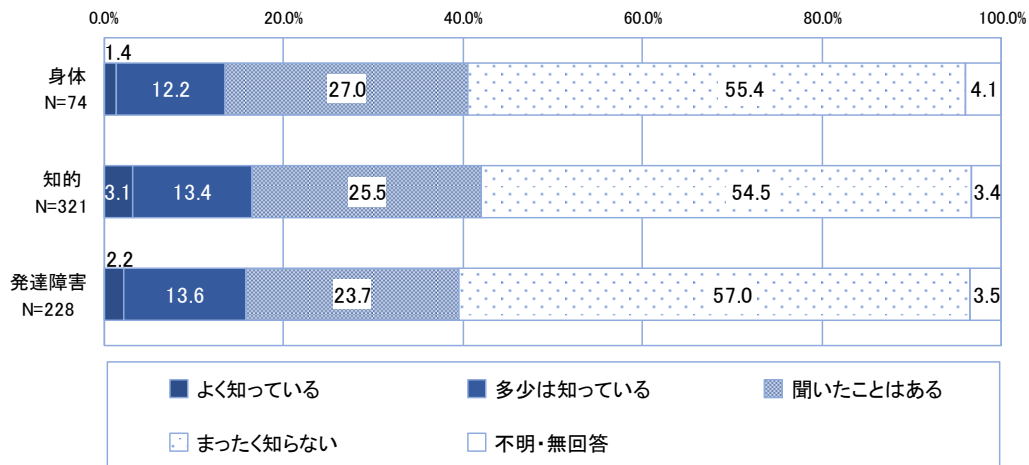
●18歳以上、18歳未満ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が4割台半ば～6割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が5割台半ば～5割台後半で最も多くなっています。

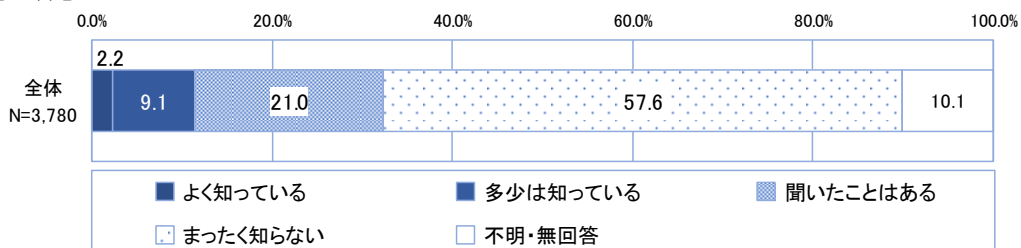
【18歳以上】



【18歳未満】



【全体】



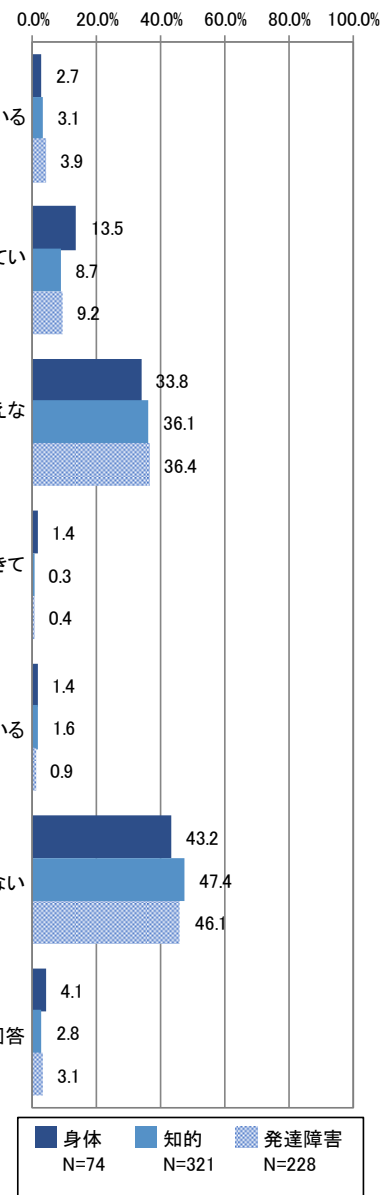
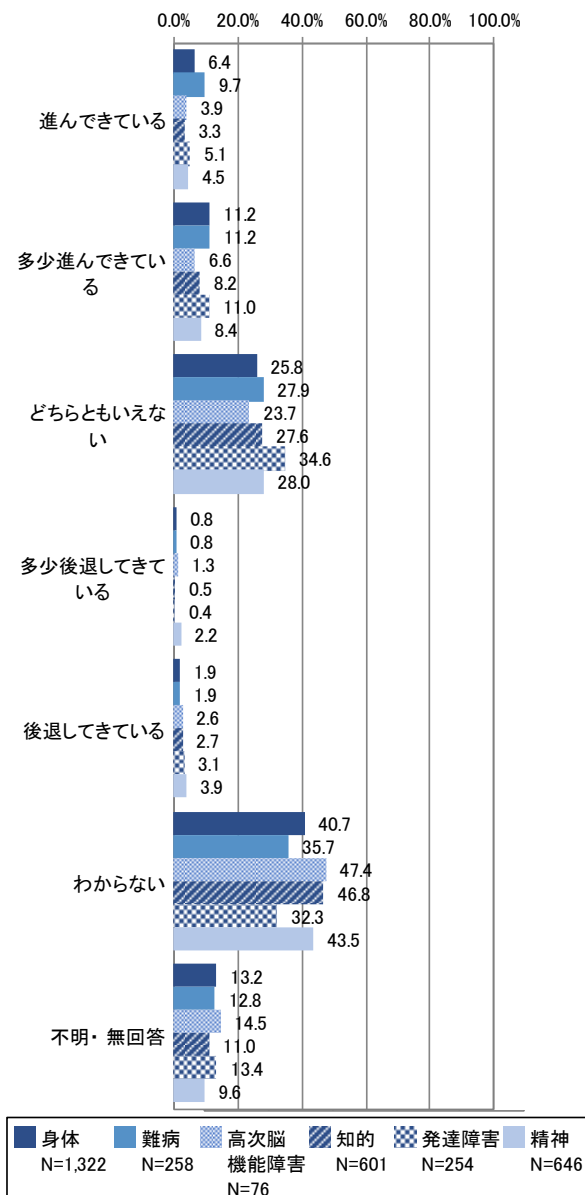
「あなた」は以前（3年前のアンケート調査時）と比べて、「障害」や「難病」に対する市民の理解が進んできていると思いますか。（単数回答）

- 18 歳以上の発達障害を除くいずれの障害においても「わからない」が最も多く、発達障害では「どちらともいえない」が最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「わからない」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、発達障害を除くいずれの障害においても「わからない」が3割台半ば～4割台後半で最も多く、発達障害では「どちらともいえない」が3割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「わからない」が4割台前半～4割台後半で最も多くなっています。

【18 歳以上】

【18 歳未満】



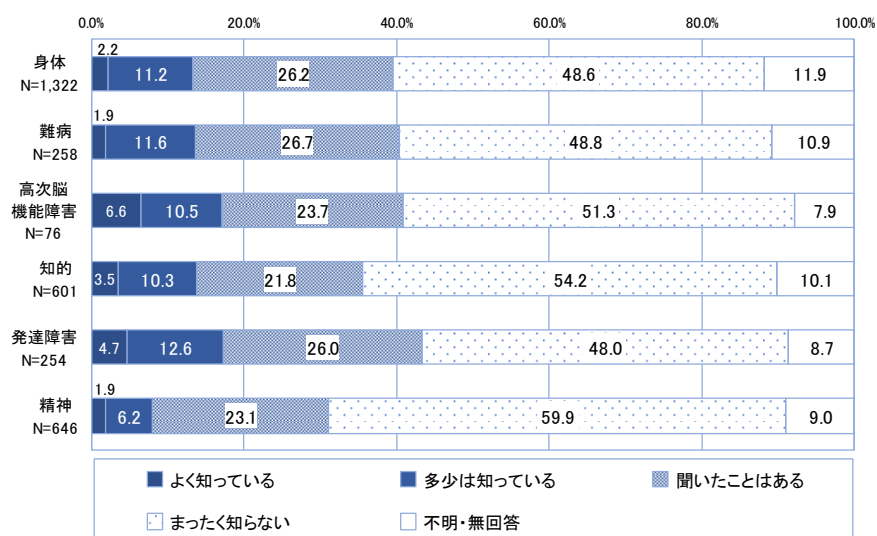
11. 権利擁護、行政サービス等における配慮について

「あなた」は障害者虐待防止法（障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律）についてご存知ですか。（単数回答）

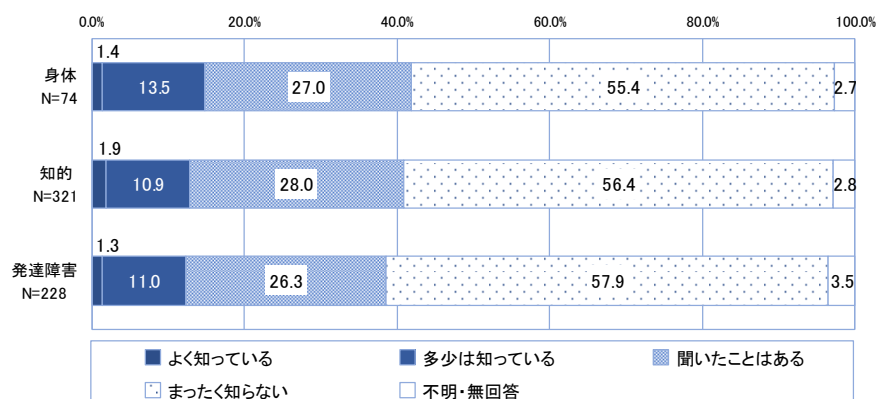
●18歳以上、18歳未満ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が4割台後半～5割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が5割台半ば～5割台後半で最も多くなっています。

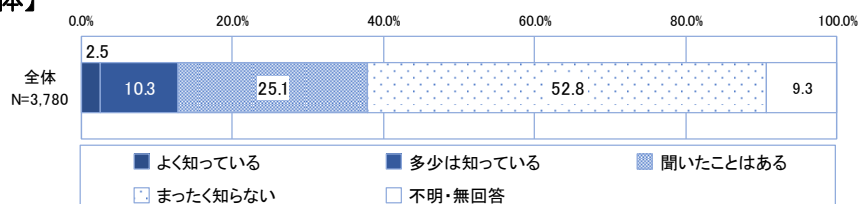
【18歳以上】



【18歳未満】



【全体】

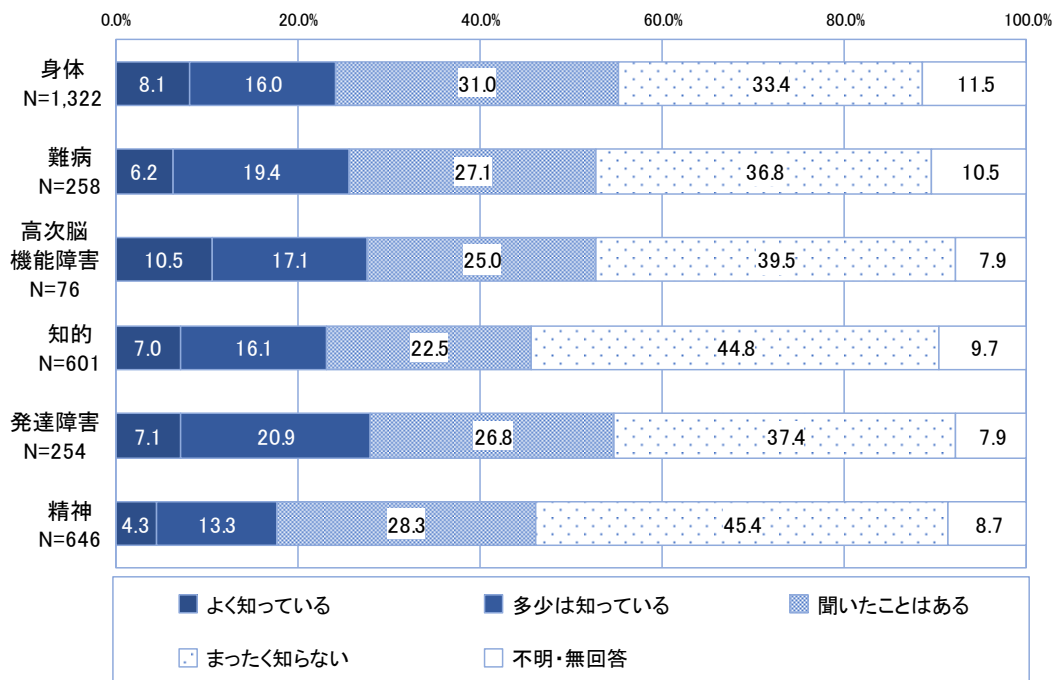


「あなた」は成年後見制度についてご存知ですか。(単数回答)

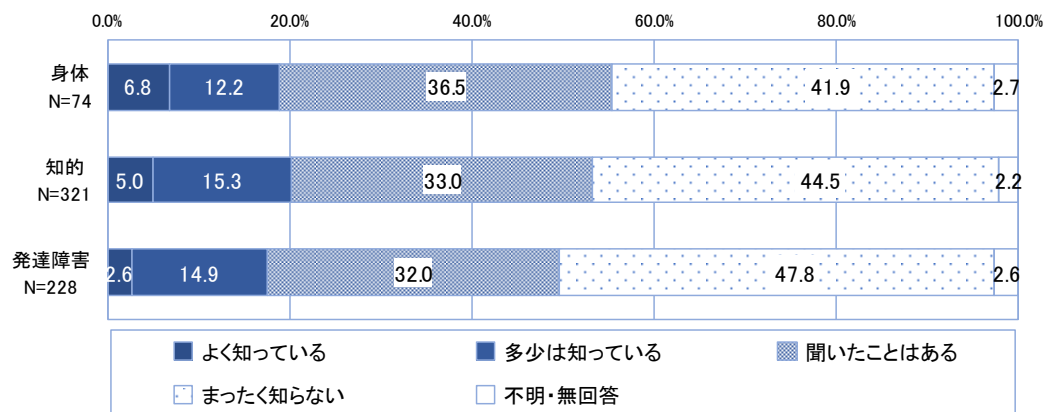
●18歳以上、18歳未満ともに「まったく知らない」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が3割台半ば～4割台半ばで最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「まったく知らない」が4割台前半～4割台後半で最も多くなっています。

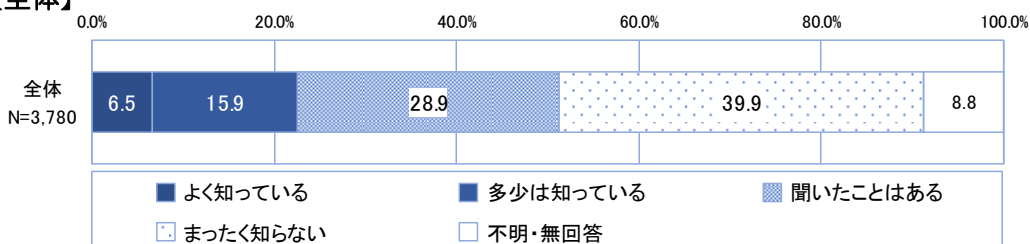
【18歳以上】



【18歳未満】



【全体】



12. 介助者について

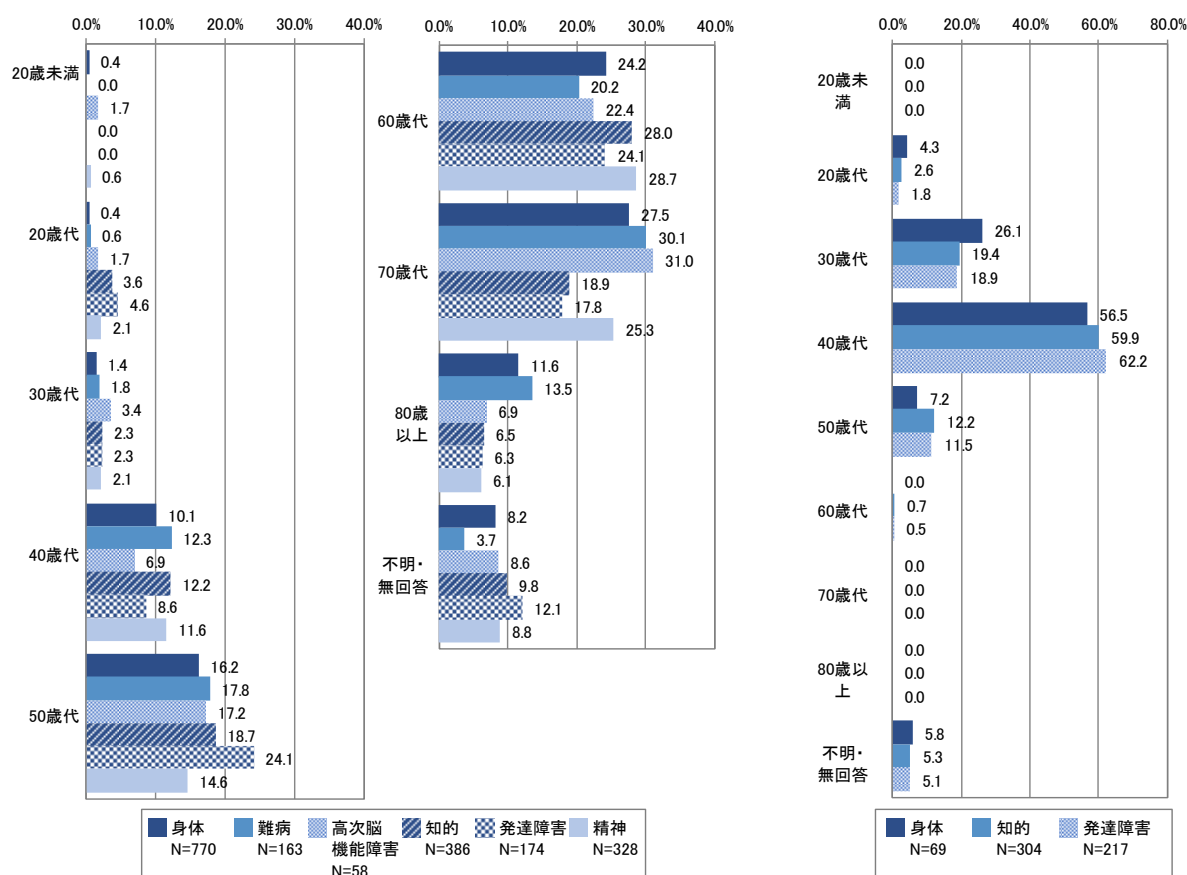
介助者の方の年齢はおいくつですか。(平成 29 年 4 月 1 日現在)

- 18 歳以上の身体障害、難病、高次脳機能障害では「70 歳代」が最も多く、知的障害、精神障害では「60 歳代」が最も多く、発達障害では「50 歳代」と「60 歳代」が同率で最も多くなっている。18 歳未満のいずれの障害においても「40 歳代」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70 歳代」が2割台後半～3割台前半で最も多く、知的障害、精神障害では「60 歳代」が2割台後半で最も多く、発達障害では「50 歳代」と「60 歳代」が同率の2割台半ばで最も多くなっています。18 歳未満をみると、いずれの障害においても「40 歳代」が5割台半ば～6割台前半で最も多くなっています。

【18 歳以上】

【18 歳未満】

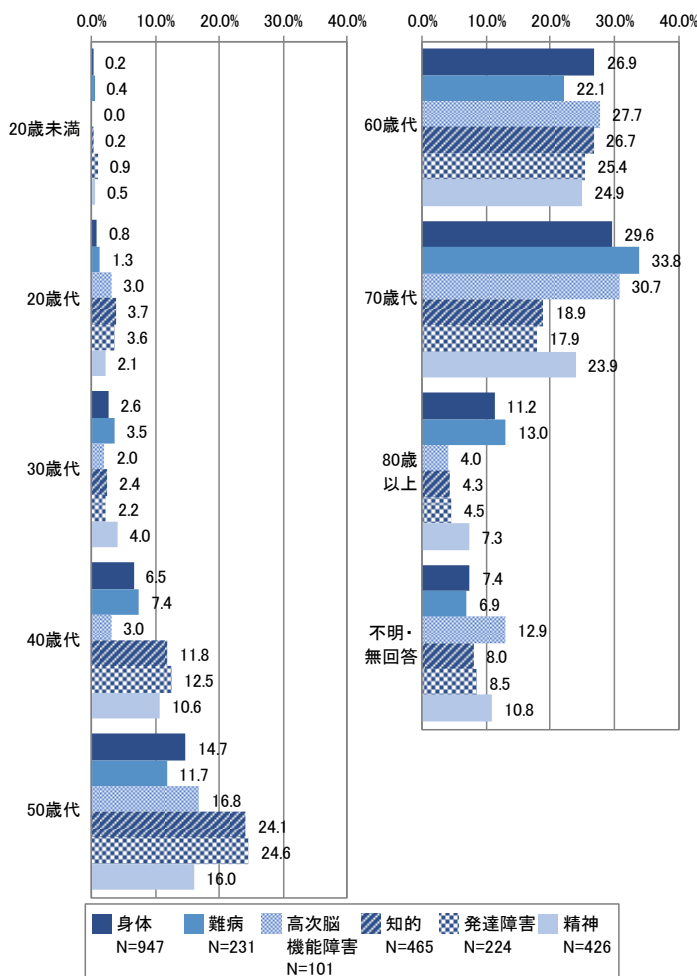


◇平成 26 年調査結果

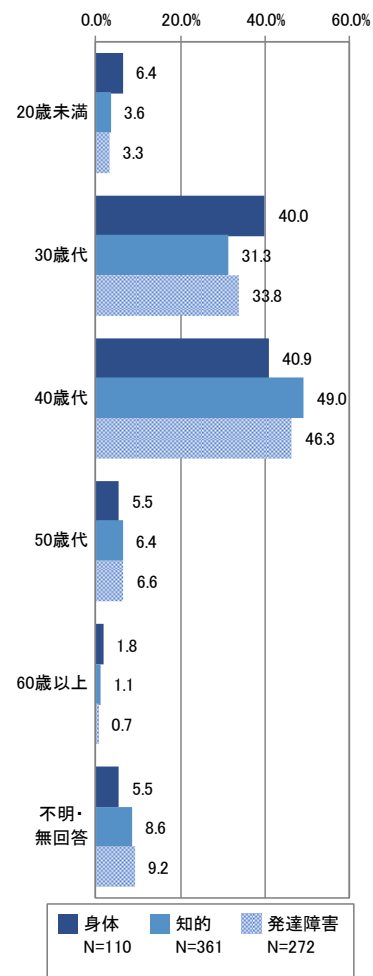
前回調査では、18歳以上をみると、身体障害、難病、高次脳機能障害では「70歳代」が2割台後半～3割台半ばで最も多く、知的障害、発達障害、精神障害では「60歳代」が2割台半ば～2割台後半で最も多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても「40歳代」が4割台前半～4割台後半で最も多くなっています。

今回調査では、前回調査と比べ18歳以上の難病では「50歳代」が6.1ポイント増加し、知的障害では「50歳代」が5.4ポイント減少、18歳未満の発達障害では「40歳代」が15.9ポイント増加し、「30歳代」が14.9ポイント減少しています。

【18歳以上】



【18歳未満】



◇クロス集計：年齢×介助者の年齢

●当事者と介助者の高齢化が進む

18歳以上をみると、身体障害では、60歳代～90歳以上の高齢の方が多く、その介助者の年齢をみても、60歳代～80歳以上と高齢の方が多くなっています。知的障害、発達障害では、20歳代～40歳代と比較的若い方が多い一方、その介助者の年齢をみると、50歳代～70歳代と高齢の方が多くなっています。精神障害では、40歳代～60歳代の方が多く、その介助者の年齢をみると50歳代～70歳代が多くなっています。18歳未満をみると、いずれの障害においても、40歳代が多くなっています。

【18歳以上】

単位：%

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明・無回答
全体 N=1,414	0.4	1.6	1.9	11.2	17.0	25.9	24.2	9.4	8.3
身体									
20歳未満 N=2	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 N=4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0
30歳代 N=13	0.0	0.0	15.4	7.7	7.7	53.8	0.0	0.0	15.4
40歳代 N=50	2.0	0.0	0.0	40.0	4.0	16.0	32.0	2.0	4.0
50歳代 N=52	3.8	1.9	0.0	15.4	34.6	13.5	19.2	3.8	7.7
60歳代 N=124	0.0	1.6	4.0	5.6	10.5	48.4	20.2	3.2	6.5
70歳代 N=235	0.0	0.0	0.9	11.9	11.5	12.8	47.7	6.8	8.5
80歳代 N=220	0.0	0.0	0.0	5.5	23.2	20.5	18.2	24.5	8.2
90歳以上 N=52	0.0	0.0	0.0	1.9	15.4	50.0	13.5	13.5	5.8
難病									
20歳未満 N=2	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 N=2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30歳代 N=11	0.0	0.0	18.2	0.0	0.0	72.7	9.1	0.0	0.0
40歳代 N=20	0.0	0.0	0.0	35.0	5.0	0.0	45.0	5.0	10.0
50歳代 N=19	0.0	5.3	0.0	10.5	42.1	10.5	15.8	15.8	0.0
60歳代 N=33	0.0	0.0	3.0	0.0	15.2	42.4	30.3	6.1	3.0
70歳代 N=46	0.0	0.0	0.0	15.2	10.9	8.7	47.8	13.0	4.3
80歳代 N=28	0.0	0.0	0.0	7.1	25.0	14.3	14.3	35.7	3.6
90歳以上 N=2	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0
高次脳機能障害									
20歳未満 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 N=4	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	25.0
30歳代 N=5	20.0	0.0	20.0	20.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
40歳代 N=7	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	42.9	0.0	28.6
50歳代 N=8	0.0	0.0	0.0	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5
60歳代 N=9	0.0	0.0	11.1	0.0	22.2	33.3	33.3	0.0	0.0
70歳代 N=12	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	33.3	58.3	0.0	0.0
80歳代 N=11	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	18.2	27.3	18.2	9.1
90歳以上 N=1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0

【18 歲以上】

單位：%

		20歲未滿	20歲代	30歲代	40歲代	50歲代	60歲代	70歲代	80歲以上	不明・無回答
知的	20歲未滿 N=26	0.0	0.0	0.0	46.2	42.3	7.7	3.8	0.0	0.0
	20歲代 N=83	0.0	8.4	2.4	9.6	44.6	26.5	2.4	0.0	6.0
	30歲代 N=94	0.0	3.2	4.3	3.2	17.0	51.1	12.8	0.0	8.5
	40歲代 N=106	0.0	0.9	0.0	13.2	4.7	19.8	40.6	6.6	14.2
	50歲代 N=33	0.0	0.0	0.0	18.2	9.1	6.1	18.2	45.5	3.0
	60歲代 N=20	0.0	0.0	5.0	10.0	0.0	45.0	20.0	5.0	15.0
	70歲代 N=10	0.0	10.0	10.0	10.0	0.0	30.0	30.0	0.0	10.0
	80歲代 N=3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
	90歲以上 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	發達障害	20歲未滿 N=12	0.0	0.0	0.0	41.7	33.3	16.7	8.3	0.0
20歲代 N=49		0.0	8.2	2.0	6.1	55.1	20.4	0.0	0.0	8.2
30歲代 N=41		0.0	4.9	4.9	0.0	14.6	51.2	14.6	0.0	9.8
40歲代 N=37		0.0	0.0	0.0	13.5	2.7	16.2	40.5	5.4	21.6
50歲代 N=13		0.0	0.0	0.0	15.4	15.4	7.7	15.4	46.2	0.0
60歲代 N=6		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	16.7	16.7
70歲代 N=4		0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0
80歲代 N=6		0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	16.7	16.7	33.3
90歲以上 N=1		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
精神障害		20歲未滿 N=0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20歲代 N=17	0.0	23.5	0.0	5.9	35.3	35.3	0.0	0.0	0.0
	30歲代 N=51	0.0	0.0	0.0	9.8	13.7	58.8	5.9	0.0	11.8
	40歲代 N=99	0.0	0.0	3.0	21.2	3.0	15.2	43.4	6.1	8.1
	50歲代 N=65	3.1	3.1	4.6	6.2	26.2	18.5	12.3	16.9	9.2
	60歲代 N=43	0.0	2.3	2.3	2.3	11.6	53.5	20.9	2.3	4.7
	70歲代 N=32	0.0	0.0	0.0	15.6	12.5	12.5	50.0	6.3	3.1

【18 歳未満】

単位：%

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明・無回答
全体 N=335	0.0	2.7	20.3	59.1	12.2	0.6	0.0	0.0	5.1
身体	0～3歳 N=11	0.0	27.3	45.5	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	4～6歳 N=13	0.0	0.0	46.2	53.8	0.0	0.0	0.0	0.0
	7～9歳 N=12	0.0	0.0	41.7	58.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	10～12歳 N=20	0.0	0.0	10.0	65.0	15.0	0.0	0.0	10.0
	13～15歳 N=6	0.0	0.0	0.0	83.3	0.0	0.0	0.0	16.7
	16～18歳 N=5	0.0	0.0	0.0	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0
	知的	0～3歳 N=13	0.0	23.1	53.8	23.1	0.0	0.0	0.0
4～6歳 N=46		0.0	4.3	34.8	54.3	0.0	0.0	0.0	6.5
7～9歳 N=62		0.0	0.0	22.6	66.1	8.1	1.6	0.0	1.6
10～12歳 N=67		0.0	1.5	19.4	61.2	9.0	0.0	0.0	9.0
13～15歳 N=61		0.0	1.6	11.5	63.9	19.7	0.0	0.0	3.3
16～18歳 N=39		0.0	0.0	0.0	59.0	33.3	2.6	0.0	5.1
発達障害		0～3歳 N=5	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	0.0	0.0
	4～6歳 N=29	0.0	3.4	41.4	48.3	0.0	0.0	0.0	6.9
	7～9歳 N=44	0.0	0.0	22.7	68.2	4.5	2.3	0.0	2.3
	10～12歳 N=50	0.0	2.0	16.0	70.0	2.0	0.0	0.0	10.0
	13～15歳 N=49	0.0	0.0	12.2	63.3	22.4	0.0	0.0	2.0
	16～18歳 N=29	0.0	0.0	0.0	58.6	34.5	0.0	0.0	6.9

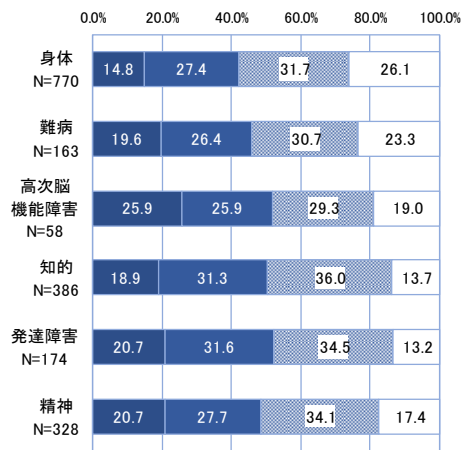
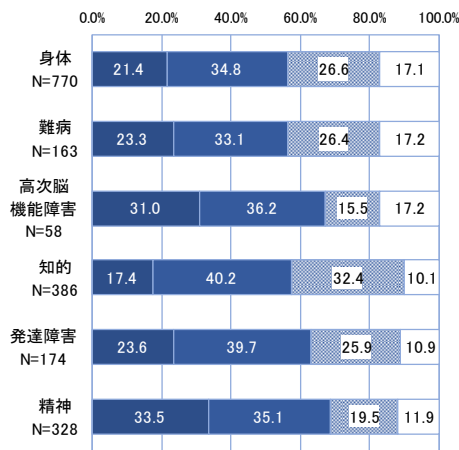
介助者の方におたずねします。次のうちあてはまるものはどれですか。（単数回答）

【18歳以上】

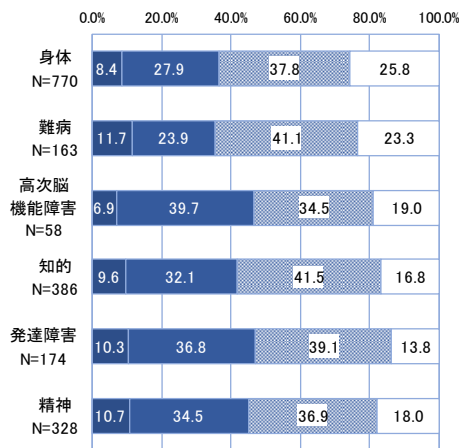
●将来に対する不安、精神的な疲れ、経済的な負担に不安を感じている介助者が多くなっている。

18歳以上をみると、介助者の不安として「大いにある」は、いずれの障害においても『◎将来に対して不安がある』が3割台後半～7割台前半、『◎精神的に疲れる』が2割台半ば～4割台前半、『①医療費や交通費などの経済的負担が大きい』が1割台後半～3割台半ばとなっています。

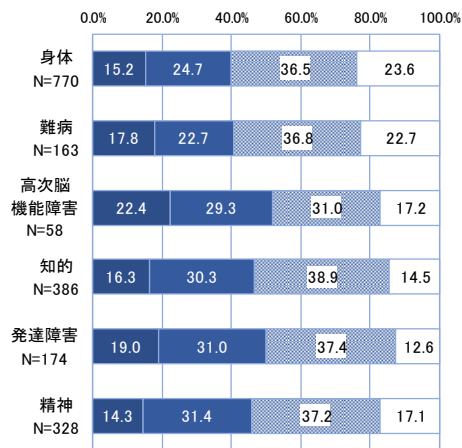
①医療費や交通費などの経済的負担が大きい ②福祉サービスの負担（手続きや利用料）が大きい



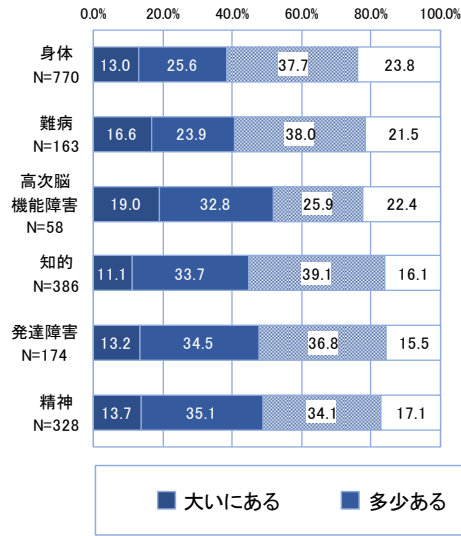
③介助で仕事や家事ができない



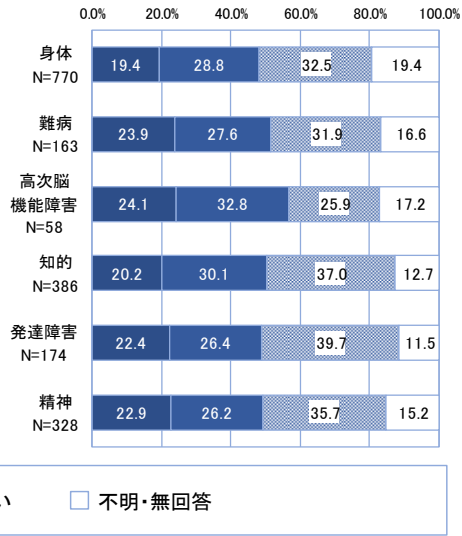
④介助で自由に外出できない



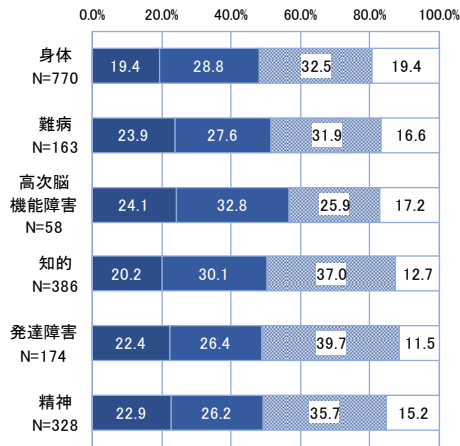
⑤ 介助で自分の時間が持てない



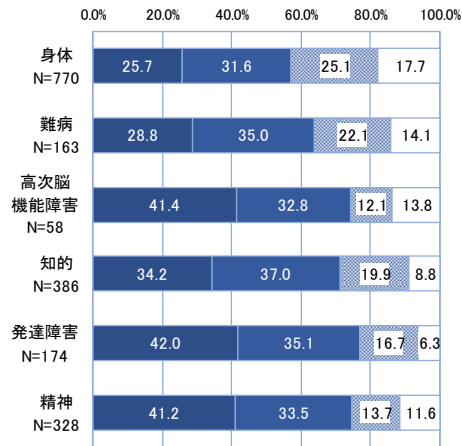
⑥ 睡眠不足になりがち



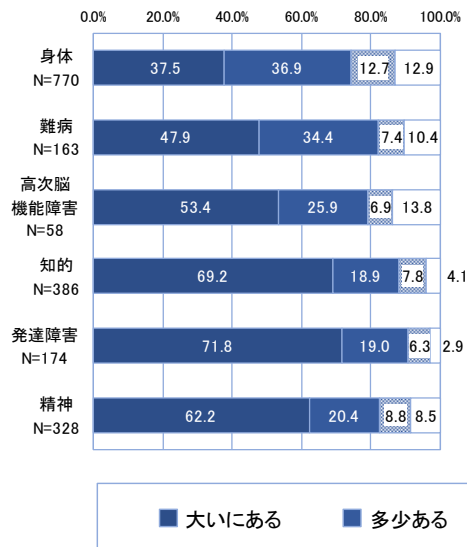
⑦ 腰痛など体が疲れる



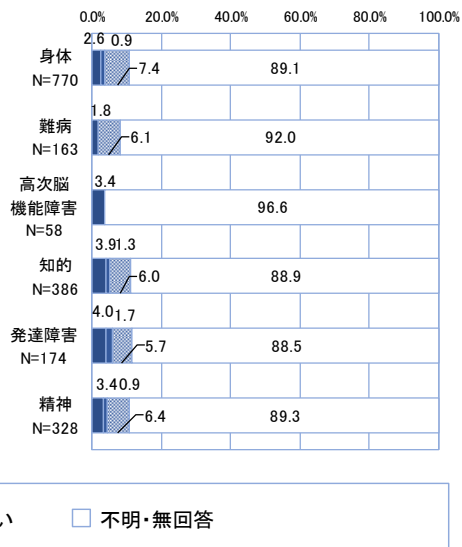
⑧ 精神的に疲れる



⑨ 将来に対して不安がある



⑩ その他

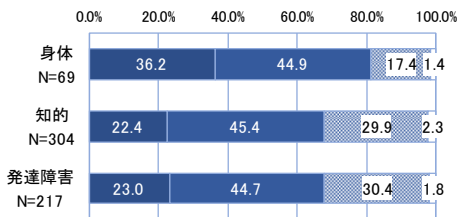


【18歳未満】

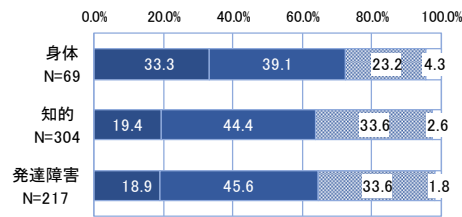
●将来に対する不安が最も多くなっている。

18歳未満をみると、介助者の不安として「大いにある」は、いずれの障害においても『⑨将来に対して不安がある』が6割台後半～7割台後半と最も多く、『⑧精神的に疲れる』が3割台半ば～4割台前半となっています。また、身体障害では『①医療費や交通費などの経済的負担が大きい』が3割台半ば、『⑦腰痛など体が疲れる』が4割台前半と他の障害と比べて多くなっています。

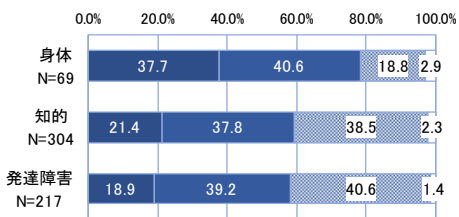
①医療費や交通費などの経済的負担が大きい



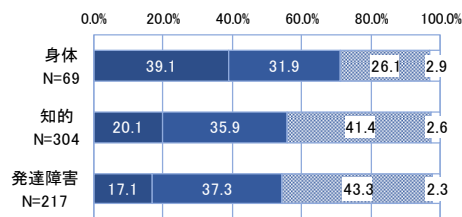
②福祉サービスの負担（手続きや利用料）が大きい



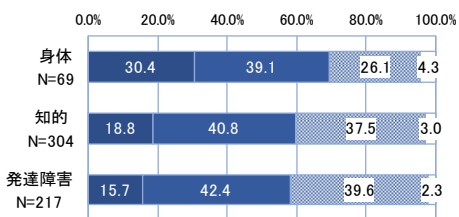
③介助で仕事や家事ができない



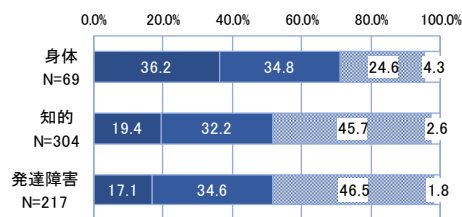
④介助で自由に外出できない



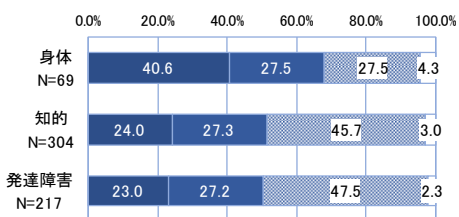
⑤介助で自分の時間が持てない



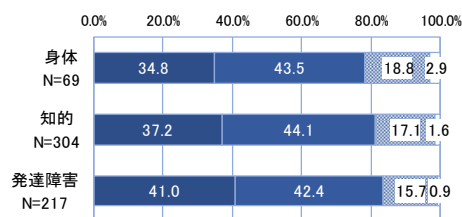
⑥睡眠不足になりがち



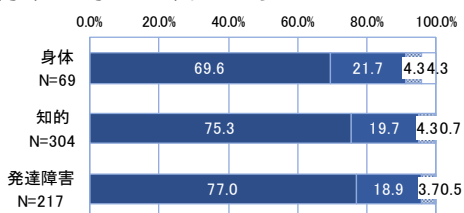
⑦腰痛など体が疲れる



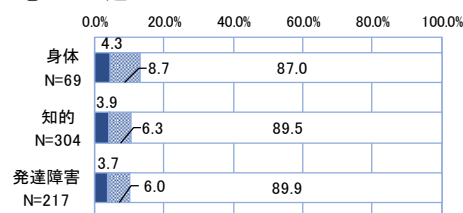
⑧精神的に疲れる



⑨将来に対して不安がある



⑩その他



「大いにある」または「多少ある」と回答した方におたずねします。特にどのようなことに困難さを感じているかを記入ください。（自由記述）

- 18 歳以上における身体障害・知的障害・難病では「将来に対して不安がある」が最も多く、精神障害では「医療費や交通費などの経済的負担が大きい」が最も多くなっている。18 歳未満では「福祉サービスの負担（手続きや利用料）・心配が大きい」が最も多くなっている。

18 歳以上をみると、身体障害・知的障害・難病では「将来に対して不安がある」が 87 件で最も多く、精神障害では「医療費や交通費などの経済的負担が大きい」が 36 件で最も多くなっています。次いで、身体障害・知的障害・難病では「医療費や交通費などの経済的負担が大きい」が 80 件、精神障害では「将来に対して不安がある」が 30 件となっています。18 歳未満をみると、「福祉サービスの負担（手続きや利用料）・心配が大きい」が 42 件で最も多くなっています。次いで、「精神的に疲れる」が 34 件となっています。

項目	18 歳以上		18 歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
将来に対して不安がある	87	30	22	139
腰痛など体が疲れる	46	8	16	70
福祉サービスの負担（手続きや利用料）・心配が大きい	56	9	42	107
精神的に疲れる	40	16	34	90
医療費や交通費などの経済的負担が大きい	80	36	32	148
介助で仕事や家事ができない	25	10	6	41
介助で自分の時間が持てない	42	15	29	86
介助で自由に外出できない	5	5	6	16
睡眠不足になりがち	9	1	3	13
老々介助のため負担が大きい	5	0	0	5
自分（介助者）の高齢化	5	5	1	11
本人のコミュニケーション能力等が心配	18	13	18	49
その他・意見・要望など	40	18	23	81
合計	458	166	232	856

※高次脳機能障害及び発達障害は、18 歳以上の「身体障害・知的障害・難病」及び「精神障害」に含まれています。

将来に対して不安がある方におたずねします。それはどのようなことかを記入ください。（自由記述）

- 18歳以上、18歳未満ともに「親なき後の生活等、今後の介助に関すること」が最も多くなっている。

18歳以上をみると、いずれの障害においても「親なき後の生活等、今後の介助に関すること」が222件、83件で最も多くなっています。次いで、身体障害・知的障害・難病では「高齢になること」と「経済的な問題」が同数で83件、精神障害では「経済的な問題」が32件となっています。18歳未満をみると、「親なき後の生活等、今後の介助に関すること」が210件で最も多くなっています。次いで、「就労・雇用に関すること」が49件となっています。

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
親なき後の生活等、今後の介助に関すること	222	83	210	515
健康状態等、介助者の負担に関すること	76	19	2	97
高齢になること	83	17	0	100
経済的な問題	83	32	10	125
障害の状態、健康状態に関すること	28	9	6	43
施設に入所できるかどうか	6	0	3	9
福祉サービスに関すること	56	1	2	59
緊急時の対応に関すること	5	0	0	5
就労・雇用に関すること	10	7	49	66
地域での生活環境に関すること	7	3	2	12
行政施策・制度改革に関すること	2	1	2	5
啓発、障害者理解に関すること	1	3	3	7
医療体制に関すること	9	1	3	13
介護保険制度に関すること	2	6	0	8
学校生活に関すること	0	0	10	10
その他・意見・要望など	22	16	8	46
合計	612	198	310	1,120

※高次脳機能障害及び発達障害は、18歳以上の「身体障害・知的障害・難病」及び「精神障害」に含まれています。

13. 自由回答について

意見、提案などを記入ください。(自由記述)

18歳以上をみると、身体障害・知的障害・難病で「入所施設」が63件、精神障害で「年金、各種手当、生活保護」が33件、18歳未満をみると、「教育の内容、質の向上」が34件で最も多くなっています。

■自由回答集計件数(1/3)

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
保健・医療				
医療サービス(医療機関等)	30	12	16	58
リハビリテーション体制	8	3	6	17
難病患者への支援	5	4	0	9
デイケア	10	3	16	29
その他・意見・要望など	1	1	1	3
福祉サービス、相談支援				
年金、各種手当、生活保護	40	33	5	78
相談支援	30	23	18	71
日中活動系サービス(生活介護、自立訓練(機能訓練、生活訓練)、就労移行支援、就労継続支援など)	22	29	17	68
親、介助者なき後の支援	9	1	2	12
入所施設	63	16	25	104
グループホーム	26	7	0	33
介助者への支援	7	2	4	13
介護保険サービス	13	2	0	15
人材の育成・確保	4	1	3	8
福祉設備の整備・充実	2	0	1	3
介護の現状など	59	17	2	78
移動支援	8	3	11	22
経済的自立の支援、移動等の補助	14	13	11	38
サービスの利用手続き	16	10	5	31
身近な地域における支援	17	6	20	43
訪問系サービス(居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援など)	10	0	0	10
短期入所	2	1	1	4
障害の認定基準	1	0	0	1
その他・意見・要望など	9	2	27	38

■自由回答集計件数（2／3）

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
教育・療育				
教育の内容、質の向上	17	9	34	60
療育	0	1	16	17
放課後等の支援	2	0	11	13
卒業後の進路	0	1	10	11
教育環境	0	0	1	1
保育所、幼稚園	0	0	11	11
その他・意見・要望など	3	1	9	13
雇用・就労				
障害者雇用の促進(働く場の拡大、受け入れ企業の拡大、企業の理解)	3	5	0	8
就労の支援	6	16	6	28
その他・意見・要望など	6	7	1	14
生活環境・移動・交通				
道路、歩道等のバリアフリー化	3	3	0	6
公共交通機関	2	1	2	5
公共機関のバリアフリー化	4	0	0	4
障害者に配慮したまちづくり	0	6	1	7
障害者専用駐車場	1	0	2	3
住宅の確保	12	5	0	17
その他・意見・要望など	1	2	0	3
スポーツ・文化、社会参加活動				
スポーツ	21	7	4	32
社会参加	0	1	0	1
文化芸術活動	5	0	0	5
その他・意見・要望など	0	1	0	1
安全・安心				
防災対策(避難所、福祉避難所など)	4	2	3	9
防災対策(避難支援、安否確認、見守り支援制度、要援護者名簿など)	9	6	3	18
その他・意見・要望など	8	0	1	9

■自由回答集計件数（3／3）

項目	18歳以上		18歳未満	合計
	身体障害・知的障害・難病	精神障害		
情報・啓発、差別の解消				
障害や障害がある人への理解、差別の解消	8	8	6	22
情報提供の充実等	2	0	3	5
精神障害に対する理解	11	18	0	29
発達障害に関する理解	1	0	2	3
意思疎通支援の充実	0	4	1	5
その他・意見・要望など	3	0	1	4
権利擁護、行政サービス等における配慮				
行政機関等における配慮及び障害者理解の促進等	23	13	8	44
その他				
将来への不安	21	6	15	42
行政への要望など	4	2	1	7
アンケートについて	31	6	10	47
その他・意見・要望など	2	1	1	4
合計	619	321	354	1,294

※高次脳機能障害及び発達障害は、18歳以上の「身体障害・知的障害・難病」及び「精神障害」に含まれています。

■主な意見

（寄せられたご意見の主旨等が変わらないよう、基本的にアンケートに記入された内容のまま掲載しています。）

◇保健・医療に関すること

- ・特定医療費（指定難病）受給者証の制度ができて大変助かっている。
- ・精神病院に入院することになったが、金額が高い。
- ・病院の職員や医師がもっと障害者への理解を深めるべきであると思う。
- ・他市の医療ケア児の就学事情について耳にするが、インクルーシブ教育・医療ケア児を受け入れようという考え方が浸透している。本市は遅れていると思う。
- ・介助員や医療的ケアが必要な子に対する看護師の配置など、最優先で予算をつけてほしい。

◇福祉サービス、相談支援に関すること

- ・グループホームに入らなくても一人暮らしして生きていけるようにいろんな面からサポートしてほしい。
- ・尼崎市には、緊急用のショートステイの施設がないことと、親なき後も子どもが安心して暮らせる施設がないことが心配。
- ・通学バスのお迎えにヘルパーさんの利用が可能になると助かる。
- ・夫の介助でヘルパーさんをお願いすると、介助していただける時間等の制限があり、かえって心理的に負担に感じた。
- ・就労支援などのサービス事業所をもっとふやしてほしい。地域によって数に差がある。
- ・発達障害についての悩みを1つの窓口で専門の人に相談できるサービスがほしい。
- ・障害者本人にとって一番いい医療やサービスを受けられるよう、すべて無料にしてほしい。
- ・中学生になると、放課後デイサービスが、時間的に利用できない。
- ・緊急時の宿泊ができるように、宿泊の回数を多くしてほしい。

- ・地域移行がいわゆるが、グループホームなどの利用できる施設が大変少ない。
- ・通所施設や入所施設に医療がなく週1で看護師さんが来られても緊急時に間に合わない。

◇療育・教育に関すること

- ・公立小学校でも、学校によって他の児童・生徒との関わりが少ない。本人の発達によってできることも違うが、お互いに相手のことを知るいい機会だと思う。
- ・一般の学校の特別支援級における教育者の適性や教育・研修制度など制度的な不備を今後、改善していただけたらありがたい。
- ・小学校の特別支援担当になる先生の知識が足りない。
- ・早期療育が大切といわれていますが、受きたい事業所の空きがなくて半年待ち。その頃診断を受けていなくて、待っている時間がとても不安で親子ともにストレスが多かった。
- ・医療的ケアが必要な子どもが受け入れられる環境づくり（看護師の配置）を進めてほしい。
- ・幼少期において支援が必要な子ども達と、ともに学び学校生活を経験すれば大きくなって障害があるなしに関わらず、誰もが支え合いながら生きられる社会ができるのではないかと思う。
- ・施設の面で進学をあきらめたり、入学しても授業が受けられない（上階に行くのに時間がかかるため）ことがあります。介助員の数も少なく、教育委員会にいても改善されません。

◇雇用・就労に関すること

- ・働く意欲のある人々に自立可能な仕事をお願いしたい。職業訓練を受けても、それにつながる仕事があれば何にもならないのではないのでしょうか。
- ・現在、病名を伏せて就労している。病気のことを雇用側に伝えたと、面接時では特に反応はないが、結局落とされ続けた。
- ・障害者が就労できる場所が少ないのでふやして欲しい。自立していくための収入を得ることが困難。
- ・障害者が一人でも安心して暮らしていける仕組みをつくってほしい。
- ・就労支援事業所において、生産性重視となることが多々あり、各障害者の立場に立ってそれぞれの気持ち（不安・不満等）を定期的に本心で話し合える場を設けてほしい。
- ・行政として、企業や団体（障害者を受け入れている）に指導、教育、方針を徹底し、障害者が努力できる環境を整備してもらいたい。

◇生活環境、移動・交通に関すること

- ・交通手段も、タクシーももっと使えるようにしてほしい。
- ・ストーマ専用の器具のある公共のトイレが少ない。
- ・市営住宅に入居していますが障害があっても家賃が高く一人で住めない。

◇スポーツ・文化、社会参加活動に関すること

- ・スポーツ・趣味等、一般の人のように習い事が選択できるような設備がほしい。
- ・自立生活運動を充実してほしい（スポーツや趣味）。
- ・片手では修得できない趣味などの会は、どうしてもそれなりの人材が必要であるから自ら参加をひかえている。
- ・（スイミングスクール）他の子に手を出したりとトラブルはありますが、コーチがよくみてくださり楽しく通えています。

◇安全・安心に関すること

- どの家に障害者が住んでいるのか把握していただき防災などのとき、避難できているのかを確認していただくと嬉しい。
- 災害がおきたときに福祉避難所に避難できるか心配。経験がないことなので不安。
- 発達障害（自閉症）の息子は大地震など災害発生時、多分一般の避難所に行くことは不可能。

◇情報、啓発・差別の解消に関すること

- 周りから白い目でみられることも多く、親子で辛い思いをしている。
- 一向に進まないのが、私も含めて、精神的な差別意識。やはり根気よく、啓発研修会などで意識を高める必要を感じています。
- 障害者及びそのご家族に対する偏見、差別をなくさないといけない。
- 外からみえない精神的な病について、うつ病の映画化などでメンタルヘルスが社会によろしく認知されつつあるが、まだまだ心の病は奥深く、健常者の理解が得られないというか困難である。
- 少しでも情報があったり、障害を理解して体験できる場所をふやしてほしい。
- 健常のお子さんやその保護者の方への障害者・児に対する理解が深まるよう、教育の場で、啓発活動が行われる機会がふえればよいと思う。

◇権利擁護、行政サービス等における配慮に関すること

- 行政の仕組みに詳しくない人にとっては、かなり難しいアンケート。本人の声が反映されやすくなるよう、アンケートの取り方についてぜひ再考願います。
- 障害があるとか健康な方とかのバリアフリーな地域市政を行ってほしい。
- 地域に進学するのならば、学校内のみで解決を求められるのは無理があるので、校内での状況や環境を把握して適切なサポートを行政の方でも考えてほしい。

尼崎市障害者計画等の改定に係るアンケート調査結果報告書

【発行】：尼崎市役所 障害福祉政策担当

TEL：06-6489-6577 FAX：06-6489-6351

【調査協力】：(株) 関西計画技術研究所